

愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 第71集

た どころ
田 所 遺 跡

1997

財団法人 愛知県埋蔵文化財センター

カラー図版1
遺跡全景



1. 93Hb区



2. 94Bb区

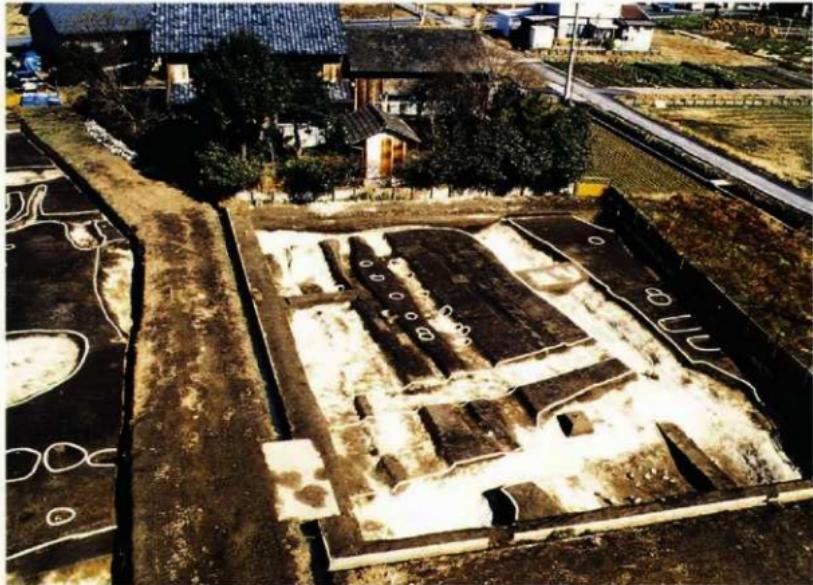
カラー図版2
遺跡全景



1.92F区



2.92Ga区



1,92Gb区



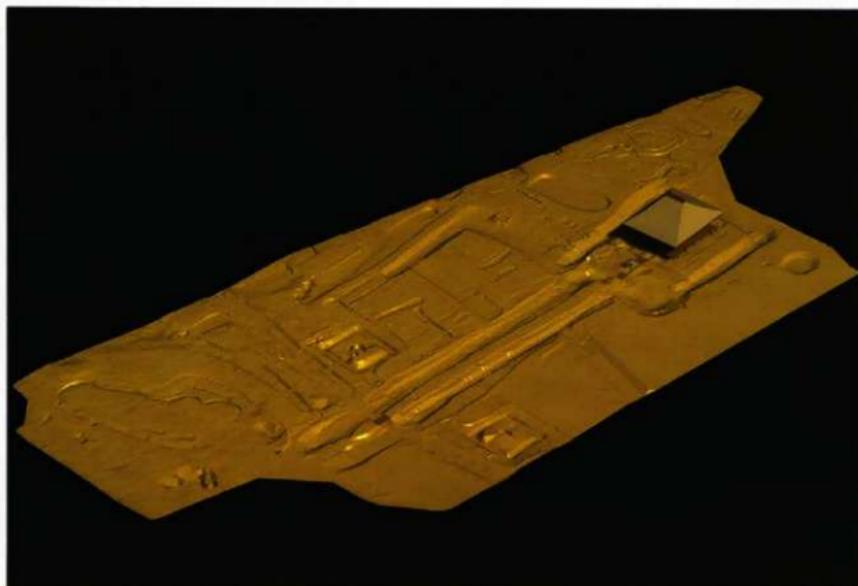
2,92F区



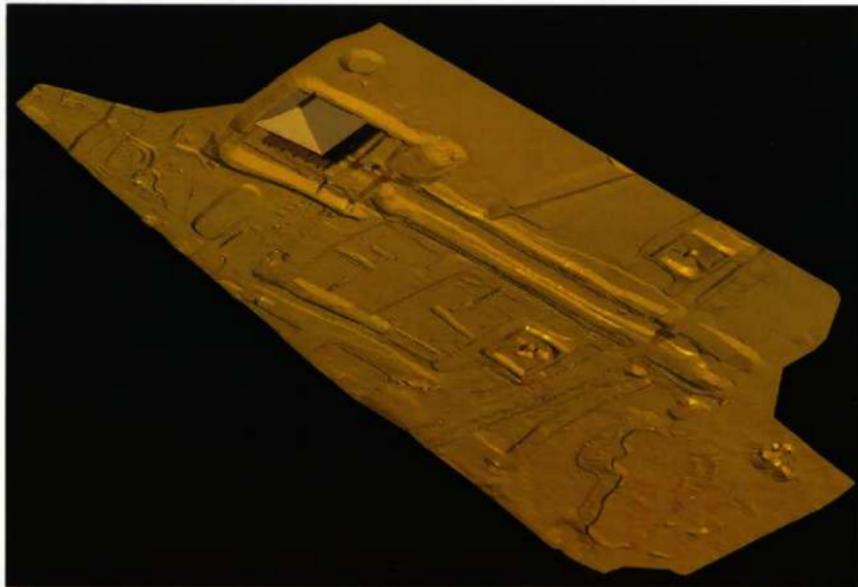
1.93 I 区



2.95 Aa区



1. 南東側より

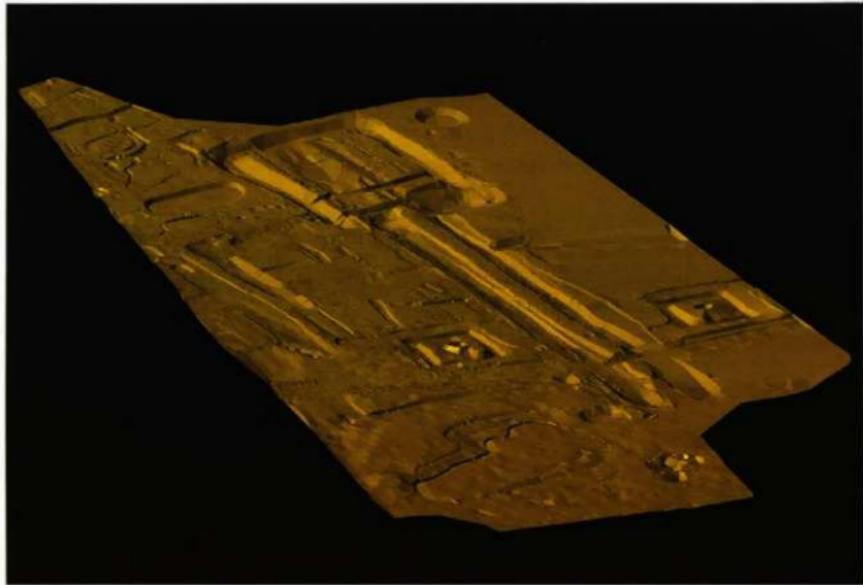


2. 南西側より

カラー図版6
復元墳墓堂と造構



1. 復元墳墓堂



2. 造構跡観



序

東海北陸自動車道建設に伴う事前調査として、一宮市と本曾川町に所在する田所遺跡の調査を平成4年より平成7年の4年間かけて実施しました。 「田所大溝」と「墳墓堂」が注目され、今回その調査成果をまとめ報告書を刊行することになりました。

報告書の刊行も文化財保護の一翼を担っている私たちに課せられた責務であり、こうした調査成果が学術的な資料として、また社会教育や学校教育の現場でおおいに活用されることを期待しております。

最後になりましたが調査の実施にあたりまして、地元の方々をはじめ、関係者及び関係機関からご指導とご協力をいただきましたことに深く感謝申し上げる次第であります。

平成9年8月

財団法人 愛知県埋蔵文化財センター
理事長 安 部 功

例　　言

1. 本書は、愛知県一宮市大字田所・光明寺と愛知県葉栗郡木曾川町大字黒田に所在する田所遺跡（愛知県遺跡番号02-095）の調査報告書である。
2. 調査は、東海北陸自動車道建設に伴う事前調査として実施し、日本道路公團・愛知県土木部より愛知県教育委員会を通じた委託事業として、平成4年（1992）から平成7年（1995）まで、財団法人愛知県埋蔵文化財センターが実施した。
3. 調査において次の関係機関の御協力を得た。

愛知県教育委員会文化財課、愛知県埋蔵文化財調査センター、愛知県土木部一宮事務所、一宮市教育委員会、日本道路公團名古屋建設局、日本道路公團一宮事務所。
4. 発掘調査、報告書の作成においては以下の方々の協力を得た。

井上喜久男、遠藤才文、江崎　武、織田眞弓、尾野善裕、本田康子、久保楨子、斎藤孝正、佐藤　洋、柴垣勇夫、城ヶ谷和広、仲野泰裕、中嶋　隆、楠崎彰一、土本典生、寺澤なつ江、橋口定志、服部敬史、原田恵理子、日野幸司、北條歟司、本澤慎輔、藤澤良祐、松井孝宗、松原隆治、森　達也、八重櫻忠郎、渡辺博人。 (五十音順、敬称略)
5. 報告書の作成に関わる作業では次の方々の協力を得た。

宇佐美美幸、河合明美、永井智子、中馬妙子、服部恵子、平野みどり、本多恵子、本所千恵子。
6. 出土遺物の写真撮影については深川　進氏の手を煩わした。
7. 本書の執筆は以下のとおりである。なお編集は小澤一弘が担当した。

第1章第1節1、第2節、第3章、第3章第1節～第3節、	
第4節1、2、4～6、8～10、第5章第3節	小澤一弘（主任）
第1章第1節2	伊藤秀紀（調査研究員）
第3章第4節3、7、第5章第1節	永井智子（元調査研究補助員）
第4章第1節、第2節、第3節、第5節	鬼頭　剛（調査研究員）
第4章第3節	堀木真美子（調査研究員）
第4章第4節	尾崎和美（調査研究補助員）
第4章第6節	森　勇一（愛知県立明和高等学校）
第5章第2節	服部俊之（愛知県立津島北高等学校）
	増澤　徹（岡崎市立本宿小学校）
8. 出土遺物の登録番号は挿図の通し番号をこれに当てる。
9. 調査記録の座標は、国土座標第Ⅷ系に準拠する。
10. 調査記録及び出土品は愛知県埋蔵調査センターに保管している。

目 次

第1章 立地と調査経過

第1節 遺跡の立地

1. 立地と周辺の遺跡	1
2. 歴史的環境	3

第2節 調査の経緯と経過

1. 調査経緯	8
2. 調査経過	8

第2章 遺構

第1節 遺跡の概要

第2節 遺跡の層位

第3節 古代の遺構

1. 住居跡	24
2. 土坑	38
3. 溝	39

第4節 水田跡

第5節 中世の遺構

1. 溝	47
2. 大溝	47
3. 墳墓堂遺構の前の溝	50
4. 墳墓堂遺構の周溝	54
5. 墳墓堂遺構内の建物	54
6. 方形区画溝	54
7. 方形台状遺構	55
8. 集石	56
9. 井戸	61

第3章 遺構出土の遺物

第1節 古代の出土遺物

1. 住居跡	67
2. 土坑	77
3. 溝	77

第2節 水田跡出土遺物

第3節 中世の出土遺物

1. 溝	78
2. 大溝	78

3. 墓道両脇溝	87
4. 墓堂造構の周溝	102
5. 方形台状造構区画溝	105
6. 井戸	105
第4節 その他の出土遺物	
1. 墨書き陶器	109
2. 陰刻花文陶器と緑釉陶器	114
3. その他の遺物	114
4. 中国陶磁器	116
5. 土鍤	118
6. 加工円盤	121
7. 石製品	125
8. 金属製品	131
9. 木製品	132
10. 陶丸	132
第4章 自然科学	
第1節 大溝の堆積	133
第2節 放射性炭素年代	134
第3節 花粉、珪藻、プランクトン・オパールからみた古環境	135
第4節 畑作農地帯を特徴づける田所遺跡の地表性歩行虫	154
第5節 鉄滓類の分析	159
第6節 田所遺跡の地震痕跡	163
第5章 まとめ	
第1節 田所遺跡出土の中国陶磁器について	167
第2節 田所集落と大溝	175
第3節 遺構・遺物から見た田所遺跡	182
遺構一覧表	191
図版	199
遺構	200
遺物	210
自然科学	219

図版目次

- カラー図版1. 遺跡全景：1. 93Hb区 2. 94Bb区
 カラー図版2. 遺跡全景：1. 92F区 2. 92Ga区
 カラー図版3. 遺跡全景：1. 92Gb区 2. 92F区
 カラー図版4. 大溝全景：1. 93I区 2. 95Aa区
 カラー図版5. 復元墳墓堂輪観：1. 南東側より 2. 南西側より
 カラー図版6. 復元墳墓堂と遺構：1. 復元墳墓堂 2. 遺構輪観
 カラー図版7. 昆虫化石
- 図版1. 墳墓堂遺構全景：1. 92F・Ga・Gb・E区 2. 93K区
 図版2. 墳墓堂遺構近景：92F・Ga・Gb区
 図版3. 墳墓堂遺構南側全景：1. 93E区 2. 93K区
 図版4. 大溝全景（北より）：1. 93J区 2. 93I区 3. 92Ca区 4. 92Cb区
 図版5. 水田全景：1. 93Hb区 2. 93Hb区下面 3. 92Cb区下面 4. 93Ha区
 図版6. 住居跡と大溝：1. 92Aa・Ca・Da区 2. 92Ab・Cb・Db区
 図版7. 住居跡：1. 92Aa区 2. 92Ab区 3. 93G区 4. 92H区
 図版8. 集石・92F区：1～3. 全景 4. SX03 5. SX09 6. 7. SX05
 図版9. 墳墓堂遺構周辺・墳墓堂遺構：1. 2. 92F区 3. 93Ga区 4～8. 92Gb区
 図版10. 井戸・93G区：1. SD214・SE10 2. SE08 3. SE08
 4. 5. SE09 6～8. SE10
- 図版11. 出土遺物：SB01～SB16
- 図版12. 出土遺物：SB16～SB23
- 図版13. 出土遺物：SB23, SK64・251, SD196・239, ST24・64
- 図版14. 出土遺物：SD214・239・240
- 図版15. 出土遺物：SD214, SD01
- 図版16. 出土遺物：SD01・03・21・22. 墨書き陶器. その他. 土錐.
- 図版17. 出土遺物：墨書き陶器
- 図版18. 出土遺物：緑釉陶器. 中国陶磁器. 金属製品. 木製品
- 図版19. 出土遺物：石製品
- 図版20. 珪藻化石
- 図版21. 花粉化石・植物硅酸体

挿 図 目 次

第1図	一宮市・木曾川町位置図	1
第2図	木曾川扇状地の微地形図	1
第3図	田所遺跡周辺の遺跡	2
第4図	文献にみられる中世葉栗郡の地名図	3
第5図	遺跡位置図	10
第6図	明治17年の地籍図から見た遺跡位置図	11
第7図	遺構全体図（1）	13
第8図	遺構全体図（2）	14
第9図	遺構全体図（3）	15
第10図	遺構全体図（4）	16
第11図	遺構全体図（5）	17
第12図	遺構全体図（6）	18
第13図	遺構全体図（7）	19
第14図	遺構全体図（8）：下面1	20
第15図	遺構全体図（9）：下面2	21
第16図	遺構全体図（10）：下面3	22
第17図	溝査区配置図	23
第18図	住居跡全体図（1）	26
第19図	住居跡全体図（2）	27
第20図	住居跡全体図（3）	28
第21図	住居跡全体図（4）	29
第22図	住居跡全体図（5）	30
第23図	住居跡全体図（6）	31
第24図	住居跡全体図（7）	32
第25図	S B 0 1 平面実測図	33
第26図	S B 1 5 平面実測図	34
第27図	S B 1 8 平面実測図	35
第28図	S B 2 2 平面実測図	36
第29図	S B 2 3 平面実測図	37
第30図	S K 2 5 1 平面実測図	38
第31図	S K 3 3 3 遺物出土状態図	38
第32図	水田跡全体図（1）	41
第33図	水田跡全体図（2）	42
第34図	水田跡全体図（3）	43

第35図 水田跡全体図（4）	44
第36図 水田跡全体図（5）：下面	45
第37図 大溝S D 0 1全体図（1）	48
第38図 大溝S D 0 1全体図（2）	49
第39図 墳墓堂遺構全体図	51
第40図 墓道遺構実測図	52
第41図 墳墓堂遺構実測図	53
第42図 方形台状遺構実測図	55
第43図 集石遺構実測図（1）：S X 0 9	56
第44図 集石遺構実測図（2）：S X 0 5	57
第45図 集石遺構実測図（3）：S X 0 8	58
第46図 井戸実測図（1）：S E 0 3	59
第47図 井戸実測図（2）：S E 0 9	60
第48図 井筒出土状態図：S E 0 9	61
第49図 井戸実測図（3）：S E 1 0	62
第50図 井戸棒出土状態図：S E 1 0	63
第51図 井戸実測図（4）：S E 1 1	64
第52図 井戸実測図（5）：S E 0 8	65
第53図 井戸実測図（6）：S E 0 6	66
第54図 住居跡出土遺物実測図（1）：S B 0 1・0 2・0 3・0 4	70
第55図 住居跡出土遺物実測図（2）：S B 0 5・0 6・0 7・0 8	71
第56図 住居跡出土遺物実測図（3）：S B 0 9・1 0・1 1・1 2・1 3・1 4	72
第57図 住居跡出土遺物実測図（4）：S B 1 5・1 6・1 7	73
第58図 住居跡出土遺物実測図（5）：S B 1 8	74
第59図 住居跡出土遺物実測図（6）：S B 1 9・2 0・2 1	75
第60図 住居跡出土遺物実測図（7）：S B 2 2・2 3	76
第61図 土坑・溝出土遺物実測図：S K 2 5 1・3 3 3・S D 1 9 6	77
第62図 水田跡出土遺物実測図（1）	79
第63図 水田跡出土遺物実測図（2）	81
第64図 溝出土遺物実測図（1）：S D 2 3 9（1）	82
第65図 溝出土遺物実測図（2）：S D 2 3 9（2）	83
第66図 溝出土遺物実測図（3）：S D 2 3 9（3）	84
第67図 溝出土遺物実測図（4）：S D 2 4 0（1）	85
第68図 溝出土遺物実測図（5）：S D 2 4 0（2）	86
第69図 溝出土遺物実測図（6）：S D 2 1 4（1）	88
第70図 溝出土遺物実測図（7）：S D 2 1 4（2）	89

第71図 溝出土遺物実測図(8) : SD 2 1 4 (3)	90
第72図 溝出土遺物実測図(9) : SD 2 1 4 (4)	91
第73図 大溝出土遺物実測図(1) : SD 0 1 · 0 2 (1)	92
第74図 大溝出土遺物実測図(2) : SD 0 1 · 0 2 (2)	93
第75図 大溝出土遺物実測図(3) : SD 0 1 · 0 2 (3)	94
第76図 大溝出土遺物実測図(4) : SD 0 1 · 0 2 (4)	95
第77図 大溝出土遺物実測図(5) : SD 0 1 · 0 2 (5)	96
第78図 大溝出土遺物実測図(6) : SD 0 1 · 0 2 (6)	97
第79図 大溝出土遺物実測図(7) : SD 0 1 · 0 2 (7)	98
第80図 大溝出土遺物実測図(8) : SD 0 1 · 0 2 (8)	99
第81図 大溝出土遺物実測図(9) : SD 0 1 · 0 2 (9)	100
第82図 大溝出土遺物実測図(10) : SD 0 1 · 0 2 (10)	101
第83図 墓道両脇溝出土遺物実測図 : SD 0 6 · 0 7	102
第84図 墳墓堂造構周溝出土遺物実測図(1) : SD 0 3 (1)	103
第85図 墳墓堂造構周溝・方形区画溝出土遺物実測図 : SD 0 3 (2), SD 2 1 · 2 2	104
第86図 井戸出土遺物実測図(1) : SE 0 9	106
第87図 井戸出土遺物実測図(2) : SE 1 0	107
第88図 井戸出土遺物実測図(3) : SE 1 1, SE 0 8	108
第89図 墨書き陶器実測図(1)	110
第90図 墨書き陶器実測図(2)	111
第91図 墨書き陶器実測図(3)	112
第92図 陰刻花文・緑釉陶器実測図	113
第93図 その他の遺物実測図	115
第94図 中国陶磁器実測図	117
第95図 土鍤実測図	119
第96図 土鍤法量図(1)	121
第97図 土鍤法量図(2)	121
第98図 加工円盤実測図	122
第99図 加工円盤法量図	124
第100図 石製品実測図(1) : 石鐵	126
第101図 石製品実測図(2) : 刺片石器, 敷石, 磨石, 紡錘車, 有孔円盤	127
第102図 石製品実測図(3) : 砥石	128
第103図 石製品実測図(4) : 五輪塔	129
第104図 金属製品実測図	131
第105図 下駄実測図	132
第106図 陶丸法量図	132

第107図 大溝 S D 0 1 土層断面図	133
第108図 92Gb区試料採取位置図	136
第109図 分析調査地点の柱状図	136
第110図 95Aa区分析試料採取位置図	137
第111図 分析調査地点の柱状図	137
第112図 92Gb区 S D 2 7 珪藻分析グラフ図	139
第113図 92Gb区 S D 2 7 花粉化石群集の層位分布図	140
第114図 95Aa区の主要珪藻化石群集の分布図	142
第115図 95Aa区花粉化石群集の分布図	143
第116図 95Aa区植物珪酸体群集の分布図	144
第117図 92Gb区 S D 2 7 の層序、試料採取層準図	154
第118図 西上免遺跡試料採取位置図	155
第119図 X線回析測定結果図（1）	162
第120図 X線回析測定結果図（2）	162
第121図 X線回析測定結果図（3）	162
第122図 92Aa区噴砂スケッチ図	163
第123図 上面：堅穴住居跡検出状況	164
第124図 下面：古墳時代水田と噴砂検出状況	164
第125図 中国陶磁器実測図（1）	169
第126図 中国陶磁器実測図（2）	170
第127図 中国陶磁器出土分布図	170
第128図 中国陶磁器組成図	171
第129図 田所の土地利用図	175
第130図 大溝推定ラインと平成5・6年度調査区位置図	176
第131図 大溝 S D 0 1 土層断面図	177
第132図 田所集落における本家・分家の関係図	180
第133図 田所周辺字境図	183
第134図 墨書き陶器（須恵器・灰釉陶器）地区別出土分布図	184
第135図 墨書き陶器（灰釉系陶器）地区別出土分布図	184
第136図 緑釉陶器地区別出土分布図	184
第137図 土鍤地区別出土分布図	185
第138図 加工円盤地区別出土分布図	185
第139図 S D 2 1 4 出土遺物組成図	186
第140図 S D 1 9 6 · 2 3 9 · 2 4 0 出土遺物組成図	186
第141図 大溝（S D 0 1）出土遺物組成図（1）	187
第142図 大溝（S D 0 2）出土遺物組成図（2）	187

第143図 墓道脇溝出土器種組成図	189
第144図 墳墓堂遺構周溝出土器種組成図	189
第145図 墳墓堂遺構周辺概念図	190

付 表 目 次

第1表 年表	4
第2表 調査進行表	9
第3表 壁穴住居一覧表（1）	24
第4表 壁穴住居一覧表（2）	25
第5表 土坑一覧表	38
第6表 溝一覧表	39
第7表 水田一覧表	40
第8表 大溝一覧表	46
第9表 墳墓堂遺構関係一覧	50
第10表 集石一覧表	57
第11表 井戸一覧表	58
第12表 その他の墨書き陶器一覧表	109
第13表 その他の綠釉陶器一覧表	113
第14表 その他の土鍤一覧表（1）	119
第15表 その他の土鍤一覧表（2）	120
第16表 その他の加工円盤一覧表（1）	123
第17表 その他の加工円盤一覧表（2）	124
第18表 石製品一覧表	130
第19表 銭貨一覧表	132
第20表 陶丸一覧表	132
第21表 放射性炭素年代測定結果表	134
第22表 試料採取場所および分析対象	135
第23表 92Gb区 S D 2 7珪藻分析結果表（1）	148
第24表 92Gb区 S D 2 7珪藻分析結果表（2）	149
第25表 95Aa区珪藻分析結果表（1）	150
第26表 95Aa区珪藻分析結果表（2）	151
第27表 95Aa区珪藻分析結果表（3）	152
第28表 95Aa区花粉分析結果表	153
第29表 95Aa区植物珪酸体分析結果表	153

第30表 西上免遺跡91A区採取試料	155
第31表 田所遺跡から産した昆蟲化石	156
第32表 西上免遺跡から産した昆蟲化石	157
第33表 鉄滓分析結果概要	160
第34表 鉄滓化学成分一覧表	161
第35表 分布図以外の検出I出土中国陶磁器一覧表	170
第36表 出土中国陶磁器器種別一覧表	171
第37表 出土中国陶磁器一覧表(1)	172
第38表 出土中国陶磁器一覧表(2)	173
第39表 出土中国陶磁器一覧表(3)	174
第40表 S D 2 1 4 出土遺物集計表	186
第41表 S D 1 9 6 · 2 3 9 · 2 4 0 出土遺物集計表	186
第42表 大溝出土遺物集計表(1) : S D 0 1	187
第43表 大溝出土遺物集計表(2) : S D 0 2	187
第44表 墓道脇溝出土遺物器種別集計表 : S D 0 6 · 0 7 · 0 8 · 1 5	187
第45表 墓道脇溝出土遺物集計表 : S D 0 6 · 0 7 · 0 8 · 1 5	189
第46表 墳墓堂造構周溝出土遺物器種別集計表	189
第47表 墳墓堂造構周溝出土遺物集計表	189

第1章 立地と調査経過

第1節 遺跡の立地

1、立地と周辺の遺跡

田所遺跡は、一宮市大字田所と葉栗郡木曾川町黒田の二つの市町にまたがる遺跡で、北緯35度20分56秒、東経136度49分49秒にある。一宮市の北西部と木曾川町の北東部とが接したところに位置し、一宮市田所の集落の西側に近接してひろがった畑地・水田地帯のなかにあり、遺跡の西側には愛知県と岐阜県を結ぶ大動脈である国道22号線が走っている。

遺跡は木曾川水系の河川が作り上げた木曾川扇状地の西側端部にあり、扇状地形から沖積平野部に移行する地形のなかに位置し、木曾川によって形成された、自然堤防上および後背湿地上に立地し、現況は標高10m前後の水田や畑となっている。

田所遺跡の周辺には北側に北道手遺跡と下渡遺跡があり、南側に大毛池田遺跡、大毛冲遺跡、門間沼遺跡があり、下渡遺跡（古墳時代）以外の遺跡はいずれも東海北陸自動車道に関連する発掘調査によって明らかになった遺跡である。

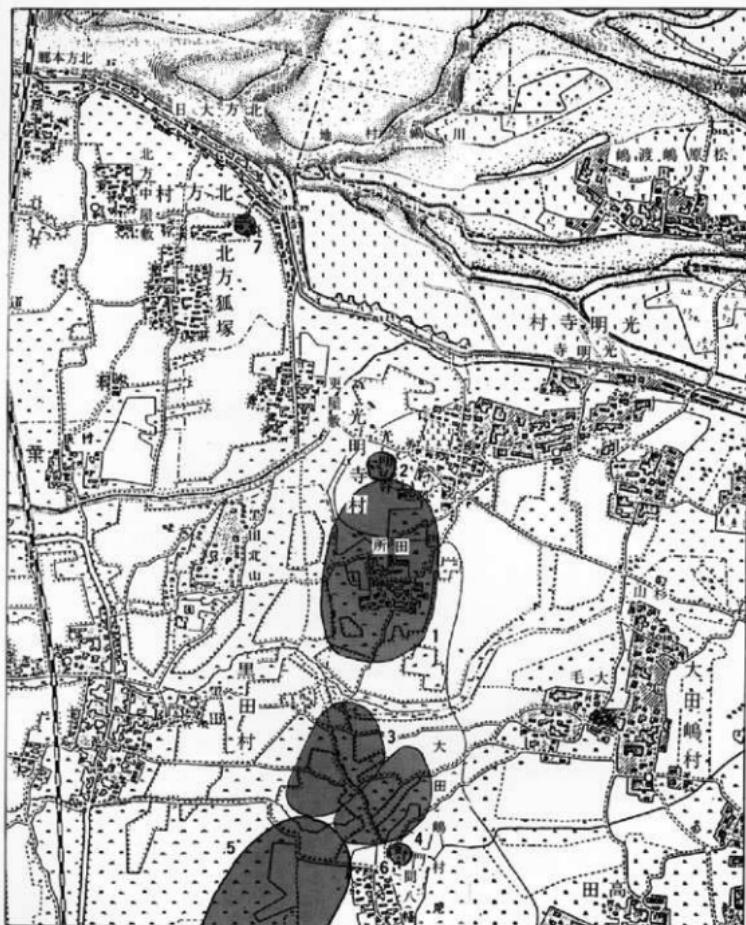
北道手遺跡は古墳時代の集落遺跡で掘立柱建物1棟、溝、土坑等が検出され、水辺の祭祀に関する遺跡でもある。



第1図 一宮市・木曾川町位置図



第2図 木曾川扇状地の微地形図
(URBAN KUBOTA NO1より)



- | | | |
|-----------|-----------|---------|
| 1. 田所遺跡 | 4. 大毛沖遺跡 | 7. 下渡道路 |
| 2. 北道手遺跡 | 5. 門前沼遺跡 | |
| 3. 大毛池田遺跡 | 6. 伊富利部古墳 | |

第3図 田所遺跡周辺の遺跡

大毛池田遺跡は古墳時代前期から戦国時代にかけての複合遺跡で、古墳時代の水田、古代の竪穴住居跡、戦国期の方形居館の区画溝等が検出され、「美濃」の刻印須恵器2点や「天文八年（1539）銘」のある板塔婆等が出土している。

大毛沖遺跡は奈良・平安時代から戦国時代にかけての複合遺跡で、奈良・平安時代の集落跡と流路に沿わる低水位護岸施設、河道左岸に結束する集石遺構等が検出され、集石遺構からは呪符木簡が出土し祭祀遺跡の可能性があり、旧河道からは木製鐘と鉄製の羽釜が出土している。

門間沼遺跡は弥生時代中期初頭から中世にかけての複合遺跡で、古墳時代を中心とし、竪穴建物、井戸、掘立柱建物、溝、円墳等が検出され、古墳時代後期の溝からは板作りの琴が出土している。

2. 歴史的環境

田所は一宮市に所属する以前は葉栗郡に属していた。その葉栗郡も1586年に木曾川の大洪水で流路が変わったことがきっかけとなり大きく都域を変えている。1589年の美濃太閤候地によってであろうが、岐阜県の旧羽島郡域が美濃國になり、そのかわりに東西浅井や佐千原・高田などが葉栗郡に編入された。以下田所周辺の歴史的環境をみていく際に、葉栗郡はこの郡域変更以前の範囲を指す。特に古代においては資料も少ないとからこの葉栗郡の範囲内を概観し、中世においては大毛・黒田・門間付近を含めてその変遷を見ていくことにする。

葉栗郡内の古代氏族としてまず挙げられるのは郡名を冠する葉栗氏であり郷名を持つ村国氏である。その他には平城宮跡出土木簡や『延喜式』の神名帳などから、凡海部氏・敢石部氏・伊富利部（＝伊福部）氏・穴太部氏などが推定される。葉栗氏は大和の和逆部氏から分かれたという系譜を持つが、地方の和逆部を統括する部族が振替的同族系譜に組み込まれたものと考えられている。村国氏は美濃の各務郡にも村国郷があり木曾川を挟んだこの両地を本貫としていた。凡海部氏は尾張氏と同祖で海部を統べる氏族である。敢石部氏は敢氏の海産物貢献の職業部である。伊福部氏も尾張氏の同族で美濃国池田郡に同名の郷があり美濃国戸籍にも多く見いだすことができることから木曾川を挟んで美濃・尾張に広がっていた氏族であろう。また、穴太部氏は安康天皇の名代の後裔といわれている。672年の壬申の乱で尾張の氏族達は大海人方として戦いその勝利に貢献した。葉栗郡でも村国氏は美濃の



第4図 文獻にみられる中世葉栗郡の地名図

田所遺跡関係年表

西暦(年号)	事項
672(天武1)	壬申の乱。尾張の兵、大海人皇子方で活躍する。
678(天武7)	葉栗臣人廢、光明寺を建立する。
7世紀後半	黒岩庵寺・東流庵寺建立される。
720(養老4)	平城宮跡出土紀年銘木簡に「尾張國葉栗郡若栗郷□□里敷石部赤猪」と記される。葉栗郡の初見。
730頃(聖武治世)	凡海部忍人、川島社の縁起を奏上する。
734(天平6)	この年の葉栗郡の穀は18,567石余、頭は8,297束余であった。
8世紀中頃	「貢進士丁帳名帳」に「尾張國葉栗郡大沼郷戸主生島勝人足」と記述される。
752(天平勝宝4)	尾張国内7郡の田地、東大寺に勅施入される。東大寺領葉栗庄成立する。
769(神護景雲3)	鵜沼川大洪水。葉栗・中島・海部に甚大な被害を及ぼす。
775(宝亀6)	伊勢・尾張・美濃の河川、台風により氾濫する。
866(貞觀8)	広野河事件起こる。
927(延喜5)	『延喜式』奏上される。「神名帳」に葉栗郡内の神社として穴太以下10座が挙げられる。
930頃(承平年間)	『倭名抄』成る。このころ葉栗郡には葉栗・河沼・大毛・村国・若栗の5郷があつた。
950(天慶4)	この年の東大寺の莊園等の目録によれば葉栗庄は4町であった。
970(天祐1)	このころ黒田市はじまる。
998(長徳4)	この年の東大寺の書上によれば葉栗庄は36町7段であった。
11世紀前半	光明寺本尊の薬師如来造像される。
1021(治安1)	このころまでに平致経、尾張国某郡の郡庁を壊しその跡に私宅を構える。
1031(長元4)	この年以前平致経、平正輔と鬭乱する。
1140(保延5)	安樂寿院領野間内海庄立券される。寄進者は門致経かその子長田忠致と推定される。
12世紀後半	笠野妙光寺の聖観音立像造像される。
1191(建久2)	『長講堂領課役注進状案』に上門真庄の名が現れる。このころまでに長講堂領上門真庄成立する。
1220(承久2)	西園寺公經、松枝庄を白川家の京都北山の地と交換する。
1221(承久3)	承久の変。尾張の武士、多く後鳥羽上皇方で戦う。
1238(嘉承4)	尾塞某、尾塞・大毛等五代相伝の本領を衛門尉・兵衛尉で折半するように指示する。
1283(弘安6)	安嘉門院五七日修法用途賦課所の一所として黒田庄の名が現れる。黒田庄の初見。

西暦（年号）	事項
1322（元亨2）	西園寺実兼、孫の大宮季衛に黒田庄を処分する。
1333（元弘3）	後醍醐天皇、黒田庄以下を後伏見院の管領下に置く旨の諭旨を出す。
1335（建武2）	足利尊氏討伐軍、黒田宿から東山道を経て信濃に進む。
1338（暦応1）	北畠顕家、下津・黒田で足利軍を破る。
1350（觀応1）	水野致秋、直義派として高師直・師泰と黒田宿で戦う。
1388（嘉慶2）	土岐康行、家督をめぐり土岐満貞と黒田宿で戦う。
1395（応永2）	足利義満、大宮実尚が相国寺に寄進した黒田庄南方を安堵する。
1417（応永24）	貞威、伏見宮家を継ぐ。
1418（応永25）	このころ後伏見院聖忌法事、黒田庄役の減少により寺で行われる。『看聞日記』における黒田庄の初出。
1441（嘉吉1）	後伏見院聖忌法事で黒田庄役、いつものように沙汰される。『看聞日記』の黒田庄に関する最後の記事。
1467（応仁1）	応仁の乱。
1479（文明11）	織田敏広・敏定和睦する。敏広は岩倉に入り葉栗・丹羽・中島・春日井を敏定は清須に入り郡を支配する。
1490頃(明応年間)	五藤氏、黒田城にはいる。
1533（天文2）	この年に写された「法金剛院所領並びに末寺目録」に黒田庄の名が見える。
1540頃(天文年間)	山内氏黒田城主となる。
1559（永禄2）	岩倉織田、信長に攻め滅ぼされる。黒田城主、織田勘解由となる。
1562（永禄5）	織田勘解由、美濃輕海で討ち死にする。黒田城主、和田定利となる。
1564（永禄7）	犬山織田、信長に追われる。
1582（天正10）	本能寺の変。
1583（天正11）	黒田城主、沢井雄重となる。
1584（天正12）	小牧・長久手の戦い。
1585（天正13）	「織田信雄分限帳」成る。田所の初見。この時田所の知行主は本能寺の変で織田信忠とともに討ち死にしたもの達の子供であった。
1586（天正14）	木曾川、大洪水によりその主流路を変える。
1589（天正17）	美濃太閤検地。木曾川右岸の葉栗郡・中島郡美濃の属す。
1590（天正18）	秀吉、信雄を追放する。黒田城主沢井氏これに従う。秀吉、一柳直盛を黒田城主とする。
1600（慶長5）	関ヶ原の戦い。
1601（慶長6）	一柳氏伊勢神戸に移封され、黒田城廃城となる。

村国男依が大海人の舍人として活躍し、葉栗氏も同族の和珥部君手が舍人となっていることからその一族も大海人側で戦ったことであろう。凡海部（＝大海部）は大海人皇子の乳母の一族と推定され、伊福部氏も尾張氏の同族であることや美濃国の伊福部氏が戸籍からその軍功を読み取れることからいざれも大海人とともに戦ったと思われる。

この壬申の乱前後から次第に律令制も整い、地方の支配も8世紀半ばごろには国・郡・郷という体制をとるようになった。葉栗郡は『倭名抄』には葉栗・河沼・大毛・村国・若栗の5郷が挙げられ、それ以外に大沼郷もあったようである。大毛は一宮市大毛、村国は江南市村久野、大沼は一宮市大野を遺称地としている。島村には若栗神社があり、島村東隣の大日比野に若栗を含む小字があるので若栗郷はこの辺りと考えられている。河沼郷は郷内に川島神社があることから岐阜県羽島郡川島町付近であろう。葉栗郷は一般に岐阜県羽島郡北部城と考えられているが、『新編一宮市史』では郡名と同じ郷で郡家がおかれるようなところだからということで浅井古墳群・黒岩廃寺のある一宮市尾関付近に比定している。

尾張・美濃の境を流れる木曾川は8世紀半ば以降頻繁に洪水を起こし、やがて美濃側に中州を作り尾張の方に氾濫が続くようになった。866年太政宮の承認をえて尾張の中島郡、そしておそらく葉栗郡の人々が河道掘削を行ったが、美濃各務・厚見の郡大領各務氏により妨害された。木曾川の洪水の激しさとともに律令政府の決定をも力で覆そうとする地方豪族の成長がみられる。

葉栗氏の一族人麿は678年に光明寺を建立したが、現在の光明寺との関係は明らかではない。付近の黒岩廃寺を人麿の建立した光明寺に比定する考えもある。この他に葉栗郡内の白鳳期寺院には東流廃寺があり、初期仏教の葉栗郡への浸透を見て取ることができる。現在の光明寺には11世紀前半に造られた薬師如来があるが、これ以外にも征野の妙光寺聖観音立像をはじめ葉栗郡内にはいくつかの平安後期の仏像がある。これらの仏像は天台系のものであり、庶民信仰を背景としてこの時期に天台系の仏教が葉栗郡に広まっていたようである。現在では尾張扇状地には禪宗系、平野部には淨土真宗の寺院が多いが、これは中世以降の新仏教の興隆によるものである。淨土真宗とこの地の関係は親鸞・覺如・緯如それに結び付ける伝承があるが、大きく教義が拡張されたのは15世紀後半の蓮如の布教以後であろう。禪宗は14世紀頃美濃守護土岐氏が北条得宗家と結びつきとくに龍濟宗を保護することで美濃国に広がっていった。土岐氏は一時尾張の守護でもあり、尾張北部で禪宗が盛んなのは美濃からの影響と考えられる。

葉栗郡に設置された最初の荘園は752年大仏建立によって東大寺に勅施入された尾張国内の7つの郡に置かれた荘園の内の一つ、葉栗庄である。この葉栗庄は10世紀末まで存在したことが確かめられるが、それ以降消滅し鎌倉後期にはどこにあったかもわからなくなっていた。11世紀以降には在地領主による大規模な開発が行われ、その土地が権門寺社へ寄進されることによって各地で多くの荘園が作られていった。田所の南にある門間は長田流平氏に門真を名字とするものがいることから彼らが開発領主と思われる。彼らは11世紀前半に伊勢国で平清盛の先祖との鬭争に敗れ尾張に本拠を移したようである。安楽寿院領野間内海庄はその子孫門真致俊かその子長田忠致が1140年に寄進してできたと推定され、このころには門間も開発されたと思われる。割田は美濃源氏の改田氏が開発したとの伝承があるが、美濃源氏の一流は12世紀頃に尾張に進出しているのでこれとつながる動きではなかろうか。

また、鎌倉期の1238年深栖源氏の尾塞氏が息子と思われる二人に折半するように命じた五代相伝の地は田所周辺の尾塞・大毛などであった。「五代」を逆算すれば、尾塞氏がこの地を開拓したのは12世紀前半頃と考えられる。以上から遅くとも12世紀半ばには田所周辺はこれら在地領主によって開拓が進められたことであろう。そして、それを背景にして12世紀末から13世紀には松枝・上門真・黒田等の莊園が成立していった。松枝は木曾川町黒田の白山神社西付近の小字としてその名を残しており、その範囲は字黒田の内野府川以南・字外割田・内割田辺りと思われる。上門真は木曾川町門間を道称地とし業栗郡の東部域のかなりの部分がその範囲と思われる。黒田は木曾川町黒田として地名が残っているが、その範囲は現在の字黒田とややことなりその野府川以北で北方町までも含まれたと思われる。田所には野府川の北で字光明寺ととなり合せた南方という小字があり、後述のように黒田に「南方」という地のあることからこの黒田庄に属していたと考えられる。黒田庄の文献上の初見は1283年、安嘉門院五七修法用途賦課所の一一所室町院領であった。16世紀半ばに写された目録によると黒田庄が法金剛院領であったこともあるようその規模から考えて成立当初のものかとも考えられる。以後本家職は1333年の後醍醐天皇の令旨により持明院統の後伏見院の管領下にはいった。その後北朝の皇室領莊園であったと思われるが、15世紀初め頃には伏見宮家の所有となっており後伏見院聖忌法事の役を課せられていた。領家職は西園寺家のものであったが、1322年西園寺家の一流大官家に分け与えられた。1395年大官実尚はその南方を相国寺に寄進している。なお、後伏見院聖忌法事の役にはこの相国寺塔頭常徳院が関わっていた。黒田庄の名を文献で追える最後は伏見宮貞成の『看聞日記』1441年の記事であるが、おそらく2、30年後に起きた応仁の乱を通じて多くの莊園と同様その実態を失っていったものと思われる。

黒田はまた京都と関東を結ぶ鎌倉街道と木曾川左岸を通って美濃で東山道とつながる善光寺街道の分岐点であり黒田川の水運もあり交通の要衝であった。970年には市か闇かれたという伝承があるが、おそらくこの市がもとになって鎌倉初期には宿がおかれるようになったのであろう。南北朝期にはこの交通の要衝であることが災いして少なくとも3度付近で合戦が行われた。戦国期には城も築かれ、1490年頃には岩倉織田氏の家臣五藤氏が入城し、1540年頃にはそれにかわって同じく岩倉織田氏の家臣の山内氏がはいっている。1559年に岩倉織田氏が滅びると周辺は大山織田氏の支配下に入り、その家臣織田勘解由が城主となった。織田勘解由が1562年美濃攻略の際に戦死すると同じく大山織田氏の家臣和田氏が入城している。1564年大山織田氏は信長に大山城を追われるが、そのきっかけとなったのが和田氏の裏切りであったためこの時に城主の交替はなかった。1582年本能寺の変で信長とともにその息子で尾張国主であった信忠が殺されると信忠の弟信雄が尾張国主となった。この時黒田城主は沢井氏にかえられる。1564年の小牧・長久手の戦いでは業栗郡も戦場となり沢井氏は秀吉軍と戦闘を行っている。1590年後北条氏が滅びると秀吉は家康を関東に移封し家康の旧領に信雄をいれようとするが、信雄が拒否したため彼を追放した。沢井氏は信雄に従って黒田城を出たため秀吉は家臣一柳氏に業栗郡西部を与え黒田城主とした。1601年一柳氏が閑ヶ原の功で伊勢神戸に移封されると黒田城は廢城となり業栗郡西部城も家康の息子で尾張藩主松平忠吉のものとなった。

田所の名の初見は1585年に成立した「織田信雄分限帳」においてであるが、この分限帳では「光明寺の内田所」と記述されており、まだ独立した村落とは認められていないかったようである。

第2節 調査の経緯と経過

1、調査経緯

東海北陸自動車道の建設にあたり建設予定地の試掘調査が平成4年（1992）に行われ、田所遺跡においては10地点で実施され、県道木曾川停車場線以南、国道22号線にかけて古代・中世の包含層が確認された。この結果、建設予定地内の本格的な発掘調査が必要となり、日本道路公団から愛知県教育委員会を通じた委託事業として、平成4年（1992）7月から開始され、平成8年（1996）3月まで継続し発掘調査を実施した。平成4年度から平成7年度の4年に渡る発掘調査となった。

2、調査経過

調査は、各年度ごとに工事の先行する部分を優先的に実施したことと、建設予定地内に既設の農道が存在するため結果として多くの調査区24を設定することになった。

平成4年度はA～H区の8調査区、平成5年度はA～K区の11調査区、平成6年度はA～C区の3調査区、平成7年度はA・Bの2調査区となった。平成5年度の11調査区のうち、県道光明寺木曾川停車場線以北のA～D区（5,387m²）については、検出遺構・遺物から田所遺跡とは別な遺跡であることが明かになり北道手遺跡となり、報告書も平成8年に刊行された。

調査方法は、現地表面から表土のみをバックホウで掘削した後、平面直角座標系に準拠したグリットを設定し、手堀で包含層を掘削し遺構を検出す方法をとった。

平成4年度は地下水を強制的に汲み上げるウエルポイントを使用しなかったため一部の調査区において、湧水のため作業が困難を極めた。このため平成5年度より各調査区でウエルポイントを使用して調査を実施することになった。

遺構の測量にあたっては、各調査区ごとにヘリコプターによる航空写真測量を実施したが、一部調査区および重要な部分については手測りによる測量をおこなった。

また、平成5年2月27日には現地説明会を開催し、中世の墳墓堂等の遺構の説明とともに出土遺物の展示を行い、地元の人々約500名の参加を得ることができた。

なお、それぞれの年度別調査区、担当者、調査期間、面積は第2表に示すとおりである。

年度別調査担当者（現職名）

平成4年度

太田芳巳（愛知県一宮市立千秋小学校教諭）

赤塚次郎（愛知県埋蔵文化財センター主査）

服部信博（愛知県埋蔵文化財センター調査研究員）

鬼頭剛（愛知県埋蔵文化財センター調査研究員）

平成5年度

太田芳巳

高橋信明（愛知県教育委員会文化財課教育主事）

黒田哲生（愛知県埋蔵文化財センター主査）

服部信博

酒井俊彦 (愛知県埋蔵文化財センター調査研究員)

西原 正 (愛知県埋蔵文化財センター調査研究員)

今西康二 (愛知県立丹羽高等学校教諭)

牧 謙治 (愛知県立木曾川高等学校教諭)

鬼頭 隆

平成6年度

高橋信明

小澤一弘 (愛知県埋蔵文化財センター主任)

増澤 健 (愛知県岡崎市立本宿小学校教諭)

平成7年度

前田雅彦 (愛知県小牧市立北里小学校教頭)

小澤一弘

小池一徳 (愛知県立東郷高等学校教諭)

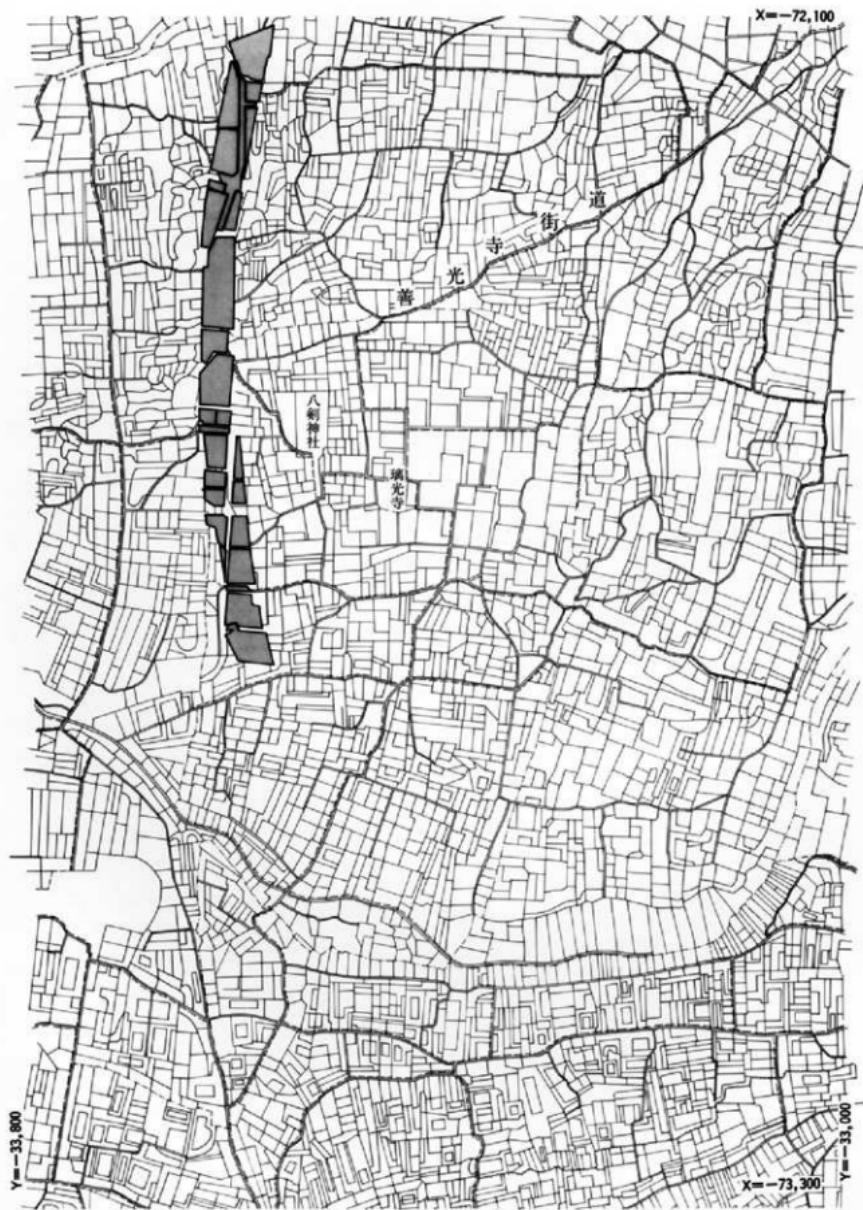
早野浩二 (愛知県埋蔵文化財センター調査研究員)

年 度	調査区	調査担当者	調査期間(月)			面積(m ²)	年度別面積(m ²)
			4	8	12		
平成四年度 92	試掘	太田・赤塚・服部・鬼頭				950	
	A・B	太田・赤塚・服部・鬼頭				1,000	
	C	太田・赤塚・服部・鬼頭				580	
	D	太田・赤塚・服部・鬼頭				770	
	E	太田・赤塚・服部・鬼頭				1,050	
	F	太田・赤塚・服部・鬼頭				1,250	
	G	太田・赤塚・服部・鬼頭				1,020	
	H	太田・赤塚・服部・鬼頭				1,480	8,100
平成五年度 93	A	太田・高橋・西原・鬼頭				1,970	
	B	太田・高橋・西原・鬼頭				1,125	
	C	太田・高橋・西原・鬼頭				586	
	D	太田・高橋・西原・鬼頭				1,706	
	E	太田・酒井・黒田・牧				1,500	
	F	太田・酒井・黒田・牧				742	
	G	太田・酒井・黒田・牧				1,391	
	H	太田・酒井・黒田・牧				1,986	
	I	太田・酒井・黒田・牧				962	
	J	太田・酒井・今西・鬼頭				2,193	
	K	太田・服部				598	14,759
平成六年度 94	A	高橋・小澤・増澤				800	
	B	高橋・小澤・増澤				3,200	
	C	高橋・小澤・増澤				500	4,500
平成七年度 95	A	前田・小澤・小池・早野				600	
	B	前田・小澤・小池・早野				1,700	2,300
						調査面積合計	29,659

第2表 調査進行表



第5図 通路位置図 1:2500



第6図 明治17年の地籍図から見た遺跡位置図 1:2500

第2章 遺構

第1節 遺跡の概要

田所遺跡は一宮市大字田所と隣接する葉栗郡木曾川町黒田にまたがる縄文時代晚期から近世にかけての複合遺跡である。調査区全体が東海北陸自動車道建設予定地のため南北に細長く東西が狭い調査範囲となり、遺跡の南北のひろがりは想定できたが東西の広がりは不明確である。

田所遺跡は古墳時代、奈良時代、平安時代、鎌倉時代、と大きく4期に区分して考えることができ、なかでも幅6mを測る大溝と鎌倉時代の「墳墓堂」と推定した遺構とその周辺に展開する方形区画をもった墓域を検出することができたことが特筆される。

古墳時代の遺構では水田跡と土坑等が検出された。水田跡からは東山11号窯式の杯蓋や土師器の甕が、土坑では畦畔上に掘削された土坑SK114より石製有孔円板等が出土した。

奈良時代の遺構は奈良時代末期に属すると考えられる一辺5m前後の方形プランを呈する堅穴住居が15棟検出された。

平安時代の遺構では堅穴住居、土坑、溝等が検出された。

堅穴住居は一辺5~6m前後の方形プランを呈し14棟検出されている。堅穴住居SB16からは篠岡窯の製品がまとまってみられ、また土坑SK251からは「富壽神寶」が出土した。

鎌倉時代の遺構では溝と土坑群と井戸等が検出された。

溝のなかで幅8mから10mを測る大溝SD01は調査区の南半部分においてほぼ南北に直線的に掘削され、南端では東西に走る大溝の一部が検出されている。当初は現在の田所集落を囲むように位置すると推定したが平成5年度の調査によって大溝が途切れることが確認された。

また溝(最大幅約6m、深さ80cm)によって区画された「墳墓堂」が検出され、平坦部の幅が東西約13m、南北15mを測り、溝で囲まれた内部には柱立柱建物(東西3間・南北4間)が1棟、南側には入口部と考えられる開口部が、その西側には井戸が築かれており、溝からは灰釉系陶器の椀、伊勢型鍋、土師質皿、四耳壺、水注等が出土した。

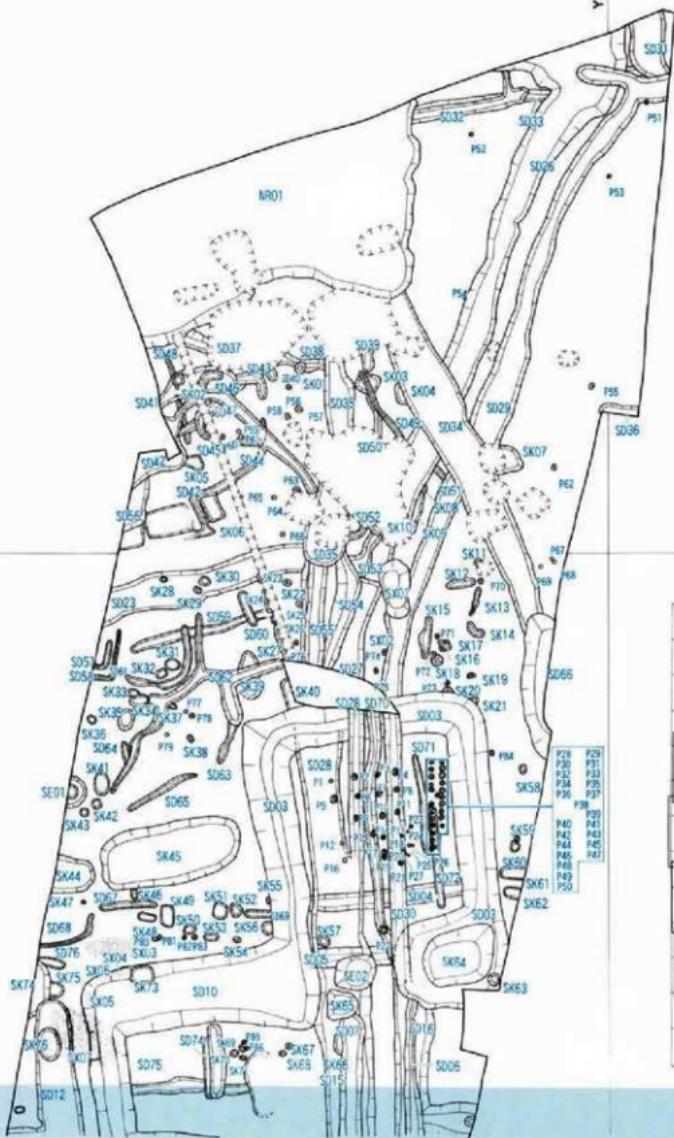
こうした4時期以外には、縄文時代晚期の擦痕土器、弥生時代の土器・石器、弥生時代後期から古墳時代にかけての多孔銅鏡、室町時代から近世にいたるまでの土器、陶器、磁器片等が出土した。

Y=33,620

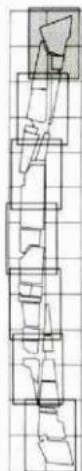
X=-72,100

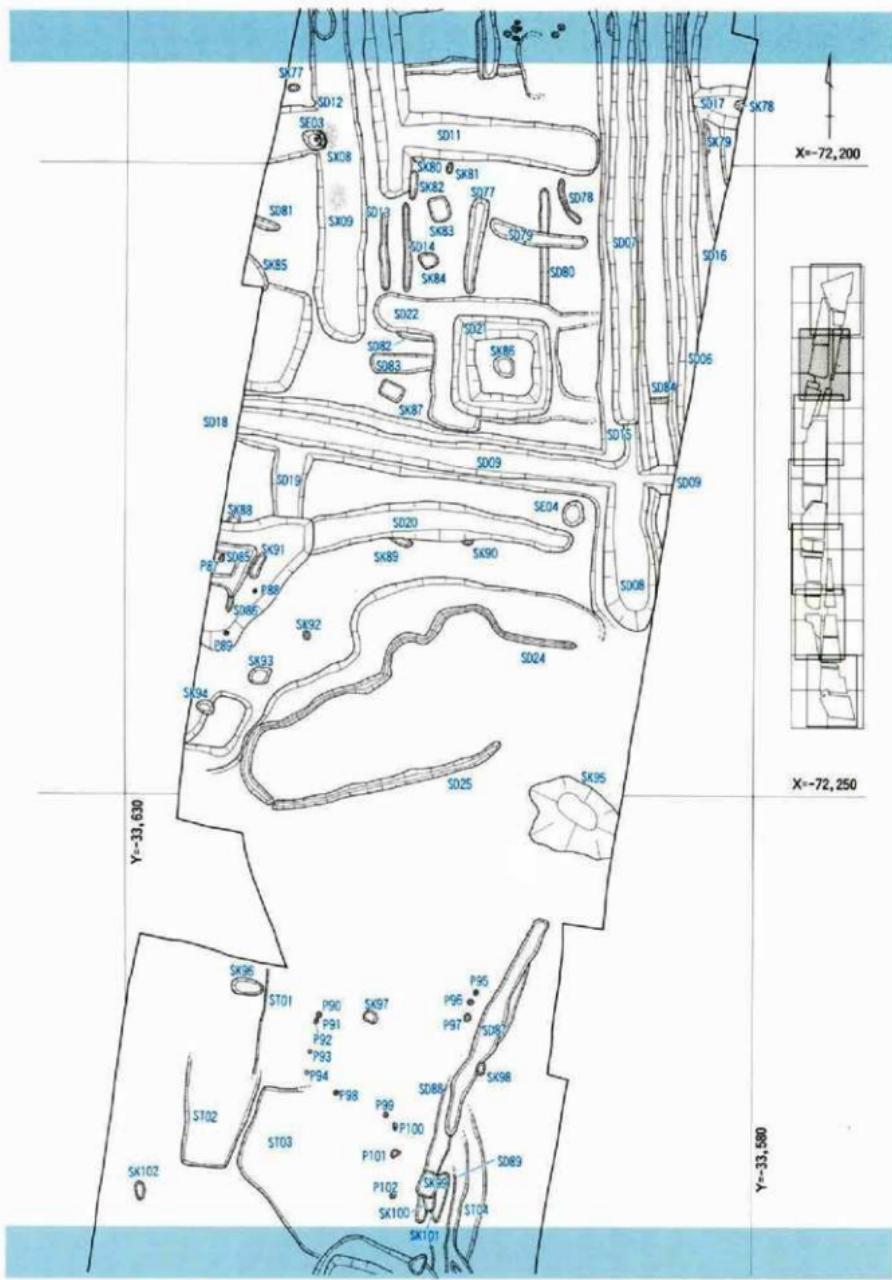
Y=-33,570

X=-72,150



第7図 道構全体図(1) 1:400

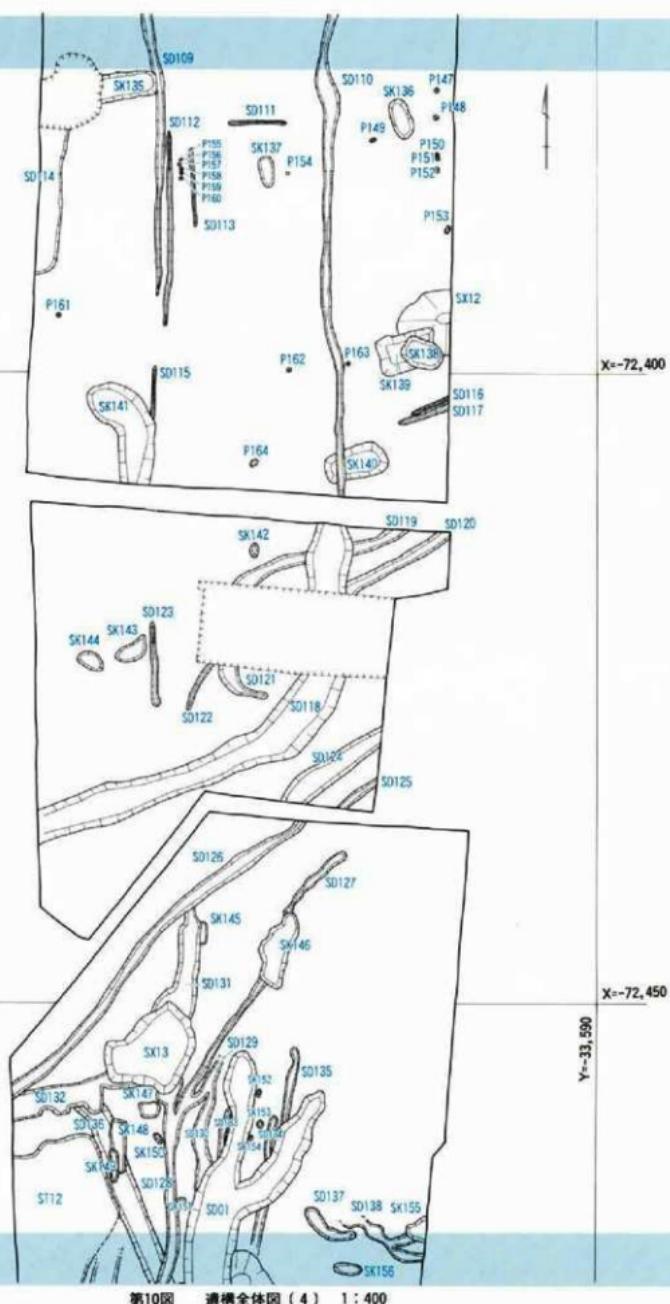


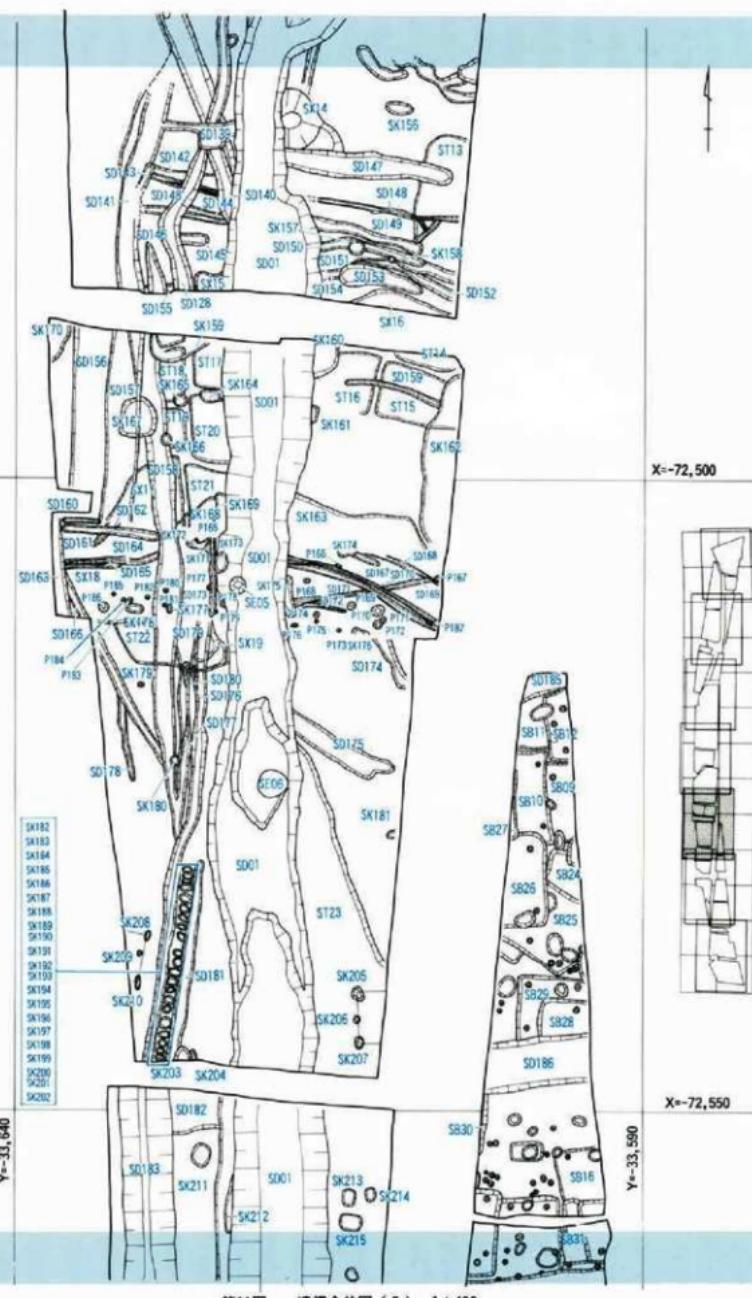


第8図 道構全体図(2) 1:400

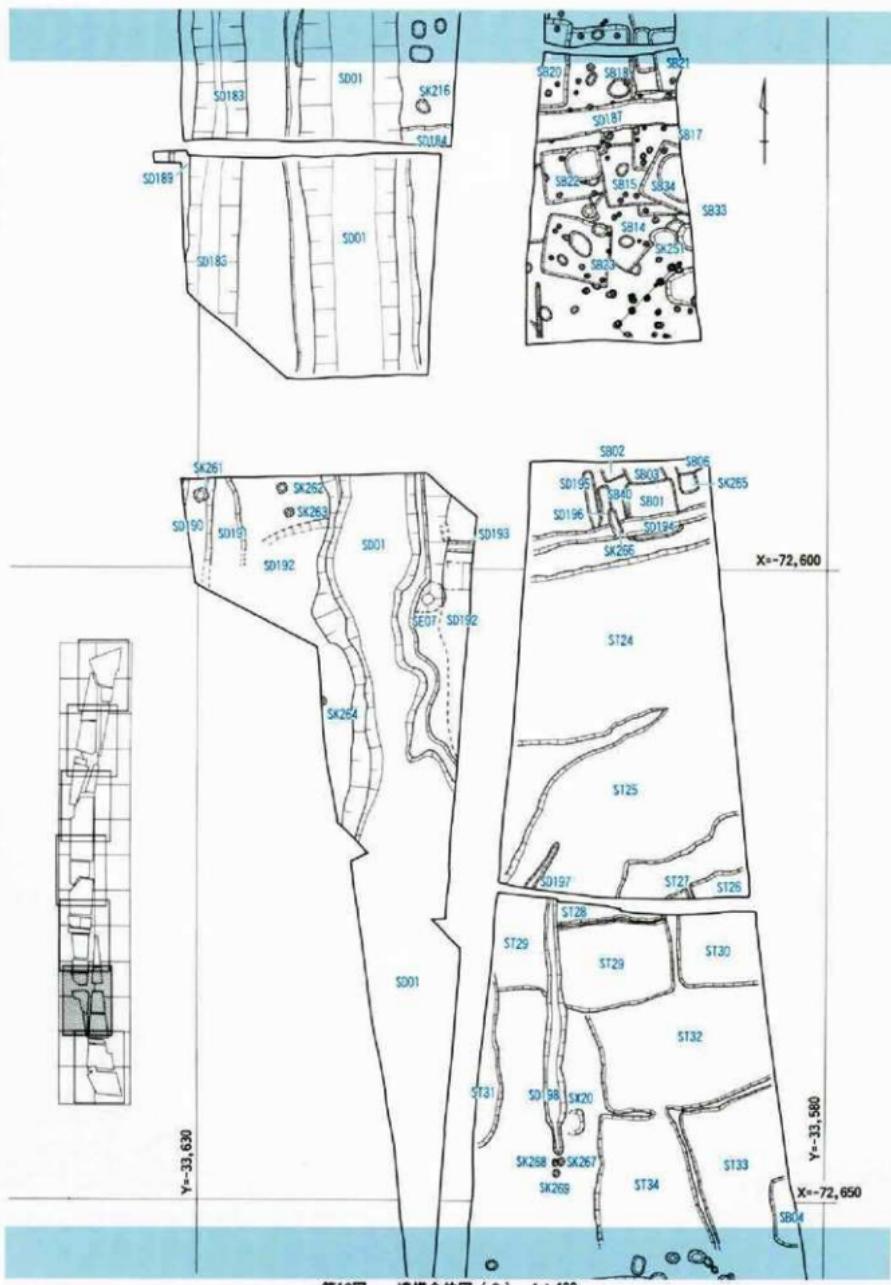


第9図 遺構全図(3) 1:400





第11図 遺構全体図(5) 1:400



第12図 遺構全体図(6)

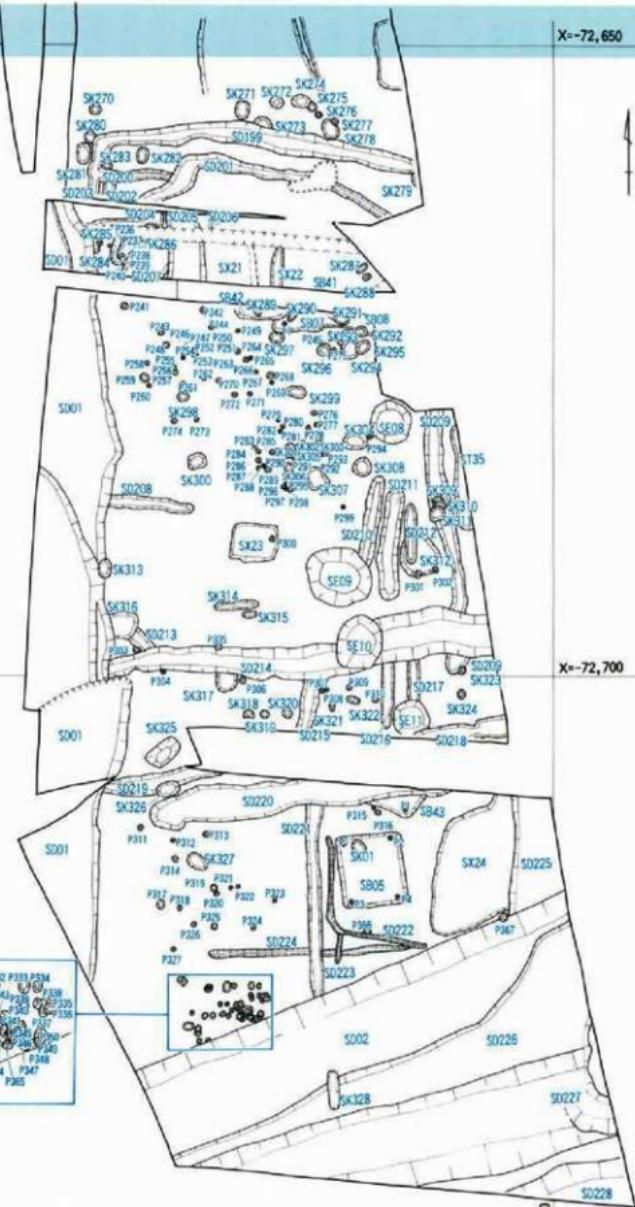
X=-72,650

X=-72,700

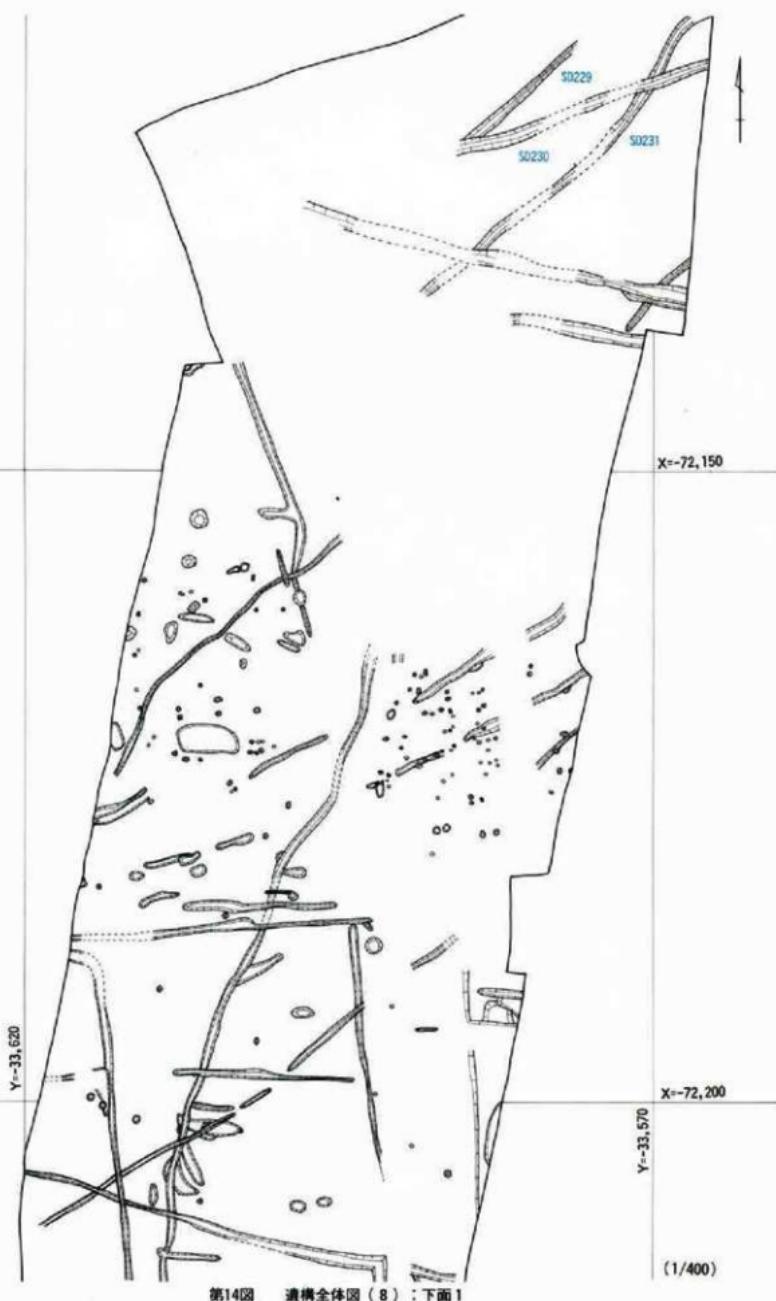


Y=33,620

Y=33,570



第13図 遺構全体図(7) 1:400



第14図 遺構全体図(8)：下面1



第15図 遺構全体図(9)：下面2

(1/400)



第16図 道構全体図(10)：下面3

第2節 遺跡の層位

田所遺跡の基盤層は木曾川がもたらした洪水性の堆積層である。基本層序は、耕作土の下に黄褐色シルト（近世）、その下に天正地震の噴砂に起因する砂層を噛み、さらに暗褐色シルト層（中世包含層）が存在する。この暗褐色シルト層（奈良時代包含層・無遺物層）を経て古墳時代の水田土壤（灰褐色シルト）となる。

遺跡北部92E区以北は序々に微高地状の高まりが展開しており、墳墓堂遺構周辺は基本的には表土を掘削するとすぐに黒褐色土となりその下部には砂層が堆積している。

遺跡中央部93I・J区では表土を掘削すると明黄白色粗砂と灰色シルトからなる不安定な層があり、黒褐色土層、砂層となる。

遺跡南部93H・G区では表土を掘削すると明褐色白色粗細砂層、黒褐色土層、砂層となる。



墳墓堂遺構検出作業風景 92Gb区



墳墓堂遺構周辺発掘状況 92F区



第17図 調査区配置図

第3節 古代の遺構

1、住居跡

調査によって奈良時代から平安時代の堅穴住居跡が29棟検出された。住居跡は遺跡の南に偏っており、92A区においては重複が激しく狭い地域に何度も建て替えたことが窺える。ただし南下するにしたがい住居跡も重複も少なく、1棟単独のみの調査区もある。集落の中心は現在の田所集落にあると考えられる。住居内部の構造について、4棟の住居から、壁面の近くで石、焼土、土師器甕がセットとなる「甕」状の遺構が認められた。住居内からは須恵器、灰陶器、土師器甕等が出土した。住居跡の大部分が中世の遺構等によって削平を受け住居跡の床面の埋土が10cmから15cm程度で遺存状況が悪く、遺物のまったく出土しない住居跡やかろうじて床面に近い部分で検出した住居跡もある。

92A区の北半部で折戸10号窓式に属すると考えられる奈良時代の堅穴住居を重複した形で15棟検出されたが、出土遺物も少なく不明な部分も多いがいずれも一辺5m前後の方形プランを呈している。

92A区の南半部で尾北窓の篠岡4号窓式に属する堅穴住居1棟をふくむ平安時代の堅穴住居14棟が重複し検出され、いずれも一辺が5~6mの方形状のプランを呈している。

93H区の北端で5棟、南東部分で1棟、93G区の北端で3棟、93H区南部で1棟、92H区で1棟の住居跡が検出された。

序号	遺構番号	調査区	旧遺構	グリッド	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	遺物	時期	備考
23	SB01	93Hb	SB01	VI-E19a-20b	4.5	3.8	0.04	○		
23	SB02	93Hb	SB04	VI-E19b-c	(2.2)	(0.8)	0.02	○		
23	SB03	93Hb	SB03	VI-E19a-20b	(3.1)	(1.1)	0.03	○		
23	SB04	93Hb	SB01	VI-E10d-11d	(5.3)	(1.6)	0.17	○	9C前	
24	SB05	92H	SB118	VI-E3c-4d	5.8	5.2	0.24			
24	SB05-P1	92H		VI-E3c	0.4	0.3	0.11			
24	SB05-P2	92H		VI-E3d	0.3	0.3	0.07			
24	SB05-P3	92H		VI-E4c	0.3	0.3	0.11			
24	SB05-P4	92H		VI-E4d	0.3	0.3	0.10			
24	SB05-SK	92H		VI-E3c	1.3	0.9	0.10			
23	SB06	93Hb	SB05	VI-E19a	(1.6)	(1.2)	0.05	○		
24	SB07	93G	SB02	VI-E15bc	(4.0)	(1.3)	0.22	○	9C前	
24	SB07-P1	93G	SK79	VI-E15b	0.3	0.3	0.23	○		
24	SB08	93G	SB03	VI-E15cd	(4.2)	(0.8)	0.22	○	9C前	
18	SB09	92Ab	SB108	VI-E5a-6b	(6.2)	(2.0)	0.10	○		
18	SB09-P1	92Ab		VI-E5a	0.5	0.4	0.17			
18	SB10	92Ab	SB107	VI-E5a-6a	(7.5)	(2.3)	0.12	○		
18	SB10-P1	92Ab		VI-E5a	0.4	0.4	0.11			
18	SB10-P2	92Ab		VI-E5a	0.4	0.4	0.12			
18	SB11	92Ab	SB105	VI-E4a-5a	(3.8)	(2.1)	0.14	○		
18	SB12	92Ab	SB104	VI-E4a-5a	(5.4)	(1.9)	0.14	○		
18	SB12-P1	92Ab		VI-E4a	0.5	0.4	0.06			
18	SB12-P2	92Ab		VI-E4a	0.4	0.3	0.14			
18	SB12-P3	92Ab		VI-E5a	0.4	0.3	0.11			
22	SB13	92Aa	SB101	VI-D14a-15a	6.2	4.8	0.06	○		
22	SB13-P1	92Aa		VI-E14a	0.4	0.4	0.15			
22	SB13-P2	92Aa		VI-E14a	0.2	0.2	0.25			
22	SB13-P3	92Aa		VI-E14a	0.3	0.2	0.18			
22	SB13-P4	92Aa		VI-E14a	0.2	0.2	0.18			
22	SB13-P5	92Aa		VI-E15a	0.3	0.2	0.07			
21	SB14	92Aa	SB06	VI-E15a-16a	6.0	5.5	0.11	○	11C前・12C後	
21	SB14-P1	92Aa		VI-E15a	0.4	0.3	0.16			
21	SB14-P2	92Aa		VI-E15a	0.3	0.4	0.12			
21	SB14-P3	92Aa		VI-E15b	0.4	0.4	0.10			
21	SB14-P4	92Aa		VI-E15b	0.3	0.4	0.10			
21	SB14-P5	92Aa		VI-E15b	0.4	0.4	0.09			
21	SB15	92Aa	SB07	VI-E14a-15b	4.9	(3.3)	0.05	○		
21	SB15-P1	92Aa		VI-E14a	0.3	0.3	0.07			
21	SB15-P2	92Aa		VI-E15b	0.4	0.3	0.13			
21	SB15-P3	92Aa		VI-E15b	0.4	0.4	0.01			
21	SB15-P4	92Aa		VI-E15b	0.3	0.3	0.04			
19	SB16	92Ab	SB14	VI-E11a-12b	(4.1)	(3.5)	0.13	○		
19	SB16-P1	92Ab		VI-E11a	0.4	0.4	0.06			

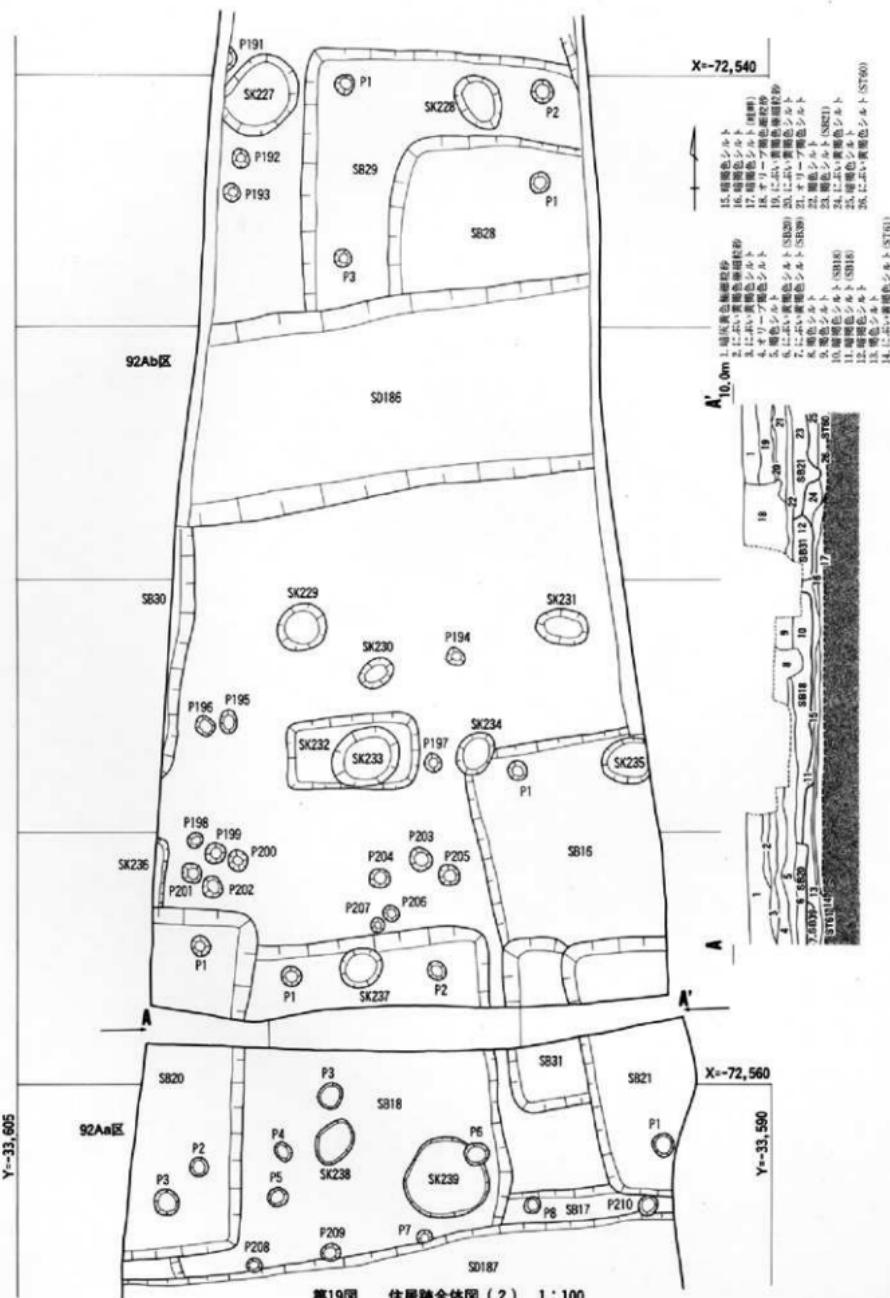
第3表 堅穴住居一覧表(1)

地図	遺構番号	南北区	東西区	回復度	ゲリード	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	土物	時期	備考
21	SB17	92Aa	SB006	VIE13a14b		6.3	(3.7)	0.04	○	12C後	
21	SB17-P1	92Ab	P1	VIE13b		0.4	0.4	0.09			
21	SB17-P2	92Ab	P2	VIE13b		0.3	0.3	0.07			
21	SB17-P3	92Ab	P3	VIE14a		0.3	0.3	0.07			
21	SB17-P4	92Ab	P4	VIE14b		0.4	0.4	0.09			
21	SB17-P5	92Ab	P5	VIE14b		0.5	0.4	0.12			
21	SB17-P6	92Ab	P6	VIE14b		0.4	0.4	0.07			
21	SB17-P7	92Ab	P7	VIE14a		0.6	(0.4)	0.03			
19	SB17-P8	92Ab	P8	VIE13b		0.3	0.3	0.08			
19	SB18	92Ab	SB12	VIE12a13a	(6.2)	(5.0)	0.15	○			
19	SB18-P1	92Ab		VIE12a		0.4	0.4	0.04			
19	SB18-P2	92Ab		VIE12a		0.4	0.4	0.05			
19	SB18-P3	92Ab		VIE13a		0.5	0.5	0.05			
19	SB18-P4	92Ab		VIE13a		0.4	0.3	0.05			
19	SB18-P5	92Ab		VIE13a		0.4	0.4	0.05			
19	SB18-P6	92Ab		VIE13a		0.5	0.4	0.04			
19	SB18-P7	92Ab		VIE13a		(0.3)	0.3	0.06			
21	SB19	92Ab	SB04	VID14t VIE15a	(5.0)	(5.0)	0.14	○	11C前		
19	SB20	92Ab	SB13	VID12b 3t	(6.9)	(2.1)	0.25	○	9C後・12C後		
19	SB20-P1	92Ab		VID12t		0.4	0.4	0.07			
19	SB20-P2	92Ab		VIE13t		0.4	0.4	0.09			
19	SB20-P3	92Ab		VIE13b		0.5	0.5	0.07			
19	SB21	92Ab	SB09	VIE12b13b	(5.1)	(2.1)	0.15	○	12C後		
19	SB21-P1	92Ab		VIE13b		0.4	0.3	0.09			
21	SB22	92Ab	SB03	VID14t VIE15a	4.6	4.0	0.11	○	11C前		
21	SB22-P1	92Ab		VID14t		0.4	0.3	0.04			
21	SB22-P2	92Ab		VID15t		0.4	0.4	0.08			
21	SB22-P3	92Ab		VIE15a		0.4	0.3	0.04			
21	SB23	92Ab	SB01	VID15t VIE16a	5.2	4.3	0.20	○	9C後・12C後		
21	SB23-P1	92Ab	P1	VIE15a		0.3	0.3	0.03			
21	SB23-P2	92Ab		VIE15a		0.3	0.2	0.24			
21	SB23-P3	92Ab		VIE16a		0.3	0.3	0.06			
21	SB23-P4	92Ab		VIE16a		0.4	0.3	0.07			
21	SB23-P5	92Ab		VIE16a		0.4	0.3	0.08			
21	SB23-P6	92Ab		VIE16a		0.5	0.5	0.05			
21	SB23-P7	92Ab		VIE15t		0.3	0.3	0.06			
21	SB23-P8	92Ab		VIE15t		0.6	0.4	0.06			
21	SB23-P9	92Ab		VIE16a		0.3	0.3	0.03			
18	SB24	92Ab	SB109	VIE6a/b	(2.3)	(2.8)	0.21	○			
18	SB25	92Ab	SB111	VIE2a/b	(5.8)	(5.6)	0.14	○			
18	SB25-P1	92Ab		VIE8t		0.4	0.4	0.11			
18	SB25-P2	92Ab		VIE8a		0.5	0.4	0.16			
18	SB25-P3	92Ab		VIE8a		0.4	0.4	0.27			
18	SB26	92Ab	SB110	VID8t VIE8a	(7.5)	(3.4)	0.12	○			
18	SB26-P1	92Ab		VIE6a		0.5	0.4	0.08			
18	SB26-P2	92Ab		VIE7a		0.4	0.4	0.13			
18	SB27	92Ab	SB106	VID6t	(5.7)	(0.5)	0.15	○			
19	SB28	92Ab	SB112	VIE9a	(3.9)	(3.0)	0.13				
19	SB28-P1	92Ab		VIE9b		0.4	0.4	0.13			
19	SB29	92Ab	SB113	VIE5a/b	(5.5)	(5.2)	0.18				
19	SB29-P1	92Ab		VIE9a		0.4	0.4	0.10			
19	SB29-P2	92Ab		VIE9a		0.4	0.4	0.09			
19	SB29-P3	92Ab		VIE9a		0.4	0.4	0.20			
19	SB30	92Ab	SD15	VIE11a	(5.0)	0.5	0.19	○			
18	SB31	92Ab	SB10	VIE12b 3b	(3.4)	(1.6)	0.19	○	10C前・12C後		
21	SB32	92Ab	SB11	MD14t VIE14a	(5.6)	1.8	0.15	○			
21	SB32-P1	92Ab	P1	VIE14a		0.3	0.3	0.21			
21	SB32-P2	92Ab	P2	VIE14a		0.4	0.3	0.09			
21	SB32-P3	92Ab	P3	VID14t		(0.4)	(0.2)	0.04			
21	SB33	92Ab	SB05	VIE15b	(3.5)	(0.9)	0.10	○	10C前		
21	SB33-P1	92Ab	P1	VIE15b		0.4	0.3	0.05			
21	SB34	92Ab	SB02	VIE14b 15b	(4.6)	(4.3)	0.09	○	12C後		
21	SB34-P1	92Ab	P1	VIE14b		0.4	0.4	0.12			
21	SB34-P2	92Ab	P2	VIE15b		0.3	0.3	0.09			
20	SB35	92Ab	SB116	VID10ab	(2.8)	(1.3)	0.14				
20	SB35-P1	92Ab		VIE10a		0.4	0.4	0.11			
20	SB36	92Ab	SB114	VID10t 11t	(4.6)	(1.2)	0.06	○			
20	SB36-P1	92Ab		VIE10t		0.3	0.3	0.07			
20	SB36-P2	92Ab		VIE11t		0.3	0.3	0.06			
20	SB37	92Ab	SB115	VIE11a 12b	(5.6)	(4.1)	0.10	○			
20	SB37-P1	92Ab		VIE11a		0.3	0.2	0.04			
20	SB37-P2	92Ab		VIE12a		0.4	0.4	0.08			
22	SB38	92Ab	SB102	VIE14b	-	5.1	0.12	○			
22	SB38-P1	92Ab		VIE14a		0.4	0.3	0.11			
22	SB38-P2	92Ab		VIE14a		0.4	0.4	0.16			
22	SB38-P3	92Ab		VIE14a		0.4	0.4	0.18			
22	SB38-P4	92Ab	P107	VIE14a		0.3	0.3	0.22	○		
22	SB38-P5	92Ab		VIE14b		0.3	0.3	0.06			
22	SB38-P6	92Ab	P106	VIE14ab		0.3	0.2	0.18			
22	SB38-P7	92Ab	P103	VIE14a		0.3	0.3	0.15	○		
22	SB38-P8	92Ab		VIE14a		0.3	0.3	0.08			
22	SB38-P9	92Ab	P102	VIE14b		0.3	0.2	0.10	○		
22	SB38P10	92Ab		VIE14a		0.3	0.3	0.14			
22	SB39	92Ab	SB103	VID12 13t	(4.8)	(2.2)	0.12				
23	SB40	92Ab	SB02	VIE19a 20b	3.6	(0.4)	0.02	○			
24	SB41	92Ab	SB01	VIE14c	-	-	-	○	SC後-9C前	壤土	
24	SB42	92Ab	SB01	VIE15b	(4.2)	(0.6)	0.16	○			
24	SB43	92Ab	SB119	VIE2d 3d	(3.8)	(2.2)	0.19				
24	SB43-P1	92Ab		VIE3d		0.4	0.3	0.10			

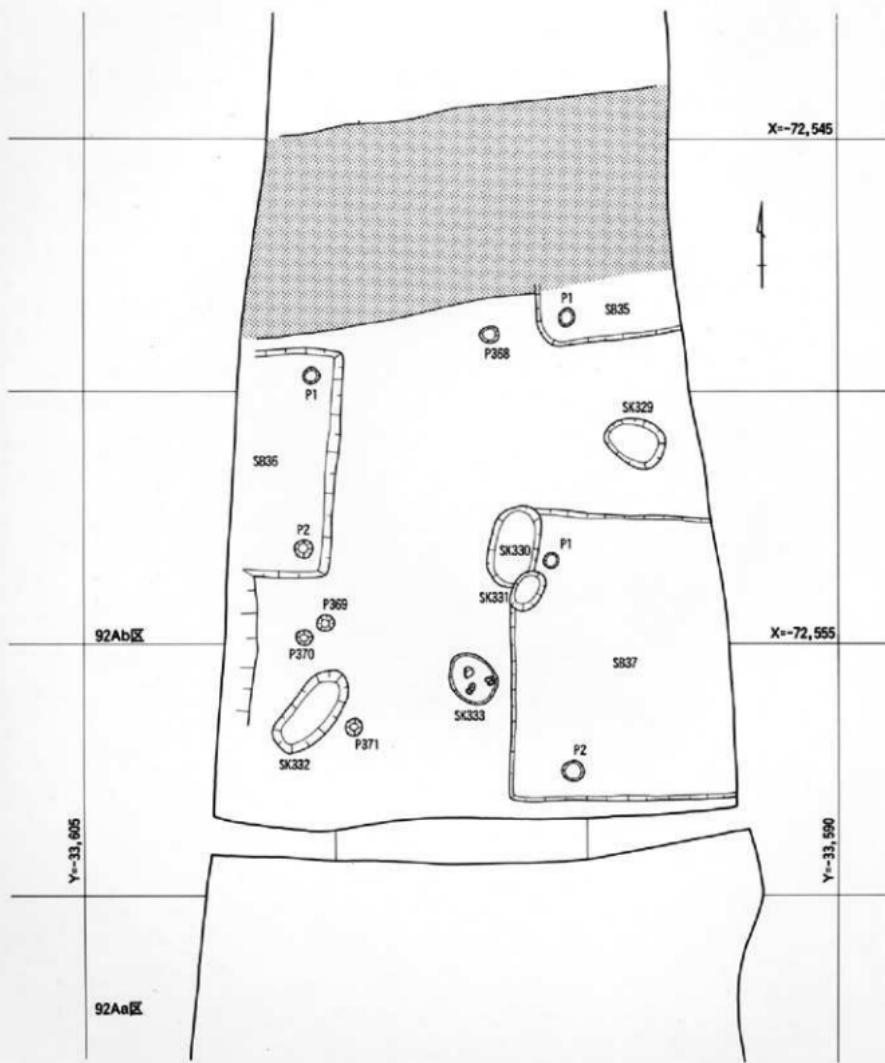
第4表 壺穴住居一覧表(2)



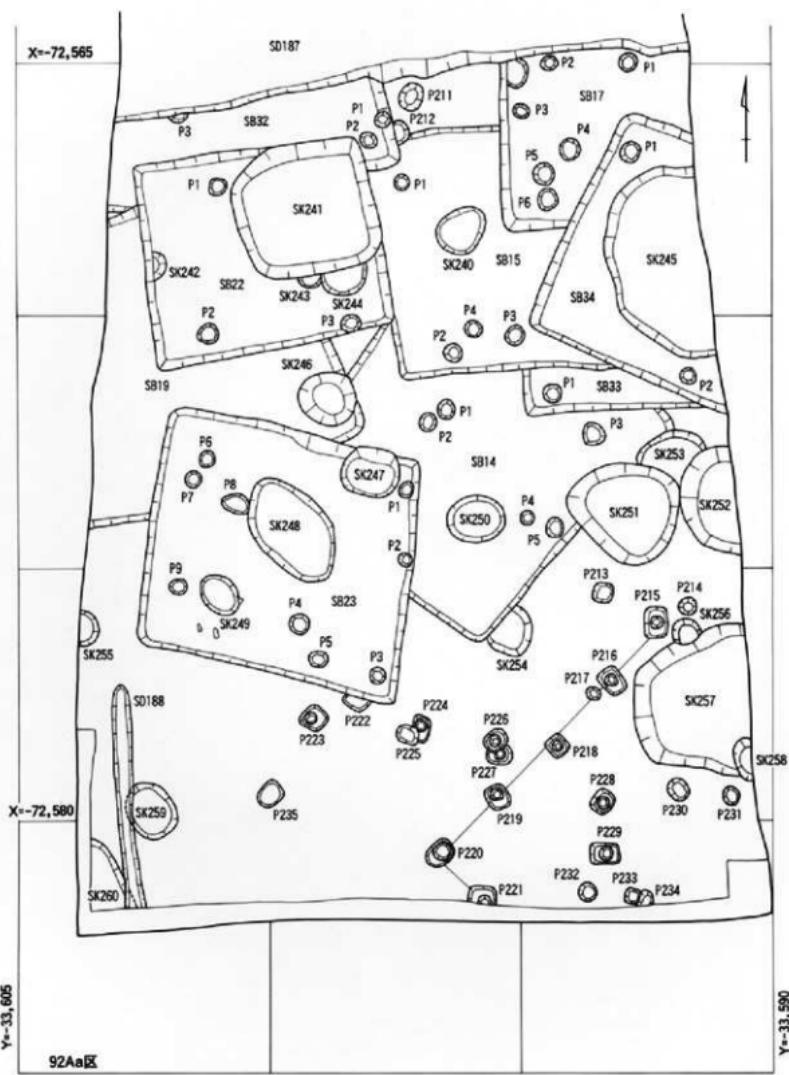
第18図 住居跡全体図（1） 1:100



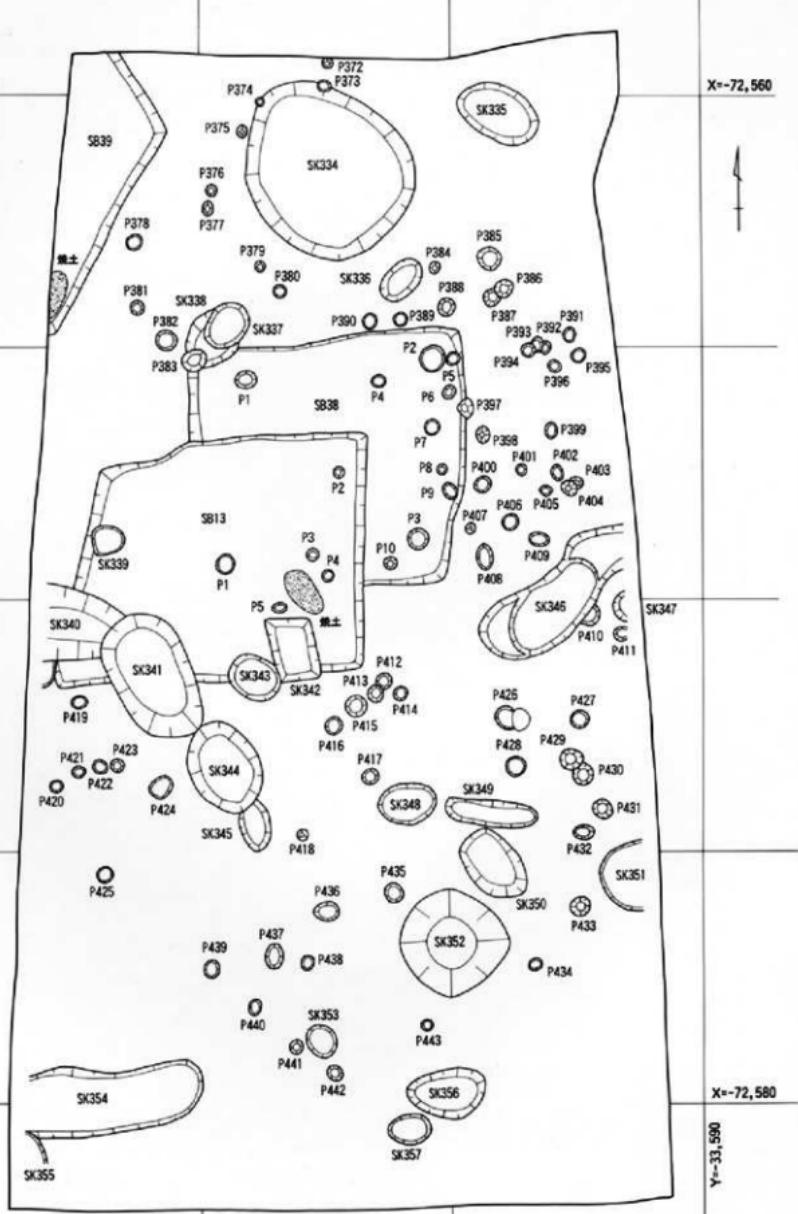
第19図 住居跡全体図(2) 1:100



第20図 住居跡全体図(3) 1:100

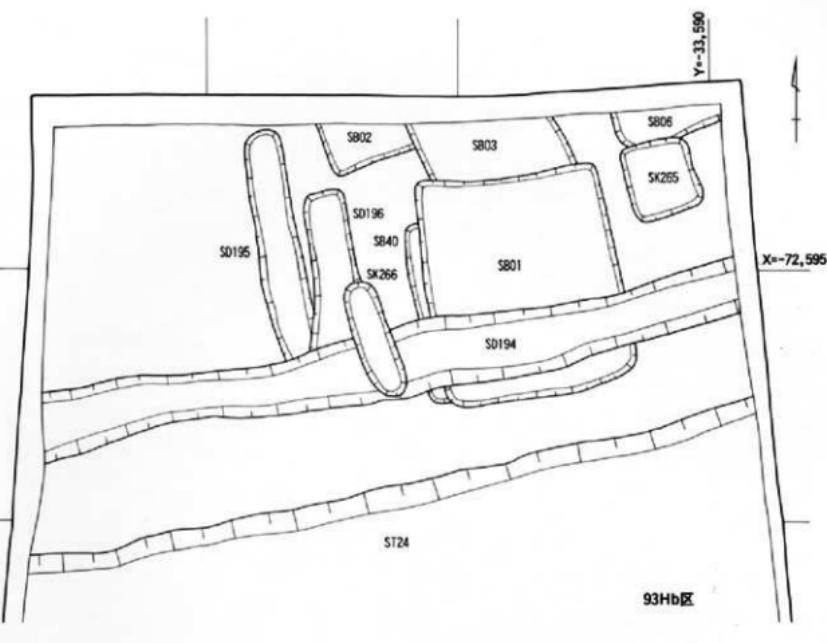


第21図 住居跡全体図(4) 1:100

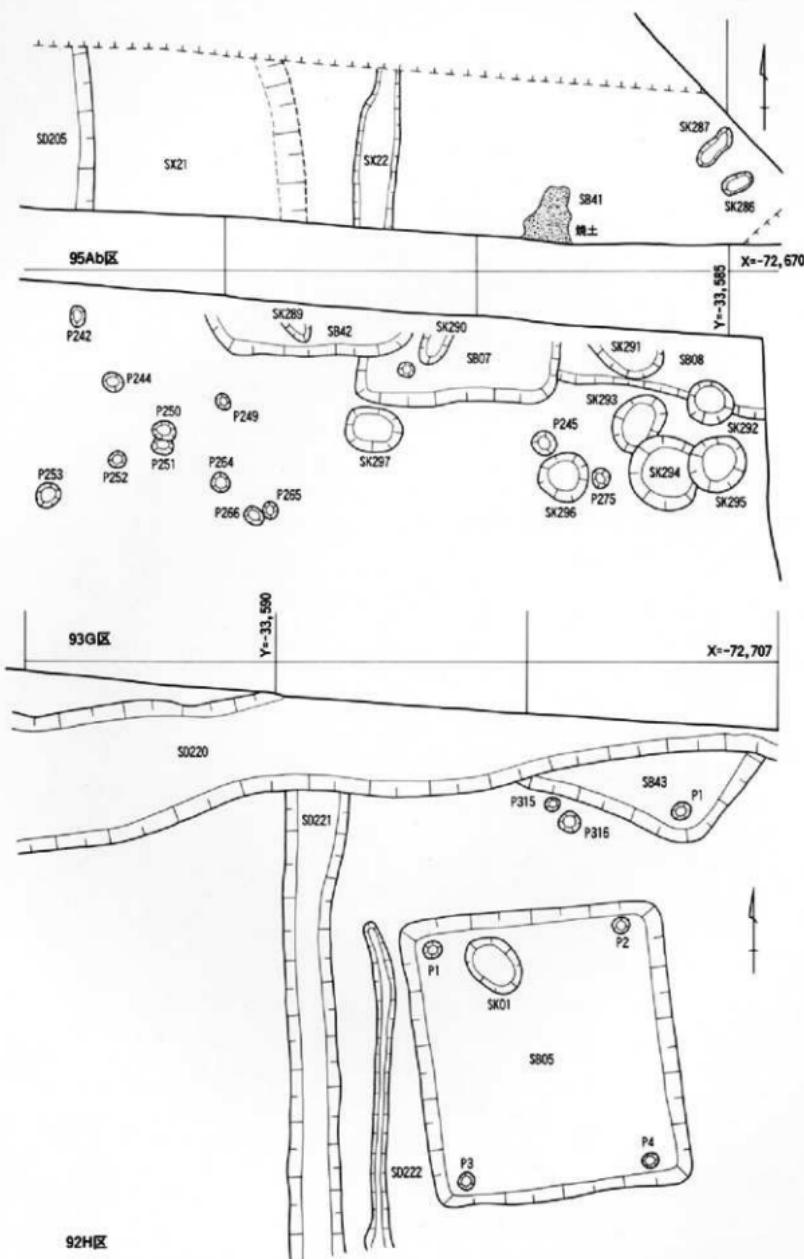


第22図 住居跡全体図(5) 1:100

92Aa区



第23図 住居跡全体図(6) 1:100

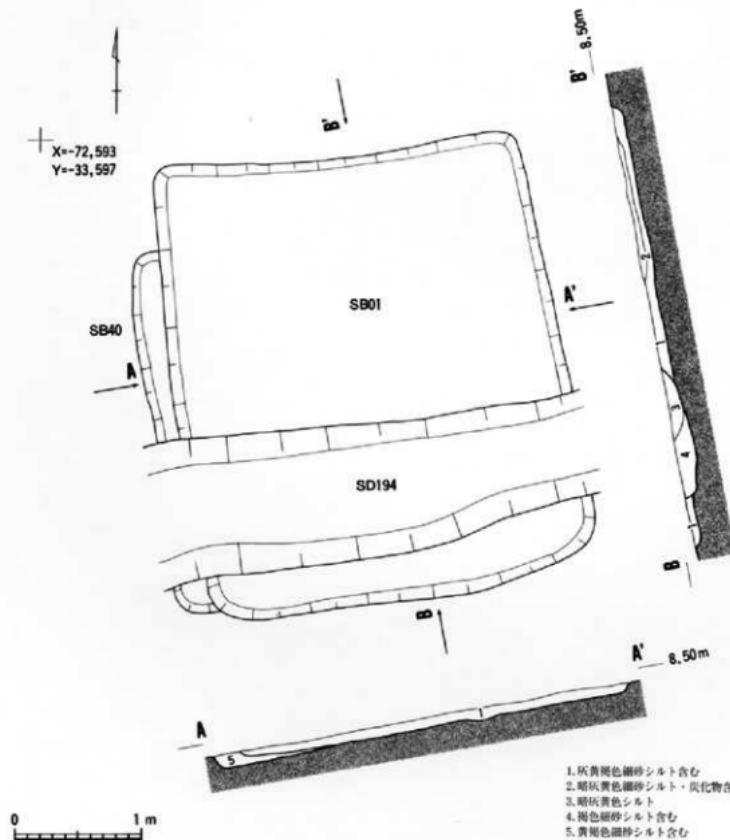


第24図 住居跡全体図（7） 1:100

主な住居跡は以下のとおりである。

SB01 (第25図、第54図、図版11)

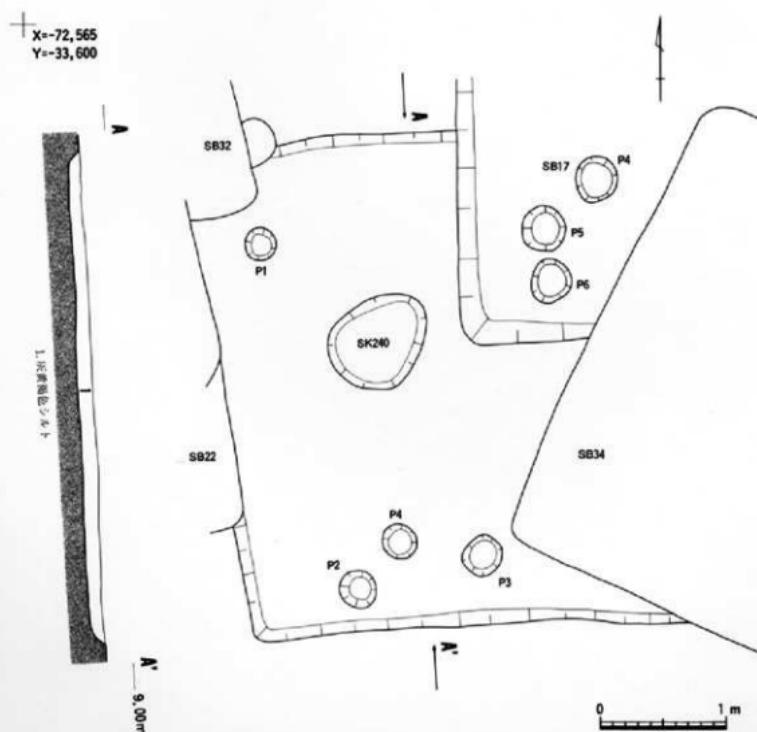
93Hb区の北東端に位置する。旧SB01で、2棟の住居を切って建てられておりSB40の大部分を切っている。住居の南側は中世の溝により切られている。平面形状は北辺3m64cm、南辺3m84cm、東辺4m20cm、西辺4m54cmの長方形を呈す。壁高は確認面から10cmを測る。覆土は2層にわかれ、上から暗灰黄色土、灰黃褐色土となる。床面はほぼ平坦である。周溝及び柱穴は検出されなかった。遺物は住居内床面から覆土にわたって美濃須衛窯と猪投窯の製品が出土しており8世紀後半と考えられる。



第25図 SB01平面実測図

SB15（第26図、第57図、図版6、7、11）

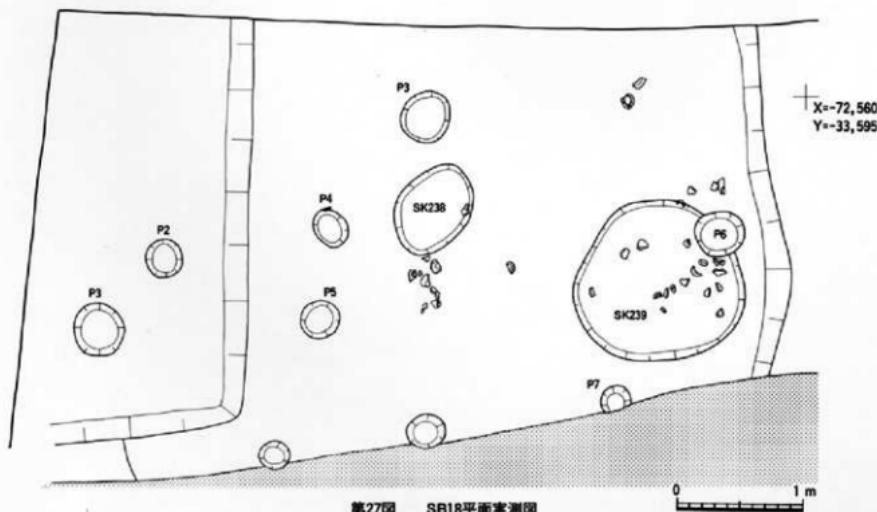
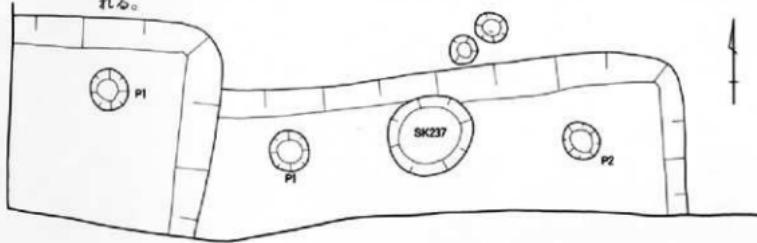
SB15区の南側に位置する。旧SB07で、SB17、SB34によって東側半分が切られ、SB32、SB22、によって北西側が切られており、住居の北壁の一部、西壁の一部、南東コーナーを欠き、南壁しか残っておらず全容は不明である。平面形状は推定北辺4m90cm、南辺4m90cm、西辺5mの方形を呈すると思われる。壁高さは確認面から16cmを測る。覆土は1層の灰黄褐色シルト土で床面はほぼ平坦である。周溝は検出されなかつたが、北西隅（P1）に径30cm、深さ7cmのピット、南壁に径30cm、深さ13cm（P2）と径40cm、深さ23cm（P3）の径34cm、深さ4cm（P4）とピットが4ヶ所検出され柱穴と考えられる。床面はほぼ平坦である。住居跡の中央西寄りでは長径110cm、短径90cmの土坑（SK240）が検出された。美濃須衛窯と猪投窯、尾北窯の製品が出土しており8世紀後半と考えられる。



第26図 SB15平面実測図

SB18 (第27図、第58図、図版7、12)

92Ab区のはば中央に位置する。旧SB12で西側がSB20によって切られており、南側はSD187によって切られている。一部を欠くが北壁と東壁が残るのみで全容は不明である。平面形状は推定北辺6m60cm、東辺6m50cmの方形を呈すると思われる。壁高さは確認面から20cmを測る。覆土は1層の灰黄褐色土で床面はほぼ平坦である。周溝は検出されなかったが、北西(P1)に径39cm、深さ4cm、北東(P2)に径38cm、深さ4cm、ほぼ中央(P3)に径50cm、深さ5cm、南西に径35~40cm、深さ5cm(P4)と径40cm、深さ5cm(P5)が、南東に径50cm、深さ4cm(P6)とピットが6ヶ所検出され柱穴と考えられる。南東隅のP6に接して径168cm、深さ2cmの土坑(SK239)が検出され、美濃窯の製品が多く出土した。またP3の南には径100cm、深さ4cmの土坑(SK238)が検出され、この土坑の南側からも美濃窯の製品が出土。10世紀末から11世紀初と考えられる。



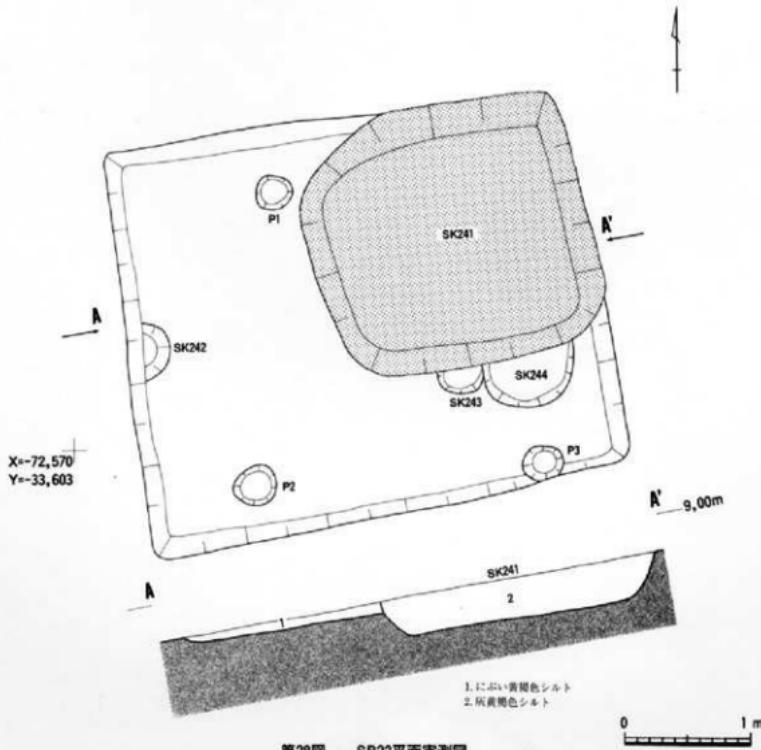
第27図 SB18平面実測図

SB22 (第28図、第60図、図版6、7、12)

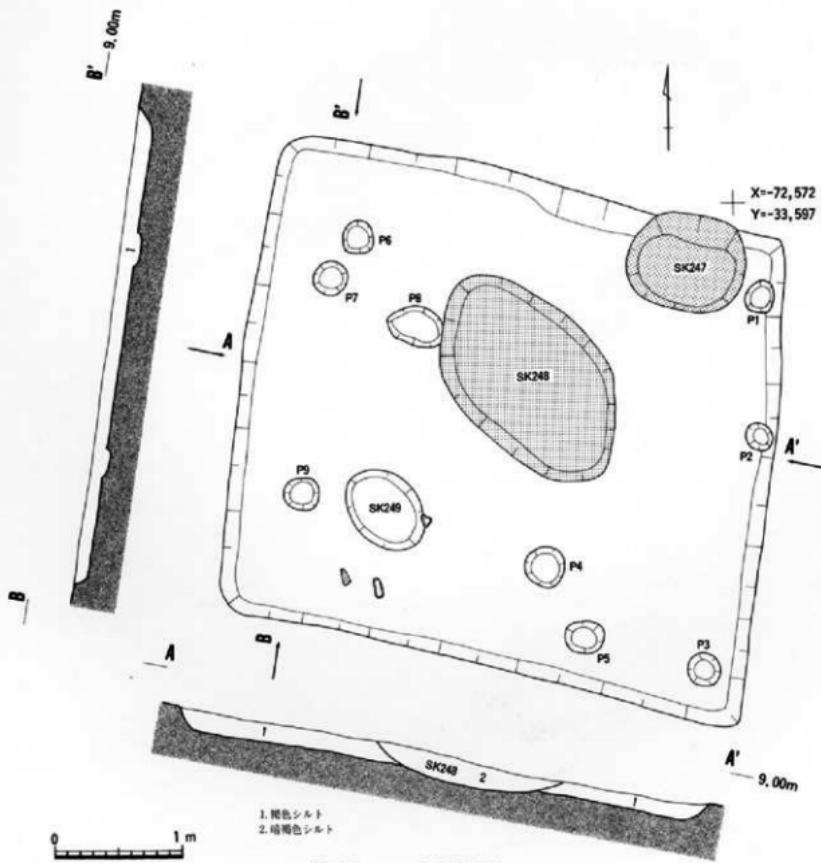
92Aa区の南側に位置する。旧SB03で中世の土坑（SK241）によって北東部分が切られている。平面形状は北辺440cm、南辺460cm、東辺380cm、西辺410cmの長方形を呈する。壁高さは確認面から10cmを測る。覆土は1層の黄褐色土で床面はほぼ平坦である。北側に径34cm、深さ4cm（P1）と南西側に径44cm、深さ7cm（P2）と南東の南壁際に径30cm、深さ16cm（P3）とピットが3ヶ所検出され柱穴と考えられる。西壁中央際に半裁状態の土坑（SK24）径50cmが検出されている。美濃窯、尾北窯、猿投窯の製品が出土。9世紀後半と考えられる。

SB23 (第29図、第60図、図版6、7、12、13)

92Aa区の南側に位置する。旧SB01で住居中央で中世の土坑（SK248）が、北東隅で中世の土坑（SK247）が、それぞれ住居を切っている。平面形状は北辺500cm、南辺520cm、東辺490cm、西辺480cmの方形を呈する。壁高は確認面から20cmを測る。覆土は



1層の褐色シルト土で床面はほぼ平坦である。東壁にそって北東隅に径32cm、深さ4cm（P1）と中央に径26cm、深さ24cm（P2）と南東隅に径32cm、深さ6cm（P3）のピットが、南壁の東寄りに径40cm、深さ7cm（P4）と径32cm、深さ8cm（P5）のピット、西壁寄りには北から径34cm、深さ5cm（P6）と径34cm、深さ6cm（P7）と径30cm、深さ3cm（P9）のピット、やや中央寄りで橢円形状の長径58cm、深さ6cm（P8）のピットが検出されいずれも柱穴と考えられる。南西部分に橢円形状の土坑（SK249）長径92cm、深さ2cmが検出され、付近からは円窓が3点出土している。美濃須衛窯、猪投窯、美濃窯の製品が出土。10世紀後半と考えられる。



第29図 SB23平面実測図

2. 土坑

主な土坑として、92Aa区の南側で堅穴住居S B 14を切ってつくられた土坑SK 251と92A区の土坑SK 64がある。また、93G区北端部から93H区端部にかけてのSK～SK。この他に堅穴住居の周辺には土坑が点在しているが、該当する時期の遺構は少ない。



出土富壽神寶

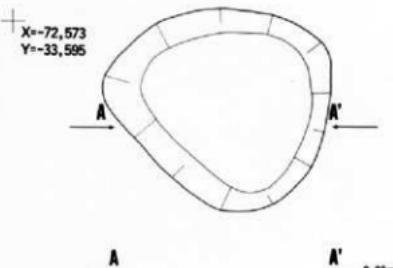
SK 251 (第30図、第61図、図版6、7、13)

92Aa区の南側に位置する。旧SK 03で堅穴住居S B 14を切ってつくられた土坑で長軸220cm、深さ22cmを測る。9世紀後半と考えられる。

猪投窓の灰釉陶器とともに残存状態が不良であるが「富壽神寶」が3枚出土した。「富壽神寶」は818年より834年にかけて鋳造された皇朝十二銭の一つである。

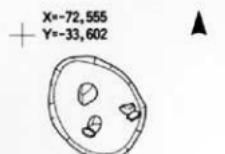
SK 333 (第31図、第61図、図版6、7、13)

92Ab区に位置する。旧SK 64で長径110cm、深さ4cmの楕円形状を呈する。円窓とともに灰釉陶器が出土した。尾北窓の製品が出土し9世紀後半と考えられる。



第30図 SK251平面実測図 1:50
1. 灰色シルト
2. にぶい青褐色シルト
3. 青褐色シルト
4. にぶい青褐色シルト
5. オリーブ緑色細粒砂

第30図 SK251平面実測図 1:50



第31図 SK333遺物出土状況図 1:50

序 図	造 務番号	調査区	旧遺構	グリッド	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	遺 物	時 期
12	SK251	92Aa	SK03	VIE15b	2.2	2.0	0.22	○	9C後半
20	SK333	92Ab	SK64	VIE12a	1.1	0.9	0.04	○	9C後半

第5表 土坑一覧表

3、溝

溝のなかで短頭壺の出土したSD196と東西方向の溝で遺物が多く出土した93Hb区のSD239・240がある。

SD196（第61図、図版13）

93Hb区の南端に位置する。旧SD03で、調査区の南壁にそって東西方向にL字を伏せたような溝で、鍵の手になった西南付近の幅は301cmと広く、東側の溝の幅は90cmを測る。

SD239（第64図～第66図、図版13、14）

93Ha区の南側、SD196の北側に位置する。旧SD06で、東西に走る溝で西側で鍵の手状に南下する。幅460cm、深さ18cmを測る。9世紀後半と考えられる。

SD240（第67図、第68図、図版14）

93Ha区の旧SD05で9世紀後半と考えられる。

溝図	遺構番号	調査区	旧遺構	グリッド	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	遺物	時期
12	SD196	93Hb	SD03	VIE19a20a	(3.1)	0.9	0.03	○	
16	SD239	93Hb	SD06	VIE11e22c	(18.7)	(9.2)	0.66	○	9C後
16	SD240	93Hb	SD05	VIE5tE2b	(15.5)	(8.5)	0.58	○	9C後
13	SD214	93G	SD02	VIE20sE20f	(30.5)	(3.8)	0.66	○	12C後～13C初
13	SD214	93G	SD05	VIE20de	(8.6)	(3.8)	0.57	○	12C後～13C初

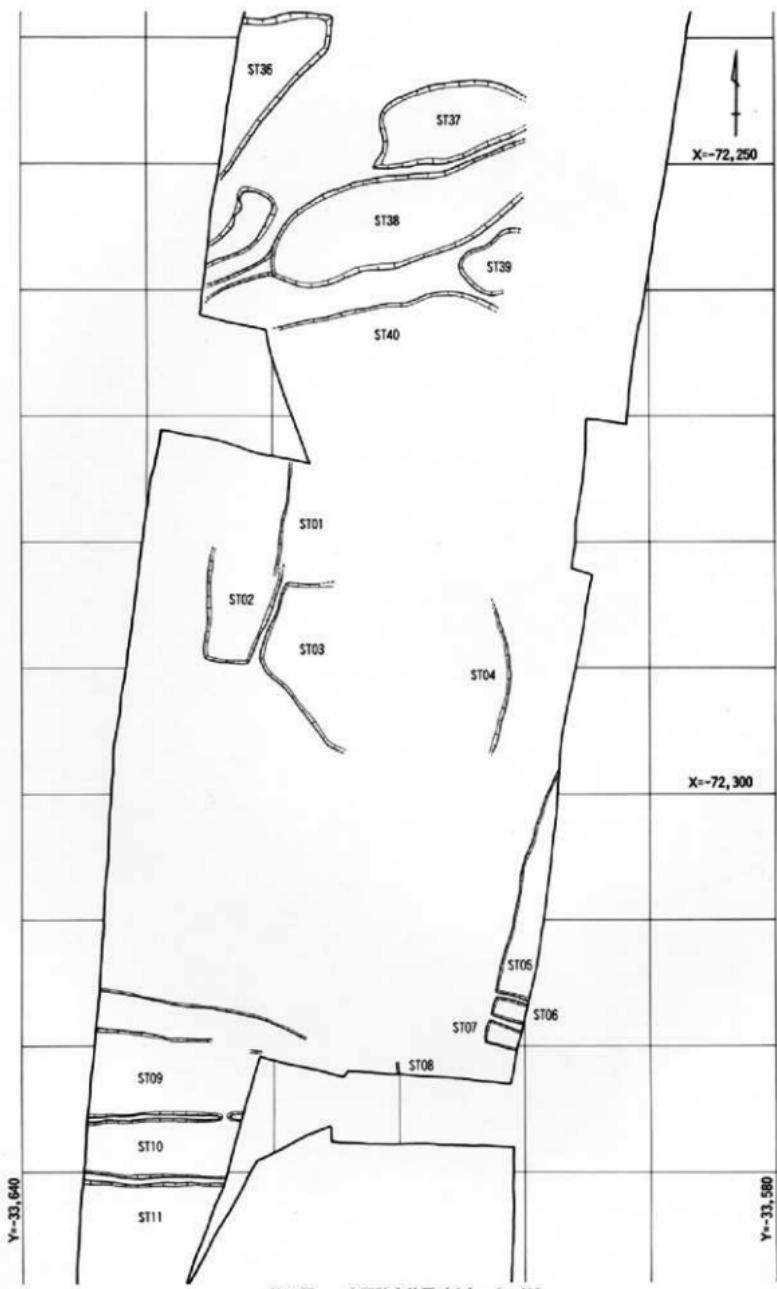
第6表 溝一覧表

第4節 水田跡

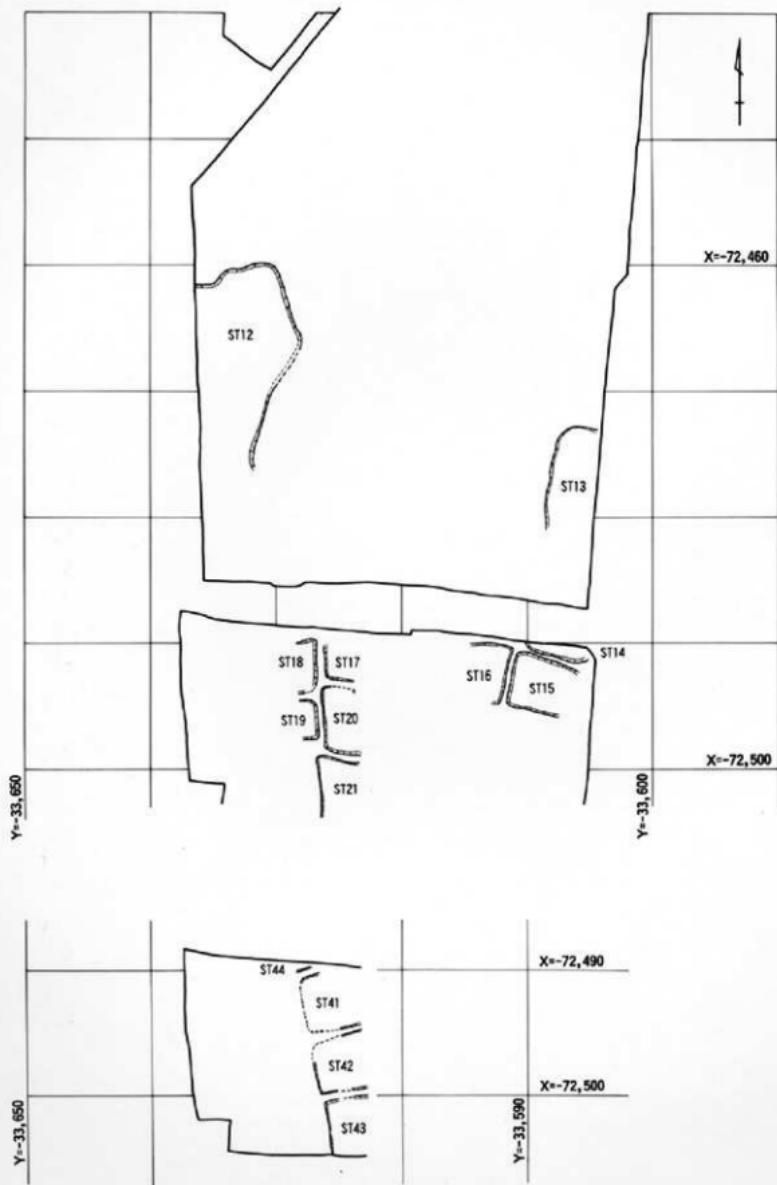
水田跡は93E区の南側以南より広がっており、古墳時代の水田から中世の水田を検出した。基本層序は耕作土・暗褐色シルト層（近世～中世・奈良時代）、灰褐色シルト層あるいは黒褐色土層（古墳時代）となる。調査区南側の95Aa区では耕作土・暗褐色シルト層・白色極細粒砂層・灰色シルト層（奈良時代遺物包含層）、灰褐色粘土層（古墳時代）と堆積している。

探査番号	調査区	日清標	グリッド	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	遺物	探査番号	調査区	日清標	グリッド	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	遺物
32 ST01	93Ea	ST01	D13g	(8.4)	(7.0)	0.06	○	34 ST52	92Ab	ST28	VE269a	(6.4)	(3.7)	0.07	○
32 ST02	92E	ST43	D15p15p	(8.2)	(5.2)	-	○	34 ST53	92Ab	ST27	VE269b	(3.8)	(2.4)	0.07	○
32 ST02	92E	ST75	D15p15p	(8.2)	(5.2)	-	○	34 ST54	92Ab	ST29	VD10xVE9a	(2.6)	(1.0)	0.07	○
32 ST03	92E	ST42	D15q18r	(13.9)	(9.7)	-	○	34 ST55	92Ab	ST31	VD10xVE10a	(4.2)	(3.8)	0.09	○
32 ST03	92E	ST76	D15q18r	(13.9)	(9.7)	-	○	34 ST56	92Ab	ST30	VE10a10b	(3.8)	(2.9)	0.06	○
32 ST04	93F	ST05	D16t18	(7.2)	(1.2)	0.21	○	34 ST57	92Ab	ST32	VD10xVE11b	(7.0)	(3.8)	0.07	○
32 ST05	93F	ST02	V D18a D11t	(17.0)	(2.4)	0.19	○	34 ST58	92Ab	ST33	MD14t VE11a	5.0	4.0	0.04	○
32 ST06	93F	ST03	D2a	(2.3)	(1.5)	0.15	○	34 ST59	92Ab	ST34	MD12xVE12a	6.0	2.5	0.07	○
32 ST07	93F	ST04	V D23t	(2.5)	(1.4)	0.24	○	34 ST60	92Ab	ST13	ME12b	(2.8)	(2.1)	0.10	○
32 ST08	93F	ST05	V D2a	-	(1.0)	0.05	○	34 ST61	92Ab	ST12	ME13t14t	(6.8)	(4.1)	0.09	○
32 ST09	92E	ST41	D2n4p	(12.6)	6.0	-	○	34 ST61	92Ab	ST12	VD12a	(2.9)	(0.8)	0.06	○
32 ST10	92E	ST40	D4n5p	(11.2)	4.4	-	○	34 ST62	92Ab	ST11	VE13ab	(7.2)	(5.9)	0.06	○
32 ST11	92E	ST39	D5n6p	(10.8)	(5.5)	-	○	34 ST62	92Ab	ST13	VE12b13b	(2.4)	(1.4)	0.01	○
32 ST12	93J	ST01	V D12a17n	(3.6)	(8.2)	0.03	○	34 ST63	92Ab	ST10	VE14t15a	(8.1)	(2.7)	0.15	○
33 ST13	93J	ST02	V D15s17t	(10.3)	(3.7)	0.15	○	34 ST64	92Ab	ST07	VE14b15b	(8.8)	(3.9)	0.06	○
33 ST14	92D	ST01	V D19a	(4.8)	(0.9)	0.18	○	34 ST65	92Ab	ST08	VE14a17b	(9.5)	(8.2)	0.07	○
33 ST15	92D	ST02	V D19rs	(4.9)	(4.4)	0.10	○	34 ST66	92Ab	ST06	VD17t	(3.0)	(1.2)	0.04	○
33 ST16	92D	ST03	V D19r	(4.8)	(3.5)	0.06	○	34 ST67	92Ab	ST04	ME16b	(4.7)	(1.5)	0.08	○
33 ST17	92D	ST15	V D19p	(4.0)	(2.3)	0.03	○	34 ST68	95Aa	ST12	VD19a	(0.6)	(0.6)	0.01	○
33 ST18	92D	ST14	V D19o	(4.2)	(2.0)	0.03	○	34 ST69	95Aa	ST13	VD19a20a	(1.5)	(0.5)	-	○
33 ST19	92D	ST16	V D20a	(3.0)	(1.4)	0.02	○	34 ST70	95Aa	ST14	VD20b	(1.0)	(0.7)	0.02	○
33 ST20	92D	ST17	V D20a30p	(5.1)	(2.8)	0.03	○	34 ST71	95Aa	ST11	VD19a20a	(3.8)	(1.2)	0.01	○
33 ST21	92D	ST18	V D20a30p1D1p	(5.0)	(3.3)	0.03	○	34 ST72	95Aa	ST15	VD20e	(3.2)	(1.5)	0.02	○
34 ST22	93I	ST02	V D3n4p	(9.7)	(4.2)	0.14	○	34 ST73	95Aa	ST10	VD20e19p	(5.4)	(1.6)	0.03	○
34 ST23	93I	ST01	V D5q8r	(18.0)	-	0.19	○	34 ST74	95Aa	ST09	VD19p	(2.5)	(1.3)	0.03	○
35 ST24	93Hb	ST01	V D1t18c	(15.8)	(12.5)	0.26	○	34 ST75	95Aa	ST18	VD20e19l10	(3.3)	(1.9)	0.07	○
35 ST25	93Hb	ST02	V D6t18c	(17.8)	(10.7)	0.17	○	34 ST76	95Aa	ST17	VD20e19p	(5.2)	(2.0)	0.01	○
35 ST26	93Hb	ST03	V E6b5c	(4.3)	(2.1)	0.07	○	34 ST77	95Aa	ST16	VD19q20q	(1.7)	(1.6)	0.01	○
35 ST27	93Hb	ST04	V E6b5c	(1.9)	(0.9)	0.03	○	34 ST78	95Aa	ST20	VD10	(3.0)	(2.0)	0.09	○
35 ST28	93Ha	ST04	V D6t18b	(8.6)	(1.5)	0.16	○	34 ST79	95Aa	ST19	VD20a19l10	(5.3)	(2.7)	0.07	○
35 ST29	93Ha	ST03	V D6t18b2	(9.0)	(6.5)	0.18	○	34 ST80	95Aa	ST01	VD19rs	(2.7)	(2.1)	0.11	○
35 ST30	93Ha	ST01	V E6b7c	(6.2)	(5.7)	0.08	○	34 ST81	95Aa	ST03	VD20rs	(2.6)	(2.6)	0.04	○
35 ST31	93Ha	ST02	V D7s10s	(14.3)	(1.9)	0.12	○	34 ST82	95Aa	ST02	VD20s	(2.5)	(1.9)	0.13	○
35 ST32	93Ha	ST08	V E5d8r	(15.0)	(8.2)	0.10	○	34 ST83	95Aa	ST04	V D20r1D1s	(4.0)	(2.5)	0.04	○
36 ST33	93Ha	ST07	V E9b11c	(11.5)	(7.8)	0.05	○	34 ST84	95Aa	ST05	VD20s3s	(2.5)	(2.1)	0.01	○
36 ST34	93Ha	ST06	V E9a11c	(10.1)	(8.3)	0.30	○	34 ST85	95Aa	ST06	VD19rs	(2.6)	(1.5)	0.01	○
35 ST35	93G	ST01	V E17t18e	(8.1)	(1.0)	0.14	○	34 ST86	95Aa	ST07	VD19rs	(1.6)	(0.5)	0.02	○
35 ST36	93Eb	D1Dp8p	(10.4)	(7.0)	0.23	○	34 ST87	95Aa	ST08	VD10s	(1.4)	(0.3)	0.01	○	
32 ST37	93Eb	D8s8t	(12.6)	(6.8)	0.06	○	34 ST88	95Aa	ST27	VD10s	(0.7)	(0.2)	0.02	○	
32 ST38	93Eb	D9g8t	(21.6)	(7.2)	0.09	○	34 ST89	95Aa	ST26	VD10s	(1.2)	(0.2)	0.04	○	
32 ST39	93Eb	D10t	(5.0)	(4.8)	0.04	○	34 ST90	95Aa	ST21	VD10s	(2.2)	(0.4)	0.02	○	
32 ST40	93Eb	D11q1lt	(17.0)	(5.6)	0.07	○	34 ST91	95Aa	ST22	VD10s4q	(2.2)	(1.6)	0.01	○	
33 ST41	92D	ST36	V D19s20a	(4.3)	4.7	0.08	○	34 ST92	95Aa	ST23	VD10q	(1.2)	(0.4)	0.03	○
33 ST42	92D	ST19	V D20s	(4.2)	4.5	0.07	○	34 ST93	95Aa	ST24	VD10q	(2.0)	(1.4)	0.02	○
33 ST43	92D	ST35	V D10p	(4.2)	3.3	0.11	○	34 ST94	95Aa	ST25	VD10q	(2.3)	(1.5)	0.12	○
33 ST44	92D	ST37	V D19e	(2.1)	0.9	0.19	○	34 ST95	93Ha	ST05	VE8d10d	(8.0)	(7.0)	0.11	○
34 ST45	92Ab	ST20	V E4a	(3.1)	(1.1)	0.02	○	34 ST96	95Aa	ST32	VD13s	(2.0)	(1.8)	0.01	○
34 ST46	92Ab	ST21	V E4a6a	(8.6)	(4.2)	0.02	○	34 ST97	95Aa	ST31	VD13s	(2.5)	(2.0)	0.01	○
34 ST47	92Ab	ST22	V E6a7a	(8.1)	(3.5)	0.02	○	34 ST98	95Aa	ST33	VD14st	(3.0)	(2.0)	0.01	○
34 ST48	92Ab	ST23	V E6a7s	(5.0)	(1.5)	0.01	○	34 ST99	95Aa	ST34	VD13t14t	(3.0)	(1.5)	0.03	○
34 ST49	92Ab	ST24	V E7a7b	(2.6)	(1.7)	0.05	○	34 ST100	95Aa	ST36	VD14t	(3.0)	(1.5)	0.01	○
34 ST50	92Ab	ST25	V E7a8a	(4.4)	(2.3)	0.11	○	34 ST101	95Aa	ST35	VD14t	(3.0)	(1.5)	0.01	○
34 ST51	92Ab	V E8a8b	4.0	2.6	0.11	○									

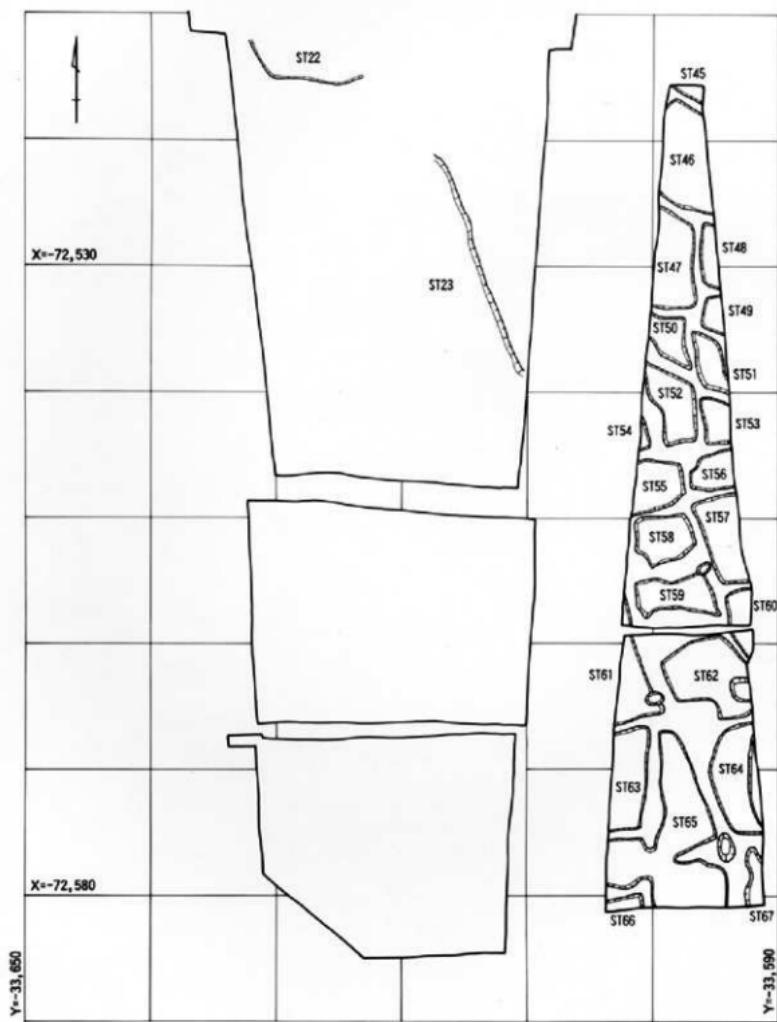
第7表 水田一覽表



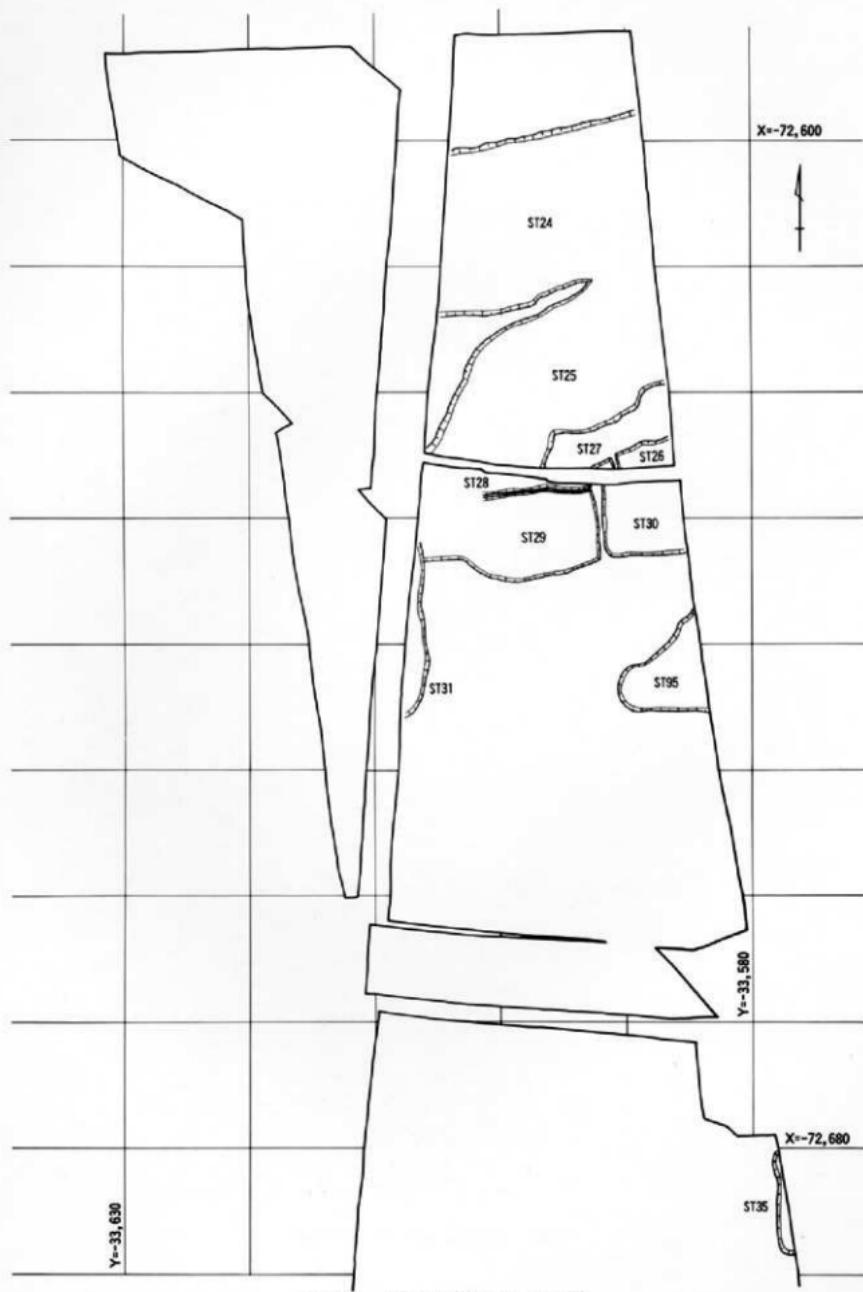
第32図 水田跡全体図(1) 1:400



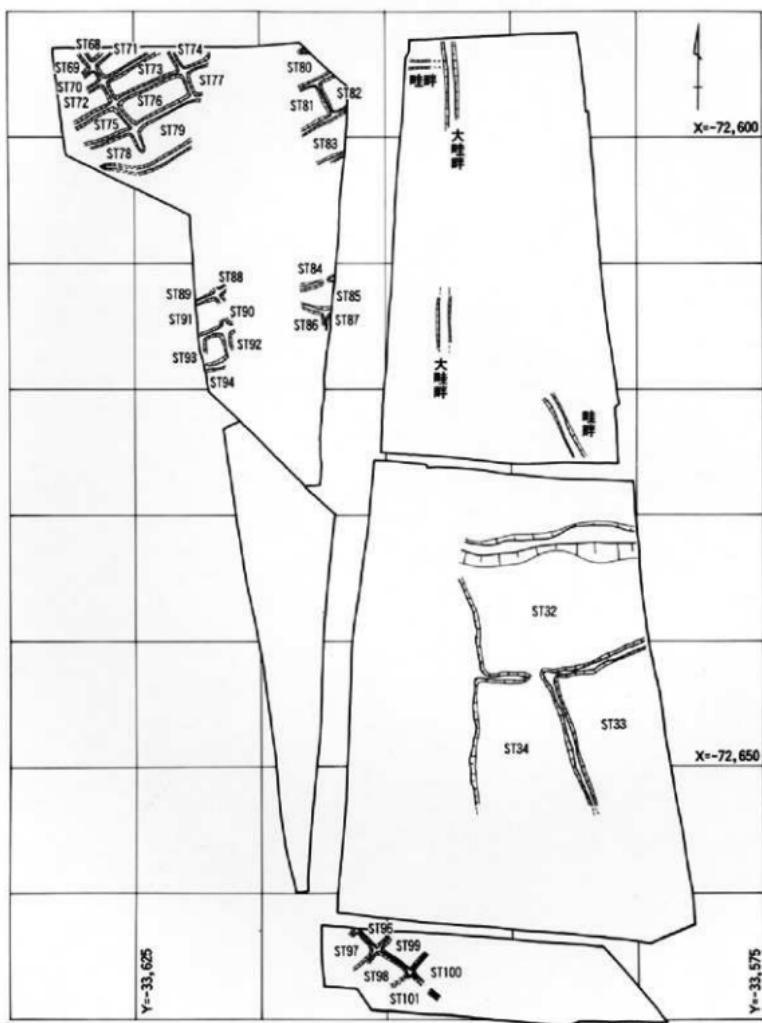
第33図 水田跡全体図(2) 1:400



第34図 水田跡全体図(3) 1:400



第35図 水田跡全体図 (4) 1:400



第36図 水田脉全体図(5) 1:400

古墳時代の水田（92A・D区、93G・H区、95A区）

古墳時代の水田は92A区、92D区、93G区、93H区、95A区で灰褐色シルト層あるいは黒褐色土層で検出した。畦畔によって区画され矩形が基本であるが不定形なものもある。奈良時代・中世の水田は現水田面下に水田の耕作土が連続して堆積しており93E区以南に広がっているが、調査区によっては現水田等によって掘削され畦畔が検出されなかった。

92A区では、水田は畦畔によって区画され、やや南北方向に細長く延びる長方形状及び不定形の平面形態を呈し、一区画が東西3~4m、南北5~7mを測る。耕作土等から出土した遺物（第62図184~187）によって、古墳時代後期を中心とした水田と考えられる。また、畦畔上に掘削された土坑（S K114）より石製有孔円板（第101図31）が出土している。

93G・H区では、H区北端からG区中央部にかけ水田を検出したが削平により遺構の遺存状態が悪く、北に向かう南北に一直線に延びる大畦畔の一部とH区の中央部でこれに直交して東に向かう大畦畔が検出された。大畦畔は幅約180cm、耕作土面からの高さ約30cmで明黄色シルトを盛ったものである。93G区の南部ではこれに続く大畦畔は確認できなかった。

93H区では大畦畔内を区画する小畦畔、幅40cm前後、高さ20cmを検出した。大畦畔と同様に明黄色褐色シルトを盛っている。大畦畔に対して角度が若干振れるが大畦畔による区画を矩形に分割している。

92A区で検出された小畦畔は南側と北側で軸線がずれており、93H区で検出された大畦畔の南北の軸線が92A区の軸線と交わったところが変換点となり、この付近より小畦畔が北西に傾くような形状に変わるものである。

95Aa区では一辺が2~5mを測る小区画の水田を検出した。

中世の水田

93E区SD20以南より、墳墓堂遺構関係の遺構群の南側より全調査区に広がっていたものと思われる。但し、中世の水田の畦畔は古墳時代水田ほど明確には確認できなかった。この時期の水田が部分的にしか確認できないのは現水田直下にあり、すでに削平され滅失していたためである。

地図	遺構番号	調査区	旧遺構	グリッド	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)
10	SD01	93J	SD25	VD12r14q	(11.6)	2.8	0.37
10	SD01	93J	SD26	VD11q17p	(32.0)	8.0	1.00
11	SD01	92D	SD03	VD19pVD1q	(14.6)	7.3	0.15
11	SD01	94Aa	SD01	VD2q3q	(6.5)	(5.5)	1.51
11	SD01	93I	SD03	VD3p10q	(35.2)	6.9	1.38
11	SD01	92C	SD03	VD10p17r	(35.6)	8.2	1.37
12	SD01	95Aa	SD01	VD19qVD12r	(61.7)	(8.2)	1.73
13	SD01	95Ab	SD01	VD13r14s	(5.5)	(1.8)	-
13	SD01	93G	SD01	VD14sVD1r	(32.1)	(6.6)	0.40
13	SD01	92H	SD39	VD1r5s	(22.5)	(6.5)	-
13	SD02	92H	SD43	VD7rVD8g	(33.6)	(17.1)	2.11

第8表 大溝一覧表

第5節 中世の遺構

1. 溝

遺物が多く出土した東西方向の溝がある。

SD 214 (第69図-第72図346-459、図版14、図版15、図版18)

93G区の南側、旧SD 02、SD 05で東西方向に走る溝で東側で幅305cmを測り中程でSE 10に切られており、西側では幅86cmと狭くなっている。深さ66cmから57cm。12世紀後半から13世紀初めと考えられる。

2. 大溝

調査区中央部以南より南北に走り南側で東に屈曲したL字型の溝で、南北に走る溝(SD01)と東西に走る溝(SD02)を称して大溝という。

SD 01 (第37図、第38図、第73図-第82図460-703、図版4、図版15、図版16)

調査区のはば中央、93J区より以南の調査区すべてにわたり南北に走る大溝を検出した。幅8m-10m、深さ1.5m-1.6mを測る。溝の埋土は明黄白色粗砂で強い流水による堆積がみとめられた。

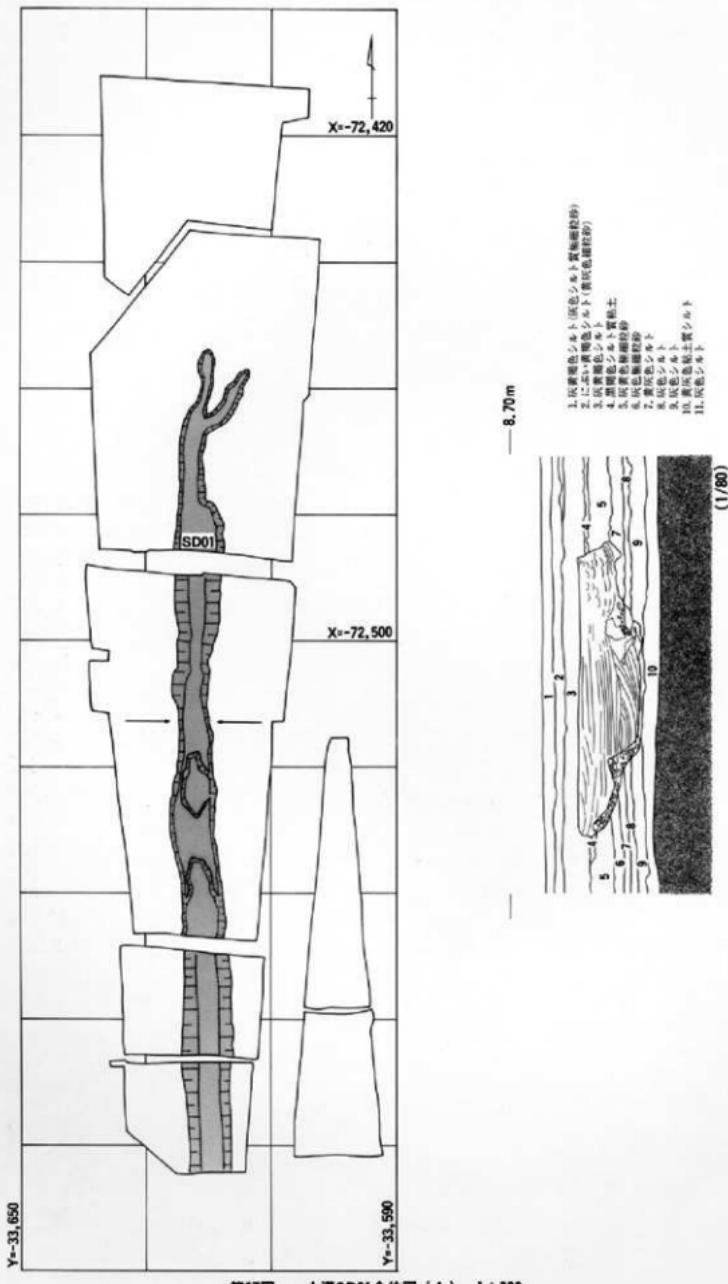
95Aa区で若干東に振れ、堆積した粗粒砂から大溝は激しい水流により埋没したとみられ、粗粒砂層の下層から出土した15世紀末から16世紀代の遺物により大溝の埋没時期を知ることができる。

詳しくは第3章第8節、大溝の堆積を参照されたい。

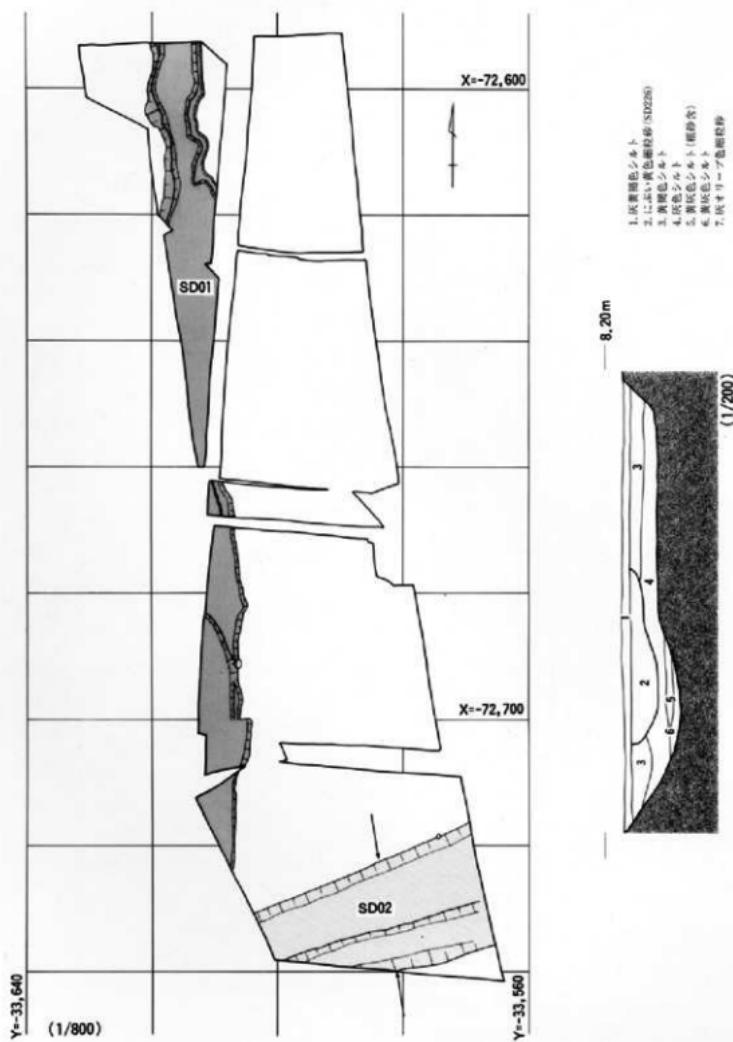
調査当初において中世の田所集落を取り囲み400m四方の溝になる可能性が考えられたが、93J区の調査によって大溝が北に延びずに終っていることが判明した。9世紀後半から10世紀代、12世紀後半の時に遺物が多い。この前後の時期の遺物も出土している。10世紀前半に掘削され12世紀後半頃がその中心と考えられる。



SD 01 土層断面



第37図 大溝SD01全体図(1) 1:800



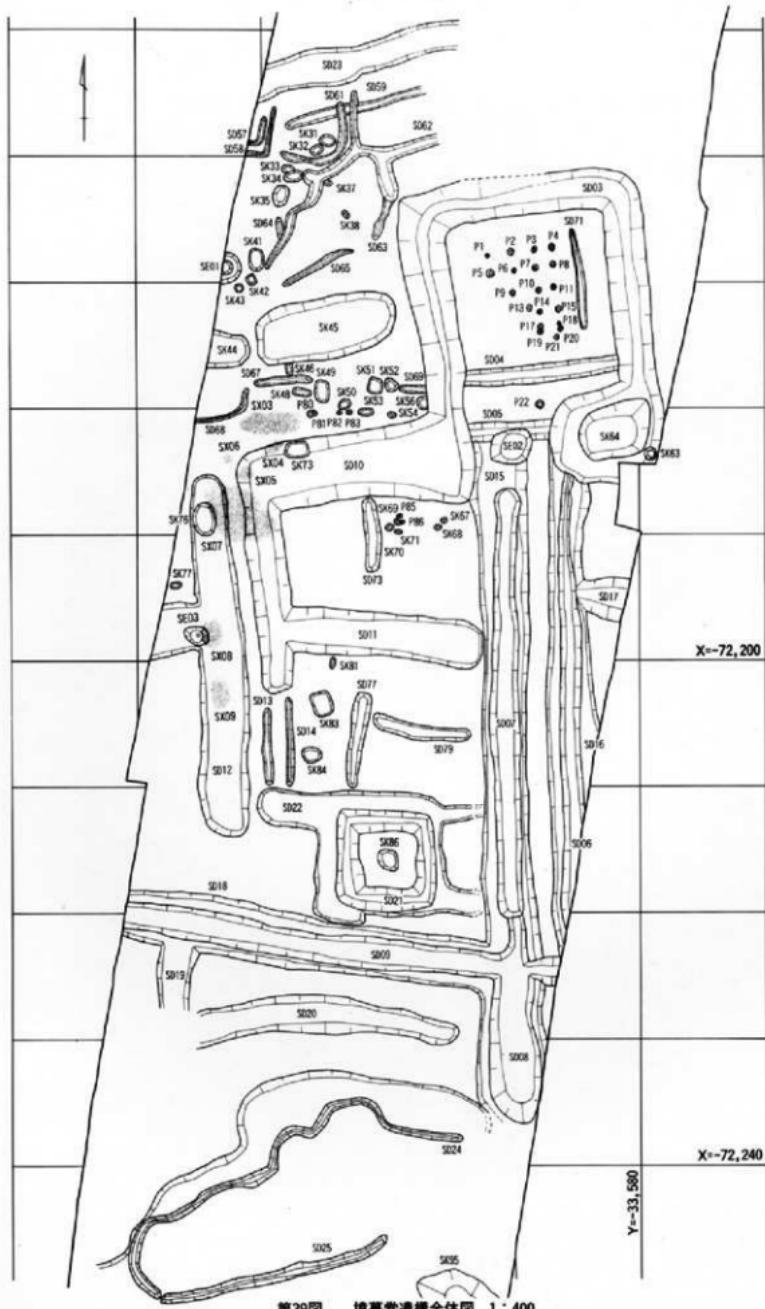
第38図 大溝SD01全体図(2) .1:800

3. 墳墓堂造構前の溝（第39図、第40図、第83図704-721、図版1-3、図版9）

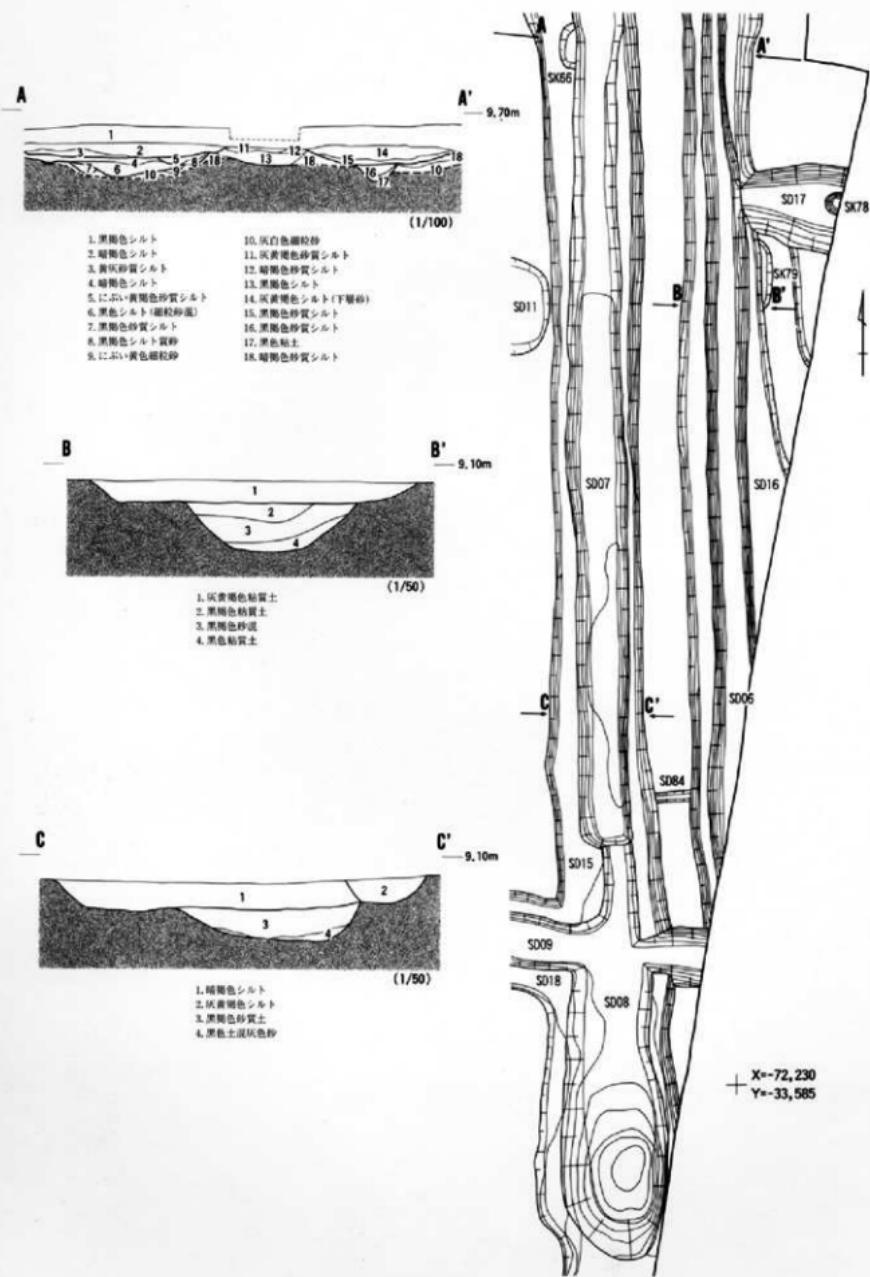
調査区北側に位置し、墳墓堂遺構に通じる南北溝で墓道の脇を走る溝SD06・07・08と墳墓堂遺構を含む墓域の南限溝等がある。SD20以外の溝は拔幅されている。

S D 0 6 南北溝。墓道東側の溝で、IH92Ga区 S D 5 9、93K区 S D 0 6で現存長さ29m、幅1.6m、深さ49cmを測る。

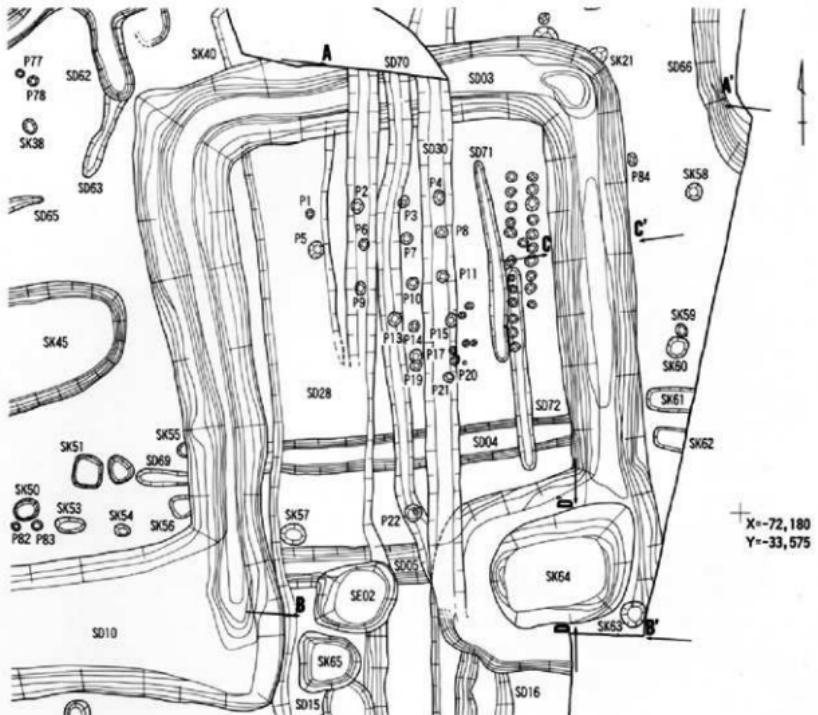
第9表 增薦當選標題何任一覽表



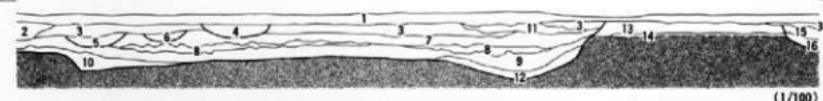
第39図 塗基堂造構全体図 1:400



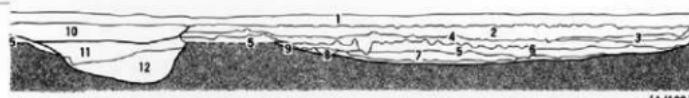
第40図 墓道遺構実測図 1:200



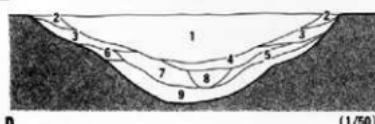
A 9.50cm



B 9.50cm



C' 9.00cm



- A-A'
1. 黒褐色シート
 2. 黄褐色シート
 3. 黄褐色シート
 4. 黑褐色シート
 5. 黑褐色シート
 6. 黑褐色シート
 7. 黑褐色シート
 8. 黑褐色シート
 9. 黑褐色シート
 10. 黑褐色シート
 11. 黑褐色シート
 12. 黑褐色シート
 13. 黑褐色シート
 14. 黑褐色シート
 15. 黑褐色シート
 16. 黑褐色シート

- C-C'
1. 黑褐色シート
 2. 黑褐色シート
 3. 黑褐色シート
 4. 黑褐色シート
 5. 黑褐色シート
 6. 黑褐色シート
 7. 黑褐色シート
 8. 黑褐色シート
 9. 黑褐色シート
 10. 黑褐色シート
 11. 黑褐色シート
 12. 黑褐色シート
 13. 黑褐色シート
 14. 黑褐色シート
 15. 黑褐色シート
 16. 黑褐色シート

- B-B'
1. 黑褐色シート
 2. 黑褐色シート
 3. 黑褐色シート
 4. 黑褐色シート
 5. 黑褐色シート
 6. 黑褐色シート
 7. 黑褐色シート
 8. 黑褐色シート
 9. 黑褐色シート
 10. 黑褐色シート
 11. 黑褐色シート
 12. 黑褐色シート
 13. 黑褐色シート
 14. 黑褐色シート
 15. 黑褐色シート
 16. 黑褐色シート

- D-D'
1. 黑褐色シート
 2. 黑褐色シート
 3. 黑褐色シート
 4. 黑褐色シート
 5. 黑褐色シート
 6. 黑褐色シート
 7. 黑褐色シート
 8. 黑褐色シート
 9. 黑褐色シート
 10. 黑褐色シート
 11. 黑褐色シート
 12. 黑褐色シート
 13. 黑褐色シート
 14. 黑褐色シート
 15. 黑褐色シート
 16. 黑褐色シート

第41図 填墓堂構造実測図 1:200

- SD07・08** 南北溝。墓道西側の溝で、旧92Ga区 S D 5 8、93K区 S D 0 8で現存長さ32m、幅1.9m、深さ37cmを測る。S D 1 5がこの溝を掘削している。
- SD09** 東西溝。墓域の南限溝である。堂の建物より南約40mで検出。旧93Eb区 S D 2 1、93K区 S D 1 5で現存長さ34m、幅2m30cmから50cm、最も深い所で52cmを測る。S D 1 8がこの溝を掘削している。12世紀後半から13世紀後半の灰釉系陶器が出土。
- SD15** 南北溝。旧92Ga区 S D 2 9・S D 5 7、93K区 S D 0 2で墳墓堂南側のS E 0 2以南でS D 0 8と同じ墓道西側の溝。13世紀前半から15世紀初めの灰釉系陶器が出土。
- SD16** 南北溝。旧92Ga区 S D 2 5、93K区 S D 0 1で墳墓堂南側でS D 0 6と同じ墓道東側の溝。13世紀後半の灰釉系陶器が出土。
- SD18** 旧93Eb区 S D 1 9、墓域の南限の東西溝でS D 0 9の上に掘られている。現存長さ34m、最大幅幅4m50cm、深さ25cmを測る。12世紀後半から13世紀前半の灰釉系陶器が出土。
- SD20** 東西溝。旧93Eb区 S D 2 0、93K区 S D 16、墓域の南限の溝で東で終る。13世紀後半の灰釉系陶器が出土。

4. 墳墓堂遺構の周溝（第39図、第41図、第84図722～753、図版1～3、図版9）

調査区北側に位置する区画された墳墓堂遺構の周溝で幅3mから6m、深さ80cmを測り、南側で溝は切れている。

- SD03** 旧95B区 S D 0 1と92Gb区 S D 2 7は北側溝、92Gb区 S D 2 6は東側溝、92Gb区 S D 2 8は南側溝、旧92F区 S D 5 4、93K区 S D 0 3・17は西側溝である。最大長は北側で19m、東側で23m、西側で22m、南側で9mを測る。

5. 墳墓堂遺構内の建物（第39図、第41図、図版1～3、図版9）

調査区の北側、旧92Gb区でS D 0 3によって構成された区画である。平坦部の幅が東西約13m、南北15mを測り、溝によって囲まれた内部から柱柱掘立柱建物が1棟検出された。柱穴は21ヶ所検出し、長径30cm～60cm、深さ11cm～44cmで礎板と柱根の遺存したものもあった。建物は東西3間（約5m）、南北4間（約6.5m）である。

6. 方形区画溝（第39図、第41図754～757、図版1～3、図版9、図版16）

堂の南西部に位置し、方形に区画した幅約5mの溝が規則的に東西・南北方向に配置されており、約20m前後の方形区画群を形成している。

- SD10** 旧92F区 S D 3 7の西溝、旧92F区 S D 6 2と93K区 S D 0 4の北溝でS D 1 1の南溝とで方形区画となる。最大長は北溝で19m30cm、幅6m50cm、深さ47cm、西溝で19m、幅30cm、深さ48cmを測る。13世紀代の灰釉系陶器が出土。北西コーナー部分で集石（S X06）が、S K 7 3の北西に接した位置に集石（S X05）が検出された。

S D 1 1 旧92F区 S D 3 4、93K区 S D 0 5 の南溝で S D 1 0 とで方形区画となる。最大長は 18m、幅は 3 m 80cm、深さは 28cm を測る。

S D 1 2 旧92F区 S D 6 1・3 6、93Eb区 S D 1 8 の南北方向の溝とまん中より西方向の92F区 S D 2 3 の溝があり T 字を横にしたような形状となる。南北溝の最大長は 29m、幅は 4 m、深さは 26cm を測る。13世紀後半の灰釉系陶器が出土。

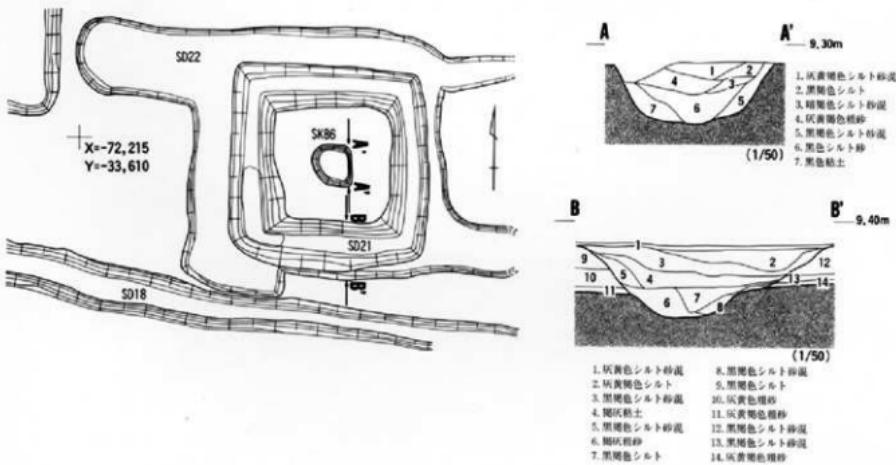
7. 方形台状遺構（第39図、第42図、図版1～3、図版9）

墓域の南限に位置する溝のある方形台状の遺構で台状部は約 4 m 四方の広さである。

S D 2 2 旧93Eb区 S D 2 2 で西側の南北溝、最大長 10m、幅 2 m、深さ 18cm、旧93Eb区 S D 2 6 で北側の東西溝、最大長 17m、幅 3 m～1 m、深さ 26cm、東側の南北溝は最大長 8 m 90cm、幅 1 m、南側の東西溝は最大長さ 12 m 80cm、幅 95cm～2 m を測り、南西部分の溝幅が 2 m と広くなっている。14世紀後半から15世紀前半の灰釉系陶器が出土。

S D 2 1 S D 2 2 の内側の旧93Eb区 S D 2 4 と 93K区 S D 1 4 の周溝で、西側溝、北側溝、東側溝はともに 7 m 40cm、南溝が 7 m 80cm とやや長い溝となる。周溝の断面は V 字状を呈し、幅 1 m 50cm～2 m 30cm、深さ 63cm～85cm と深い周溝である。

S K 8 6 台状部中央に位置する長軸 1 m 70cm、短軸 1 m 30cm の土坑で、その中から土師質皿が 1 点出土。中世の塚墓かと考えられる。

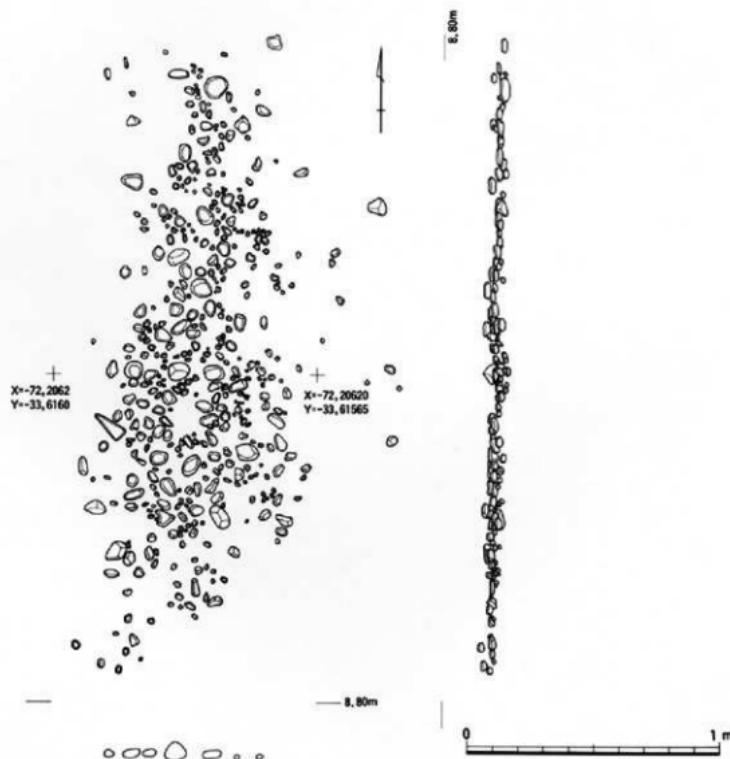


第42図 方形台状遺構実測図 1:200

8. 集石遺構（第43図～第45図）

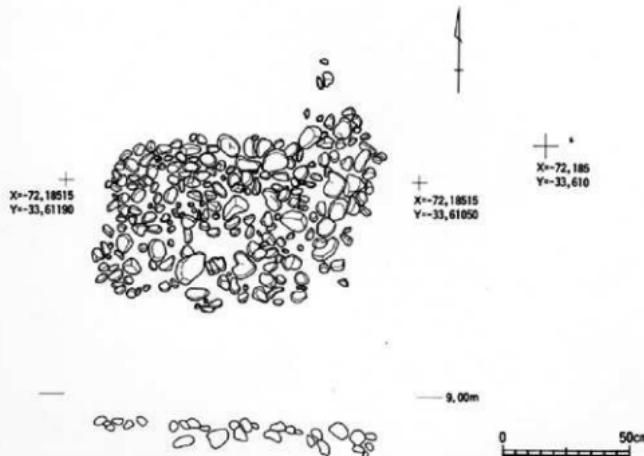
いずれも墳墓堂遺構の南西に位置する。SD12の北半とSD10の北西コーナー部分で7ヶ所(SX04～SX10)検出した。比較的良好な形で残っていたのはSX05・08・09である。

完全な区画は復元できないが、それぞれの集石は円環によって長方形や正方形に区画されているよう見える。外側の区画には径8cm～10cmの円環を用い、内側の区画はそれより小さい円環を用いている。区画は一辺40cm、小さい区画では20cmを測る。集石の下より墓壙は検出されず、出土遺物もなかった。



第43図 集石遺構実測図(1)：SX09

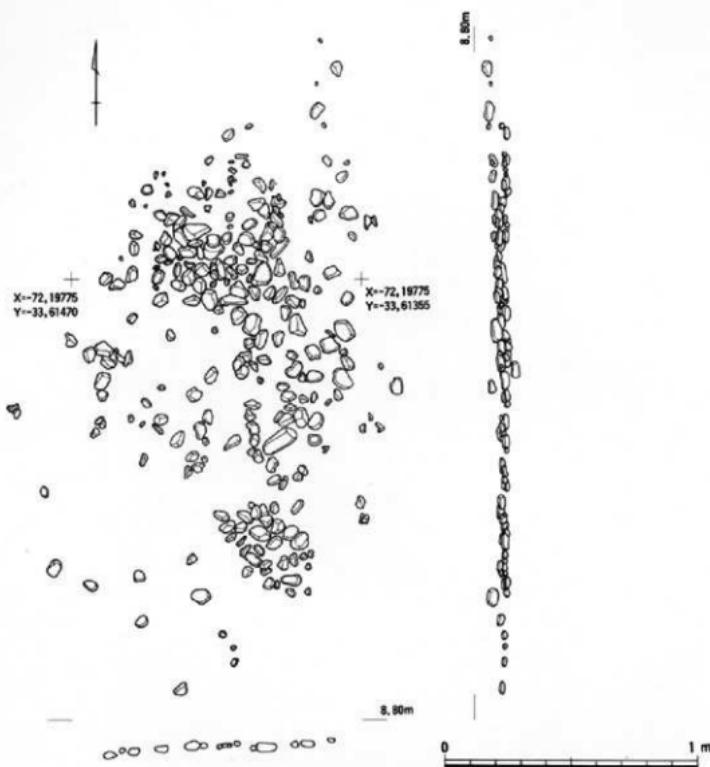
- S X 0 9** S D 1 2 の中程よりやや下がった所に位置し、旧92F区S X 1 0である。南北に細長く長軸2m50cm、短軸1m30cmの広がりである。区画したと思われる径8石が中央部に4個一列に並んでいる。
- S X 0 8** S D 1 2 の中程でS X 0 9の北側に位置し、旧92F区S X 0 9である。長軸1m60cm、短軸1m60cmの広がりである。径10cm前後の石が密集した北部分では長軸40cm、短軸25cmの長方形区画を呈する。径8cm前後の石が密集した南東部分は一辺20cm前後の方形区画を呈する。
- S X 0 5** S K 7 3 の北側に位置し、旧92F区S X 0 5である。集石道構のなかで一番密集した状態の道構で、S D 1 0 に規制されたのか東西に広がっている。長軸1m10cm、短軸80cmの長方形を呈する。径10cm前後の石が北東隅に集まっており長軸40cm、短軸30cmの長方形を呈した区画となっている。



第44図 集石道構実測図(2): S X 0 5

井図	道構番号	調査区	旧道構	グリッド	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	遺物
7	SX02	95B	SX02	II E12c	(1.5)	(0.6)	-	○
7	SX03	92F	SX04	II D17r17s	(5.0)	(1.5)	-	
7	SX04	92F	SX06	II D17s	(1.5)	(0.6)	-	
7	SX05	92F	SX05	II D18r	1.1	0.8	-	
7	SX06	92F	SX07	II D17r	(1.0)	(0.5)	-	
7	SX07	92F	SX08	II D18rs	(5.5)	(4.0)	-	
8	SX08	92F	SX09	II D20r	1.6	1.6	-	
8	SX09	92F	SX10	III D1r	2.5	1.3	-	

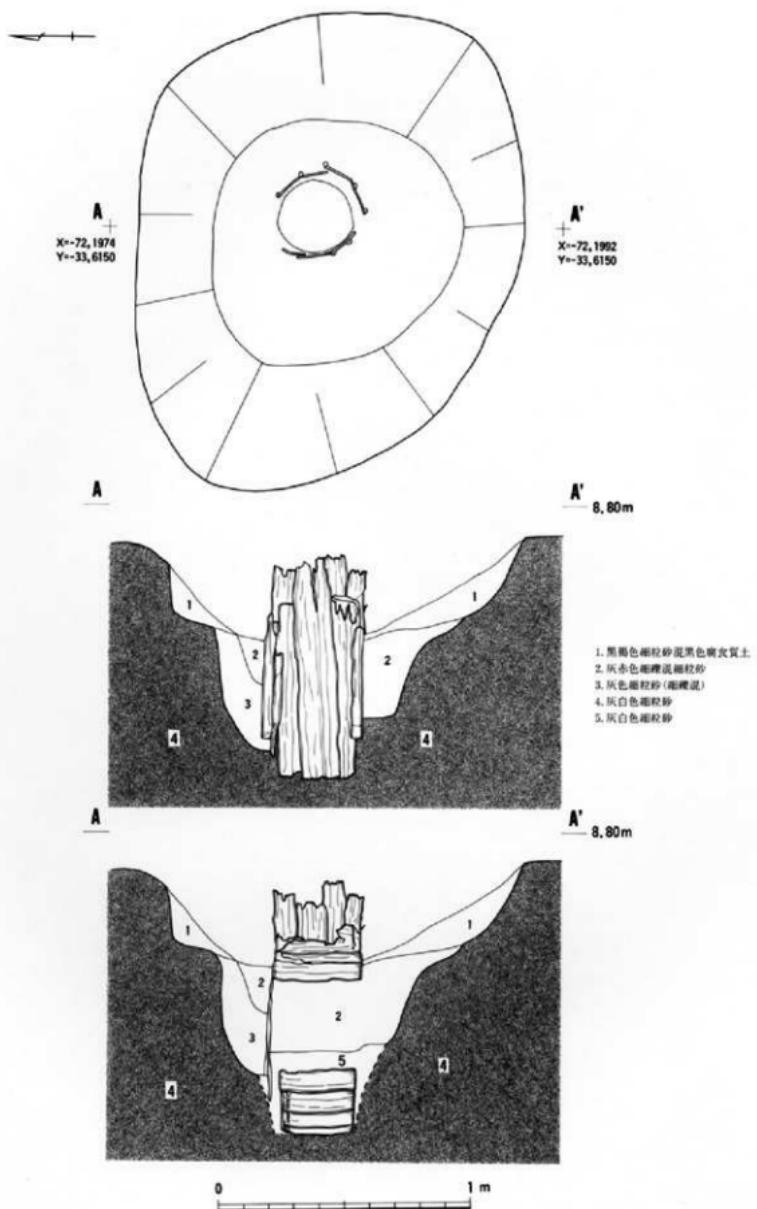
第10表 集石一覧表



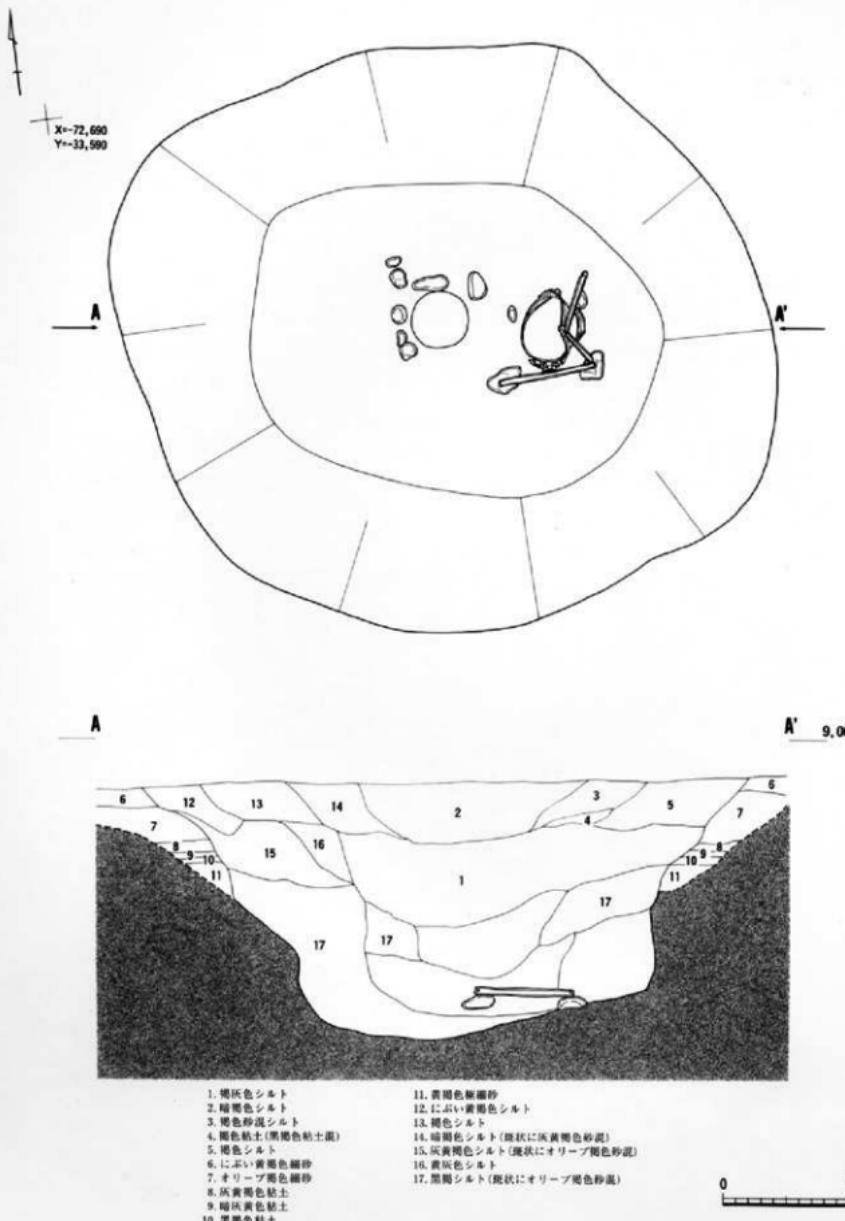
第45図 集石遺構実測図(3): S X 0 8

擇区	遺構番号	調査区	旧遺構	グリッド	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	遺物	時期
7	SE01	92F	SK79	II D14r	(2.6)	(1.4)	0.51		
7	SE02	92Gb	SK77	II E17bc	(3.8)	(2.0)	0.73	○	
7	SE02	93K	SE01	III E17bc	(2.9)	(0.7)	0.54	○	13C前
8	SE03	92F	SK94	II D20q20r	1.9	1.6	0.90		
8	SE04	93K	SE02	III E6b	2.0	1.7	0.55		
11	SE05	94Aa	SE01	VI D2p	1.4	1.4	0.85	○	10C前・14C
11	SE06	93I	SE01	VI D4q	2.4	2.3		○	
12	SE07	95Aa	SD06	VII D1o2s	(14.0)	(7.0)		○	9C前
13	SE08	93G	SE04	VII E15b	3.4	3.2	0.89	○	12C末-13C初
13	SE09	93G	SE01	VII E19c	5.5	4.7	1.01	○	13C後半
13	SE10	93G	SE02	VII E20cd	4.2	3.6	1.27	○	13C後半
13	SE11	93G	SE03	VII E1d	2.8	2.6	0.68	○	14C前半

第11表 井戸一覧表



第46図 井戸実測図（1）：S E 0 3



第47図 井戸実測図(2) : S E 0 9

9. 井戸（第47図～第53図、第86図～第88図758～843、図版10、図版16、図版18）

S E 0 3 (第46図)

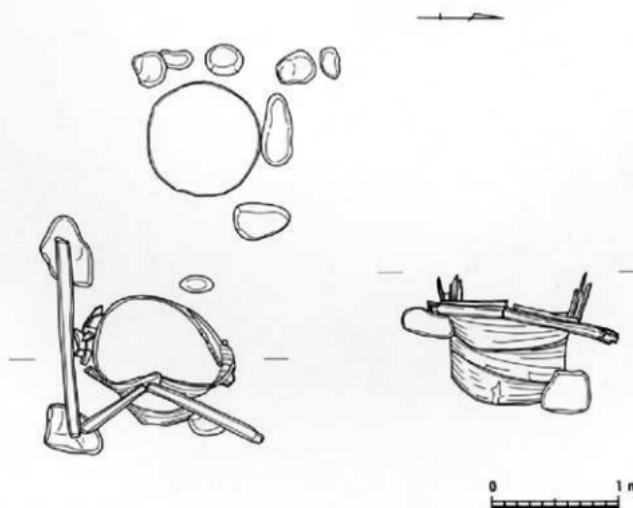
墳墓堂造構の南西に位置する S D 1 2 の中ほどの西に延びる溝で S X 0 8 の下面付近に位置し旧92F区 S K 9 4 である。縦板組横桟どめ、井筒に曲物を持つ井戸。長径 1 m 90cm、短径 1 m 60cm の楕円形の掘方を持つ。検出面よりの深さ 90cm で曲物基底部で 7 m 20cm の標高を測る。井筒の曲物の径は 30cm で上段と下段の曲物が残っていた。遺物は出土しなかった。

S E 0 9 (第47図、第48図、第86図758～783、図版10、図版16)

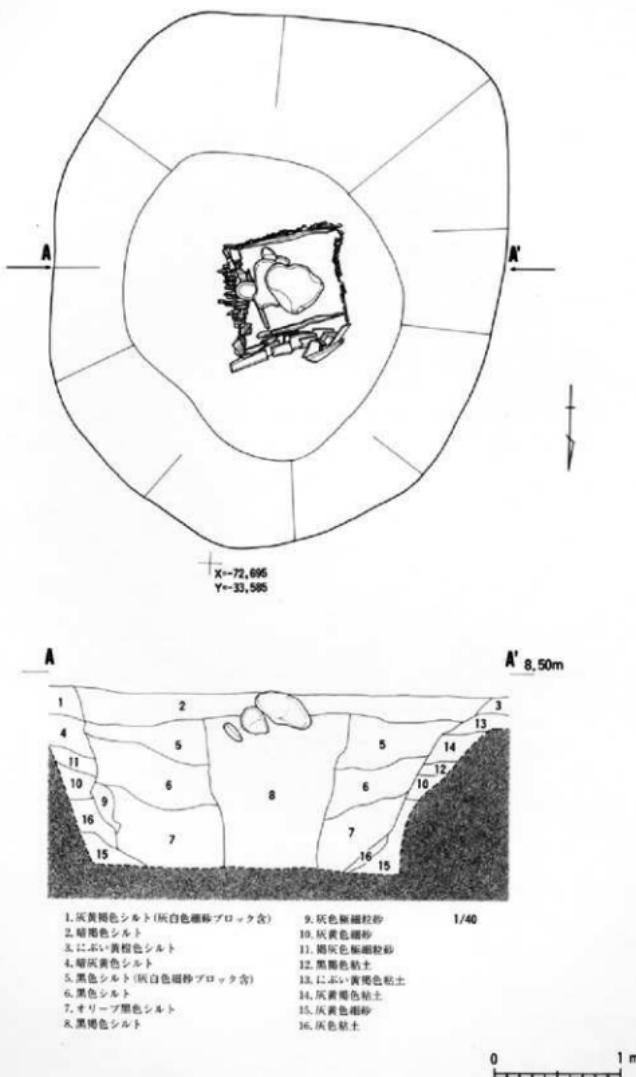
調査区の南端に位置し旧93G区 S E 0 1 である。縦板は抜き取られたのか横桟どめの一部と井筒の曲物を 2ヶ所で検出した。長径 5 m 50cm、短径 4 m 70cm の楕円形の大きな掘方を持つ。西側の曲物の径 45cm、東側の曲物径 50cm でそれぞれ 1段のみ。井戸基底部の標高 7 m 46cm。灰釉系陶器等が出土。13世紀後半。

S E 1 0 (第49図、第50図、第87図784～819、図版10)

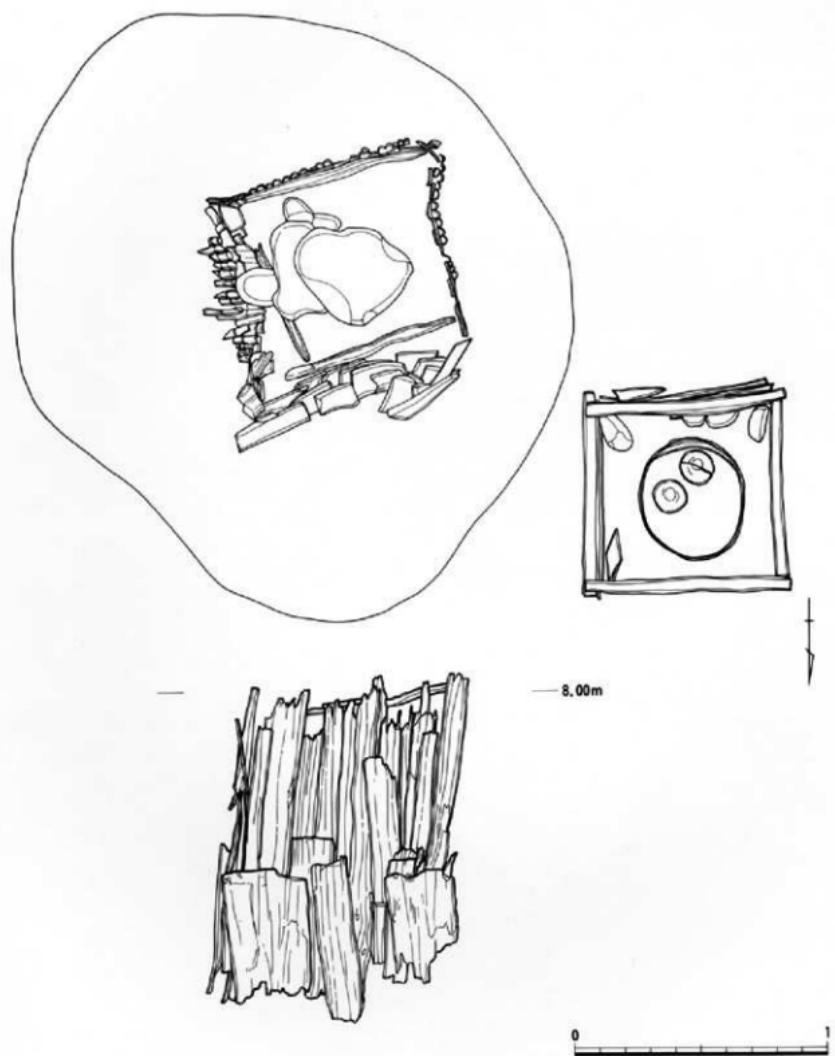
調査区の南端 S E 0 9 の南側で、旧93G区 S E 0 2 である。縦板組横桟どめ、井筒に曲物を持つ井戸。長径 4 m 20cm、短径 3 m 60cm の楕円形の掘方を持つ。縦板は 2段となる。井戸の上面では長径 47cm の石と長径 24cm の石が重なって出土し、曲物の底より灰釉系陶器の椀 (791・792) が 2点出土した。遺物出土の標高は 6 m 50cm。13世紀後半。



第48図 井筒出土状態図：S E 0 9



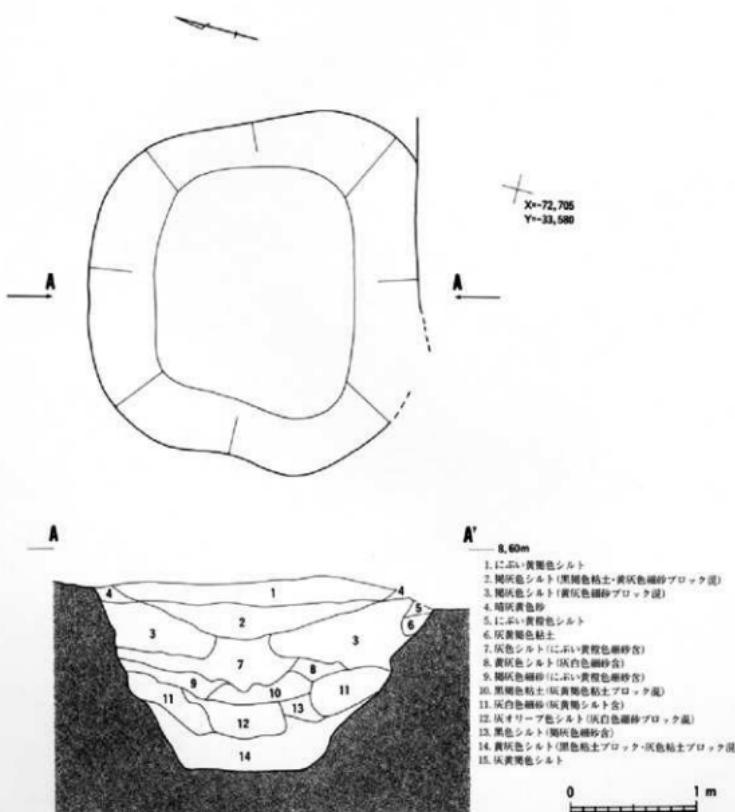
第49図 井戸実測図(3) : S E 10



第50図 井戸枠出土状態図：S.E.1.0

S E 1 1 (第51図、第88図820、821)

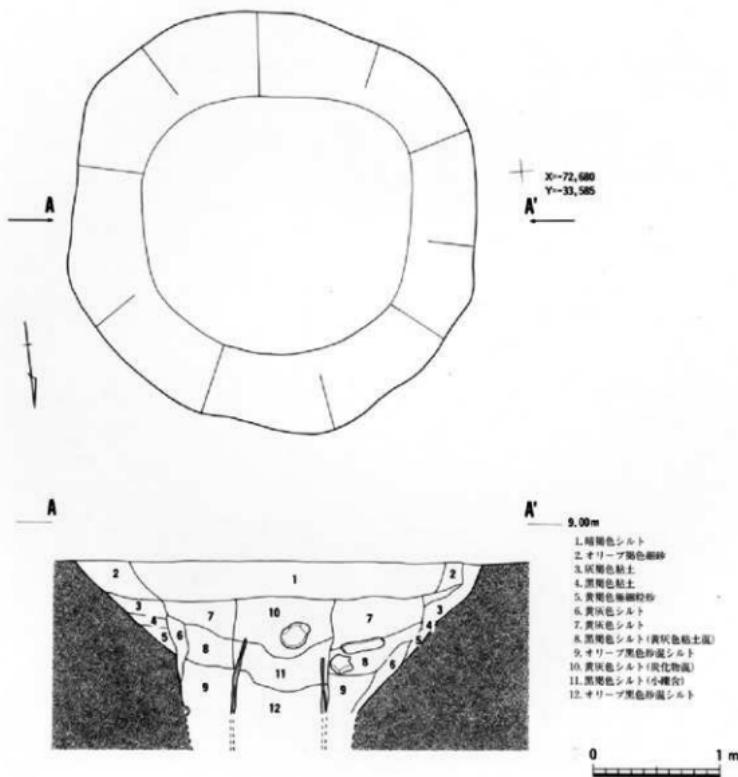
調査区の南端、S E 1 0 の東南側で、井戸としても南端に位置する旧93G区 S E 0 3 である。長径 2 m 80cm、短径 2 m 60cm の円形状の掘方を持つ。井筒は抜き取られたのか何もなかった。井戸基底部の標高 7 m 45cm。灰釉系陶器が出土。14世紀前半。



第51図 井戸実測図(4) : S E 1 1

S E 0 8 (第52図、第88図822~843、図版10、図版18)

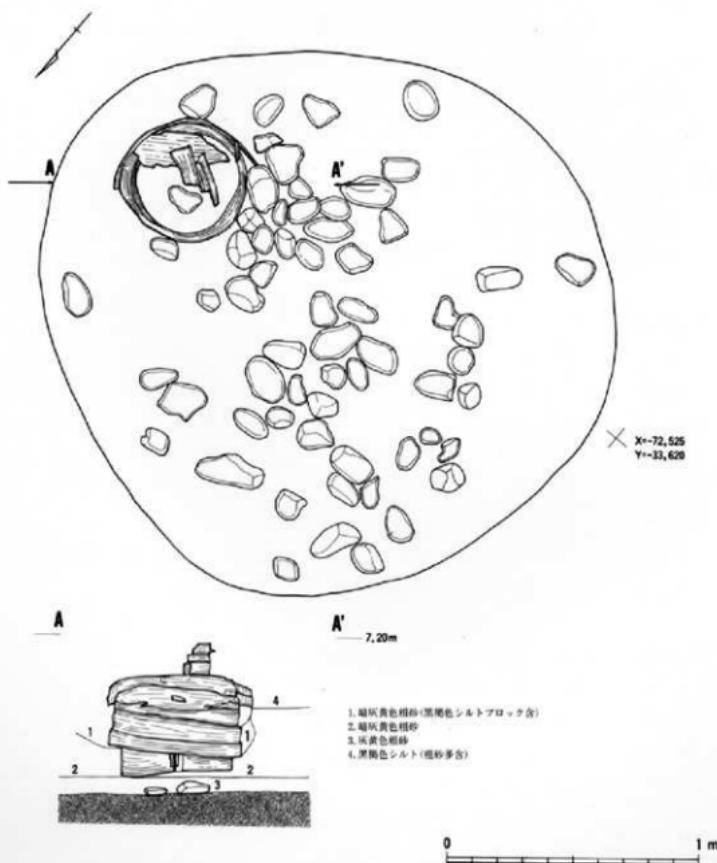
調査区の南端で、旧93G区S E 0 4である。長径3m40cm、短径3m20cmの円形状の掘方を持つ。本組の一部が残っていたが井筒の曲物はなかった。湧水が激く井戸基底部まで調査ができなかった。灰釉系陶器等が出土。12世紀末から13世紀初。



第52図 井戸実測図(5)：S E 0 8

S E 0 6 (第53図)

調査区の南半で大溝 S D 0 1 の底部より検出した。旧93 I 区 S E 0 1 である。長径 2m 40cm、短径 2m 30cm の円形状の掘方を持ち、掘方の東端に曲物があり曲物の径は 50cm を測る。円形の掘方の中に 20cm 前後の円錐が多く出土した。曲物基底部の標高 6 m 57 cm。遺物は出土しなかった。



第53図 井戸実測図 (6) : S E 0 6

第3章 遺構出土の遺物

第1節 古代の出土遺物

主要な各器種の形態分類は以下のとおりである。

杯蓋 外面頂部に擬宝珠跡を有し、口縁端部が「く」の字状におれる。

椀A 無高台。底部から体部が丸みを帯びて斜めに立ち上がった形状で、腰部に稜ではなく平底のもの。底部外面には施切り痕、糸切り痕がのくる。

椀B 高台を有し、体部よりほぼ斜めに立ち上がった形状で、高台より丸みを帯びて立ち上がったものも含む。

杯A 無高台の杯身。腰部に稜をもつて直線的に斜め上方へのびて体部を整形したもの。

杯B 高台を有する杯身。杯Aに高台をつけたもの。

盤 浅い皿状の体部に高台がついたもの。

盤B 浅い皿状の体部に高台がつき口縁端部が「く」の字に折り返し引き上げたもの。

1. 住居跡出土遺物

奈良時代から平安時代の豊穴住居跡が29棟検出された。住居跡の大部分が中世の遺構等によって削平を受け、住居床面の埋土が10cmから15cm程度で遺存状態が悪く、遺物の全く出土しない住居跡や幸うじて床面を検出した住居跡もある。このため住居跡よりの出土遺物が少なく1、2点の場合もあるが実測可能のものはすべて掲載した。

S B 0 1 (第25図、第54図1~13、図版11)

旧93Hb区S B 0 1で、椀A、杯B、杯蓋、盤、瓶が出土。猿投窯の製品主体を占め、美濃須衛窯の製品が3点出土している。8世紀後半。

S B 0 2 (第54図14、図版11)

旧93Hb区S B 0 4で、図示できたのが椀A 1点のみで、底部外面に施による窯記号がある。猿投窯の製品で他に美濃須衛窯の破片も出土。8世紀後半。

S B 0 3 (第54図15・16)

旧93Hb区S B 0 3で、盤と杯蓋で猿投窯の製品。8世紀後半。

S B 0 4 (第54図17~24)

旧93Ha区 S B 0 1 と 93G 区 S B 0 1 で、椀A、杯蓋、盤、土師器の甕が出土。猿投窯の製品が主体を占め、美濃須衛窯の製品が2点出土。9世紀初。

S B 0 5 (第55図25~30)

旧92H 区 S B 1 1 8 で、椀A、杯蓋、盤、土師器の甕が出土。美濃須衛窯の製品で8世紀後半。

S B 0 6 (第55図31・32、図版11)

旧93Hb区 S B 0 5 で、高盤と灰釉椀が出土。猿投窯の製品で9世紀初頭。

S B 0 7 (第55図33~43、図版11)

旧93G 区 S B 0 2 で、椀Aと盤、灰釉皿、長頸瓶、土師器の甕が出土。主体は美濃須衛窯の製品で8世紀後半。灰釉陶器は猿投窯製品で9世紀初頭。

S B 0 8 (第55図44~46、図版11)

旧93G 区 S B 0 3 で、椀A、盤、短頸壺が出土。美濃須衛窯の製品で8世紀後半。

S B 0 9 (第56図48~52)

旧92Ab区 S B 1 0 8 で、椀A、盤、灰釉椀、灰釉皿が出土。美濃須衛窯と猿投窯の製品である。8世紀後半から9世紀後半。

S B 1 0 (第56図53~55、図版11)

旧92Ab区 S B 1 0 7 で、杯蓋、盤、長頸瓶が出土。猿投窯の製品で9世紀初頭。

S B 1 1 (第56図56~60、図版11)

旧92Ab区 S B 1 0 5 で、杯蓋、双耳椀、杯が出土。猿投窯の製品で8世紀後半。

S B 1 2 (第56図61~65)

旧92Ab区 S B 1 0 4 で、杯蓋、杯A、盤が出土。杯A(65)の底部外面に施による窯記号がある。美濃須衛窯と猿投窯の製品である。8世紀後半。

S B 1 3 (第56図66~68)

旧92Aa区 S B 1 0 1 で、椀A、灰釉椀、灰釉皿が出土。猿投窯と尾北窯の製品である。9世紀後半。

S B 1 4 (第56図69~78、図版11)

旧92Aa区 S B 0 6 で、杯蓋、甕、灰釉椀、灰釉段皿、灰釉皿、土師質柱状高台皿が出土。猿投窯、尾北窯、美濃窯の製品である。8世紀後半から各時期の製品があり9世紀後半のものがやや多い。

S B 1 5 (第26図、第56図47、第57図79~86、図版11)

旧92Aa区 S B 0 7 で、杯蓋、椀A、甕、土師器甕、灰釉椀、灰釉皿が出土。美濃須衛窯、猿投窯、尾北窯、美濃窯の製品である。8世紀後半から各時期の製品があり、8世紀後半と9世紀後半のものがやや多い。

S B 1 6 (第57図87~100、図版11、図版12)

旧92Ab区 S B 1 4 で、椀A、椀B、長頸瓶、灰釉椀、灰釉皿、甕、清郷型鍋が出土。美濃須衛窯、猿投窯、尾北窯の製品である。尾北窯の製品が主体となり、9世紀後半。

S B 1 7 (第57図101~104)

旧92Aa区 S B 0 8 で、土師質の甕、灰釉椀が出土。猿投窯と美濃窯の製品である。9世紀後半。

S B 1 8 (第27図、第58図105~132、図版7、図版12)

旧92Aa区 S B 1 2 で、灰釉椀、灰釉深椀、灰釉皿、土師器甕、清郷型鍋が出土し、輪花椀(116)と輪花(126)もあり、尾北窯と美濃窯の製品である。美濃窯の製品が圧倒的に多い。大宰府編年V類と匂類の白磁碗片が出土。10世紀後半から11世紀前半。

S B 1 9 (第59図133~135)

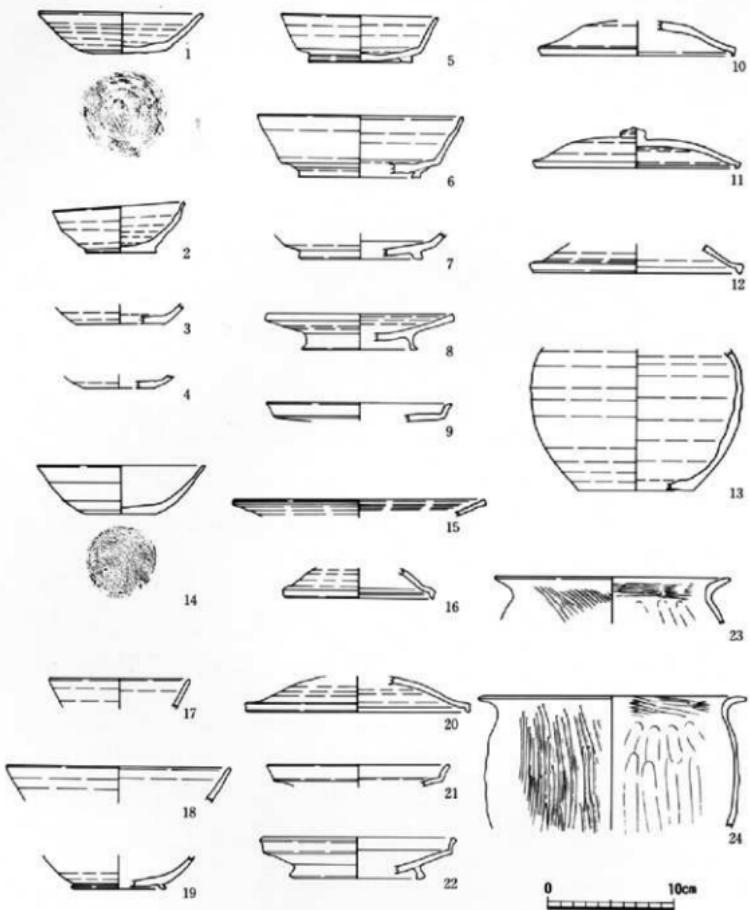
旧92Aa区 S B 0 4 で、猿投窯と美濃須衛窯の製品が3点出土。椀Aが猿投窯の製品で、杯A(135)が美濃須衛窯の製品で底部外面に竈による窯記号がある。8世紀後半。

S B 2 0 (第59図136~140)

旧92Aa・Ab区 S B 1 3 で、灰釉椀と段皿が出土。いずれも美濃窯の製品である。10世紀後半。

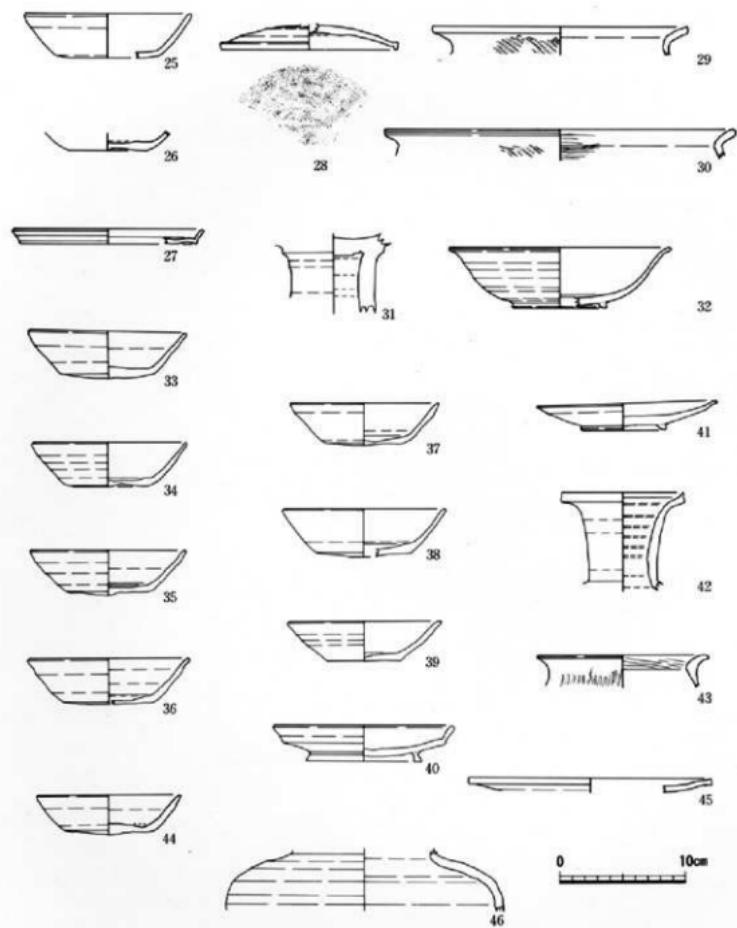
S B 2 1 (第59図141~150)

旧92Aa・Ab区 S B 0 9 で、椀A、杯B、灰釉椀、灰釉皿、土鍤が出土。猿投窯と美濃窯の製品で猿投窯の製品が多い。8世紀後半から各時期の製品があり、9世紀後半から10世紀前半のものがやや多い。



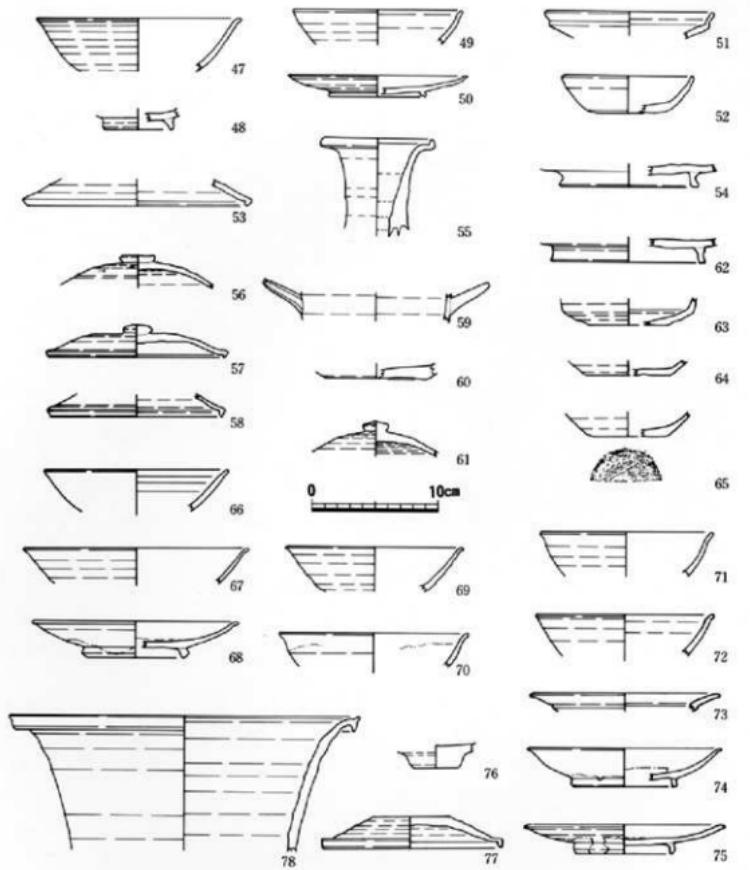
番号	器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	残存串・口・底	遺構番号	底面構造	地	地質
1	碗A	12.6		3.25	4/12 : 12/13	S801	93Bb S801	美濃南	11
2	碗A	10.4	5.5	5.0	10/12 : 12/13	S801	93Bb S801	横 段	11
3	碗A	(7.0)	(2.1)		3/12	S801	93Bb S801	美濃南	
4	碗A	(5.5)	(1.1)		4/12	S801	93Bb S801	横 段	
5	杯B	12.2	8.2	3.8	2/12 : 10/12	S801	93Bb S801	横 段	11
6	杯B	(16.1)	(8.6)	4.85	2/12 : 4/12	S801	93Bb S801	美濃南	11
7	杯B	(9.6)	(2.1)		3/12	S801	93Bb S801	横 段	
8	盤	(16.8)	(9.0)	2.9	3/12 : 1/1	S801	93Bb S801	横 段	11
9	盤B	(14.6)		(1.4)	2/12 :	S801	93Bb S801	横 段	
10	杯蓋	(15.4)		(2.7)	1/12 :	S801	93Bb S801	横 段	
11	杯蓋	(16.2)		(3.2)	3/12 :	S801	93Bb S801	横 段	11
12	杯蓋	(16.6)		(2.3)	7/12 :	S801	93Bb S801	横 段	
13									
14									
15									
16									
17									
18									
19									
20									
21									
22									
23									
24									

第54図 住居跡出土遺物実測図(1) : S B01-02-03-04



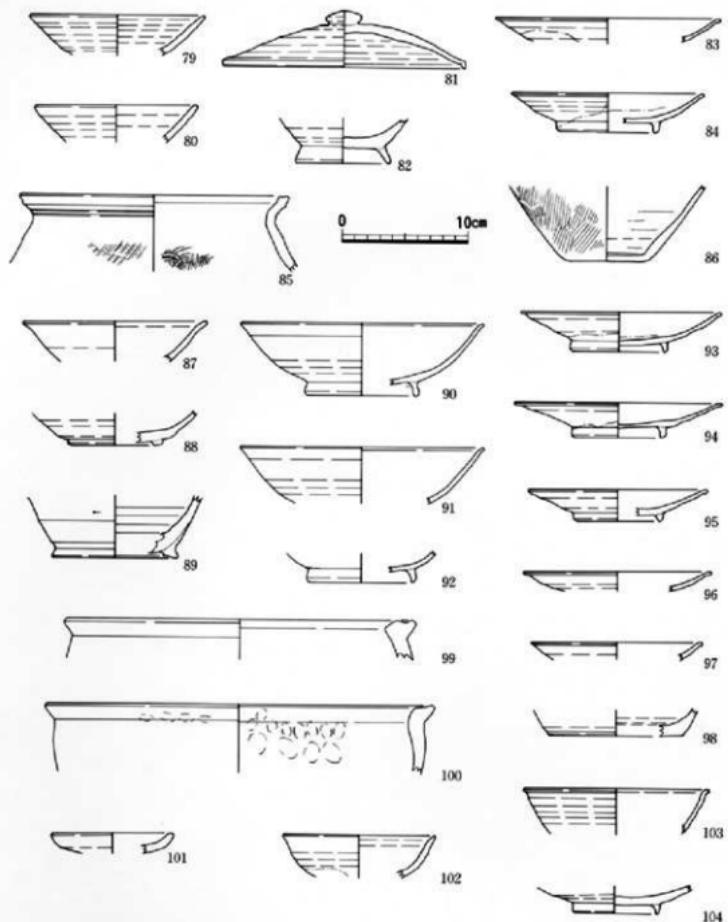
番号	器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	残存率・口・底	遺物番号	旧遺構番号	施 地	期
25	碗A	(13.2)	(6.6)	3.5	3/12 : 4/12	SB05	92H SB118	美須衛	
26		(16.2)	(1.6)		7/12	SB05	92H SB118	美須衛	
27	盤B	(14.8)	(1.2)	1/12	1/12	SB05	92H SB118	美須衛	
28	杯	(13.9)	(2.0)	4/12		SB05	92H SB118	美須衛	
29	甕	(20.2)	(2.2)	2/12		SB05	92H SB118	美須衛	
30	甕	(27.5)	(2.3)	1/12		SB05	92H SB118	美須衛	
31	高盤		(5.8)			SB05	92H SB118	美須	
32	碗	(17.2)	(7.4)	4.8	2/12	4/12	SB05	92H SB04	兼 稲
33	碗A	12.3	7.6	3.9	2/12	12/12	SB07	93G SB02	美須衛
34	碗A	12.1	6.4	3.5	12/12	12/12	SB07	93G SB02	美須衛
35		12.3	6.6	3.5	12/12	12/12	SB07	93G SB02	美須衛
36	高盤		(5.8)			SB05	92H SB118	兼 稲	
37						SB07	93G SB02	美須衛	11
38						SB07	93G SB02	美須衛	11
39						SB07	93G SB02	美須衛	11
40						SB07	93G SB02	美須衛	11
41	盤					SB07	93G SB02	兼 稲	11
42	共用瓶					SB07	93G SB02	兼 稲	11
43	甕					SB07	93G SB02	土器部	11
44	碗A					SB07	93G SB03	美須衛	11
45	甕					SB08	93G SB03	美須衛	11
46	短脚瓶					SB08	93G SB03	美須衛	11

第55図 住居跡出土遺物実測図(2): SB05-06-07-08



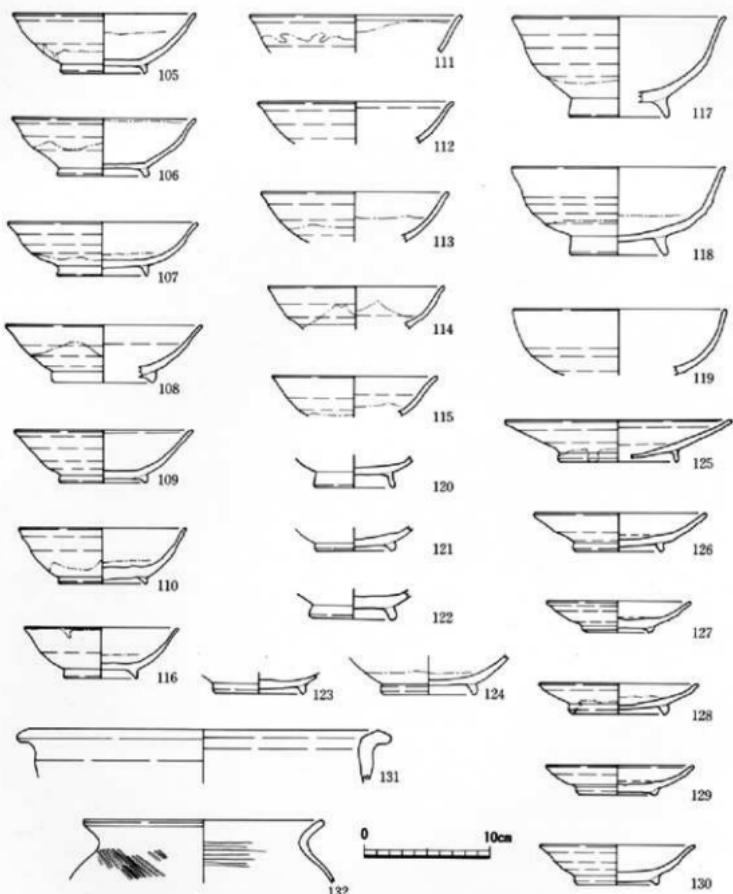
品名	器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	残存率・口・底	遺物番号	出遺構番号	施 地	地	
47	碗	(16.0)	(4.2)	2/12		SB15	92Aa SB007	東	段	
48	碗	(5.2)	(1.7)	2/12		SB09	92Ab SB106	東	段	
49	碗A	(10.0)	(2.6)	3/12		SB09	92Ab SB106	美濃南		
50	盤	(15.4)	(1.7)	3/12		SB09	92Ab SB106	東	段	
51	盤	(13.0)	(2.1)	1/12		SB09	92Ab SB106	東	段	
52	碗A	(10.0)	(5.0)	3/12		SB09	92Ab SB106	美濃南		
53	杯	(17.4)	(2.1)	2/12		SB10	92Ab SB107	東	段	
54	盤	(11.0)	(1.8)	2/12		SB10	92Ab SB107	東	段	
55	長脚瓶	(9.5)	(7.8)	2/12		SB10	92Ab SB107	東	段	
56	杯		(2.6)			SB11	92Ab SB107	東	段	
57	杯	14.0	2.55	8/12		SB11	92Ab SB109	東	段	
58	杯	(12.6)	(1.8)	1/12		SB11	92Ab SB109	東	段	
59	双耳瓶		(3.3)			SB11	92Ab SB109	東	段	
60	杯	(8.0)	(1.2)	1/12		SB11	92Ab SB109	東	段	
61	杯		(2.8)			SB12	92Ab SB109	東	段	
62	盤	(12.2)	(1.9)	3/12		SB12	92Ab SB109	美濃南		
B号	器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	残存率・口・底	遺物番号	出遺構番号	施 地	地	
63	杯A	(16.0)	(2.2)		2/12	SB12	92Ab SB109	東	段	
64	杯A		(6.8)	(2.2)		SB12	92Ab SB109	東	段	
65	杯A		(5.8)	(1.9)		SB12	92Ab SB109	美濃南		
66	瓶A	(14.6)			(3.3)	2/12	SB12	92Ab SB109	東	段
67	瓶	(17.8)			(2.8)	2/12	SB13	92Ab SB109	尾	北
68	盤	(16.2)	(2.7)		(2.9)	1/12	SB13	92Ab SB109	尾	北
69	瓶	(13.8)			(3.5)	1/12	SB14	92Ab SB005	美濃南	
70	瓶	(15.0)			(2.7)	2/12	SB14	92Ab SB005	美濃南	
71	瓶	(13.6)			(3.5)	2/12	SB14	92Ab SB005	美濃南	
72	瓶	(14.2)			(3.3)	1/12	SB14	92Ab SB005	美濃南	
73	瓶	(14.4)			(3.4)	1/12	SB14	92Ab SB005	美濃南	
74	盤	(15.2)	(2.6)	3/12	4/12	SB14	92Ab SB005	尾	北	
75	瓶	(15.4)	7.5	2.3	5/12	12/12	SB14	92Ab SB005	尾	北
76	柱状器		3.4	(1.9)		12/12	SB14	92Ab SB005	土器谷	谷
77	杯	14.0	5.9	2.6	11/12	12/12	SB14	92Ab 伏曾	伏曾	谷
78	甕	(22.7)	(10.8)	1/12		SB14	92Ab SB005	東	段	

第56図 住居跡出土遺物実測図(3): SB09-10-11-12-13-14



番号	器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	残存率	口・底	通鑑番号	地	目録	番号	器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	残存率	口・底	通鑑番号	地	目録	
79	鉢 A	(13.8)	(3.2)	3/12	SB15	92Aa SB07	灰	段	79	鉢	(8.2)	(2.5)	5/12	SB16	92Ab SB14	灰	北			
80	鉢 A	(12.6)	(3.0)	3/12	SB15	92Aa SB07	灰	段	80	鉢	(10.6)	(2.7)	5/12	SB16	92Ab SB14	灰	北	11		
81	杯蓋	(19.2)	4.45	8/12	SB15	92Aa SB07	灰	段	81	鉢	(15.8)	7.2	3.2	8/12	SB16	92Ab SB14	灰	北	12	
82	鉢	(7.2)	(3.6)	1/12	SB15	92Aa SB07	灰	段	82	鉢	(16.2)	6.8	2.8	2/12	SB16	92Ab SB14	灰	北	12	
83	鉢	(17.6)	(1.9)	2/12	SB15	92Aa SB07	灰	段	83	鉢	(14.0)	6.6	2.5	7/12	SB16	92Ab SB14	灰	北	12	
84	鉢	(15.2)	(7.3)	(3.1)	3/12	SB15	92Aa SB07	灰	北	11	97	鉢	(13.6)	(1.4)	2/12	SB16	92Ab SB14	灰	北	
85	鉢	(21.2)	(5.95)	2/12	SB15	92Aa SB07	灰	段	85	鉢	(10.6)	(2.2)	1/12	SB16	92Ab SB14	灰	北			
86	更	(5.6)	(6.0)	6/12	SB15	92Aa SB07	土	段	86	鉢	(22.4)	(3.2)	2/12	SB16	92Ab SB14	土	段			
87	鉢 A	(14.6)	(3.2)	5/12	SB16	92Ab SB14	美須南	段	87	鉢	(30.6)	(5.0)	1/12	SB16	92Ab SB14	土	段			
88	鉢 B	(6.4)	(2.7)	4/12	SB16	92Ab SB14	美須南	段	88	鉢	(20.5)	(1.6)	3/12	SB17	92Ab SB08	土	段			
89	瓦頭瓶	(9.6)	(5.0)	2/12	SB16	92Ab SB14	灰	段	89	鉢	(12.0)	(3.4)	2/12	SB17	92Ab SB08	美濃南				
90	鉢	(19.4)	(8.6)	5.8	1/12	SB16	92Ab SB14	灰	北	11	93	鉢	(14.4)	(3.0)	2/12	SB17	92Ab SB08	美濃南		
91	鉢	(19.4)	(4.4)	1/12	SB16	92Ab SB14	灰	段	91	鉢	(6.4)	(2.0)	1/12	SB17	92Ab SB08	灰	段			

第57図 住居跡出土遺物実測図(4): S B15-16-17



品名	器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	残存率・口・底	通鑑番号	田邊機番号	産地	備考
105	碗	14.4	6.6	4.7	5/12 1/2/12	SB18	92Aa SB12	美濃窯	
106	碗	14.6	7.2	4.6	12/12 4/12	SB18	92Aa SB12	美濃窯	
107	碗	15.0	6.9	4.3	9/12 1/2/12	SB18	92Aa SB12	美濃窯	
108	碗	(15.4)	(7.8)	4.55	4/12	SB18	92Aa SB12	美濃窯	
109	碗	14.0	7.0	4.2	6/12	5/12	SB18	92Aa SB12	美濃窯
110	碗	13.2	6.8	4.4	2/12	9/12	SB18	92Aa SB12	美濃窯
111	碗	(16.8)	(3.6)	3/12		SB18	92Aa SB12	美濃窯	
112	碗	(15.4)	(3.3)	3/12		SB18	92Aa SB12	馬 北	
113	碗	(14.8)	(3.9)	2/12		SB18	92Aa SB12	美濃窯	
114	碗	(13.8)	(3.45)	3/12		SB18	92Aa SB12	美濃窯	
115	碗	(13.2)	(3.15)	4/12		SB18	92Aa SB12	美濃窯	
116	碗	12.2	5.8	4.0	12/12	12/12	SB18	92Aa SB12	美濃窯
117	深碗	16.8	7.6	8.0	11/12	6/12	SB18	92Aa SB12	美濃窯
118	深碗	16.6	7.5	7.0	4/12	6/12	SB18	92Aa SB12	美濃窯
119	深碗					(16.8)	(5.25)		
120	深碗						6.2	(2.5)	
121	碗						6.2	(2.0)	
122	碗						(6.2)	(2.4)	
123	碗						7.0	(1.6)	
124	碗						7.0	(3.2)	
125	盤					(18.6)	(9.0)	3.25 4/12	
126	盤						13.8	6.8	3.05 9/12
127	盤						11.3	5.2	2.5 12/12
128	盤						(12.6)	(7.2)	2.4 5/12
129	深碗								SB18 92Aa SB12 美濃窯
130	深碗								SB18 92Aa SB12 美濃窯

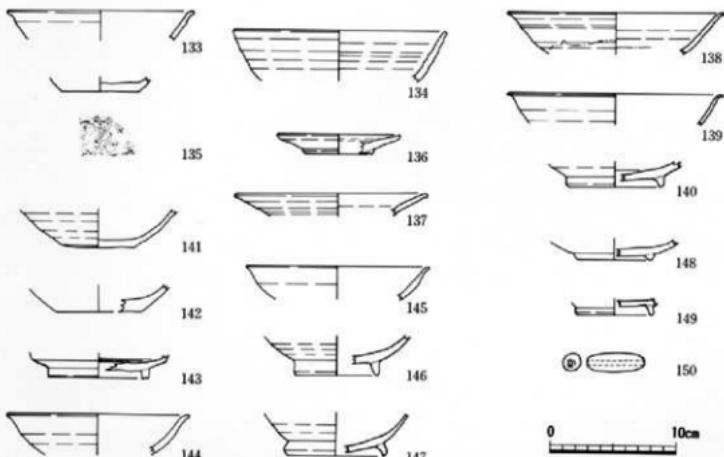
第58図 住居跡出土遺物実測図(5): SB18

SB 22 (第28図、第60図151~160、図版6、図版7、図版12、図版13)

旧92Aa区 S B 0 3で、短頭壺、灰釉椀、灰釉深碗、小瓶、長頸瓶、四耳壺、土師器壺が出土。猪投窯、尾北窯、美濃窯、瀬戸窯の製品で8世紀後半から各時期の製品があるが、9世紀後半のものが多く出土。

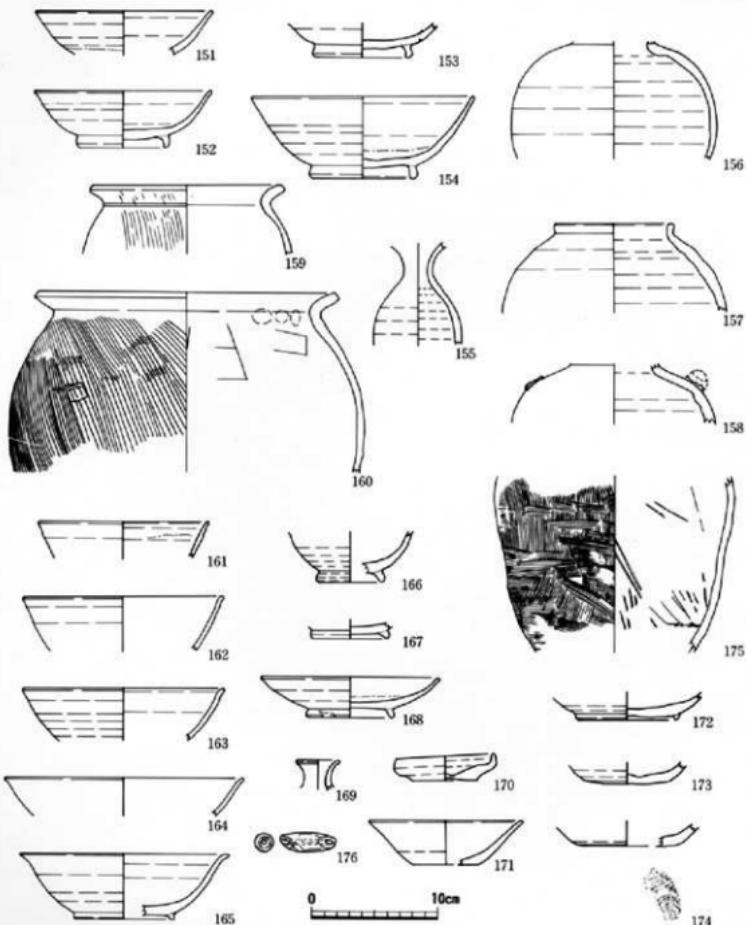
SB 23 (第29図、第60図161~176、図版6、図版7、図版12、図版13)

旧92Aa区 S B 0 1で、椀A、椀B、杯A、灰釉椀、灰釉皿、小瓶、土師器壺、土鍾が出土。美濃須衛窯、猪投窯、美濃窯の製品で美濃窯の製品が主体を占める。8世紀前半から各時期のものがあり、11世紀前後のものが多く出土。



#号	部 庫	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	残存率・口・底	遺構番号	產 地	出 取
133 梗A	(14.6)	(2.35)	3/12	—	SB19 92Aa SH04	猪 投		
134 梗A	(16.8)	(4.05)	3/12	—	SB19 92Aa SH04	猪 投		
135 梗A	(6.2)	(1.25)	—	4/12	SB19 92Aa SH04 美濃窯			
136 残皿	(9.6)	(5.2)	1.5	2/12	SB20 92Aa SD13 美濃窯			
137 残皿	(15.0)	(1.7)	1/12	—	SB20 92Aa SD13 美濃窯			
138 梗	(17.0)	(3.3)	2/12	—	SB20 92Aa SH13 美濃窯			
139 梗	(16.6)	(2.45)	1/12	—	SB20 92Aa SH13 美濃窯			
140 梗	(7.2)	(2.0)	—	3/12	SB20 92Aa SD13 美濃窯			
141 梗A	5.8	(3.1)	—	12/12	SB21 92Aa SH09 猪 投			
133	楕 A	(6.8)	(2.1)	—	SB21 92Aa SH09 猪 投			
142 楕 A	(8.0)	(1.9)	—	—	SB21 92Aa SH09 猪 投			
143 楕 B	(14.4)	(3.3)	1/12	—	SB21 92Aa SH09 猪 投			
144 楕	(14.4)	(2.7)	1/12	—	SB21 92Aa SH09 猪 投			
145 楕	(14.4)	(2.7)	1/12	—	SB21 92Aa SH09 猪 投			
146 楕	(6.6)	(3.15)	—	—	SB21 92Aa SH09 美濃窯			
147 楕	(7.4)	(2.9)	—	—	SB21 92Aa SH09 美濃窯			
148 楕	(6.0)	(1.65)	—	—	SB21 92Aa SH09 美濃窯			
149 盆	(5.8)	(1.2)	—	—	SB21 92Aa SH09 猪 投			
150 土鍾			—	—	SB21 92Aa SH09			

第59図 住居出土遺物実測図(6): SB 19-20-21



番号	器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	残存率(%)	口・底	通鑑番号	施	地	目録	番号	器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	残存率(%)	口・底	通鑑番号	施	地	目録		
151	碗	(14.0)		(3.4)	3/12	口・底	SR23	92Aa SB03	尾	北	164	碗	(18.6)		(3.6)	1/12		SB23	92Aa SB01	失傳	南		
152	碗	(14.0)	6.8	4.5	2/12	12/12	SB22	92Aa SB08	施	段	165	碗	(16.4)	(8.0)	5.2	1/12	5/12	SB23	92Aa SB01	施	段	12	
153	碗			(7.4)	(2.8)		12/12	SB22	92Aa SB08	美濃	尾	166	碗			(5.0)	(4.0)		SB23	92Aa SK33	美濃	尾	
154	碗	(17.4)	8.0	6.5	2/12	7/12	SB22	92Aa SB08	尾	北	167	碗			6.0	(1.4)		SB23	92Aa SB01	美濃	尾		
155	小甌			(8.0)							168	甌	(14.2)	(7.0)	3.2	1/12	6/12	SB23	92Aa SB01	美濃	甌	13	
156	長颈瓶			(9.9)							169	小甌	(3.2)		(2.5)	2/12		SB23	92Aa SB01	施	段		
157	鬹	(9.0)		(7.05)							170	施道具			7.7	2.2~1.7	12/12	SB23	92Aa SK31	施	段	15	
158	齒耳瓶			(4.0)							171	杯A	(12.2)	(5.0)	3.5	2/12	3/12	SB23	92Aa SB01	施	段		
159	甌	(15.0)		(5.5)	6/12						172	甌B			(7.5)	(2.1)		SB23	92Aa SB01	美濃	甌		
160	甌	(23.0)		(14.3)	5/12						173	土師器			(4.0)	(1.7)		SB23	92Aa SB01	美濃	甌		
161	甌	(13.5)		(2.9)	3/12						174	甌A			(6.6)	(1.7)		SB23	92Aa SB01	美濃	甌		
162	甌	(15.8)		(6.3)	1/12						175	甌				(4.0)		SB23	92Aa SK37	土師器			
163	甌	(15.0)		(6.1)	1/12						176	土師						SB23	92Aa SB01	美濃	甌		

第60図 住居跡出土遺物実測図(7) : S B22-23

2. 土坑出土遺物

SK 251 (第30図、第61図177~180、図版6、図版7、図版13)

旧92Aa区SK 03で、竪穴住居S B 1 4を切って土坑がつくられている。灰釉碗、灰釉皿とともに残存状態の悪い「富壽神寶」3枚が出土。「富壽神寶」は818年より834年にかけて鋳造されている。灰釉碗は猿投窓、灰釉皿は尾北窓である。9世紀後半。

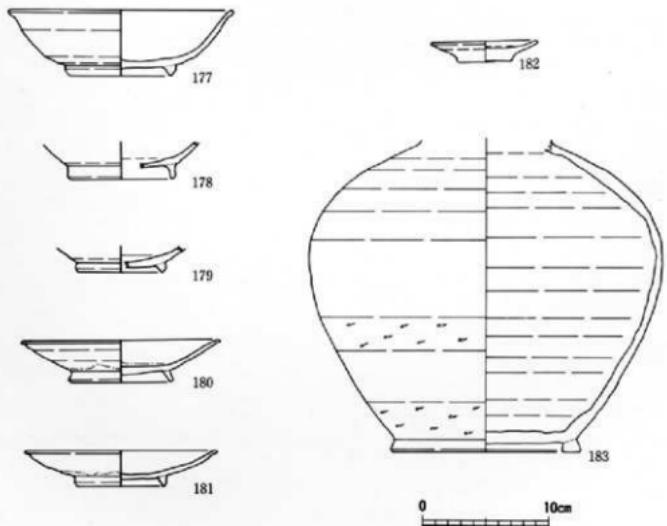
SK 333 (第31図、第61図181、図版6、図版7、図版13)

旧92Ab区SK 6 4で、尾北窓の灰釉皿が円窓とともに出土。9世紀後半。

3. 溝出土遺物

SD 196 (第61図182・183、図版13)

旧93Hb区SD 0 3で、柱状高台皿と猿投窓の8世紀後半の短頸壺が出土。



番号	器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	残存率	口-底	通鑑番号	地	地質	番号	器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	残存率	口-底	通鑑番号	地	地質			
177	碗	(18.0)	(8.0)	(5.15)	6/12	6/12	SK251	92Aa	SK03	猿	投	13	181	皿	15.0	6.6	3.0	10/12	12/12	SK333	92Aa	SK04
178	碗	(8.0)	(2.9)	-	3/12	SK251	92Aa	SK03	猿	投	13	182	柱状皿	8.1	4.1	1.6	11/12	12/12	SD196	03Hb	SD03	
179	碗	(6.7)	(2.05)	-	3/12	SK251	92Aa	SK03	猿	投	13	183	短頸壺	(14.8)	(24.7)	-	10/12	SD196	03Hb	SD03		
180	皿	15.4	7.7	3.3	6/12	9/12	SK251	92Aa	SK03	尾	北	13										

第G1図 土坑・溝出土遺物実測図：SK 251・333、SD 196

S D 2 3 9 (第64図～第66図246～313、図版13、図版14)

旧93Ha区 S D 0 6 で、杯蓋、杯A、杯B、椀A、椀B、盤A、盤B、盤C、鉢、瓶、甕、広口壺、短頸壺、長頸瓶、灰釉椀、灰釉皿、灰釉三足盤、土師器甕や底部内外面に墨書きのある杯A (256) が出土。美濃須衛窯、猿投窯、美濃窯の各製品で須恵器は美濃須衛窯の製品が主体を占め、灰釉陶器は美濃窯が多い。9世紀前半から10世紀後半の各時期のものがあり、9世紀後半のものが最も多い。

S D 2 4 0 (第67図、第68図314～345、図版14)

旧93Ha区 S D 0 5 で、杯蓋、杯A、杯B、椀A、椀B、盤B、甕、横瓶、瓶、長頸瓶、甕、灰釉椀、灰釉皿、段皿、耳皿、土師器甕や底部外面に墨書きのある灰釉椀 (328) が出土。美濃須衛窯、猿投窯、美濃窯の各製品で美濃須衛窯と猿投窯の製品が主体を占める。8世紀から11世紀前半の各時期のものがあり、9世紀後半のものが多い。

第2節 水田跡出土遺物 (第32図～第36図、第62図、第63図184～245、図版5、図版13、図版18)

水田跡は93E区の南側より以南に広がっており、古墳時代の水田から中世の水田を検出した。水田耕作土から出土した遺物である。古墳時代の遺物と古墳時代以降を中世の遺物として取り上げた。

古墳時代の遺物**S T 6 4** (第62図184～186、図版13)

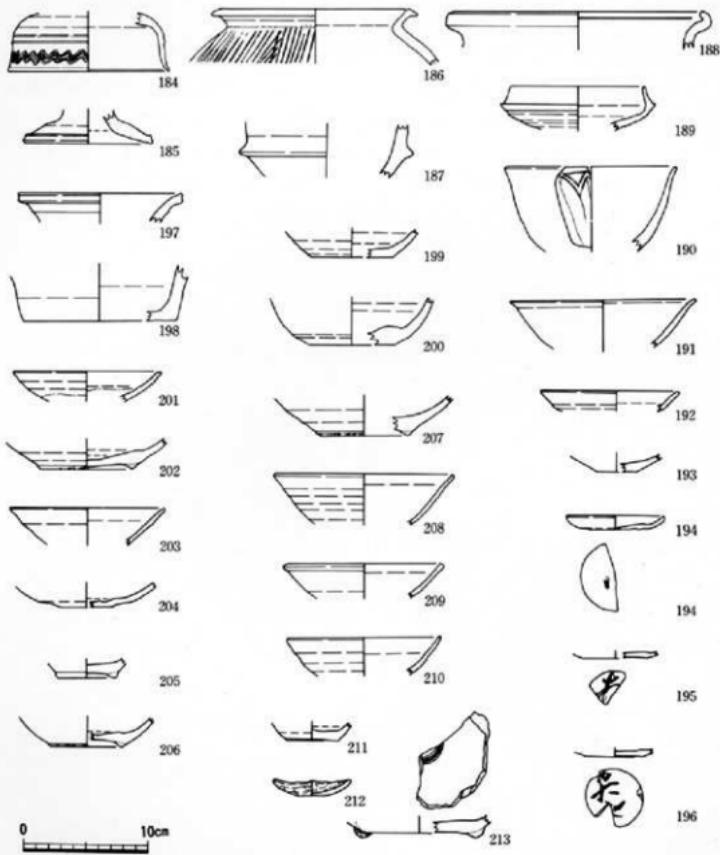
92Aa区旧S T 0 7 で杯蓋、高杯の脚部、土師器甕、5世紀後半。

S T 6 5 (第62図187)

93Aa区旧S T 0 8 で土師器高杯の胴部、5世紀。

S T 2 6 (第62図188、189)

93Hb区旧S T 0 3 で甕、怀身ともに美濃須衛窯の製品、7世紀。但し面的には中世の水田跡である。古墳の遺構の遺物が混じったものと考えられる。



品名	器種	口径(cm)	表径(cm)	底径(cm)	残存率・口・底	遺構番号	地	出
184	灰陶	(12.8)	(4.6)	2/12	ST64 92As ST07	東	残	184
185	高杯	(10.1)	(2.7)	2/12	ST64 92As ST07	東	残	185
186	甕	(14.8)	(4.45)	2/12	ST64 92As ST07	土師器		186
187	曲柄		(4.3)		ST65 92As ST08	土師器		187
188	甕	(19.6)	(3.6)	4/12	ST26 93Bb ST03	美濃衛		188
189	舟身	(16.6)	(3.4)	2/12	ST26 93Bb ST03	美濃衛		189
190	青磁碗	13.6	(6.8)	1/12	ST25 93Bb ST02	中 国	18	190
191	白磁碗	14.8	(3.8)	2/12	ST25 93Bb ST05	中 国	18	191
192	青磁瓶	10.0	(1.6)	2/12	ST24 93Bb ST01	中 国		192
193	青磁瓶	8.2	(1.4)	2/12	ST24 93Bb ST01	中 国		193
194	小瓶	(7.6)	(5.0)	(1.1)	4/12	ST24 93Bb ST01	東 濱	194
195	瓶	(5.0)	(0.5)	1/12	ST24 93Bb ST01	東 濱		195
196	瓶	4.5	(0.6)	9/12	ST24 93Bb ST01	東 濱		196
197	灰口瓶	(13.0)	(2.2)	2/12	ST19 92Db ST16			197
198	瓶	(12.2)	(4.5)	3/12	ST19 92Db ST16			198
199	甕 A							199
200	鉢							200
201	盤	(11.6)						201
202	椀							202
203	椀	(12.2)						203
204	椀							204
205	椀							205
206	碗							206
207	椀							207
208	椀							208
209	椀							209
210	碗							210
211	碗							211
212	石器							212
213	石器							213
214	灰陶 A							214
215	鉢							215
216	椀							216
217	碗							217
218	碗							218
219	碗							219
220	碗							220
221	小瓶							221
222	瓶							222
223	瓶							223

第62図 水田跡出土遺物実測図(1)

中世の遺物

S T 2 5 (第62図190、図版18)

93Hb区旧S T 0 2で青磁碗が出土。

S T 9 5 (第62図191、図版18)

93Hb区旧S T 0 5で白磁碗が出土。

S T 2 4 (第62図192~196)

93Hb区旧S T 0 1で青磁、白磁の皿、東濃型の灰釉系陶器の椀、皿が出土、灰釉系陶器の底部外面には墨書がある。15世紀前半。

S T 1 9 (第62図197、198)

92Db区旧S T 1 6で広口瓶、瓶が出土。10世紀後半。

S T 2 0 (第62図199、200)

92Db区旧S T 1 7で美濃須衛窯の碗、鉢が出土。9世紀後半。

S T 0 3 (第62図201~204)

92E区旧S T 4 2で9世紀後半の美濃窯の灰釉皿(201)と、尾張型の灰釉系碗、12世紀後半が出土。15世紀中頃の脇之島窯(204)の碗も出土。

S T 0 5 (第62図205、206)

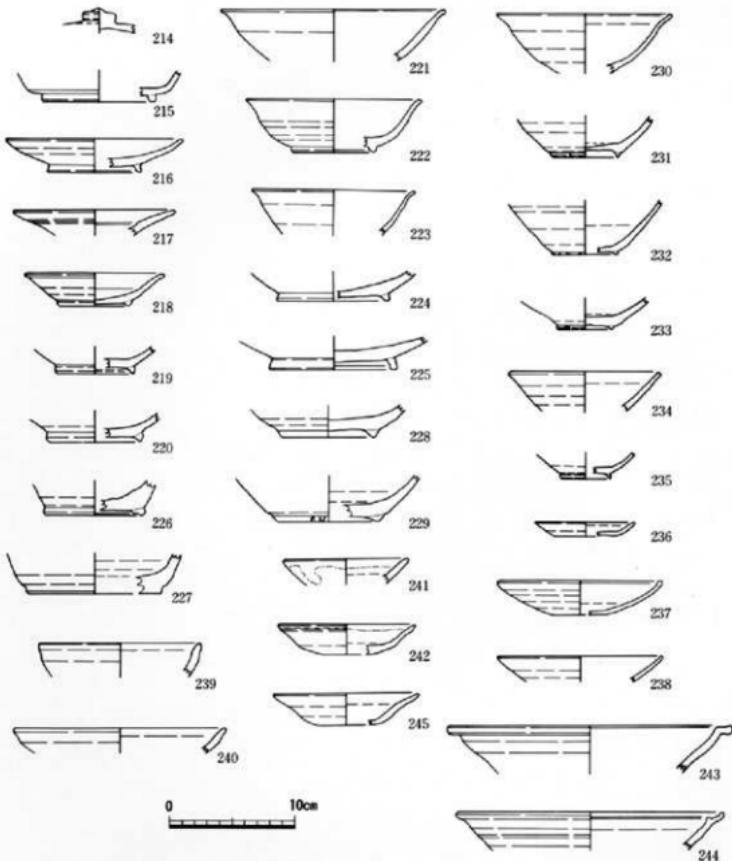
93F区旧S T 0 2で12世紀前半の尾張型の灰釉系碗と13世紀前半の東濃型の灰釉系碗が出土。

S T 0 1 (第62図207~213)

93Ea区旧S T 0 1で12世紀代の尾張型灰釉系碗・小皿と13世紀代、15世紀前半の東濃型の灰釉系碗、13世紀後半の古瀬戸中期の折縁盤、土師質皿が出土した。

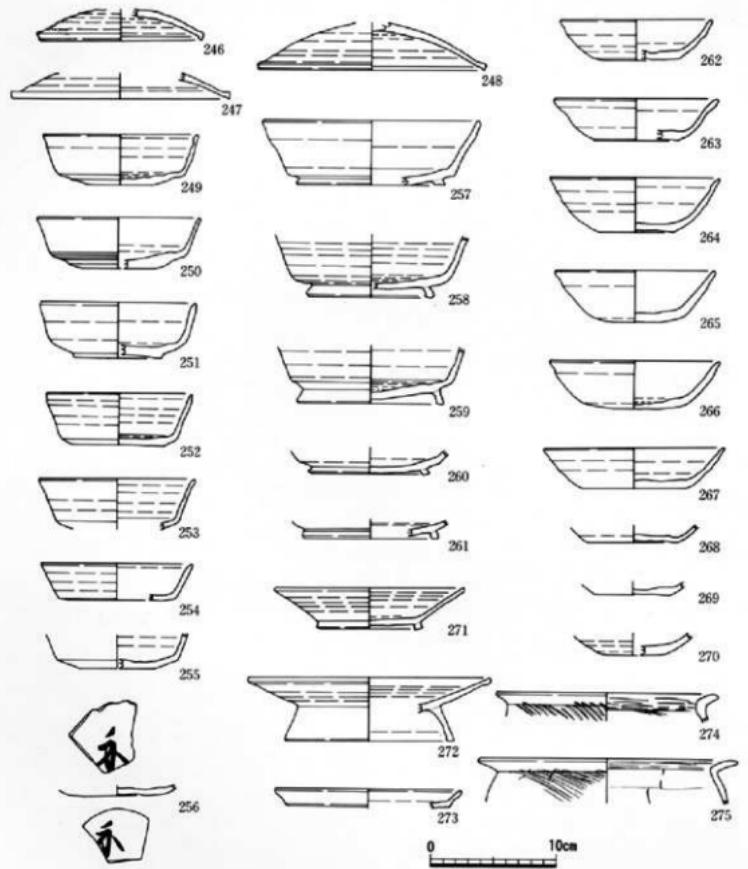
S T 2 4 (第63図214~245、図版13)

93Hb区S T 0 1で美濃須衛窯の杯蓋、猿投窯の杯B、灰釉皿、段皿、灰釉、長頸瓶、瓶と東濃型の灰釉系碗、尾張型の灰釉系碗、古瀬戸の平碗、縁釉皿、折縁鉢、擂鉢、皿と美濃窯連房期の天目茶碗が出土している。9世紀後半から17世紀までの遺物である。9世紀後半から10世紀にかけての時期と、14世紀から15世紀の時期に遺物のまとまりがみられる。



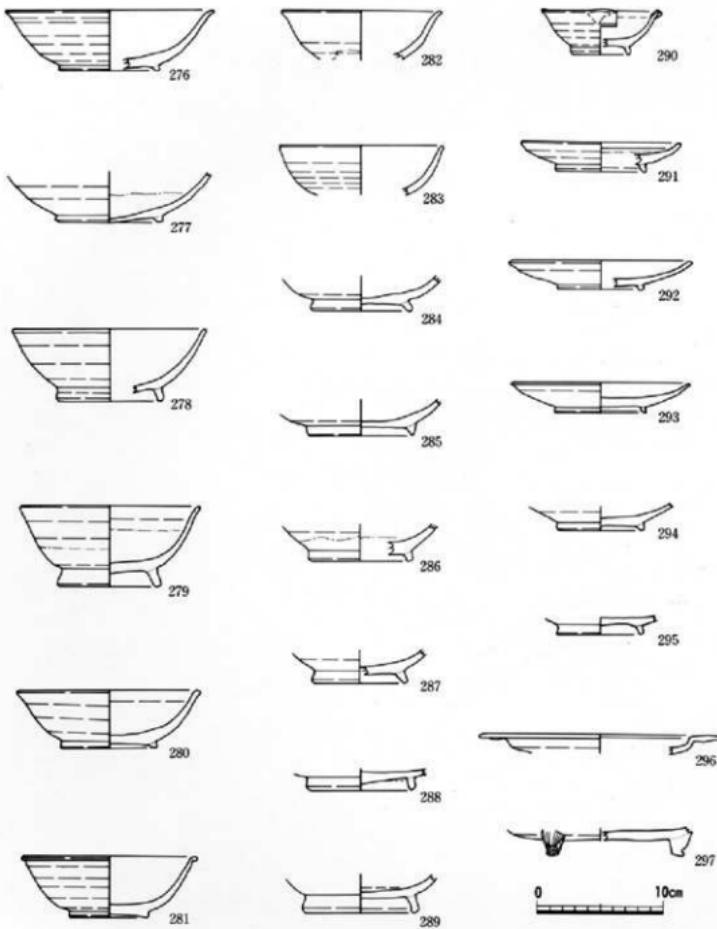
番号	器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	残存率	C1-底	遺構番号	施	施	番号	器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	残存率	C1-底	遺構番号	施	施			
214	杯						ST24	99Bb ST01	美濃街	219	碗	(13.8)	(4.7)	2/12		ST24	99Bb ST01	東	通			
215	杯-B	(9.0)	(2.4)				3/12	ST24	99Bb ST01	美濃街	220	碗	(15.2)	(3.2)			6/12	ST24	99Bb ST01	東	通	
216	盤	(14.0)	(2.5)	4/12			3/12	ST24	99Bb ST01	美濃街	221	碗	(15.2)	(4.5)			4/12	ST24	99Bb ST01	東	通	
217	皿	(12.4)	(2.5)	2/12			ST24	99Bb ST01	美濃街	222	碗	(14.3)	(2.45)			12/12	ST24	99Bb ST01	東	通		
218	鉢	(10.8)	2.6	1/12			3/12	ST24	99Bb ST01	東	通	223	碗	(11.6)	(3.1)	2/12		ST24	99Bb ST01	東	通	
219	椀	(6.0)	(2.2)				4/12	ST24	99Bb ST01	美濃街	224	碗	(3.9)	(2.0)			4/12	ST24	99Bb ST01	東	通	
220	椀	(7.2)	(2.3)				4/12	ST24	99Bb ST01	東	通	225	碗	(7.8)	(4.8)	(1.1)	4/12	6/12	ST24	99Bb ST01	東	通
221	椀	(17.6)	(4.1)	1/12			ST24	99Bb ST01	美濃街	226	碗	(13.0)	(4.4)	(2.7)	1/12	2/12	ST24	99Bb ST01	東	通		
222	椀	(13.6)	(6.4)	4.2	1/12	1/12	ST24	99Bb ST01	美濃街	227	碗	(13.0)	(2.0)	2/12		ST24	99Bb ST01	東	通			
223	椀	(12.7)	(3.6)	2/12			ST24	99Bb ST01	東	通	228	天日茶碗	(12.8)	(2.7)	1/12		ST24	99Bb ST01	東	通		
224	椀	(9.0)	(2.35)				3/12	ST24	99Bb ST01	美濃街	229	平瓶	(17.0)	(2.0)	2/12		99Bb ST01	古瀬戸				
225	椀	(10.6)	(2.6)				3/12	ST24	99Bb ST01	美濃街	230	縹胎形	(9.8)	(2.0)	2/12		ST24	99Bb ST01	古瀬戸			
226	長脚瓶	(7.8)	(2.2)				6/12	ST24	99Bb ST01	美濃街	231	縹胎形	(9.8)	(2.0)	2/12		ST24	99Bb ST01	古瀬戸			
227	手形瓶	(10.5)	(3.2)				3/12	ST24	99Bb ST01	美濃街	232	縹胎形	(10.8)	(4.0)	(2.4)	2/12		ST24	99Bb ST01	古瀬戸		
228	椀	(7.4)	(2.5)				6/12	ST24	99Bb ST01	尾張	233	折沿盆	(22.4)	(3.7)	1/12		ST24	99Bb ST01	古瀬戸			
229	椀	(6.6)	(3.6)				5/12	ST24	99Bb ST01	尾張	234	猪耳	(21.0)	(3.0)	1/12		ST24	99Bb ST01	古瀬戸	13		
										240	瓶	(11.4)	(2.5)	3/12		ST24	99Bb ST01	古瀬戸				

第63図 水田跡出土遺物実測図(2)



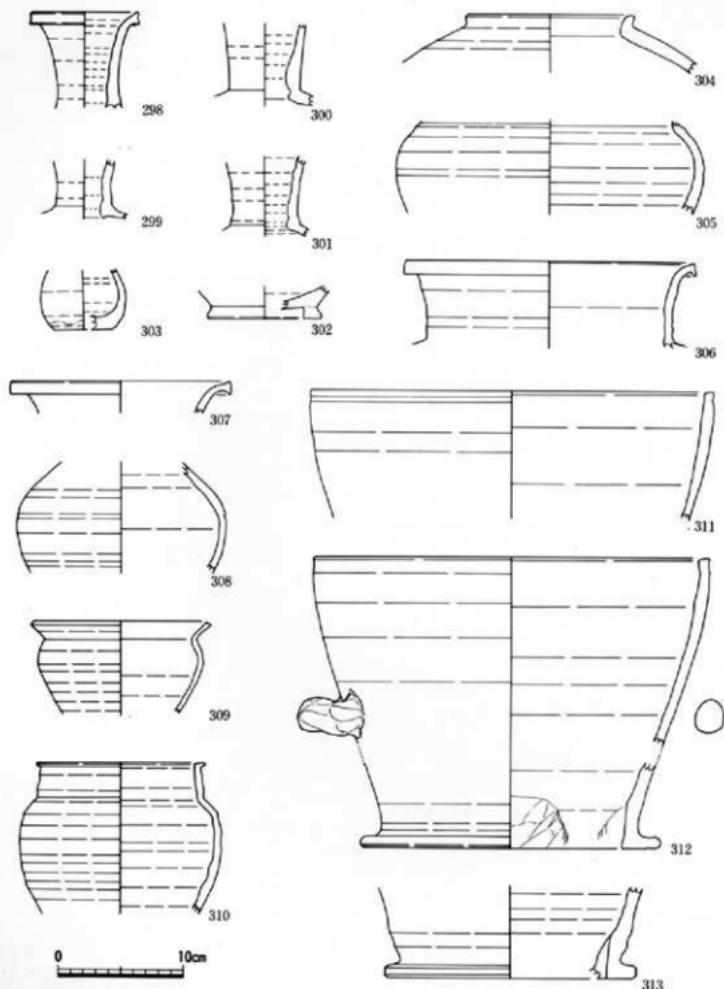
番号	器種	口径(cm)	底径(cm)	底高(cm)	残存率×C-値	遺物番号	地	出	番号	器種	口径(cm)	底径(cm)	底高(cm)	残存率×C-値	遺物番号	地	出
246	舟蓋	(13.0)	(2.4)	3/12	SD239 93Bb SD06				261	舟B	(10.6)	(1.5)	5/12	SD239 93Bb SD06	美須南		
247	籠	(17.4)	(2.6)	3/12	SD239 93Bb SD06	美須南			262	籠A	(12.0)	(6.6)	3.2	1/12	SD239 93Bb SD06	美須南	
248	舟蓋	(16.0)	(3.7)	1/12	SD239 93Bb SD06	美須南			263	籠A	(12.0)	(6.8)	3.25	1/12	SD239 93Bb SD06	美須南	
249	舟蓋	(12.3)	3.2	4.0	9/12	SD239 93Bb SD06	美須南	13	264	籠A	(13.4)	(6.0)	4.3	3/12	SD239 93Bb SD06	美須南	13
250	舟蓋	(12.8)	(5.8)	(4.0)	1/12	SD239 93Bb SD06	美須南		265	籠A	(12.8)		4.1	8/12	SD239 93Bb SD06	美須南	13
251	舟-A	(12.4)	(6.8)	4.4	5/12	SD239 93Bb SD06	美須南	13	266	籠A	(13.4)		3.6	3/12	SD239 93Bb SD06	美須南	13
252	舟-A	(11.6)	7.2	4.1	3/12	SD239 93Bb SD06	美須南	13	267	籠A	(14.2)	(8.0)	3.2	1/12	SD239 93Bb SD06	美須南	
253	舟-A	(12.4)	(4.0)	5/12	SD239 93Bb SD06	美須南			268	籠A	(7.0)	(1.2)	3/12	SD239 93Bb SD06	美須南		
254	舟-A	(12.0)	(7.6)	2.9	1/12	SD239 93Bb SD06	美須南		269	籠A	(6.0)	(1.1)	6/12	SD239 93Bb SD06	美須南		
255	舟-A	(6.0)	(2.7)	-	5/12	SD239 93Bb SD06	美須南		270	籠A	(4.0)	(1.8)	3/12	SD239 93Bb SD06	美須南		
256	舟-A	(5.8)	(8.8)	-	4/12	SD239 93Bb SD06	美須南		271	籠B	(14.2)	(7.8)	(3.3)	4/12	SD239 93Bb SD06	美須南	13
257	舟-B	(17.0)	(11.6)	5.1	2/12	SD239 93Bb SD06	美須南		272	籠C	(19.2)	(13.4)	(5.0)	1/12	SD239 93Bb SD06	美須南	
258	舟-B	(9.8)	(4.9)	-	7/12	SD239 93Bb SD06	美須南	13	273	籠B	(14.8)		(1.5)	2/12	SD239 93Bb SD06	美須南	
259	舟-B	11.3	(4.95)	-	11/12	SD239 93Bb SD06	美須南	13	274	籠A	(17.1)		(2.2)	3/12	SD239 93Bb SD06	土師器	
260	舟-B	(9.2)	(1.9)	-	4/12	SD239 93Bb SD06	美須南		275	籠	26.0		(3.5)	5/12	SD239 93Bb SD06	土師器	13

第64図 満出土遺物実測図(1): SD239(1)



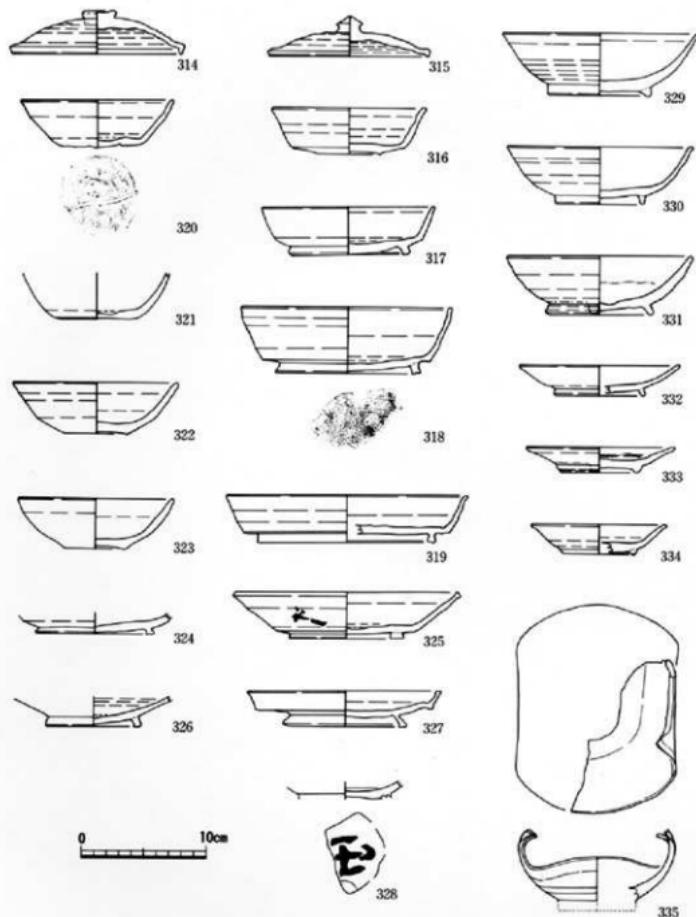
番号	器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	残存率・口・底	測定値	旧遺物番号	発地	出目	番号	器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	残存率・口・底	測定値	旧遺物番号	発地	出目	
276	碗	(36.4)	(7.8)	4.75	1/12 ; 4/12	SD239#93B SD06	東海系	13	297	碗	(7.1)	(2.7)	1/12	SD239#93B SD06	美濃					
277	碗			(4.0)		9/12	SD239#93B SD06	東海系		298	碗	8.0	(1.7)	1/12	SD239#93B SD06	美濃				
278	碗	(35.1)	(7.8)	5.8	3/12 ; 4/12	SD239#93B SD06	美濃	13	299	碗	(8.6)	(3.1)	1/12	SD239#93B SD06	美濃					
279	碗	(34.2)	8.0	6.4	1/12 ; 12/12	SD239#93B SD06	美濃	13	299	輪花柄碗	(9.6)	4.4	3.6	4/12	SD239#93B SD06	美濃	14			
280	碗	(34.2)	7.6	4.65	5/12 ; 12/12	SD239#93B SD06	美濃系	13	299	盤	(12.4)	(7.6)	2.3	2/12 ; 1/12	SD239#93B SD06	美濃				
281	碗	(33.6)	6.1	4.8	3/12 ; 7/12	SD239#93B SD06	東海系	13	299	盤	(14.2)	(8.8)	(2.3)	5/12 ; 5/12	SD239#93B SD06	東海系	14			
282	碗	(32.4)	(3.85)	2/12		SD239#93B SD06	美濃		299	盤	(14.0)	(7.2)	(2.4)	1/12 ; 12/12	SD239#93B SD06	東海系	14			
283	碗	(32.8)	(4.0)	3/12		SD239#93B SD06	美濃		299	盤	6.4	(2.15)		1/12	SD239#93B SD06	東海系				
284	碗			7.8	(2.9)	1/12	SD239#93B SD06	美濃系		299	盤	(8.7)	(1.45)		11/12	SD239#93B SD06	美濃			
285	碗			8.2	(2.9)	11/12	SD239#93B SD06	美濃	14	299	盤	(18.0)	(1.5)	1/12		SD239#93B SD06	美濃			
286	碗			(8.1)	(2.9)	4/12	SD239#93B SD06	美濃		299	三足盤	(13.2)	(2.3)		4/12	SD239#93B SD06	美濃			

第65図 溝出土遺物実測図(2): SD239(2)



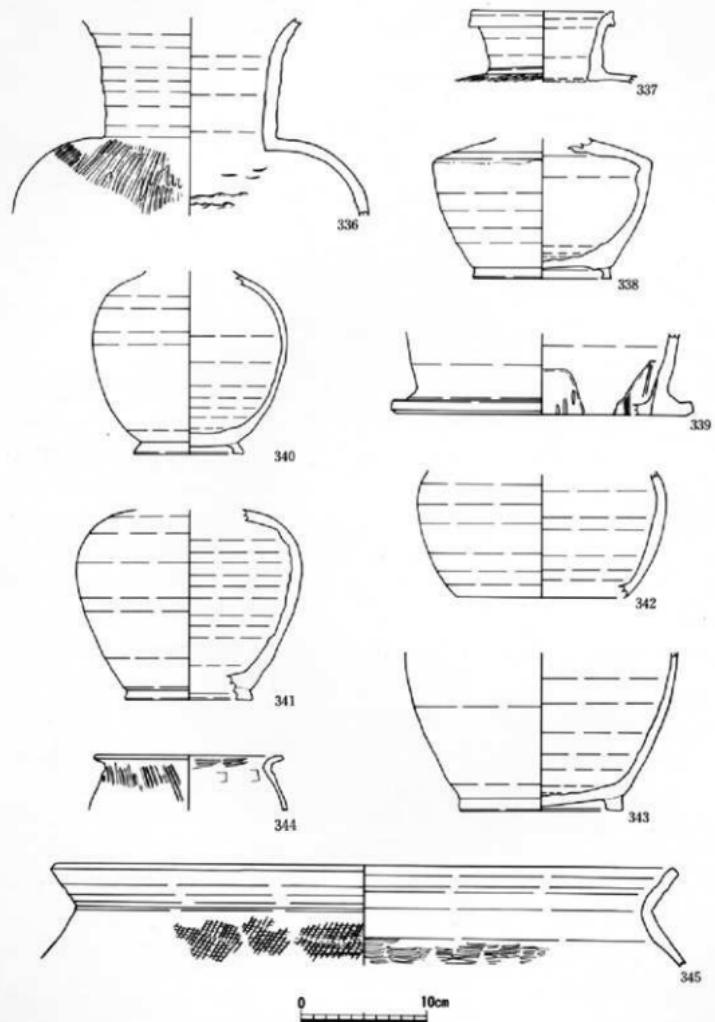
番号	器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	残存率・口・底	基準番号	旧遺物番号	產地	出所
298	長脚瓶	(8.4)	(7.5)	5/12		SD239 93Bb SD06	董 指	14	
299	長脚瓶			(4.7)		SD239 93Bb SD06	董 里南		
300	長脚瓶			(6.4)		SD239 93Bb SD06	董 里南		
301	長脚瓶			(6.3)		SD239 93Bb SD06	董 里南		
302	長脚瓶			(6.3)		SD239 93Bb SD06	董 里南		
303	長脚瓶			(6.3)		SD239 93Bb SD06	董 里南		
304	豆皿			(7.4)		SD239 93Bb SD06	董 里南		
305	豆皿								
306	豆皿								
307	豆皿								
308	豆皿								
309	豆皿								
310	豆皿								
311	豆皿								
312	豆皿								
313	豆皿								

第66図 満出土遺物実測図(3) : SD 239 (3)



番号	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	残存率・口・底	測定番号	出発場所番号	来地	性別	番号	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	残存率・口・底	測定番号	出発場所番号	来地	性別	
314	杯蓋	13.3	3.45	8/12	:	SD240-93Bb SD05	美 須 南	14	女	325	碗 B	(17.4)	(9.0)	(2.7)	2/12	8/12	SD240-93Bb SD05	美 須 南		
315	杯蓋	(12.5)	3.2	3/12	:	SD240-93Bb SD05	美 須 南	14	男	326	椀 A	7.4	(2.1)	:	12/12	SD240-93Bb SD05-9C	美 須 南			
316	杯 A	(12.2)	5.0	(3.7)	4/12	12/12	SD240-93Bb SD05-17	美 須 南	14	男	327	盤 A	15.4	9.2	2.9	9/12	5/12	SD240-93Bb SD05	美 須 南	14
317	杯 B	13.8	9.2	3.8	10/12	12/12	SD240-93Bb SD05	美 須 南	14	女	328	椀 A	(1.45)	:	:	SD240-93Bb SD05	美 須 南			
318	杯 B	16.6	11.4	5.25	10/12	10/12	SD240-93Bb SD05	美 須 南	14	男	329	椀 A	15.6	8.0	5.0	9/12	12/12	SD240-93Bb SD05-14	美 須 南	14
319	杯 B	(18.0)	(14.0)	3.7	6/12	6/12	SD240-93Bb SD05	美 須 南	14	女	330	椀 A	14.4	6.6	4.6	5/12	11/12	SD240-93Bb SD05	美 須 南	14
320	椀 A	12.2	3.8	7/12	:	SD240-93Bb SD05-9	美 須 南	14	男	331	椀 A	(14.5)	(8.0)	4.7	1/12	4/12	SD240-93Bb SD05	美 須 南		
321	椀 A	(5.6)	(3.7)	:	5/12	SD240-93Bb SD05	美 須 南			332	皿	12.6	(6.6)	2.4	3/12	6/12	SD240-93Bb SD05	美 須 南	14	
322	椀 A	(13.0)	(5.0)	(4.1)	5/12	12/12	SD240-93Bb SD05-9C	美 須 南	14	男	333	段 A	11.7	6.0	2.0	10/12	12/12	SD240-93Bb SD05	美 須 南	14
323	椀 A	(12.3)	(4.8)	(4.0)	6/12	8/12	SD240-93Bb SD05-9	美 須 南	14	女	334	段 A	10.6	5.6	2.35	2/12	6/12	SD240-93Bb SD05	美 須 南	14
324	椀 B	(9.0)	(1.7)	11/12	SD240-93Bb SD05-9	美 須 南	14			335	耳杯	(5.2)	5/12	:	SD240-93Bb SD05	美 須 南	14			

第67図 溝出土遺物実測図(4) : SD240(1)



第68図 満出土遺物実測図(5) : SD 240 (2)

番号	器種	口径(m)	底径(m)	高さ(m)	地在場・口・底	遺物番号	地	回数	参考番号	器種	口径(m)	底径(m)	高さ(m)	地在場・口・底	遺物番号	地	回数	
336	壺	(15.7)				SD240/90Bb SD05	壺	12		341	長颈瓶	(10.0)	(15.0)		(3/12)	SD240/90Bb SD05-04	壺	9
337	壺	11.2	(7.6)	9/12		SD240/90Bb SD05	壺	14		342	長颈瓶	(10.1)			SD240/90Bb SD05-08	壺	9	
338	長颈瓶	(11.0)	(11.1)	8/12	SD240/90Bb SD05	美原南				343	長颈瓶	12.8	(12.5)		SD240/90Bb SD05-13	美原南		
339	壺	(23.0)	(6.5)	14/12	SD240/90Bb SD05-21	美原南	14			344	壺	(14.8)	(4.4)	4/12	SD240/90Bb SD05	土師器		
340	長颈瓶	8.0	(14.5)	12/12	SD240/90Bb SD05-36	壺	12			345	壺	(47.0)	(7.0)	3/12	SD240/90Bb SD05	美原南		

第3節 中世の主要遺構出土遺物

中世における灰釉系陶器「山茶碗」は「尾張型」と「東濃型」に区分した。

「尾張型」 梗は体部が内彎し口縁部が僅かに外反するものと体部が直線的で口縁になるものとがあり、高台は大きく底部は厚い。粘土絆積上技法で粗製品。

「東濃型」 薄手の製品、楕円水引技法で精製品である。梗は器高の高いものから器高の低いものも含む。

1. 溝

SD 214 (第69図～第72図346～459、図版14、図版15、図版18)

93G区の南側、旧SD 02、SD 05で美濃須衛窯、猿投窯、美濃窯の灰釉梗、広口瓶、長頸瓶、瓶と尾張型と東濃型の灰釉系陶器の梗、片口梗、小皿、片口鉢と白磁碗、青磁皿、常滑窯の壺、土師質皿、伊勢型鍋、清郷型鍋が出土。9世紀後半から13世紀前半の時期の遺物で、灰釉陶器は美濃窯、灰釉系陶器は尾張型が多い。また土師質皿が多く、二段くぼみナデ(440, 448, 449)も出土している。12世紀後半から13世紀初めの時期の遺物が主体を占める。

2. 大溝

SD 01・02 (第37図、第38図、第73図～第82図460～703、図版4、図版15、図版16、図版18)

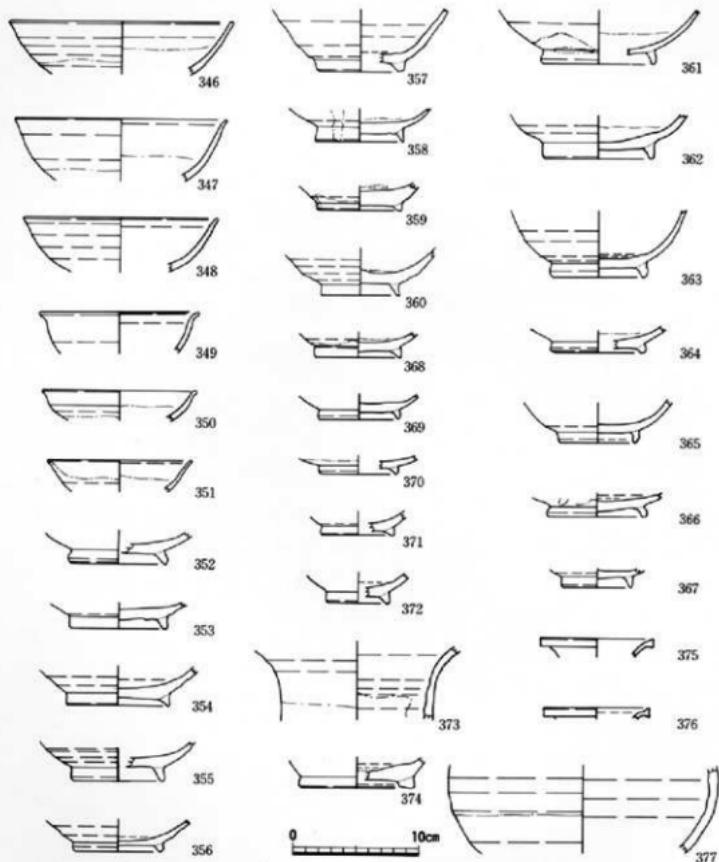
調査区の中央、93J区以南を南北に走るSD 01と東に走るSD 02である。

美濃須衛窯、猿投窯の杯身、杯蓋、梗A、梗B、杯A、杯B、盤、鉢、瓶、壺。猿投窯、尾北窯、美濃窯の灰釉梗、灰釉深梗、灰釉皿、段皿、耳皿、輪花皿、三足盤、広口瓶、把手付長頸瓶、長頸瓶、瓶、灰釉鉢。尾張型と東濃型の灰釉系陶器の梗、小皿、片口鉢。常滑窯の壺、羽釜。この他に柱状高台皿、土師質皿、伊勢型鍋、清郷型鍋。古瀬戸の天目茶碗、平碗、折線深皿、四耳壺、瓶子、灰釉皿、連房期の美濃窯の灰釉菊皿が出土。5世紀後半から17世紀までの時期の遺物が出土しているが、杯蓋、杯、梗は美濃須衛窯が多く、灰釉陶器は美濃窯が多い。灰釉系陶器は12世紀後半は尾張型が多く、13世紀後半からは東濃型が多い。9世紀後半から10世紀代と12世紀後半の時期の遺物が主体を占める。

3. 墓道両脇溝

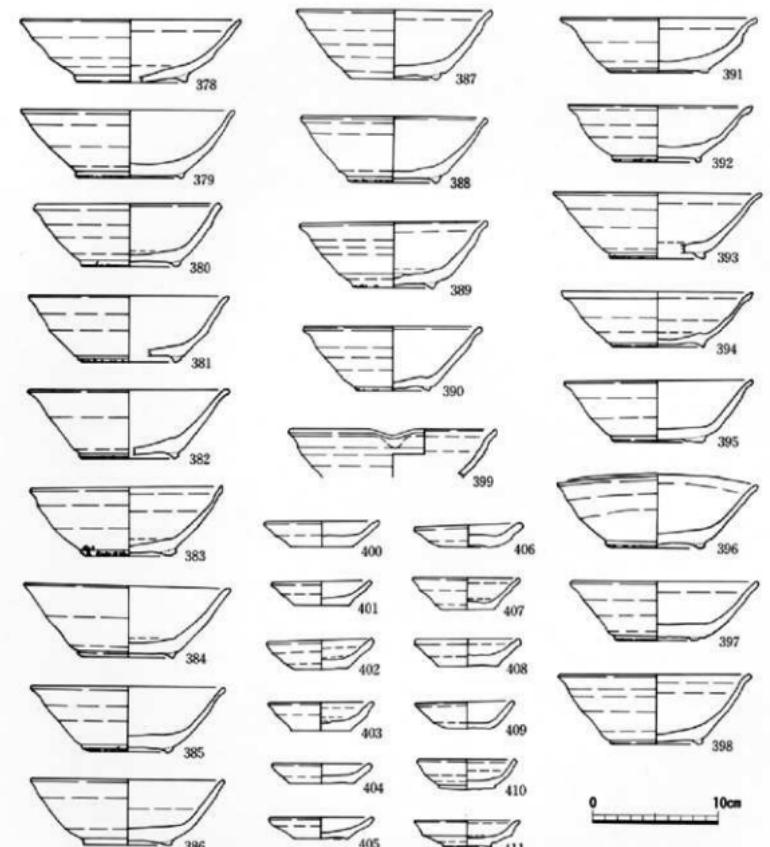
SD 06・07 (第39図、第40図、第83図704～721、図版1～3、図版9)

墓道両脇の溝で92Ga区旧SD 58・59である。東濃型の灰釉系陶器の梗、尾張型の鉢と古瀬戸の灰釉花瓶、灰釉縁釉皿そして土師質皿が出土。土師質皿は手頭圧痕が残る。13世紀後半から14世紀前半の時期の遺物である。



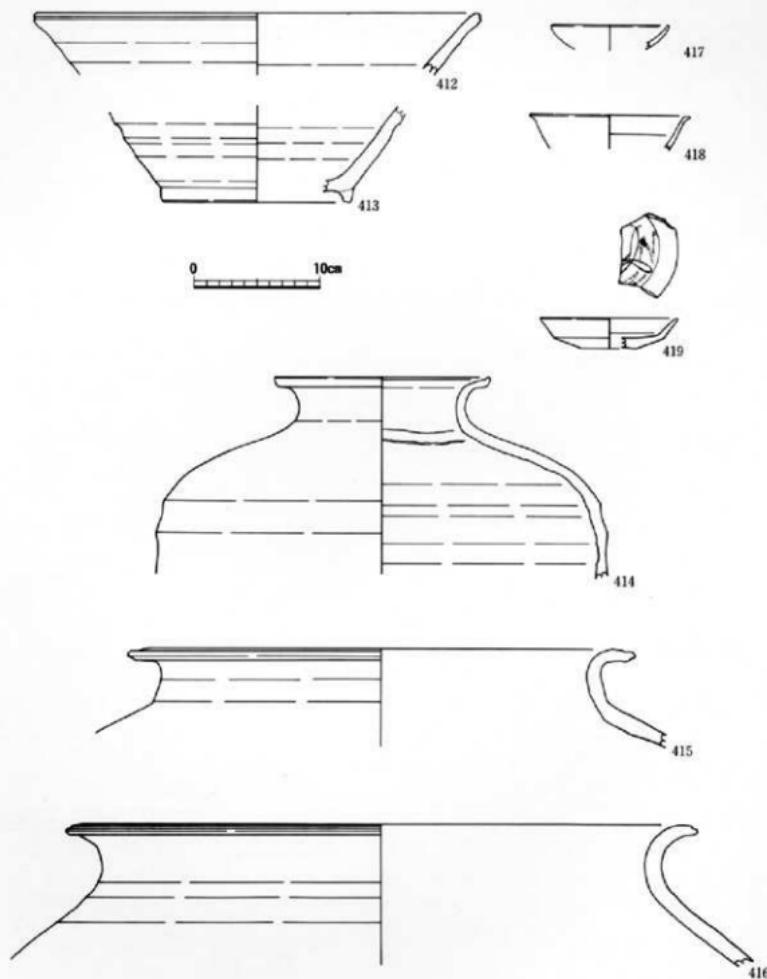
品号	器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	底面平・口・底	通鑑番号	出土地	図版	品号	器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	底面平・口・底	通鑑番号	出土地	図版
346	碗	(17.8)		(4.3)	2/12	S D214 99G SD02	美濃	362	碗			(8.6)		2/12	S D214 99G SD05	美濃	
347	碗	(12.6)		(3.3)	2/12	S D214 99G SD02	美濃	363	碗			(7.4)	(5.3)	3/12	S D214 99G SD05	美濃	
348	碗	(15.4)		(4.3)	4/12	S D214 99G SD02	美濃	364	碗			(6.8)	(4.8)	4/12	S D214 99G SD06	美濃	
349	碗	(12.6)		(3.3)	2/12	S D214 99G SD02	美濃	365	碗			(6.0)	(3.2)	12/12	S D214 99G SD05	美濃	
350	碗	(12.0)		(2.4)	2/12	S D214 99G SD02	美濃	366	碗			(7.4)	(1.9)	4/12	S D214 99G SD06	美濃	
351	碗	(11.4)		(2.5)	1/12	S D214 99G SD02	美濃	367	碗			(5.4)	(1.5)	7/12	S D214 99G SD05	美濃	
352	碗	(7.6)	(2.6)		3/12	S D214 99G SD02	美濃	368	碗			(6.8)	(2.0)	5/12	S D214 99G SD02	美濃	
353	碗	(7.6)	(2.4)		4/12	S D214 99G SD02	美濃	369	碗			(6.4)	(2.0)	4/12	S D214 99G SD02	美濃	
354	碗	(8.2)	(3.1)		4/12	S D214 99G SD02	美濃	370	碗			(6.0)	(1.4)	3/12	S D214 99G SD02	美濃	
355	碗	(6.0)	(3.2)		4/12	S D214 99G SD02	美濃	371	碗			(5.6)	(1.9)	3/12	S D214 99G SD02	美濃	
356	碗	(6.8)	(2.4)		6/12	S D214 99G SD02	尾北	372	碗			(4.6)	(2.4)	4/12	S D214 99G SD02	美濃	
357	碗	(6.1)	(5.0)		4/12	S D214 99G SD02	美濃	373	長形瓶			(5.9)			S D214 99G SD02	美濃	
358	碗	(6.8)	(2.3)		9/12	S D214 99G SD02	美濃	374	長形瓶			(8.6)	(2.4)	5/12	S D214 99G SD02	美濃	
359	碗	(6.6)	(2.1)		7/12	S D214 99G SD02	美濃	375	長形瓶			(9.0)	(1.5)	1/12	S D214 99G SD02	美濃	14
360	碗	(6.2)	(3.8)		2/12	S D214 99G SD02	美濃	376	長形瓶			(10.9)	(2.12)		S D214 99G SD02	美濃	
361	碗	(8.9)	(4.3)		4/12	S D214 99G SD05	美濃	377	瓶			(7.0)			S D214 99G SD05	美濃	

第69図 溝出土遺物実測図(6) : S D214 (1)



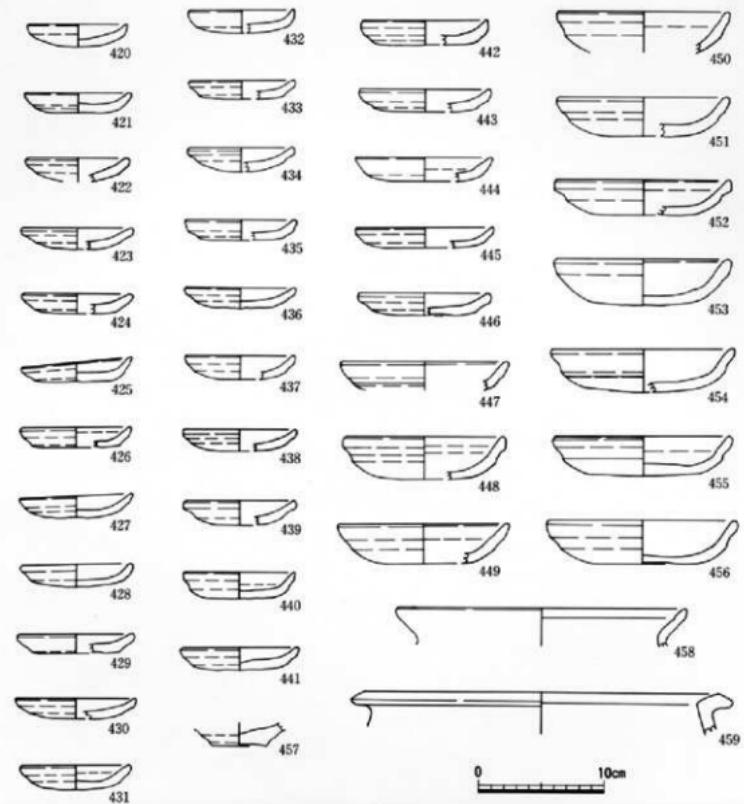
番号	器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	残存率(%)	口幅(cm)	腹幅(cm)	側面形	縦断形	底面形	縦断標番号	横断標番号	地		
378 梶	(17.2)	8.0	4.9	3/12	3/12	SD214	SD002	尾 弧	395 梶	(14.8)	7.0	5.0	8/12 : 12/12	SD214	SD002 尾 弧
379 梶	(16.9)	8.0	5.1	2/12	9/12	SD214	SD002	尾 弧	396 梶	(15.8)	7.0	5.8	1/12 : 12/12	SD214	SD002 尾 弧
380 梶	(14.6)	7.4	5.1~4.9	9/12	12/12	SD214	SD002	尾 弧	397 梶	(14.8)	5.8	4.7	1/12 : 12/12	SD214	SD002 尾 弧
381 梶	(15.6)	7.4	5.3	2/12	4/12	SD214	SD002	尾 弧	398 梶	(14.9)	6.9	5.6	1/12 : 12/12	SD214	SD002 尾 弧
382 梶	(15.8)	7.4	5.4	5/12	5/12	SD214	SD002	尾 弧	399 片口梶	(16.2)	(3.9)	8/12	SD214	SD002 東 潤	
383 梶	(15.3)	6.8	5.5	7/12	12/12	SD214	SD002	東 潤	400 小皿	(9.0)	(5.0)	(2.0)	3/12 : 5/12	SD214	SD002 尾 弧
384 梶	(16.4)	(7.2)	5.9	11/12	1/12	SD214	SD002	尾 弧	401 小皿	7.8	4.4	2.0	11/12 : 13/12	SD214	SD002 尾 弧
385 梶	(15.4)	6.2	5.2	4/12	12/12	SD214	SD002	尾 弧	402 小皿	8.2	4.3	2.5	12/12 : 12/12	SD214	SD002 尾 弧
386 梶	(15.2)	7.0	5.3	5/12	4/12	SD214	SD002	尾 弧	403 小皿	8.2	4.8	2.3	11/12 : 12/12	SD214	SD002 尾 弧
387 梶	(15.8)	6.8	5.4	5/12	9/12	SD214	SD002	尾 弧	404 小皿	(7.6)	(5.2)	1.6	5/12 : 6/12	SD214	SD002 尾 弧
388 梶	(14.5)	6.6	5.3	1/12	6/12	SD214	SD002	東 潤	405 小皿	(8.2)	(4.2)	1.7	3/12 : 4/12	SD214	SD002 東 潤
389 梶	14.7	6.4	5.3	11/12	12/12	SD214	SD002	尾 弧	406 小皿	8.4	4.0	1.9	11/12 : 12/12	SD214	SD002 尾 弧
390 梶	(14.0)	5.6	5.1	5/12	9/12	SD214	SD002	尾 弧	407 小皿	8.3	4.3	2.6	12/12 : 12/12	SD214	SD002 尾 弧
391 梶	(15.4)	7.8	4.3	1/12	12/12	SD214	SD002	尾 弧	408 小皿	(8.2)	4.7	2.2	4/12 : 7/12	SD214	SD002 尾 弧
392 梶	(15.0)	6.8	4.5	3/12	12/12	SD214	SD002	尾 弧	409 小皿	7.7	3.6	2.3	12/12 : 12/12	SD214	SD002 尾 弧
393 梶	(16.4)	7.4	5.2	2/12	4/12	SD214	SD002	尾 弧	410 小皿	(7.6)	(3.4)	2.3	5/12 : 6/12	SD214	SD002 東 潤
394 梶	(15.2)	7.2	4.4	4/12	12/12	SD214	SD002	尾 弧	411 小皿	(8.2)	3.8	2.1	4/12 : 7/12	SD214	SD002 東 潤

第70図 溝出土遺物実測図(7) : SD214 (2)



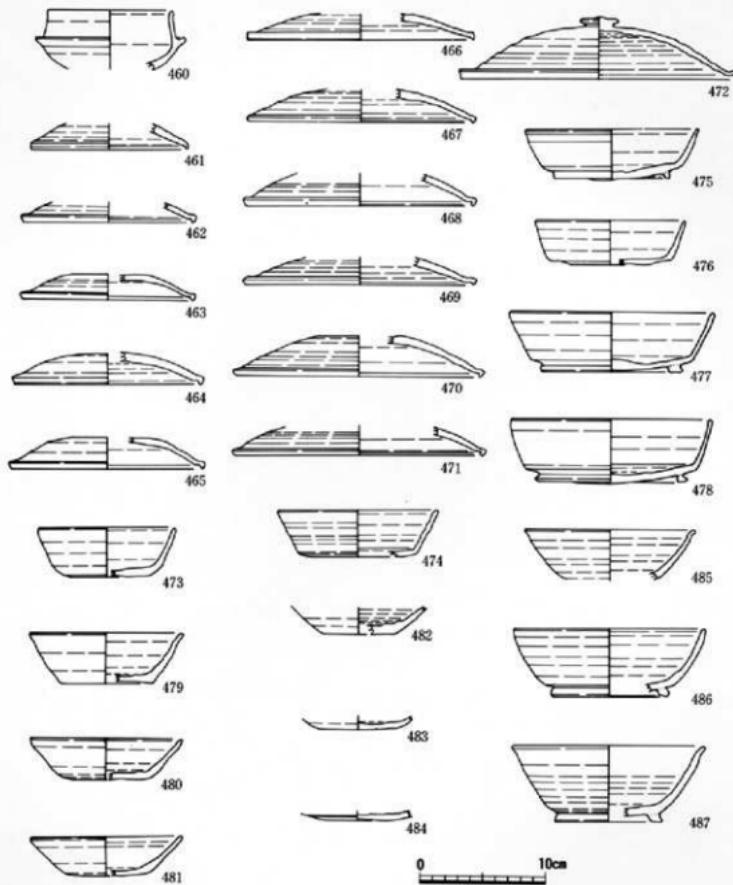
番号	器種	口径(cm)	底径(cm)	厚さ(cm)	残存率(%)	測定番号	出土地	番号	器種	口径(cm)	底径(cm)	厚さ(cm)	残存率(%)	測定番号	出土地
412	片口鉢	(35.2)	(4.9)	1/12		SD214/90G SD02	堺 街	416	壺	(47.4)	(11.6)	1/12		SD214/93G SD02	常 港
413	片口鉢	(14.8)	(7.6)	1/2/12		SD214/90G SD02	堺 鉢	417	白磁盤	9.4	(1.8)	2/12		SD214/93G SD05	中 国
414	甕	(17.0)	(5.6)	1/12		SD214/90G SD02	常 港	418	白磁碗	12.6	(2.7)	1/12		SD214/93G SD02	中 国
415	壺	(36.4)	(7.8)	3/12		SD214/90G SD02	常 港	419	青磁盤	10.6	4.4	3/12		SD214/93G SD02	中 国

第71図 满出土遺物実測図(8) : SD214(3)



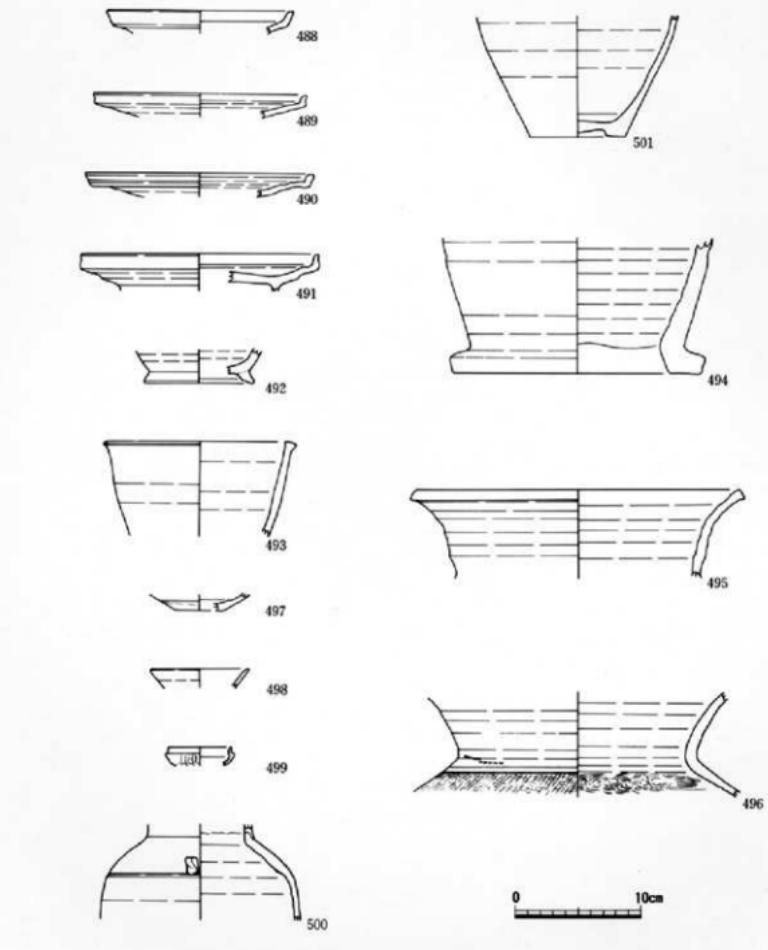
番号	器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	残存率・口・底	通鑑番号	產地	測量	番号	器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	残存率・口・底	通鑑番号	產地	測量				
420	盤	(7.8)	(1.8)	3/12	SD214 90G SD02	土師質	640	盤	(8.8)	(2.1)	2/12	SD214 90G SD02	土師質	641	盤	(9.0)	(1.6)	4/12	SD214 90G SD02	土師質	642
421	盤	(8.2)	(1.6)	3/12	SD214 90G SD02	土師質	641	盤	(9.0)	(1.6)	4/12	SD214 90G SD02	土師質	643	盤	(9.9)	(1.9)	4/12	SD214 90G SD02	土師質	644
422	盤	7.8	(1.9)	12/12	SD214 90G SD02	土師質	642	盤	(9.9)	(1.6)	4/12	SD214 90G SD02	土師質	643	盤	(10.2)	(1.6)	1/12	SD214 90G SD02	土師質	645
423	盤	(8.7)	(1.65)	2/12	SD214 90G SD02	土師質	644	盤	(10.0)	(1.6)	2/12	SD214 90G SD02	土師質	645	盤	(10.0)	(1.6)	2/12	SD214 90G SD02	土師質	646
424	盤	(8.5)	(1.6)	3/12	SD214 90G SD02	土師質	644	盤	(10.0)	(1.6)	2/12	SD214 90G SD02	土師質	646	盤	(10.2)	(1.6)	2/12	SD214 90G SD02	土師質	647
425	盤	(8.8)	2.0	9/12	SD214 90G SD02	土師質	645	盤	(10.0)	(1.6)	2/12	SD214 90G SD02	土師質	647	盤	(10.2)	(2.0)	4/12	SD214 90G SD02	土師質	648
426	盤	(8.6)	(1.6)	6/12	SD214 90G SD02	土師質	646	盤	(10.2)	(1.6)	2/12	SD214 90G SD02	土師質	648	盤	(10.4)	(3.4)	1/12	SD214 90G SD02	土師質	649
427	盤	(8.7)	2.0	1/12	SD214 90G SD02	土師質	647	盤	(10.2)	(2.0)	4/12	SD214 90G SD02	土師質	649	盤	(10.6)	(3.1)	1/12	SD214 90G SD02	土師質	650
428	盤	(8.6)	1.9	10/12	SD214 90G SD02	土師質	648	盤	(12.4)	(3.4)	1/12	SD214 90G SD02	土師質	650	盤	(13.6)	(3.0)	3/12	SD214 90G SD02	土師質	651
429	盤	(9.0)	(1.5)	8/12	SD214 90G SD02	土師質	649	盤	(12.6)	(3.1)	1/12	SD214 90G SD02	土師質	651	盤	(13.6)	(3.1)	2/12	SD214 90G SD02	土師質	652
430	盤	(9.4)	(1.6)	2/12	SD214 90G SD02	土師質	650	盤	(13.6)	(3.0)	3/12	SD214 90G SD02	土師質	652	盤	(13.6)	(3.0)	2/12	SD214 90G SD02	土師質	653
431	盤	(8.6)	(1.95)	2/12	SD214 90G SD02	土師質	651	盤	(13.6)	(3.1)	2/12	SD214 90G SD02	土師質	653	盤	(13.6)	(3.7)	3/12	SD214 90G SD02	土師質	654
432	盤	(8.2)	(1.8)	5/12	SD214 90G SD02	土師質	652	盤	(13.6)	(2.0)	4/12	SD214 90G SD02	土師質	654	盤	(14.6)	(3.4)	3/12	SD214 90G SD02	土師質	655
433	盤	(8.4)	(1.5)	5/12	SD214 90G SD02	土師質	653	盤	(13.6)	(3.7)	3/12	SD214 90G SD02	土師質	655	盤	(13.6)	(3.7)	3/12	SD214 90G SD02	土師質	656
434	盤	(8.2)	(1.9)	7/12	SD214 90G SD02	土師質	654	盤	(14.6)	(3.4)	3/12	SD214 90G SD02	土師質	656	盤	(13.6)	(3.7)	3/12	SD214 90G SD02	土師質	657
435	盤	(8.4)	(1.6)	4/12	SD214 90G SD02	土師質	655	盤	(13.6)	(3.7)	3/12	SD214 90G SD02	土師質	657	盤	(14.6)	(4.4)	1/12	SD214 90G SD02	土師質	658
436	盤	(8.6)	(1.7)	4/12	SD214 90G SD02	土師質	656	盤	(14.6)	(3.5)	7/12	SD214 90G SD02	土師質	658	盤	(14.6)	(3.5)	7/12	SD214 90G SD02	土師質	659
437	盤	(8.4)	(1.9)	7/12	SD214 90G SD02	土師質	657	盤	(14.6)	(4.4)	1/12	SD214 90G SD02	土師質	659	盤	(22.6)	(3.1)	2/12	SD214 90G SD02	伊勢型	660
438	盤	(8.8)	(1.7)	2/12	SD214 90G SD02	土師質	658	盤	(22.6)	(3.0)	1/12	SD214 90G SD02	伊勢型	660	盤	(28.0)	(3.0)	1/12	SD214 90G SD02	通型	661

第72図 滝出土地質実測図(9) : SD214(4)



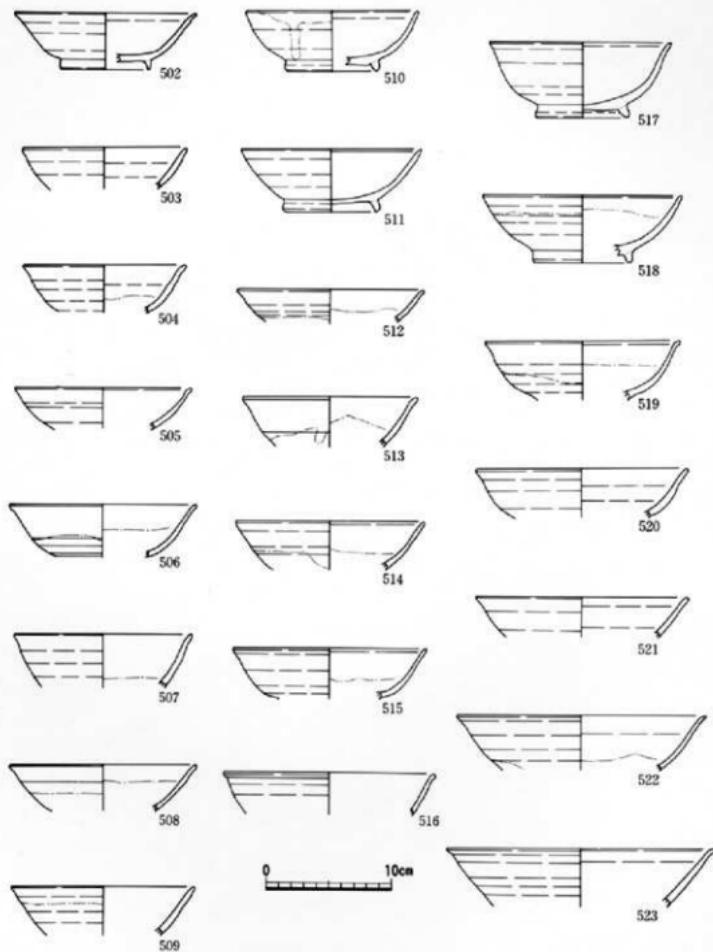
号	器種	口径(cm)	底径(cm)	厚さ(cm)	残存率(%)	口底	遺物番号	出土地	地	国別
460	舟身	(12.0)		(4.3)	2/12	±	SD01 93J SD08	東	段	
461	舟頭	(12.4)		(2.0)	3/12	±	SD01 93I SD03 美濃南			
462	舟底	(13.4)		(1.6)	2/12	±	SD01 92H SD43 美濃南			
463	舟腹	(13.6)		(2.0)	3/12	±	SD01 95A SD04 美濃南			
464	舟腹	(14.0)		(2.5)	6/12	±	SD01 95A SD01 美濃南			
465	舟腹	(15.2)		(2.5)	6/12	±	SD01 95Aa SD01 美濃南			
466	舟腹	(18.0)		(2.1)	2/12	±	SD01 95Aa SD01 美濃南			
467	舟腹	(17.9)		(2.6)	2/12	±	SD01 95Aa SD01 美濃南			
468	舟腹	(18.0)		(2.6)	3/12	±	SD01 95Aa SD01 美濃南			
469	舟腹	(18.2)		(2.15)	3/12	±	SD01 95Aa SD01 美濃南			
470	舟腹	(19.6)		(3.2)	3/12	±	SD01 95Aa SD01 美濃南			
471	舟腹	(19.6)		(2.2)	2/12	±	SD01 95Aa SD01 美濃南			
472	舟腹	(22.4)		4.9	6/12	±	SD01 93J SD06 東 段			
473	舟 A	(11.0)	(7.8)	3.9	1/12	±	SD01 93J SD06 美濃南			
474	舟 A	(12.7)	(7.0)	(3.7)	4/12	±	SD01 93Ca SD03 東 段			
475	舟 B	(13.4)	(9.2)	3.9	5/12	±	SD02 92B SD43 美濃南			
476	舟 B	(14.0)	(7.9)	4.1	2/12	±	SD02 92B SD43 美濃南			
477	舟 B	(16.3)	(11.2)	4.8	6/12	±	SD02 92B SD43 美濃南			
478	舟 B	(16.0)	(11.4)	5.1	3/12	±	SD01 93J SD06 美濃南			
479	舟 A	(12.2)	(7.4)	(4.0)	2/12	±	SD01 93Ca SD03 水 沿			
480	舟 A	(12.0)	(5.0)	3.3	4/12	±	SD01 95Aa SD01 美濃南			
481	舟 A	(12.6)	(4.8)	3.1	2/12	±	SD01 95Aa SD01 美濃南			
482	舟 A	(6.0)	(2.1)		3/12	±	SD01 95Aa SD01 美濃南			
483	舟 A	(5.0)	(1.1)		5/12	±	SD01 95Aa SD01 美濃南			
484	舟 A	(5.0)	(0.8)		5/12	±	SD01 95Aa SD01 美濃南			
485	舟 B	(13.4)		(4.1)	3/12	±	SD01 93Ca SD03 東 段			
486	舟 B	(15.0)	(9.2)	5.4	2/12	±	SD01 92Ca SD03 水 沿			
487	舟 B	(15.4)	(8.6)	6	5/12	±	SD01 95Aa SD01 水 沿			

第73図 大溝出土遺物実測図(1): SD01-02(1)



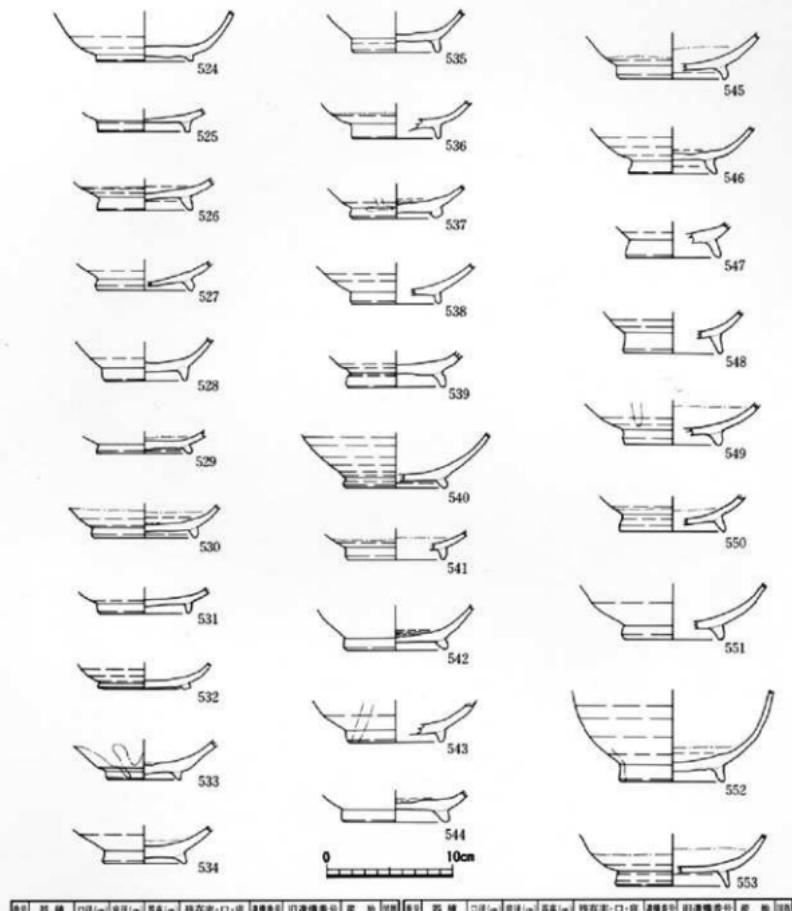
番号	器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	残存率(%)	E3・底	通鑑番号	出土地	図版
488	盤	(15.0)	(1.8)	1/12	SD01 95As SD01	東須磨			
489	盤	(16.9)	(1.8)	2/12	SD02 92H SD43	東・段			
490	盤	(18.0)	(1.9)	1/12	SD02 92H SD43	東・段			
491	盤	(18.8)	2.35		SD01 92Cb SD03	東須磨			
492	長脚瓶	(8.4)	(2.6)	3/12	SD01 95As SD02	東須磨			
493	短脚瓶	(15.4)	(7.5)	1/12	SD01 95As SD01	東須磨			
494	瓶	(18.6)	(10.6)		SD02 92H SD43	東須磨			
495	甕	(25.8)		(7.0)	4/12	SD02 92H SD45	東須磨		
496	甕			(8.3)		SD01 93I SD03	東須磨		
497	白磁盤			4.0	(1.2)	1/12	SD02 92H SD42	中・西	
498	白磁盤			8.0	(1.5)	1/12	SD02 92H SD43	中・西	
499	前竹筒子			5.1	(1.4)	1/12	SD02 92H SD43	中・西	
500	EMRSII甕			(7.6)		SD02 92H SD43	中・西		
501	甕			7.6	(9.6)		SD02 92H SD43	明・昭和	

第74図 大溝出土遺物実測図(2): SD01-02(2)



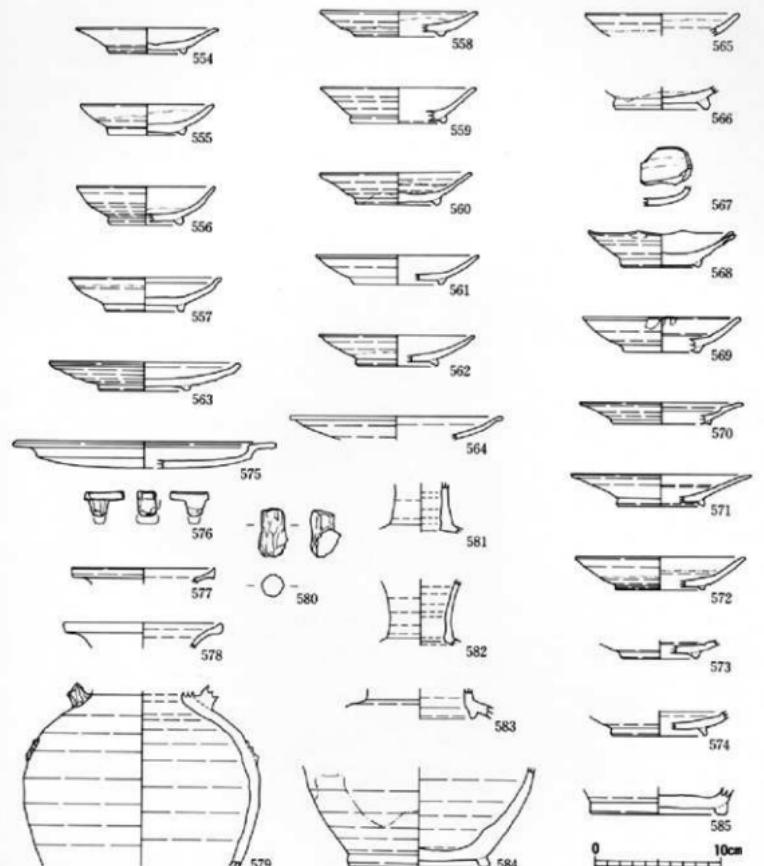
品番	器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	残存率・口・底	出土地名	山地	地質	品番	器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	残存率・口・底	出土地名	山地	地質
502 瓢	(14.6) (7.6) (4.5) 2/12	5/12	SD01 99J SD04	猪 戎	513 瓢	(13.6) (8.9) 1/12	SD02 92H SD43	秀 潟									
503 瓢	(17.0) (8.2) 1/12	SD01 95Aa SD04	猪 戎	514 瓢	(15.6) (8.9) 3/12	SD02 92H SD43	秀 潺										
504 瓢	(12.8) (3.8) 4/12	SD02 92H SD43	美 潺	515 瓢	(15.4) (4.0) 2/12	SD02 92H SD43	秀 潺										
505 瓢	(14.0) (3.2) 2/12	SD02 92H SD43	猪 戎	516 瓢	(16.8) (3.3) 1/13	SD02 92H SD43	美 潺										
506 瓢	(14.8) (4.2) 1/12	SD02 92H SD43	美 潺	517 瓢	(14.3) (7.0) 6.0 4/12	SD02 92H SD43	秀 潺	15									
507 瓢	(14.0) (4.3) 2/12	SD02 92H SD43	尾 北	518 瓢	(16.9) (7.6) (5.4) 2/12	SD02 92H SD43	秀 潺										
508 瓢	(14.0) (3.6) 2/12	SD02 92H SD43	美 潺	519 瓢	(15.6) (4.7) 3/12	SD02 92H SD43	秀 潺										
509 瓢	(14.4) (3.8) 2/12	SD02 92H SD43	美 潺	520 瓢	(17.0) (8.9) 1/12	SD01 95Aa SD01	秀 潺										
510 瓢	(13.6) (7.6) 4.8 9/12	5/12	SD02 92H SD43	美 潺	521 瓢	(17.0) (8.2) 1/12	SD01 95Aa SD01	秀 潺									
511 瓢	(14.2) 7.0 5.0 3/12	12/12	SD02 92H SD43	美 潺	522 瓢	(19.6) (5.3) 1/12	SD01 95Aa SD01	秀 潺									
512 瓢	(14.0) (2.6) 3/12	SD02 92H SD43	美 潺	523 瓢	(21.4) (4.6) 2/12	SD01 93I SD03	美 潺										

第75図 大溝出土遺物実測図(3): SD01-02(3)



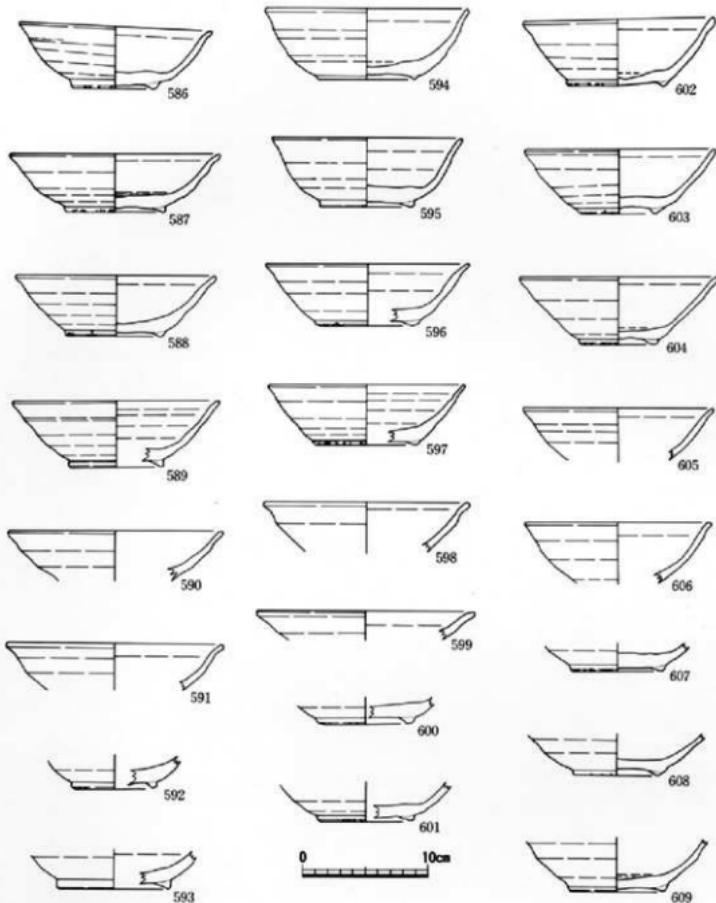
番号	器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	残存率・口・底	連鎖番号	底	埋没	番号	器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	残存率・口・底	連鎖番号	底	埋没
524	椀	17.85	(4.9)	4/12	SD01 931 SD03	張	絞		539	椀	(7.4)	(2.6)	5/12	SD02 92H SD43	美	通	
525	椀	17.22	(3.8)	5/12	SD01 931 SD03	張	絞		540	椀	(7.7)	(4.4)	6/12	SD02 92H SD43	美	通	
526	椀	(7.4)	(2.5)	4/12	SD01 931 SD03	美	通		541	椀	(7.8)	(2.3)	3/12	SD02 92H SD43	美	通	
527	椀	(7.4)	(2.1)	6/12	SD01 93G SD01	張	絞		542	椀	(7.8)	(3.5)	4/12	SD02 92H SD43	美	通	
528	椀	6.4	(3.2)	7/12	SD01 93J SD26	尾	北		543	椀	(7.4)	(3.3)	4/12	SD02 92H SD43	美	通	
529	椀	(7.2)	(3.8)	6/12	SD01 93G SD01	美	通		544	椀	(8.0)	(2.5)	4/12	SD02 92H SD43	美	通	
530	椀	8.2	(2.2)	6/12	SD01 92C SD03	尾	北		545	椀	(8.3)	(3.7)	5/12	SD02 92H SD43	尾	北	
531	椀	(7.0)	(2.6)	5/12	SD01 93J SD03	張	絞		546	椀	(6.8)	(3.7)	11/12	SD02 92H SD43	美	通	
532	椀	(6.0)	(2.1)	6/12	SD02 92B SD43	美	通		547	椀	(7.0)	(2.7)	2/12	SD02 92H SD43	美	通	
533	椀	(5.8)	(3.1)	5/12	SD02 92H SD43	美	通		548	椀	(7.8)	(3.4)	3/12	SD02 92H SD43	美	通	
534	椀	6.4	(3.0)	12/12	SD02 92H SD43	美	通		549	椀	(7.6)	(3.4)	4/12	SD02 92H SD43	美	通	
535	椀	7.6	(3.4)	12/12	SD02 92H SD43	美	通		550	椀	(8.4)	(2.9)	4/12	SD02 92H SD43	美	通	
536	椀	(7.0)	(3.0)	5/12	SD02 92H SD43	美	通		551	深碗	(7.8)	(4.4)	5/12	SD02 92H SD43	美	通	
537	椀	6.5	(2.4)	12/12	SD02 92H SD43	美	通		552	深碗	8.0	(7.2)	12/12	SD02 92H SD43	美	通	
538	椀	(6.8)	(3.2)	12/12	SD02 92H SD43	美	通		553	深碗	(8.8)	(4.2)	3/12	SD02 92H SD43	美	通	

第76図 大溝出土遺物実測図(4): SD01-02(4)



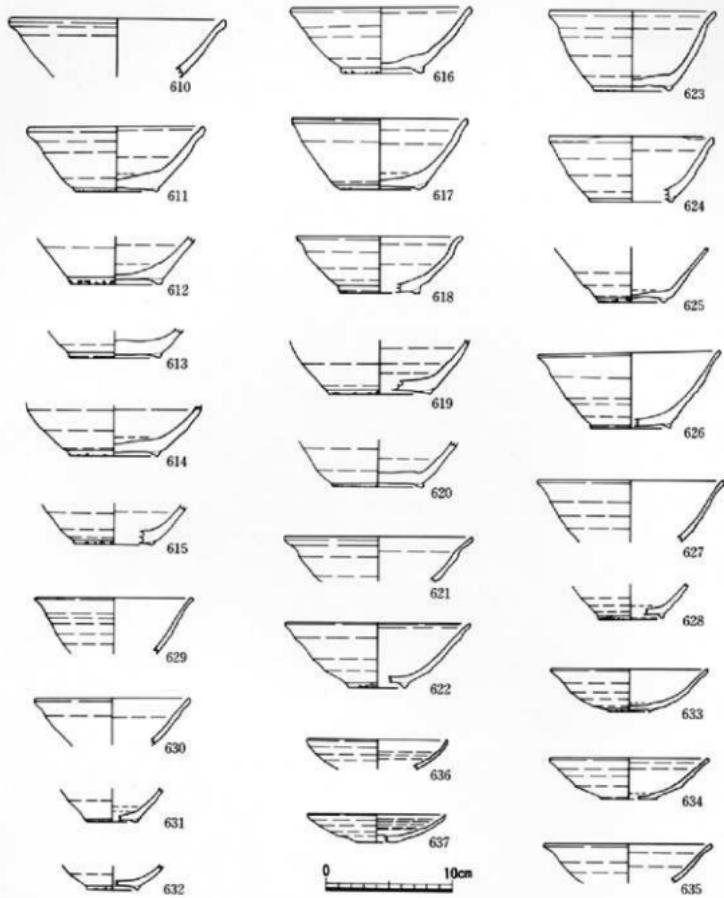
番号	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	口底 (cm)	底面 (cm)	記述	出土地名	地圖	図版
554	鉢	(11.0)	6.0	2.0	2/12	7/12	SD01 92H SD43 美濃	570段階	(12.6) (7.8)	1.7
555	鉢	(10.5)	6.0	2.4	2/12	3/12	SD02 92H SD43 美濃	571段階	(14.4) (6.8)	2.5
556	鉢	(10.0) (5.5)	3.1	3/12	6/12	SD02 92H SD43 美濃	572段階	(13.2) (6.8)	3.1	
557	折縁鉢	(12.2) (6.2)	2.7	1/12	4/12	SD02 92H SD43 美濃	573段階	(5.8) (1.5)	6/12	
558	鉢	(12.2) (6.8)	2.0	1/12	3/12	SD02 92H SD43 美濃	574段階	(7.4) (2.0)	1/12	
559	鉢	(12.0) (7.4)	2.9	2/12	3/12	SD02 92H SD43 美濃	575段階	(20.2) (6.0)	3/12	
560	鉢	11.8	6.5	1.6	7/12	12/12	SD02 92H SD43 美濃	576三足盤	(20.2) (6.0)	4/12
561	鉢	(12.7) (7.6)	2.3	2/12	2/12	SD01 95A SD01 美濃	577三口瓶	(11.2)	(1.8)	2/12
562	鉢	(12.4) (6.2)	2.4	1/12	3/12	SD01 95C SD01 尾北	578三口瓶			SD02 92H SD29 美濃
563	鉢	14.8	7.2	2.3	12/12	12/12	SD02 92H SD43 尾北	579羽判縁鉢		SD02 92H SD43 尾北
564	鉢	(16.0)	(1.9)	2/12	2/12	SD01 93I SD03 尾北	580羽判縁鉢			SD02 92H SD43 尾北
565	鉢	(12.0)	(1.8)	1/12	SD01 95A SD01 美濃	581直口瓶				SD02 93I SD03 尾北
566	鉢	(7.2)	(1.8)	1/12	SD01 95A SD01 美濃	582長颈瓶				SD02 92H SD43 美濃
567	耳皿				SD02 92H SD43 美濃	583U口瓶				SD02 92H SD43 美濃
568	輪花皿	(12.0)	6.2	2.8	4/12	11/12	SD02 92H SD43 美濃	584長颈瓶	10.8 (8.0)	12/12
569	輪花皿	(12.4)	(6.0)	2.7	2/12	1/12	SD01 93I SD06 美濃	585瓶	10.9 (2.2)	9/12

第77図 大溝出土遺物実測図(5): SD01-02(5)



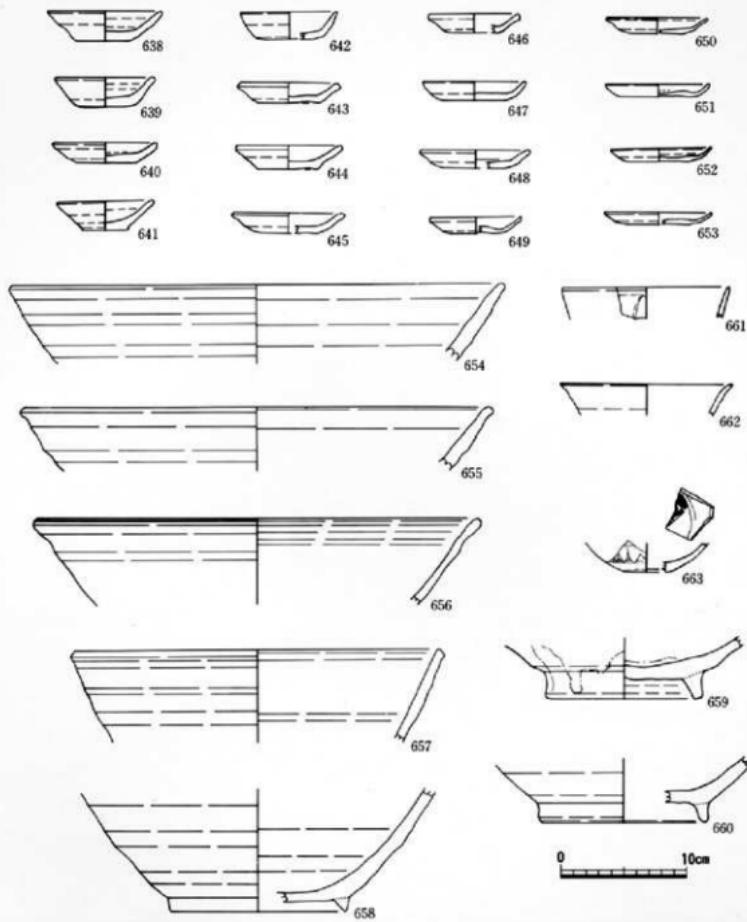
番号	器種	口径 (m)	底径 (m)	器高 (m)	残存半・口・底	遺構番号	施設番号	地盤	回数
586	碗	15.2	6.6	5.2	8/12 : 9/12	SD02	92H SD43	尾張	15
587	碗	(16.6)	7.8	4.6	5/12 : 12/12	SD02	92H SD43	尾張	15
588	碗	(15.8)	7.6	4.8	5/12 : 12/12	SD02	92H SD43	尾張	15
589	碗	(16.3)	(7.5)	5.2	2/12 : 3/12	SD02	92H SD43	尾張	15
590	碗	(17.0)	(3.9)	2/12 :	SD02 92G SD01	尾張			
591	碗	(17.1)	(4.7)	3/12 :	SD02 92G SD01	尾張			
592	碗	(6.2)	(2.6)	3/12	SD02 92G SD01	尾張			
593	碗	(6.8)	(3.1)	3/12	SD02 92A SD01	尾張			
594	碗	(16.0)	7.6	5.1	4/12 :	SD02 92H SD43	尾張		
595	碗	(15.0)	7.4	5.5	2/12 : 10/12	SD02	92H SD43	尾張	
596	碗	(16.0)	(7.2)	4.9	1/12 : 5/12	SD02	92H SD43	尾張	
597	碗	(15.4)	(6.0)	4.7	4/12 :	SD02	92H SD43	尾張	
598	碗	(16.0)	(7.2)	4.8	1/12 : 5/12	SD02	92H SD43	尾張	
599	碗	(17.2)	(2.3)	2/12 :	SD01 92G SD01	尾張			
600	碗	(6.4)	(2.1)	2/12 :	SD01 92G SD01	尾張			
601	碗	(7.2)	(3.1)	2/12 :	SD02 92A SD43	尾張			
602	碗	(15.1)	7.7	5.6	8/12 : 12/12	SD02 92A SD43	尾張	15	
603	碗	(14.8)	5.9	5.1	8/12 : 12/12	SD02 92A SD43	尾張	16	
604	碗	(15.7)	6.0	5.3	1/12 : 12/12	SD02 92H SD43	尾張		
605	碗	(15.0)	(4.1)	4/12 :	SD02 92H SD43	尾張			
606	碗	(14.8)	(4.8)	2/12 :	SD02 92H SD43	尾張			
607	碗	(7.2)	(2.2)	2/12 :	SD02 92H SD43	尾張			
608	碗	(6.8)	(3.4)	2/12 :	SD02 92H SD43	尾張			
609	碗	(7.4)	(4.2)	12/12	SD02 92H SD43	尾張			

第78図 大溝出土遺物実測図（6）：SD01-02（6）



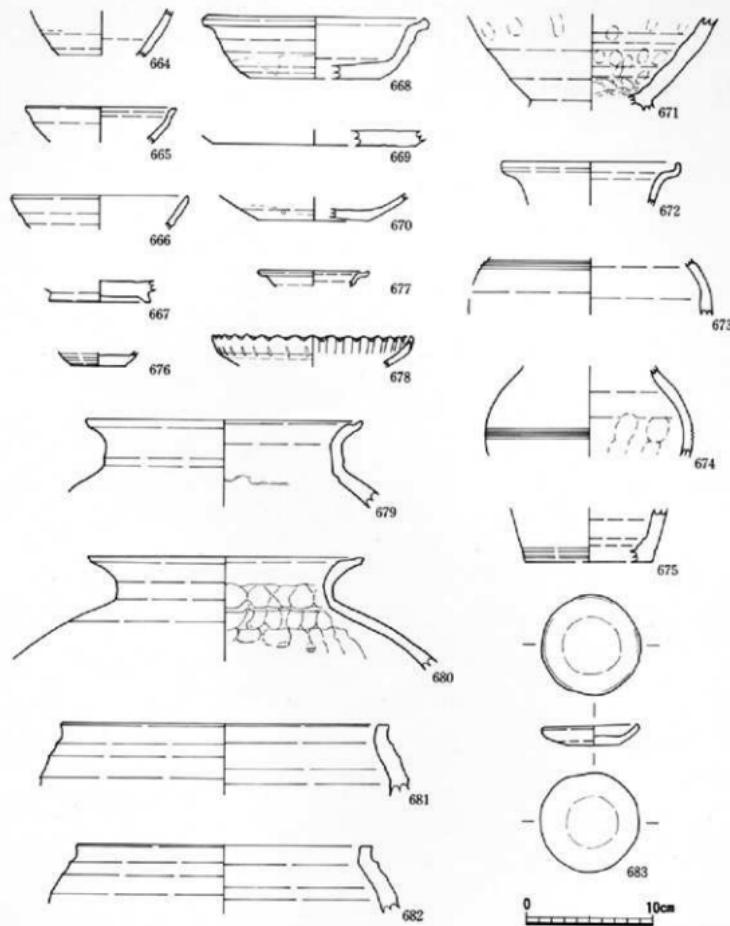
番号	器種	口径(cm)	底径(cm)	厚さ(cm)	保存状・口・底	遺物名	旧通鑑番号	施 地	地質	番号	器種	口径(cm)	底径(cm)	厚さ(cm)	保存状・口・底	遺物名	旧通鑑番号	施 地	地質		
610	碗	(17.6)	(4.4)	1/12	：	SD01	99G	SD01	尾 伊		616	碗	(12.5)	(3.5)	2/12	1/12	SD02	92H	SD43	尾 伊	
611	碗	13.9	6.6	5.2	2/12	12/12	SD01	99G	SD01	尾 伊							SD02	92H	SD43	東 滝	
612	碗	(7.0)	(3.8)	4/12	SD01	99G	SD01	尾 伊									SD02	92H	SD43	東 滝	
613	碗	7.0	(2.3)	12/12	SD01	99G	SD01	尾 伊									SD02	92H	SD43	東 滝	
614	碗	(7.0)	(4.1)	3/12	SD01	99G	SD01	尾 伊									SD02	92H	SD43	東 滝	
615	碗	(7.0)	(3.3)	2/12	SD01	99G	SD01	尾 伊									SD02	92H	SD43	東 滝	
616	碗	14.1	6.0	5.5	7/12	12/12	SD02	92H	SD43	尾 伊	16						SD02	92H	SD43	東 滝	
617	碗	(13.3)	6.2	5.6	2/12	11/12	SD02	95H	SD43	尾 伊							SD02	92H	SD43	東 滝	
618	碗	(13.2)	(6.2)	4.5	4/12	2/12	SD02	92H	SD43	尾 伊							SD02	92H	SD43	東 滝	
619	碗	(8.0)	(4.3)	3/12	SD02	92H	SD43	尾 伊									SD02	92H	SD43	東 滝	
620	碗	7.0	(3.4)	2/12	SD02	92H	SD43	尾 伊									SD02	92H	SD43	東 滝	
621	碗	(15.6)	3.6	2/12	：	SD01	95A	SD01	東 滝								SD01	95J	SD26	東 滝	
622	碗	(14.6)	4.6	5.1	3/12	SD01	95A	SD01	東 滝								SD01	95A	SD01	東 滝	
623	碗	(13.1)	(5.8)	6.4	2/12	6/12	SD02	92H	SD43	東 滝							SD01	95A	SD01	東 滝	
624	碗	(13.0)	(6.4)	5.2	2/12	1/12	SD02	92H	SD43	尾 伊							SD01	95J	SD26	東 滝	
625	碗	(5.2)	(4.4)	2/12	1/12	SD02	92H	SD43	尾 伊								SD01	95J	SD26	東 滝	
626	碗	14.3	6.2	6.2	9/12	6/12	SD01	85J	SD03	東 滝	16						SD01	85J	SD03	東 滝	
627	碗	(4.9)	(2.8)	2/12	SD01	85J	SD03	東 滝									SD01	85J	SD03	東 滝	
628	碗	(12.3)	(4.4)	2/12	SD01	85J	SD03	東 滝									SD01	85J	SD03	東 滝	
629	碗	(12.1)	(3.8)	3/12	SD01	85J	SD03	東 滝									SD01	85J	SD03	東 滝	
630	碗	(4.6)	(2.7)	5/12	SD01	85J	SD03	東 滝									SD01	85J	SD03	東 滝	
631	碗	(4.6)	(2.7)	5/12	SD01	85J	SD03	東 滝									SD01	85J	SD03	東 滝	
632	碗	(4.6)	(2.6)	5/12	SD01	85J	SD03	東 滝									SD01	85J	SD03	東 滝	
633	碗	(12.2)	(3.2)	3/12	SD02	92H	SD43	尾 伊									SD02	92H	SD43	東 滝	
634	碗	(12.4)	4.4	3.3	3/12	7/12	SD01	95A	SD01	東 滝							SD01	95A	SD01	東 滝	
635	碗	(13.2)	(3.1)	2/12	SD01	95A	SD01	東 滝									SD01	95A	SD01	東 滝	

第79図 大溝出土遺物実測図(7) : SD01-02 (7)



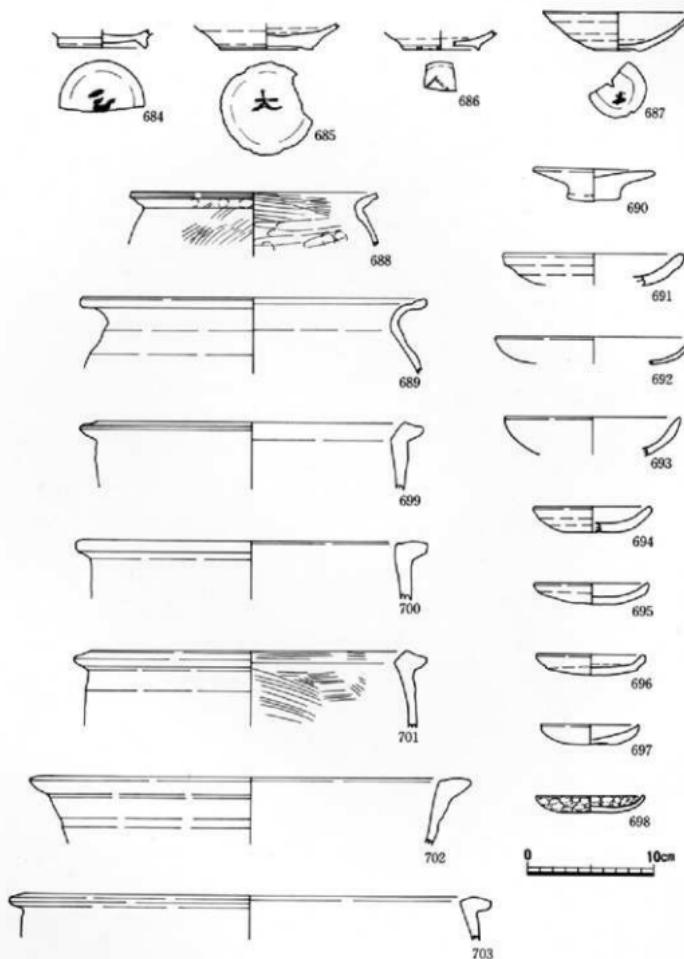
品名	器種	口径(m)	底径(m)	基高(m)	残存率・口・底	基底番号	旧遺物番号	產地	地圖
638 小皿	碗	9.0	4.1	2.4	12/12 : 12/12	SD02	92H SD43	尾 旗	
639 小皿	碗	(7.6)	(3.4)	2.3	3/12 : 9/12	SD02	92H SD43	尾 旗	
640 小皿	碗	8.2	4.9	1.8	8/12 : 10/12	SD02	92H SD43	尾 旗	
641 小皿	碗	7.4	3.4	2.6	11/12 : 12/12	SD02	92H SD43	尾 旗	
642 小皿	碗	9.6	3.8	2.2	1/12 : 5/12	SD01	93G SD01	尾 旗	
643 小皿	碗	(7.6)	(3.6)	2.3	3/12 : 4/12	SD01	93G SD01	尾 旗	
644 小皿	碗	8.3	4.7	1.9	5/12 : 12/12	SD01	93G SD01	尾 旗	
645 小皿	碗	(8.4)	(4.6)	1.8	2/12 : 5/12	SD01	95Aa SD01	尾 旗	
646 小皿	碗	(7.2)	(3.6)	1.5	3/12 : ?	SD01	93G SD01	尾 旗	
647 小皿	碗	(8.2)	(5.0)	1.5	4/12 : 6/12	SD01	93G SD01	尾 旗	
648 小皿	碗	(9.4)	(5.0)	1.5	2/12 : 3/12	SD01	92G SD01	東 道	
649 小皿	碗	(7.2)	(3.8)	1.3	2/12 : 7/12	SD02	92H SD43	東 道	
650 小皿	碗	(7.6)	(4.2)	1.8	3/12 : 3/12	SD02	92H SD43	東 道	
651 小皿	碗	(8.2)	(6.2)	1.0	3/12 : 5/12	SD02	92H SD43	東 道	
652 小皿	碗	8.0	4.9	1.15	7/12 : 12/12	SD01	95Aa SD01	東 道	
653 小皿	碗	(8.4)	(5.0)	1.0	3/12 : 4/12	SD01	95G SD01	東 道	
654 片口鉢	碗	(28.8)	(6.15)	1/12		SD01	92H SD09	尾 旗	
655 片口鉢	碗	(26.6)	(5.0)	1/12		SD01	92H SD09	尾 旗	
656 片口鉢	碗	(24.8)	(6.4)	2/12		SD02	92H SD43	尾 旗	
657 片口鉢	碗	(28.9)	(7.3)	1/12		SD02	92H SD43	尾 旗	
658 片口鉢	碗	(14.0)	(9.8)	6/12		SD02	92H SD43	尾 旗	
659 青花鉢	碗	(11.3)	(4.5)	3/12		SD01	92H SD20	尾 旗	
660 鉢	碗	(12.8)	(5.2)	3/12		SD01	92H SD20	尾 旗	
661 青花鉢	碗	(13.9)	(2.5)	1/12		SD01	94Aa SD01	中 國	
662 白花鉢	碗	(13.6)	(2.0)	2/12		SD01	95G SD01	中 國	
663 青花鉢	碗	(3.6)	(2.4)	4/12		SD01	95Aa SD01	中 國	

第304図 大溝出土遺物実測図(8) : S-D01-02(8)



番号	器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	残存率	口・底	遺物番号	施	地	図版	番号	器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	残存率	口・底	遺物番号	施	地	図版	
664	器										674	器子										
665	天目茶碗	(3.55)					SD02 92B SD43	施A, 施B			675	器子	(10.2)	(7.2)								
666	碗	(12.0)	(2.6)	1/12			SD02 92B SD43	施A, 施B			676	器	(10.2)	(14.3)								
667	平鉢	(13.8)	(2.7)	1/12			SD02 92B SD43	施A, 施B			677	器	(4.5)	(1.1)								
668	碗	(8.0)	(1.7)	3/12			SD02 92B SD43	施A, 施B			678	器	(12.2)	(12.2)								
669	折縁深皿	(17.3)	(10.0)	(4.9)	2/12		SD02 92B SD43	施A, 施B			679	器	(12.2)	(12.2)								
670	折縁深皿	(16.0)	(1.2)	2/12			SD01 92B SD39	施A, 施B			680	器	(12.2)	(12.2)								
671	折縁深皿	(8.8)	(2.3)	5/12			SD02 92B SD43	施A, 施B			681	器	(12.2)	(12.2)								
672	折縁深皿	(7.7)					SD01 92B SD39	施A, 施B			682	器	(12.2)	(12.2)								
673	折縁深皿	(14.0)	(3.5)	1/12			SD02 92B SD43	施A, 施B			683	器	(7.3)	(4.1)								
674	圓筒	(4.5)					SD01 92B SD39	施A, 施B			684	器	(12.2)	(12.2)								

第81図 大溝出土遺物実測図(9): SD01-02(9)



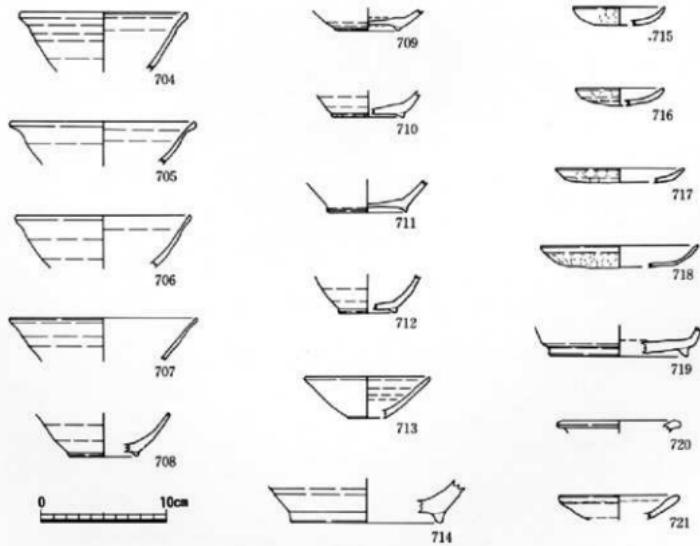
番号	器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	残存部・口・底	補足記	日進機番号	地	地質	番号	器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	残存部・口・底	日進機番号	地	地質
684	碗	(6.7)	(1.5)	—	6/12 SD02 92H SD43	美・通	684	盤	(9.0)	(3.6)	2.0	5/12	5/12	SD02 92H SD43	土師質			
685	碗	7.4	2.1	—	10/12 SD02 92H SD43	尾・張	685	盤	8.8	?	1.65	12/12	12/12	SD02 92H SD43	土師質			
686	碗	(6.6)	(1.5)	—	2/12 SD02 92H SD43	東・通	686	盤	8.4	?	1.65	9/12	12/12	SD02 92H SD43	土師質			
687	碗	(12.2)	3.4	3.1	5/12 : 8/12	SD02 95A SD61	東・通	687	盤	(7.6)	(3.4)	1.6	4/12	3/12	SD02 92H SD43	土師質		
688	甕	(19.4)	(3.3)	1/12	—	SD02 92H SD39	土師質	688	盤	(8.4)	(4.0)	1.2	5/12	6/12	SD02 92H SD43	土師質		
689	甕	(27.2)	—	—	—	SD02 92H SD43	伊勢型	689	盤	(24.5)	(5.4)	1/12	—	—	SD02 92H SD43	複数型		
690	柱状甕	9.2	4.0	2.65	9/12 : 12/12	SD02 92H SD43	土師質	690	盤	(26.8)	(4.7)	3/12	—	—	SD02 92H SD43	複数型		
691	甕	(14.0)	(2.5)	2/12	—	SD02 92H SD39	土師質	691	盤	(25.0)	(6.0)	3/12	—	—	SD02 92H SD43	複数型		
692	甕	(15.5)	(2.1)	1/12	—	SD02 92H SD39	土師質	692	盤	(32.5)	(5.3)	1/12	—	—	SD02 92H SD43	複数型		
693	甕	(13.6)	(3.0)	2/12	—	SD02 92H SD43	土師質	693	盤	(35.6)	(3.5)	1/12	—	—	SD02 92H SD43	複数型		

第82図 大溝出土遺物実測図(10) : SD01-02(10)

4. 墳墓堂造構の周溝

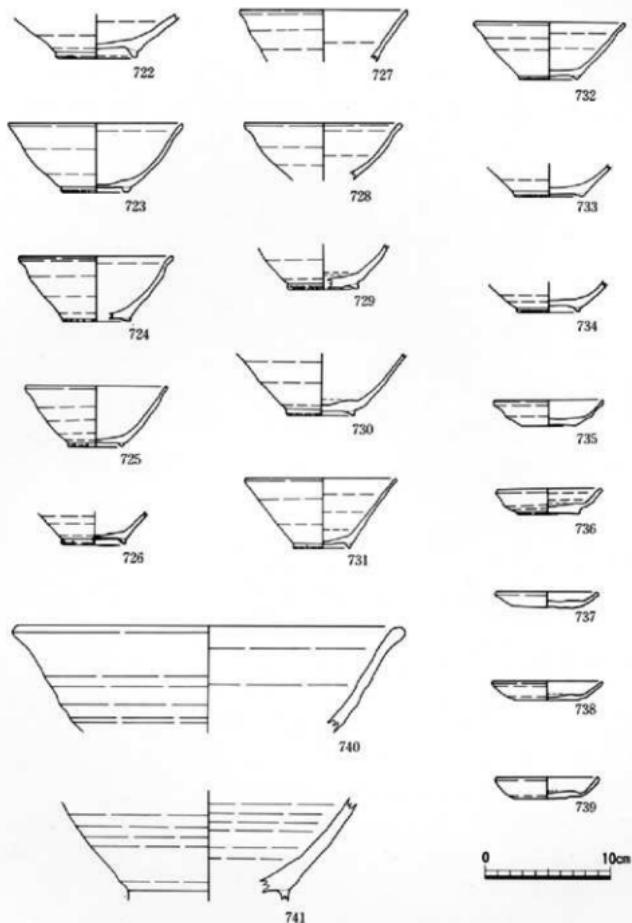
SD03 (第39図、第41図、第84図722~753、図版1~3、図版9、図版16、図版18)

堂を巡る溝で、95B区旧SD01、92F区旧SD54、92Gb区SD26・27・28、93K区SD03・17である。東濃型の灰釉系陶器の椀、小皿、尾張型のこね鉢、常滑窯の壺、青磁碗、古瀬戸の水注、四耳壺、土師質の羽釜、伊勢型鍋、土師質皿が出土。古瀬戸の水注は漆巻きが施されている。土師質皿の中に非ロクロ手頃圧痕口縁横撫でタイプ(753)がある。13世紀後半の東濃型の灰釉系陶器が主体を占める。



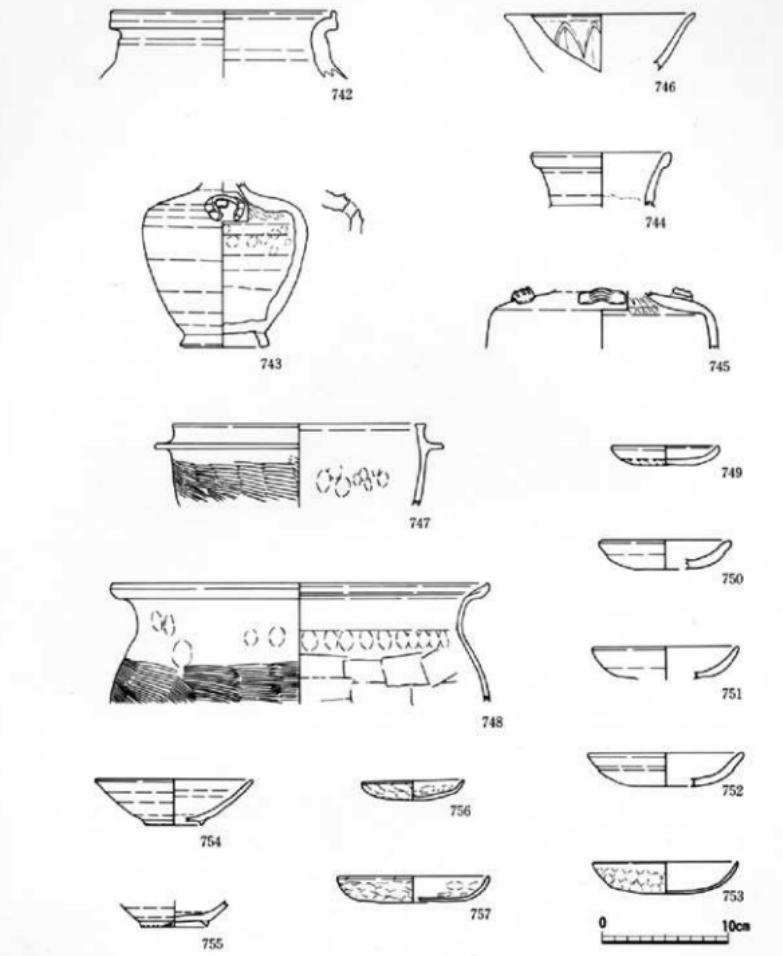
#号	器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	残存率・口・底	遺物番号	回収場所	產地	出	#号	器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	残存率・口・底	遺物番号	產地	出
704 椪	(13.1)	(4.7)	3/12 :	SD016	95Ga SD08 東 潤	713 楕	19.85	(3.2)	2/12 :	SD016	95Ga SD08 東 潤							
705 椪	(14.6)	(3.7)	1/12 :	SD017	95Ga SD08 東 潤	714 楜		(11.45)	(3.4)	3/12 :	SD018	95Ga SD08 尾 張						
706 楜	(13.8)	(4.1)	3/12 :	SD018	95Ga SD08 東 潤	715 楜	(7.35)		(1.4)	2/12 :	SD019	95Ga SD08 土 師 質						
707 楜	(14.8)	(3.4)	3/12 :	SD019	95Ga SD08 東 潤	716 楜	(7.0)		(1.4)	3/12 :	SD020	95Ga SD08 土 師 質						
708 楜	(15.4)	(3.45)	4/12	SD020	95Ga SD08 東 潤	717 楜	(10.0)		(1.1)	2/12 :	SD021	95Ga SD08 土 師 質						
709 楜	(14.8)	(3.4)	3/12	SD021	95Ga SD08 東 潤	718 楜	(12.4)		(1.7)	3/12 :	SD022	95Ga SD08 土 師 質						
710 楜	(15.4)	(2.05)	3/12	SD022	95Ga SD08 東 潤	719 花 椓		(11.0)	(2.3)	3/12 :	SD023	95Ga SD08 美 州 南						
711 楜	(16.1)	(2.5)	2/12	SD023	95Ga SD08 東 潤	720 花 楜	(8.1)		(1.6)	2/12 :	SD024	95Ga SD08 古 濱 四						
712 楜	(14.4)	(3.05)	5/12	SD024	95Ga SD08 東 潤	721 横輪鉢	(9.2)		(1.9)	2/12 :	SD025	95Ga SD08 古 濱 四						

第83図 墓道両脇溝出土遺物実測図：SD06-07



番号	器種	口径(m)	底径(m)	高さ(m)	残存率-口-底	測量多号	回収場所	施 地	地質	番号	器種	口径(m)	底径(m)	高さ(m)	残存率-口-底	測量多号	回収場所	施 地	地質
722	碗	(6.2)	(3.5)	4/12	SD03 93K SD03	東 潛	722	碗	(12.0)	(4.6)	4.5	3/12	7/12	SD03 93G SD29	東 潜				
723	碗	(13.8)	5.3	5.4	5/12	SD03 93K SD03	東 潛	16	733	碗	5.4	(2.5)	2	8/12	SD03 93G SD28	東 潜			
724	碗	(12.0)	(5.4)	5.1	3/12	SD03 93K SD03	東 潛	724	碗	(4.6)	(2.45)	2	6/12	SD03 93G SD28	東 潜				
725	碗	(11.2)	4.4	4.9	8/12	SD03 93K SD03	東 潛	16	725	小盤	(8.5)	4.2	2.0	4/12	6/12	SD03 93G SD26	東 潜		
726	碗	4.8	(2.7)	12/12	SD03 93K SD03	東 潜	726	小盤	(8.1)	4.8	2.0	2/12	16/12	SD03 93G SD26	東 潜	16			
727	碗	13.1	(4.1)	10/12	SD03 96B SD01	東 潛	727	小皿	7.9	5.2	1.3	7/12	7/12	SD03 93G SD26	東 潜				
728	碗	(12.4)	(4.5)	3/12	SD03 96Ab SD06	東 潛	728	小皿	(8.8)	(5.0)	1.4	3/12	7/12	SD03 93K SD03	東 潜				
729	碗	(5.5)	(3.55)	6/12	SD03 92Gb SD26	東 潜	729	小皿	(8.0)	4.0	1.7	6/12	12/12	SD03 93K SD03	東 潜				
730	碗	5.2	(4.9)	12/12	SD03 92Gb SD26	東 潜	730	杯	(30.0)	(8.0)	3/12	SD03 93G SD25	尾 備						
731	碗	11.9	4.5	5.55	5/12	SD03 92Gb SD26	東 潛	16	731	杯	(8.5)	2.0	2.0	SD03 93G SD25	尾 備				

第84図 墓堂遺構周溝出土遺物実測図(1): S D03 (1)



番号	器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	残存率・口・底	通巻番号	施 地	出	番号	器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	残存率・口・底	通巻番号	施 地	出		
742	甕	(17.23)		(5.3)	3/12	SD03	93Gb SD26	常 潤	756	瓶			8.0		SD03	93K SD03	土師質		
743	水注	5.8	(3.3)	13.1	12/12	SD03	93Gb SD26	古瀬戸	757	瓶	(11.6)		(2.5)	4/12	SD03	93Gb SD26	土師質		
744	四耳壺	11.0	(4.3)	8/12		SD03	93Gb SD26	古瀬戸	758	瓶	(12.2)	(4.8)	2.6	1/12	1/12	SD03	93Gb SD26	土師質	
745	四耳壺	(4.5)				SD03	93Gb SD26	古瀬戸	759	瓶	11.4	3.5	3.5	8/12	10/12	SD03	93K SD03	土師質	
746	青釉碗	15.2	(4.6)	3/12		SD03	93Gb SD26	中 国	760	輪	(12.3)	(4.3)	3.45	3/12	4/12	SD21	93B SD21	土 壤	
747	羽釜	20.0	(6.5)	2/12		SD03	93Gb SD26	土師質	761	輪			(5.2)	(2.6)	5/12	SD22	93K SD14	東 港	
748	鍋	30.0	(8.4)	2/12		SD03	93Gb SD27	伊勢型	762	瓶	8.0	7	1.65	12/12	12/12	SD23	93B SD23	土師質	
749	瓶	8.4	4.5	1.6	16/12	12/12	SD03	93Gb SD26	土師質	763	瓶	(11.9)	(5.0)	2.0	3/12	3/12	SD24	93D SD24	土師質

第85図 墳墓堂造構周溝・方形区画溝出土遺物実測図：S D 03 (2), S D 21-22

5. 方形台状遺構区画溝

SD 21・22 (第39図、第42図、第85図754~757、図版1~3、図版9、図版16)

方形区画溝で、93K区旧SD 14、93Eb区旧SD 22・24・26である。東濃型の灰釉系陶器椀と非ロクロ手頭圧痕口縁横撫での土師質皿が出土。14世紀前半。

6. 井戸

SE 09 (第47図、第48図、第86図758~783、図版10、図版16)

93G区旧SE 01で、美濃窯の灰釉椀、尾北窯の短頸壺、東濃型の灰釉系陶器の椀、尾張型の灰釉系陶器の小皿、片口鉢、青磁・白磁の碗、皿、非ロクロ横撫での土師質皿が出土。墨書きが施された椀(769)と小皿(776)がある。東濃型の灰釉系陶器が多く、12世紀末から13世紀前半が主体となる。

SE 10 (第49図、第50図、第87図784~819、図版10)

93G区旧SE 02で、美濃窯の灰釉皿、東濃型の灰釉系陶器の椀、小皿、尾張型の灰釉系陶器の片口鉢、常滑窯の壺、古瀬戸の花瓶、四耳壺、土師質皿が出土。墨書きが施された椀(797~790)と小皿(807~809)がある。東濃型の灰釉系陶器が多く、13世紀後半が主体となる。

SE 11 (第51図、第88図820、821)

93G区旧SE 03で、東濃型の灰釉系陶器の椀が出土。13世紀後半。

SE 08 (第52図、第88図822~843、図版10、図版18)

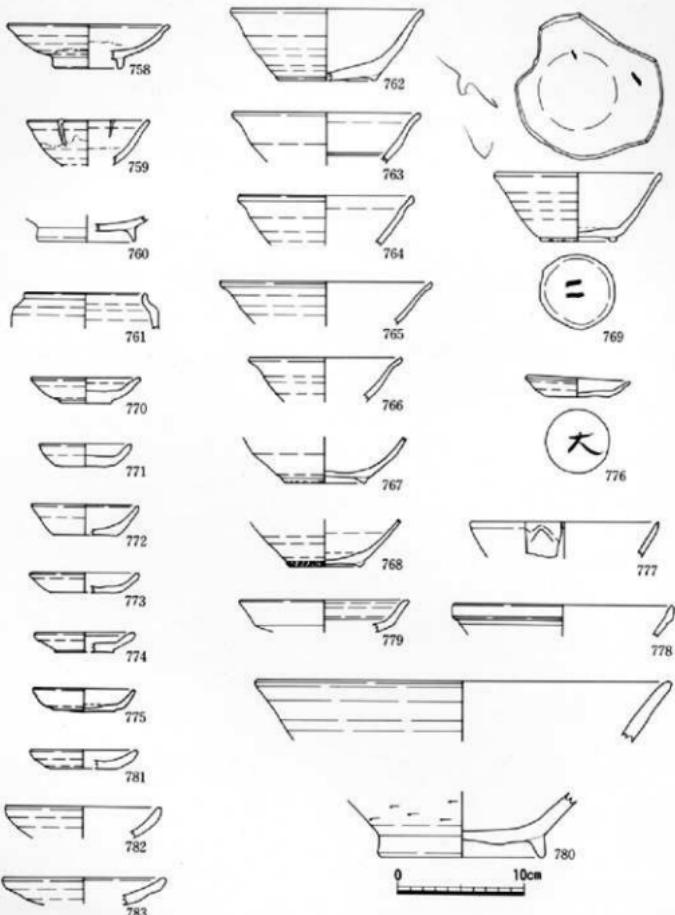
93G区旧SE 04で、尾張型の灰釉系陶器の椀と小皿、東濃型の灰釉系陶器の椀、白磁の碗、横撫で土師質皿が出土。尾張型の灰釉系陶器が多く12世紀末から13世紀初めが主体となる。



方形台状遺構

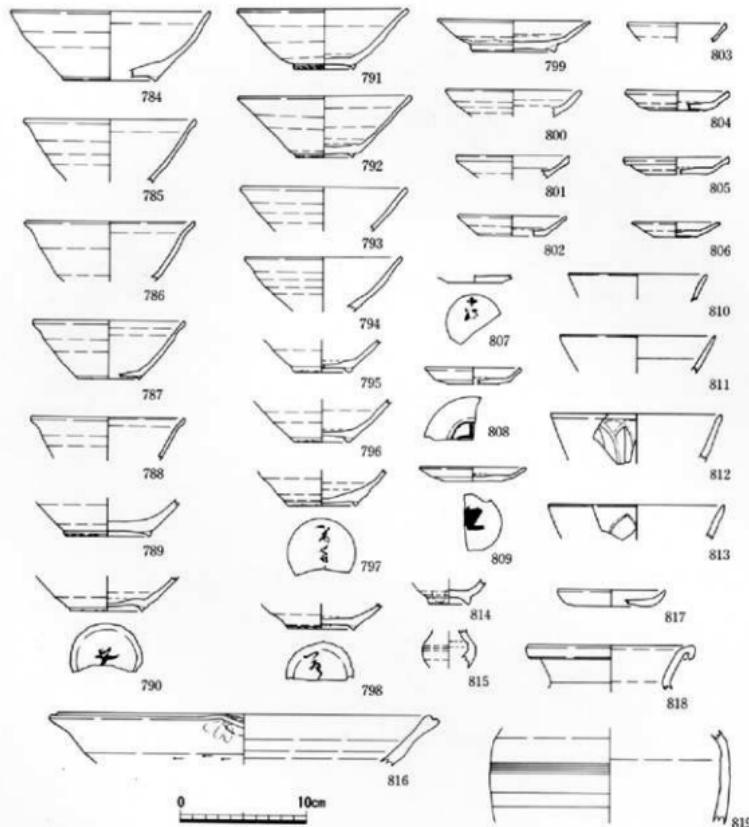


SE 10



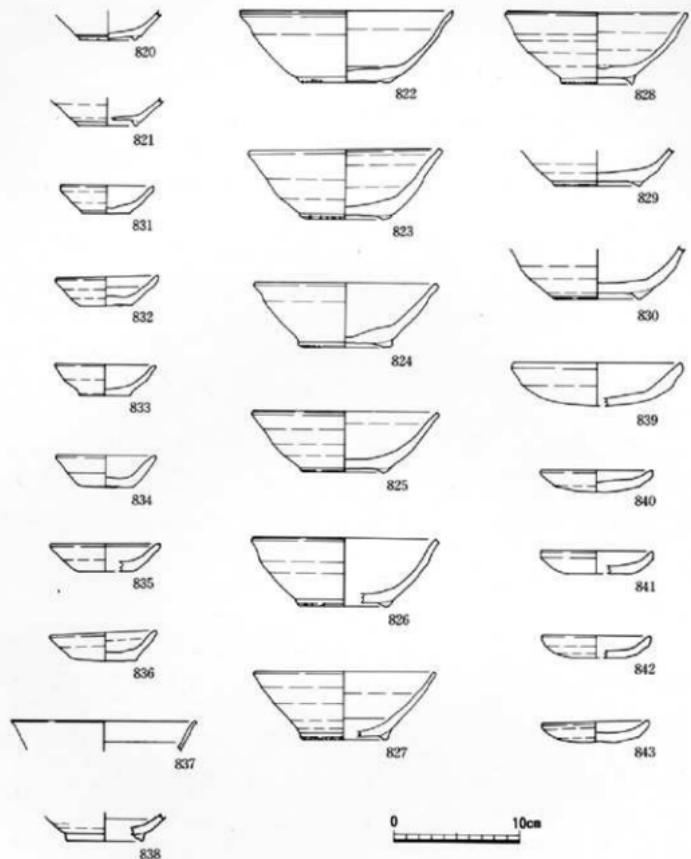
品名	器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	残存率・口・底	通鑑番号	原地	図版	品名	器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	残存率・口・底	通鑑番号	原地	図版			
758	碗	(12.6)	(5.0)	3.5	1/12	SE09	90G	SE01	美濃	771	小皿	(7.2)	(3.6)	1.6	2/12	4/12	SE09	90G	SE01	尾張
759	小碗	(9.4)		(3.5)	2/12	SE09	90G	SE01	美濃	772	小皿	(8.4)	(5.0)	2.4	2/12	4/12	SE09	90G	SE01	尾張
760	碗	(7.6)	2.05		3/12	SE09	90G	SE01	美濃	773	小皿	(8.4)	(5.4)	1.6	4/12	4/12	SE09	90G	SE01	尾張
761	和頭器	(9.5)		(2.8)	2/12	SE09	90G	SE01	尾北	774	小皿	(7.4)	(4.6)	1.6	3/12	4/12	SE09	90G	SE01	尾張
762	碗	(15.2)	(7.4)	5.65	2/12	SE09	90G	SE01	尾張	775	小皿	7.9	4.8	1.8	6/12	7/12	SE09	90G	SE01	
763	碗	(14.7)		(4.0)	2/12	SE09	90G	SE01	尾張	776	小皿	8.1	5.0	1.7	12/12	12/12	SE09	90G	SE01	東濃
764	碗	(13.8)		(4.0)	3/12	SE09	90G	SE01	東濃	777	青釉碗	(14.6)		(2.8)	1/12		SE09	90G	SE01	中國
765	碗	(16.8)		(3.4)	2/12	SE09	90G	SE01	東濃	778	白磁碗	(12.2)		(1.5)	1/12		SE09	90G	SE01	中國
766	碗	(12.0)		(3.5)	2/12	SE09	90G	SE01	尾張	779	白磁碗	(13.2)		(2.5)	2/12		SE09	90G	SE01	中國
767	碗	(6.4)	(3.7)		5/12	SE09	90G	SE01	東濃	780	鉢	(32.6)	(12.8)	(11.0)	1/12	3/12	SE09	90G	SE01	尾張
768	碗	(5.6)	(3.8)		7/12	SE09	90G	SE01	東濃	781	鉢	(8.4)	(5.2)	1.5	4/12	4/12	SE09	90G	SE01	土師質
769	碗	13.0	6.0	5.4	2/12	SE09	90G	SE01	東濃	782	鉢	(12.2)	(12.5)	(2.5)	2/12		SE09	90G	SE01	土師質
770	小皿	(8.6)	(2.0)	1.0	2/12	SE09	90G	SE01	尾張	783	鉢	(12.0)		(2.1)	2/12		SE09	90G	SE01	土師質

第36図 戸戸出土遺物実測図(1): SE09



番号	器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	残存率・口・底	通巻番号	施主	出土地	目録
784	碗	(15.8)	(7.0)	5.5	2/12 : 2/12	S1E10 99G SE02	尾 通		
785	碗	(13.5)	(5.0)	3/12		SE10 99G SE02	尾 通		
786	碗	(13.3)	(4.8)	3/12		SE10 99G SE02	尾 通		
787	碗	(11.9)	4.6	3/12		SE10 99G SE02	尾 通		
788	碗	(12.3)	(3.4)	3/12		SE10 99G SE02	尾 通		
789	碗	6.7 (3.05)		7/12	SE10 99G SE02 尾 通				
790	碗	5.6 (2.75)		7/12	SE10 99G SE02 尾 通				
791	碗	13.4	4.8	4.85	12/12 : 12/12	SE10 99G SE02 尾 通			
792	碗	13.5	4.4	5.6	12/12 : 12/12	SE10 99G SE02 尾 通			
793	碗	(13.0)	(3.5)	2/12		SE10 99G SE02 尾 通			
794	碗	(12.3)	(4.4)	2/12		SE10 99G SE02 尾 通			
795	碗		(4.4)	(2.6)		SE10 99G SE02 尾 通			
796	碗		(4.4)	(3.4)		SE10 99G SE02 尾 通			
797	碗		5.4	(2.9)		SE10 99G SE02 尾 通			
798	碗		5.3	(2.1)		SE10 99G SE02 尾 通			
799	盤	(12.0)	(6.6)	2.5	4/12 : 5/12	SE10 99G SE02 尾 通			
800	盤	(10.6)	(2.2)	2/12		SE10 99G SE02 尾 通			
801	小皿	(9.0)	(1.8)	3/12		SE10 99G SE02 尾 通			
802	小皿	(8.5)	(5.2)	1.6	3/12 : 3/12	SE10 99G SE02 尾 通			
803	小皿	(7.7)		(1.5)	5/12 :	SE10 99G SE02 尾 通			
804	小皿	(8.0)	(4.4)	1.5	3/12 : 3/12	SE10 99G SE02 尾 通			
805	小皿	(8.2)	(4.9)	1.35	6/12 : 6/12	SE10 99G SE02 尾 通			
806	小皿	(6.8)	(3.4)	1.15	2/12 : 4/12	SE10 99G SE02 尾 通			
807	小皿			4.4 (0.6)		SE10 99G SE02 尾 通			
808	小皿	(7.4)	(4.0)	1.3	3/12 : 3/12	SE10 99G SE02 尾 通			
809	小皿	(8.4)	(4.6)	1.1	4/12 : 6/12	SE10 99G SE02 尾 通			
810	白磁碗						SE10 99G SE02 中 國		
811	白磁碗						SE10 99G SE02 中 國		
812	青磁碗						SE10 99G SE02 中 國		
813	青磁碗						SE10 99G SE02 中 國		
814	椀			3.2 (2.0)		SE10 99G SE02 尾 通			
815	花瓶						SE10 99G SE02 古 番 口		
816	片口鉢	(29.6)		14.05	2/12	SE10 99G SE02 尾 通			
817	盤	(8.5)	(6.0)	1.3	3/12 : 3/12	SE10 99G SE02 北 領 舊			
818	盤	(12.0)		(3.6)	1/12	SE10 99G SE02 尾 通			
819	前			(7.5)		SE10 99G SE02 西 番 口			

第87図 井戸出土遺物実測図(2)：S1E10



品番	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存率・口・底	連番号	出土地	品番	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存率・口・底	連番号	出土地			
820	碗			1.0 (2.4)	1/12	SE11	99G SK02	東 港	832	小皿	8.0	4.0	2.2-2.5	7/12	12/12	SE08 99G SE04 尾 張		
821	碗			4.6 (2.3)	1/12	SE11	99G SK03	東 港	833	小皿	(7.8)	(4.2)	2.45	4/12	6/12	SE08 99G SK101 尾 張		
822	碗			(17.0) (7.0)	5.7	1/12	SE08	99G SK01 尾 港	834	小皿	7.7	4.2	2.0	12/12	12/12	SE08 99G SK01 尾 張		
823	碗			15.0	6.0	5.7	10/12	12/12	SE08	99G SK04 尾 港	835	小皿	(8.6)	(4.0)	2.2	4/12	5/12	SE08 99G SE04 尾 張
824	碗			(14.3)	6.2	5.1	3/12	12/12	SE08	99G SK04 尾 港	836	小皿	8.3	4.8	1.4-1.6	9/12	12/12	SE08 99G SE04 尾 張
825	碗			(14.0)	6.0	5.0	6/12	SE08	99G SK04 尾 港	837	白磁碗	(14.6)		2.4	2/12		SE08 99G SK101 中 国	
826	碗			(7.0)	5.4	3/12	5/12	SE08	99G SK101 尾 港	838	白磁碗	(6.0)	2.0		1/12	SE08	99G SK101 中 国 18	
827	碗			(14.2)	6.6	5.4	6/12	5/12	SE08	99G SK101 東 港	839	皿	(13.2)	3.4	4/12		SE08	99G SE04 土 帰 貢
828	碗			(14.1)	5.7	5.7	4/12	12/12	SE08	99G SK101 東 港	840	皿	(8.6)	2.2	3/12		SE08	99G SK101 土 帰 貢
829	碗				6.0	(3.0)	5/12	12/12	SE08	99G SK04 東 港	841	皿	(8.6)	1.6	3/12		SE08	99G SK101 土 帰 貢
830	碗			(6.8)	4.3	1/12	SE08	99G SK101 尾 港	842	皿	(8.4)	1.8	6/12		SE08	99G SE04 土 帰 貢		
831	小皿			(7.3)	(3.0)	2.2	8/12	8/12	SE08	99G SK04 尾 港	843	皿	8.3	3.8	1.8	9/12	8/12	SE08 99G SE04 土 帰 貢

第388図 井戸出土遺物実測図(3): SE11, SE08

第4節 その他の出土遺物

1. 墨書陶器（第89図～第91図844～862、第132図、第133図、図版16、図版17）

田所遺跡からは墨書陶器が70点出土している。美濃須衛窯の椀、灰釉陶器では美濃窯の椀と三足盤、灰釉系陶器では尾張型と東濃型の椀、小皿、が出土している。灰釉系陶器の東濃型が墨書陶器の大半を占める。

墨書陶器の表記は1. 数字、2. 文字、3. その他、の3種類ある。

数字表記として「二」(769, 855)、「五」(325)、「十一」(858)、文字表記として漢字の「長万」(844, 845)、「玉」(328, 846)、「禾」(256, 847)、「大」(685, 776)、「天」(856)、仮名で「い」(853) や「め」(860) のように一字表記したものと二字表記(861, 862)のものがある。その他の表記として、記号のようなもの(683, 686, 808, 851, 852, 857, 859.)や、呪術に関係するもの(854)などが出土している。

墨書表記の部位は底部外面が大半を占めるが、底部の内外面に表記したもの(848, 683, 256)と底部外面と側面に表記したもの(325, 854)もある。

墨書の施された須恵器、灰釉陶器は94B区以北からは出土しておらず、灰釉系陶器が調査区全体から出土しているとの違いがある。灰釉系陶器は93G区、92H区に集中して出土している。

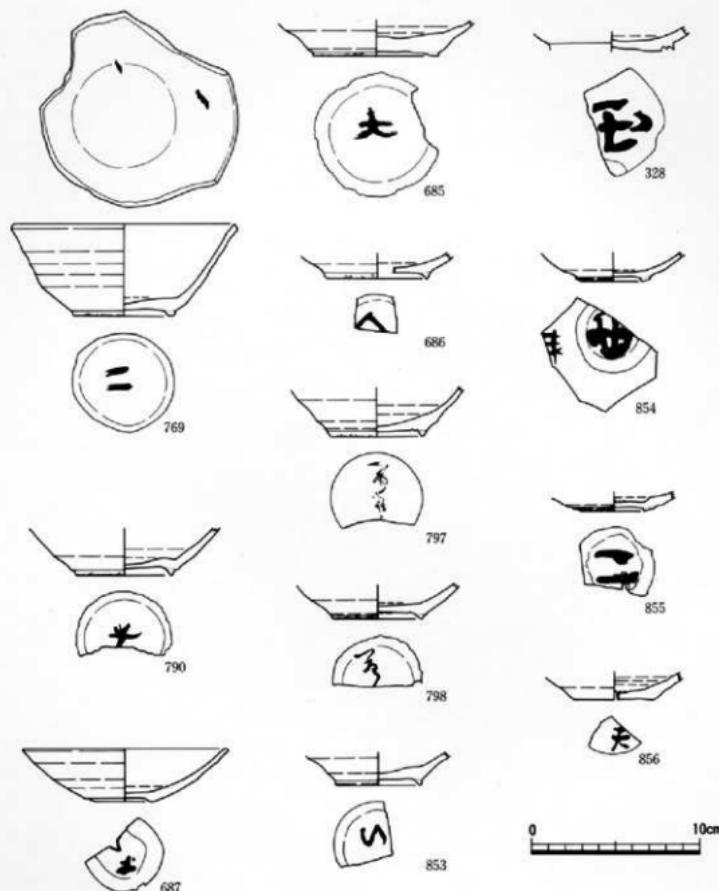
なお墨書陶器のなかでは美濃須衛窯の椀(325)が一番古い時期となる。

遺物番号	調査区	田番号	グリッド	種類	形状	口径(cm)	底径(cm)	深さ(cm)	墨書部位
		92Gb	検I	Ⅱ E15e	灰釉系陶器 椭	—	5.7	(2.9)	底部外面
SD91		93F	SD10下層	Ⅱ E19a	灰釉系陶器 椭	—	7.7	(3.1)	底部外面
		93F	掘り下	Ⅱ D3s	灰釉系陶器 椭	16.8	7.7	5.3	底部外面
		93F	掘り下	Ⅱ D2s	灰釉系陶器 椭	—	—	(0.5)	底部外面
ST02		92E	ST43	Ⅲ D15o16p	灰釉系陶器 椭	—	(8.0)	(1.4)	底部外面
		94Ba	検II	Ⅳ D11s	灰釉系陶器 椭	—	4.1	(1.4)	底部外面
		94Ba	検I	Ⅳ D11s	灰釉系陶器 椭	—	(5.6)	(0.7)	底部外面
		94Ba	検I	Ⅳ D11s	灰釉系陶器 椭	—	—	—	底部外面
		94Ba	検I	Ⅳ D11s	灰釉系陶器 椭	—	—	—	底部外面
		94Ba	検I	Ⅳ D11s	灰釉系陶器 椭	—	—	—	底部外面
SK138		94Bb	SK09	Ⅳ D20s	灰釉系陶器 皿	8.6	5.6	1.1	底部外面
SX11		94Bb	SX01	Ⅳ D11r	須恵器	—	(4.6)	(1.2)	底部外面
SX12		94Bb	SX02	Ⅳ D20s	灰釉系陶器 皿	—	(4.8)	(0.7)	底部外面
		94Ab	西T	—	須恵器 杯	—	(5.6)	(0.8)	底部外面
SD01		93J	SD26	VD13q	灰釉系陶器 椭	—	(4.8)	(2.9)	底部外面
SK162		92Da	SK20	VF20s	灰釉系陶器 椭	—	(5.0)	(1.5)	底部外面
		92Da	検II	VD19q	灰釉系陶器 椭	—	5.0	(3.1)	底部外面
SD01		94Aa	SD01	—	灰釉系陶器 椭	—	(4.8)	(1.8)	底部外面
		94Aa	検I	VD3o	灰釉系陶器 皿	—	4.6	(0.9)	底部外面
		94Aa	検I	VD3o	灰釉系陶器 皿	—	4.0	(1.0)	底部外面
SK193		93J	SK15	VD8o	灰釉陶器 椭	—	(7.0)	(1.7)	底部外面
		95Aa	検I	VD2r	灰釉陶器 椭	—	(7.8)	(2.3)	底部外面
ST24		93Hb	ST01	Ⅳ E1b	灰釉系陶器 皿	(8.8)	5.6	1.0	底部外面
ST24		93Hb	ST01	Ⅳ E4c	灰釉系陶器 皿	—	(4.8)	(1.1)	底部外面
SE10		93G	SE02	Ⅳ D20a20d	灰釉系陶器 椭	—	5.4	(2.9)	底部外面
SE10		93G	SE02下層	Ⅳ E20c	灰釉系陶器 椭	—	(6.2)	(3.3)	底部外面
SE10		93G	SE02下層	Ⅳ E20c	灰釉系陶器 椭	—	—	(0.7)	底部外面
SE10		93G	SE02下層	Ⅳ E20c	灰釉系陶器 椭	—	(5.4)	(2.0)	底部外面
SE10		93G	SE02下層	Ⅳ E20c	灰釉系陶器 椭	—	(4.6)	(1.1)	底部外面
SE11		93G	SE03	Ⅳ E1d	灰釉系陶器 皿	—	—	—	底部外面
		93G	検出	—	灰釉系陶器 皿	(9.2)	(5.4)	2.1	底部外面
SD226		92H	SE40	Ⅳ E6e7f	灰釉系陶器 皿	—	—	—	底部外面

第12表 その他の墨書陶器一覧表

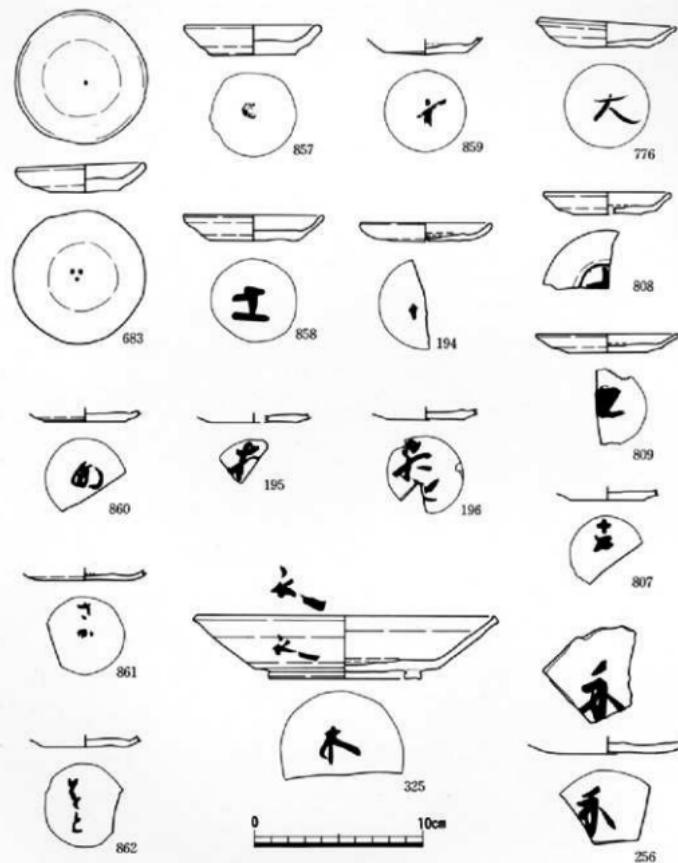


第89図 墨書陶器実測図（1）



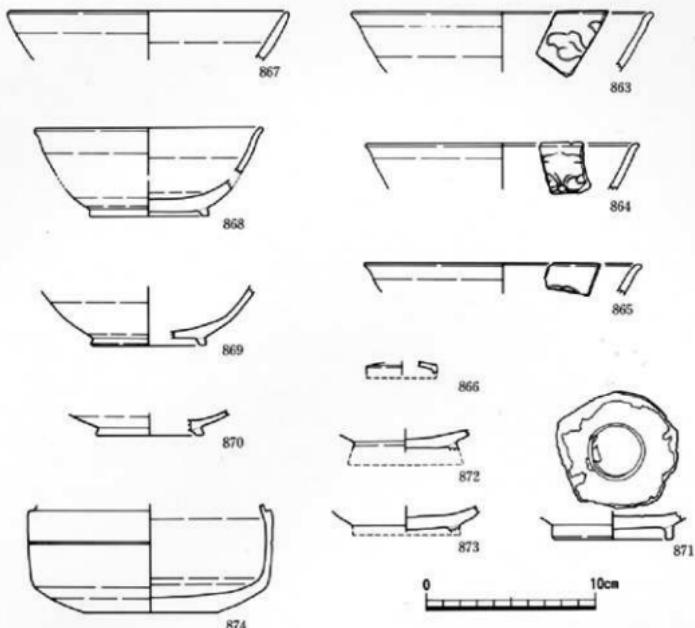
第90図 黒墨陶器実測図(2)

品名	器種	地	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	遺物番号	出土地番号	基準	整備部位	回数
328	碗	灰 磁	—	—	(1.1)	SD8b SD85 7号	玉	底部外側		
685	碗	灰 磁	—	—	7.4	2.1	SD02 92H SD43	大	底部外側	
686	碗	灰 磁	—	—	6.0	(1.5)	SD02 92H SD43		底部外側	
687	碗	灰 磁	—	—	12.2	3.4	3.1	SD01 95Aa SD01		底部外側
790	碗	灰 磁	—	—	13.0	6.0	5.4	SE09 93G SE01	二	底部外側
										底部外側上部
品名	器種	地	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	遺物番号	出土地番号	基準	整備部位	回数
290	碗	灰 磁	—	—	5.4	(2.9)	SE10 93G SD02		底部外側	
790	碗	灰 磁	—	—	5.3	(2.1)	SE10 93G SD02 7号		底部外側	
853	碗	灰 磁	—	—	5.0	(1.9)	94Aa 細 I	1	底部外側	17
854	碗	灰 磁	—	—	3.7	(1.7)	92Ga 細 II		底部外側	17
855	碗	灰 磁	—	—	3.5	(1.1)	94Ab 細 I	二	底部外側	17
856	碗	灰 磁	—	—	4.6	(1.6)	94Ba 細 I	天	底部外側	17



番号	器種	產地	口径(cm)	底径(cm)	體高(cm)	通鑄模番号	旧通鑄番号	形態	基部部位	番号	器種	產地	口径(cm)	底径(cm)	體高(cm)	通鑄模番号	形態	基部部位
194	盤	東 通	7.6	5.4	(1.1)	ST24	93Rb ST01	碗形	底部外側	808	皿	東 通	7.4	4.0	(1.3)	SE10	93G SD129内	底部外側
195	東 通	-	-	5.0	0.3	ST24	93Rb ST01	奉 ^ト 字	底部外側	809	皿	東 通	8.4	4.6	(1.1)	SE10	93G SD129内	底部外側
196	盤	東 通	-	4.5	0.3	ST24	93Rb ST01	碗形	底部外側	857	皿	尾 通	7.0	5.0	1.8	SD214	93G SD12上端	○ 瓢形外側
256	碗	東 通	-	5.8	0.5	93Rb SD077	93Rb SD077	奉 ^ト 字	底部外側	858	皿	東 通	8.2	5.2	(1.5)	SK169	92D SK21	土 瓢形外側
325	碗 B	美 廣	(17.4)	(8.0)	(3.7)	93Rb	SD02	五	底部外側	859	皿	東 通	-	6.8	0.9	SD220	92H SD45	底部外側
693	盤	尾 通	7.3	4.1	1.75	SD02	92H SD43-72	大	底部外側	860	皿	東 通	-	4.8	0.6	93F 圓口下	ぬ 瓢形外側	17
776	盤	東 通	8.1	5.0	1.2	SD09	93G SD01	大	底部外側	861	皿	東 通	-	4.7	0.6	94Aa 横 I	さ□ 瓢形外側	17
807	盤	東 通	-	4.4	(0.6)	SE10	93G SE027	碗形	底部外側	862	皿	東 通	-	4.9	0.6	94Aa 横 I	□□ 瓢形外側	17

第91図 黒書陶器実測図(3)



番号	器種	産地	口径(m)	底径(m)	高さ(m)	残存率・口・底	調査番号	グリット	回数	番号	器種	産地	口径(m)	底径(m)	高さ(m)	残存率・口・底	調査番号	グリット	回数					
963	碗	篠塚	18.0	—	1/12	SD01	90G SD01下層	—	16	966	碗	篠塚	—	6.0	(3.5)	—	3/12	SD01	931 SD26	VDD18	18			
964	碗	篠塚	16.2	—	1/12	SD187	92As SD01	SD13a	16	970	碗	尾張	—	6.2	(1.4)	—	2/12	22Ab	後II	SD13b	18			
965	碗	篠塚	16.0	—	1/12	—	90G 桃I	—	971	皿	篠塚	—	7.0	(1.6)	—	12/12	93Ha	93Hb	93Hc	18				
966	蓋	篠塚	—	—	—	92As	92B	SD13	972	皿	美須	—	—	—	—	3/12	ST24	93Hb	ST01	SD20	18			
967	碗	篠塚	16.0	—	(3.5)	1/12	—	SD22	92As SD03	SD14a	973	碗	美須	—	6.4	—	4/12	93Hb	93Hc	SD03	18			
968	碗	篠塚	13.4	7.0	(3.2)	1/12	6/12	SD01	96As SD01	SD14	18	974	合子	篠塚	—	7.0	6.4	—	11/12	ST24	93Hb	ST01	SD20	18

第92図 雕刻花文・縹釉陶器実測図

調査番号	調査区	日 号	グリット	器種	部 位	残 在	板番号	産 地	
SB14	92As	SB06	VG15a	皿	腹	—	5	篠塚	
SB20	92As	SB13	VD12b13c	碗	口縁	—	4	吉江	
92As	後I	—	—	皿	口縁	—	9	吉江	
92As	後I	—	—	手付皿	腹	—	10	篠塚	
92As	後I	—	—	碗	底	—	11	?	
92As	後I	—	—	碗?	底	—	12	吉江	
92As	後II	—	—	段皿	腹	—	6	篠塚	
92As	後II	—	—	段皿	底	—	7	篠塚	
92Ab	後II	—	—	?	腹	—	15	篠塚	
92Ab	後II	—	—	碗	腹	—	—	—	
92Ab	後II	—	—	VE7a/b	腹	—	—	—	
92Ab	後II	—	—	VE5a/b	輪花皿	腹	13	篠塚	
92Ab	後II	—	—	VE7a	?	腹	—	14	篠塚
92C	SD03上層	—	VD11p12p	碗	口縁	—	17	?	
ST01	93Ea	ST01	VD15r	皿	底	—	26	?	
SD201	93Ha	SD03	VE13d	碗	腹	—	22	吉江	
93Hb	掘り下I	—	VD13b	碗	口縁	—	28	?	
93Hb	SD03	VE12a	?	腹	—	27	?		
93Hb	掘り下I	—	VE5c/b	?	腹	—	21	篠塚	
94Aa	後I	—	VD5q	碗・皿	腹	—	2	篠塚	
94Ab	後I	—	—	?	腹	—	25	?	

第13表 その他の縹釉陶器一覧表

2. 陰刻花文陶器と緑釉陶器（第92図863～874、第134図、図版16、図版17、図版18）

陰刻花文 猿投窯の陰刻花文が施された椀が3点出土。いずれも内側に陰刻花文が施されている。

9世紀後半。

緑釉陶器 猿投窯と尾北窯と美濃窯の緑釉碗、皿、段皿、蓋、瓶、合子が28点出土。9世紀前半から10世紀前半。868、869の碗は9世紀前半の猿投窯産で緑釉陶器の中では一番古い。

866. 猿投窯の小瓶の蓋で、やや青味のある淡緑色の釉で胎土は灰白色で軟質。

867. 猿投窯の碗で、やや青味がかった淡緑色の釉で胎土は軟質気味で黄色味を帯びる。

868. 猿投窯の碗で、淡緑色の釉で釉層はやや薄めである。胎土は硬質で明灰白色を呈す。

底部内外面に三叉トチ痕がある。

869. 猿投窯の碗で、やや黄褐色気味の淡緑色の釉で胎土は硬質灰褐色を呈す。内面に三叉トチ痕がある。

870. 尾北窯碗で、青味のある緑色の釉で胎土は緻密で灰色を呈する。

871. 猿投窯の碗で、淡緑色の釉で胎土は緻密であるが焼きが甘く灰黄色を呈す。見込み部分に同心円の沈線がある。

872. 美濃窯の碗で、淡緑色の釉で胎土は緻密で暗灰色を呈する。底部には糸切り痕、底部内面に三叉トチ痕がある。

873. 美濃窯の碗で、青味を帯びた緑色の釉で胎土はやや軟質気味の灰白色。

874. 猿投窯の合子で、淡黄緑色の釉で胎土はやや軟質の灰白色を呈する。胴部に沈線が二条あり、底部はペタ底となる。外面の緑釉の剥落が激しい。

3. その他の遺物（第93図904～926、図版16）

甕、美濃須南窯と猿投窯と尾北窯の杯B、杯、鉢、平瓶、猿面鏡、風字鏡、灰釉碗、灰釉皿、段皿、水注、古瀬戸の四耳壺、天目茶碗、緑釉皿、大窯期美濃窯の丸皿、紡錘車が出土している。

904. 繩文時代晚期の擦痕土器で、底部のみの出土。94Ab区東南トレンチの湿地性堆積土より出土し、出土標高は7m55cmを測る。

908. 猿投窯の鳥鉢蓋付平瓶の尾の部分である。9世紀前半。尾の部分以外は出土しなかつた。

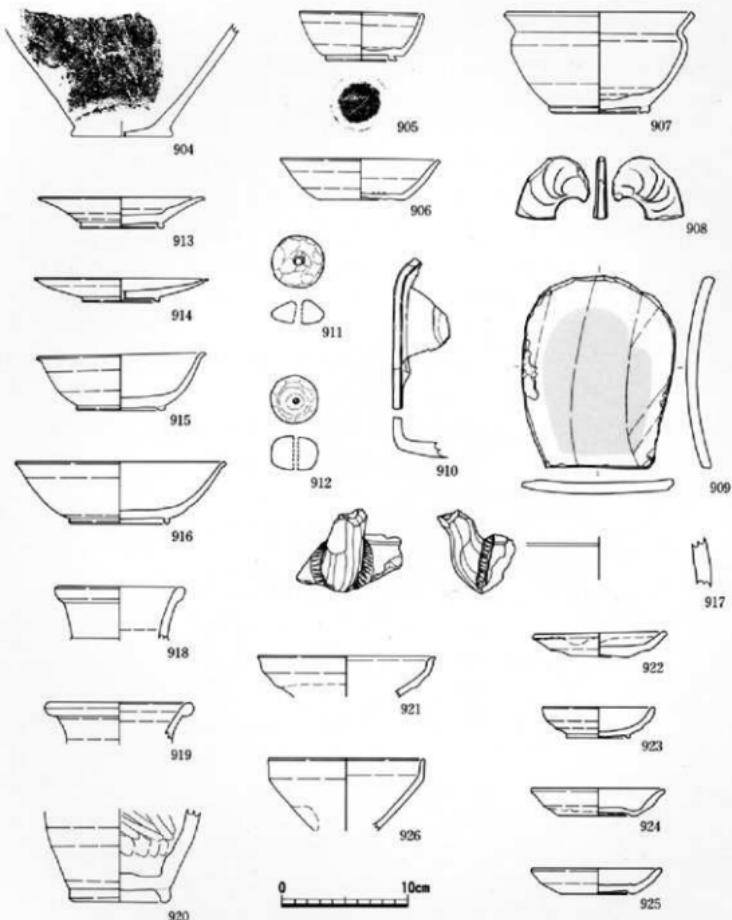
909. 甕の胴部を転用した転用鏡で猿面鏡である。内外面には薄い釉を塗った痕が認められる。甕の胴部破片を用いており、面取りにより形を整え、下辺以外は縁辺部を面取り後磨いている。

910. 猿投窯の風字鏡で9世紀後半。

911. 土製で面の調整痕が顯著。紡錘車か。

912. 陶製で面の調整痕があり、紡錘車か。

917. 美濃須南窯の水注である。



第93図 その他の遺物実測図

4. 中国陶磁器（第94図、図版18）

白磁 梵（第94図875～885）

875・876は口縁部が小さい玉縁状になり、釉全体に貫入がみられる。875の釉色はうすい緑色、876は黄色味をおびた白色である。877は高台部が幅広く削り出しあはわずかで、内面見込みに沈線状の段をもつ。878・879・880は口縁端部が外反するもの。878は体部内面に櫛で紋様を施す。879は体部内面に櫛目の紋様、上位に一条の沈線が入る。881・884は体部が外方向にのび、881は内面上位に一条の沈線が入る。882・883は口縁部に釉のかからない、いわゆる口禿の梵である。885は体部にやや丸味があり、体部内面上位に一条の沈線が入る。

白磁 皿（第94図886～888）

886は体部上位で内側する皿。887は口禿の皿である。体部外面下半部は施釉されていない。888は口縁部を外反させる16世紀代の皿。

青白磁 皿（第94図889）

889は口縁部に施釉されない口禿の皿。13世紀～14世紀前半のものと思われる。

合子（第94図890）

890は12世紀代のものと思われる。

青磁 同安窯系梵（第94図891）

891は体部外面に細かい櫛目を施し、釉はうすい。

同安窯系皿（第94図892・893）

892・893は体部と見込みの境に段を有する。892は内外面とも無文の皿である。

龍泉窯系梵（第94図894～899、図版18）

894は体部外面は無文、内面に紋様を有する。895・896は高台が断面四角形で露胎。器肉は厚く、見込みに紋様を施す。897は輪連弁紋の梵。898はヘラ状工具で連弁紋を施し、胎土は黒色である。899は口縁部が外反する梵。

龍泉窯系皿（第94図900～902）

900は内底見込みに花紋を櫛状のもので描き、底部の釉は焼成前に搔き取られる。901は体部中位で屈曲し口縁部はうすく引き出されている。902は口縁部を外反させ端部を上に引き出す高台の付く皿。体部内面を菊状につくり出している。

青花 皿（第94図903、図版18）

口縁部をやや内側させ、紋様は外面口縁部に波涛紋、体部外面に芭蕉葉紋が描かれている。

* 中国陶磁器の産地、分類については森達也氏に御教示を得た。記して感謝いたします。

* 中国陶磁器の分類にあたっては以下の文献を参考にした。

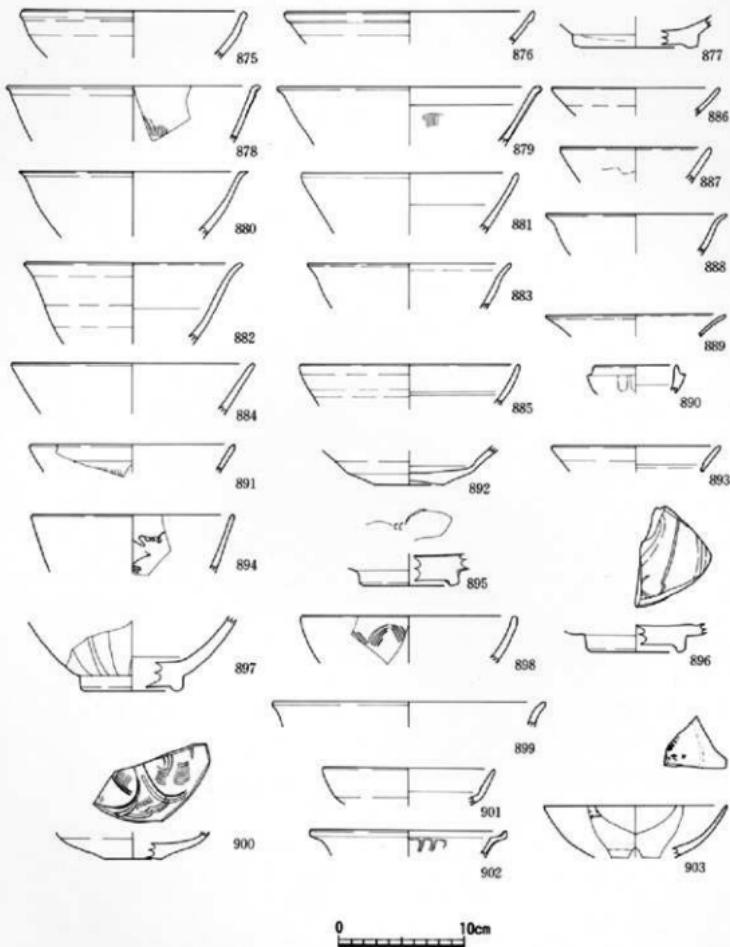
横田堅次郎・森田勉「太宰府出土の輸入中國陶磁器について」『九州歴史資料館研究論集』1978

上田秀夫「14から16世紀の青磁碗の分類について」『貿易陶磁研究』2号 1982

森田勉「14から16世紀の白磁の分類と編年」『貿易陶磁研究』2号 1982

小野正敏「15・16世紀の染付碗、皿の分類とその年代」『貿易陶磁研究』2号 1982

国立歴史民俗博物館「日本出土の貿易陶磁 東日本編2」1994



号	器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	残存率	通巻番号	種別	目録	号	器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	残存率	通巻番号	種別	目録	
875	碗	13.2	—	(2.9)	3/12	94Ba 細口	白磁	18	876	碗	14.8	—	(1.8)	2/12	94G SK41	白磁	18	
876	碗	—	—	7.5	(1.9)	4/12	94Ab SK48	白磁	877	碗	—	—	—	—	94B 細口	白磁	18	
877	碗	—	—	15.0	(3.3)	1/12	94Ab 細口	白磁	878	碗	—	—	15.6	(3.5)	3/12	94G 細口	白磁	18
878	碗	—	—	13.6	(3.9)	2/12	94Ba 細口	白磁	879	碗	—	—	13.2	(2.7)	1/12	94B SK10	白磁	18
879	碗	—	—	12.8	(2.7)	1/12	94B 細口	白磁	880	碗	—	—	13.0	(4.8)	1/12	94B 細口	白磁	18
880	碗	—	—	12.0	(2.6)	1/12	94G 細口	白磁	881	碗	—	—	14.4	(3.6)	1/12	94Ab 細口	白磁	18
881	碗	—	—	11.8	(2.7)	1/12	94P 細口下	白磁	882	碗	—	—	10.0	(1.5)	1/12	94Ab 細口	白磁	18
882	碗	—	—	9.0	(2.1)	2/12	94B 細口	白磁	883	碗	—	—	10.8	(2.4)	1/12	94B 細口下	白磁	18
883	碗	—	—	10.6	(1.3)	1/12	94B 細口	青白磁	884	碗	—	—	—	—	94G 細口	白磁	18	
884	碗	—	—	—	—	—	—	885	碗	—	—	—	—	94B 細口	白磁	18		
885	碗	—	—	—	—	—	—	886	碗	—	—	—	—	94B 細口	白磁	18		
886	碗	—	—	—	—	—	—	887	碗	—	—	—	—	94B 細口	白磁	18		
887	碗	—	—	—	—	—	—	888	碗	—	—	—	—	94B 細口	白磁	18		
888	碗	—	—	—	—	—	—	889	碗	—	—	—	—	94B 細口	白磁	18		
889	碗	—	—	—	—	—	—	890	碗	—	—	—	—	94B 細口	白磁	18		
890	碗	—	—	—	—	—	—	891	碗	—	—	—	—	94B 細口	白磁	18		
891	碗	—	—	—	—	—	—	892	碗	—	—	—	—	94B 細口	白磁	18		
892	碗	—	—	—	—	—	—	893	碗	—	—	—	—	94B 級上	青磁	18		
893	碗	—	—	—	—	—	—	894	碗	—	—	—	—	94B 級上	青磁	18		
894	碗	—	—	—	—	—	—	895	碗	—	—	—	—	94B 級上	青磁	18		
895	碗	—	—	—	—	—	—	896	碗	—	—	—	—	94B 級上	青磁	18		
896	碗	—	—	—	—	—	—	897	碗	—	—	—	—	94B 級上	青磁	18		
897	碗	—	—	—	—	—	—	898	碗	—	—	—	—	94B 級上	青磁	18		
898	碗	—	—	—	—	—	—	899	碗	—	—	—	—	94B 級上	青磁	18		
899	碗	—	—	—	—	—	—	900	碗	—	—	—	—	94B 級上	青磁	18		
900	碗	—	—	—	—	—	—	901	碗	—	—	—	—	94B 級上	青磁	18		
901	碗	—	—	—	—	—	—	902	碗	—	—	—	—	94B 級上	青磁	18		
902	碗	—	—	—	—	—	—	903	碗	—	—	—	—	94B 級上	青磁	18		

第94図 中国陶磁器実測図

5. 土錘 (第95図927~945、第96図、第97図、図版16)

土錘はすべて管状土錘で106点出土。土錘の他に陶錘(948)が2点出土している。

分類は大毛沖遺跡の久保分類に準拠した。

形態には大きく分けて2種類あり、孔径が小さくて重量も軽い小型のものをⅠ類、孔径が大きく重いものをⅡ類とした。さらに、両端部を平坦にするか否かによってAa・Ab・Bと分類した。

分類1. I. 孔径が0.5cm以下で重量が20g未満。93点

II. 孔径が0.5cm以上で重量が20g以上。11点

分類2. Aa. 両端部を平坦に調整するもの。

Ab. 両端部を平坦に調整するが、痕跡が不明瞭なもの。

B. 両端部を平坦に調整しないもの。

分類3. I. 中央部が膨らみ、胎土中に不純物(木片)が混入するもの。

ロ. 中央部が膨らまず、胎土に不純物が混入しないもの。

ハ. イよりもさらに長さと幅の割合が小さく、軽くて小さいもの。

土錘が一番多く出土した調査区は95Ab区の31点で、92Aa区の17点、92H区の15点、93G区の12点、92Ab区の6点、93Ha区、93Hb区、94Da区の4点、92F区、94Bb区の2点で、この他11の調査区で各1点出土している。

分類による出土状況は

I Aaが23点、I Abが40点、I Bが21点、分類不能9点。 I の合計は93点。

II Aaが5点、II Abが2点、分類不能4点。 II の合計は11点。

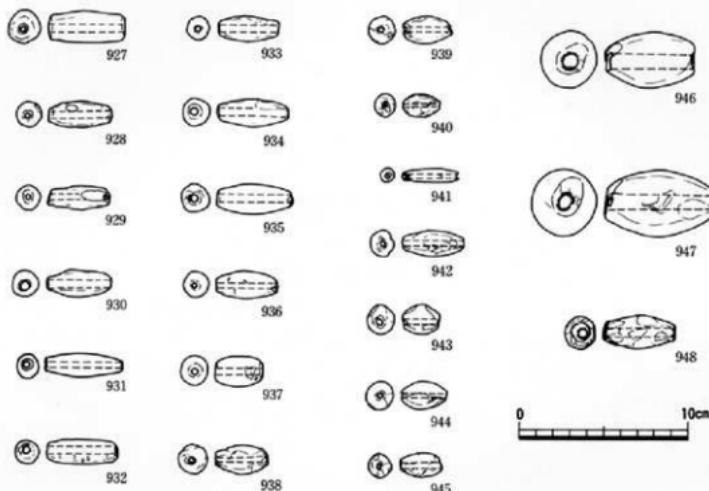
となる。

調査区	遺構番号	目番号	グリッド	分類1	分類2	分類3	長さ(cm)	厚さ(cm)	直径(cm)	重さ(g)	残存	備考
93G		検I	E17b	I	A a	□	(2.0)	(1.3)	0.2	(2.5)	破片	
		掘り下		I	A a	□	(4.0)	1.2	0.2	(5.6)	片面少欠損	
92H	SB05	SB118	E3c		—	□	(3.5)	(1.3)	0.3	(5.0)	片面少欠損	
92H	SD02	SD43上層	E64g	I	A b	□	(3.1)	1.8	0.5	(7.8)	片面少欠損	
92H	SD02	SD43	E8f	I	A b	□	(3.1)	1.2	0.3	(4.5)	片面少欠損	
92H	SD02	SD43	E6b7b8b	II	A b	—	(4.7)	(2.9)	0.7	(17.0)	破片	
92H	SD02	SD43	E8ef	I	B	□	(3.7)	1.4	0.4	(4.6)	破片	
92H	SD220	SD45	E3b	II	—	—	(3.8)	(2.3)	0.6	(8.6)	破片	
92H	SD220	SD45	E3b	I	A b	□	(3.0)	(1.4)	0.3	(4.5)	片面少欠損	
92H	SD226	SD40	E6e?1	I	A b	□	(1.9)	0.7	0.2	(0.8)	片面少欠損	
92H		SD46	E71	I	A a	□	4.2	1.9	0.4	14.2	完形	
92H		SD46	E71	I	B	□	(4.5)	0.9	0.3	(3.0)	片面少欠損	
92H		検N	E6a7b	陶錘			(1.4)	(1.4)	0.4	(1.1)	破片	

第14表 その他の土錘一覧表(1)

土錘が出土した遺構はSD01、SD02、SD214から4点、SD226から2点、SD15、SD16、SD207、SD220よりそれぞれ1点づつ出土しているがその他の土錘は遺構からの出土資料ではない。

土錘の主体は12世紀から14世紀までである。

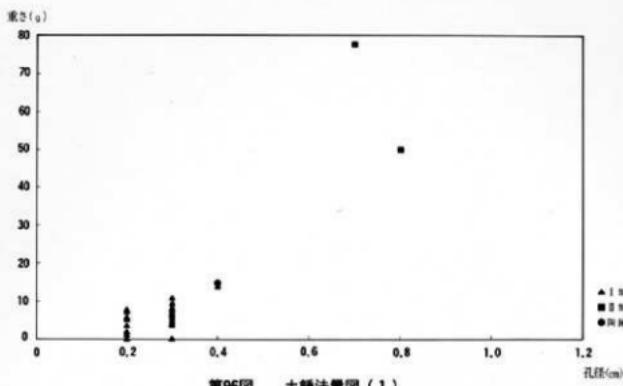


番号	調査区	遺構番号	旧番号	グリッド	分類1	分類2	分類3	長さ(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重さ(g)	残存	備考
927	93G	SD214	SD02上層	■E19e	A a	□	4.5	1.7	0.4	13.9	完形		
928	95Ab			■E14c	A a	□	3.7	1.5	0.2	7.2	完形		
929	93Hia			■E14d	A a	□	3.6	1.4	0.2	6.0	完形		
930	95Ab			■E14b	A a	□	3.8	1.5	0.3	7.6	完形		
931	95Ab			■E14b	A b	□	4.6	1.4	0.3	7.3	完形		
932	94Ab			■E14b	A b	□	4.1	1.3	0.3	7.7	完形		
933	93Hi			■E13d	A b	□	3.6	1.4	0.2	5.7	完形		
934	95Ab			■E14d	A b	□	4.1	1.6	0.3	9.3	完形		
935	95Ab			■E14a	A b	□	4.4	1.6	0.3	10.7	完形		
936	92C	SD01	SD03	■D13q	A b	□	3.6	1.6	0.2	8.0	完形		
937	92H	SD02	SD43	■E8f	A b	□	2.8	1.7	0.3	7.0	完形		
938	92Daa	SK162	SK20	■D11s	A b	△	3.1	1.7	0.3	7.7	完形		
939	92Daa			■D11s	A b	△	2.8	1.6	0.2	6.0	完形		
940	92Aa			■D16t	A b	△	2.1	1.4	0.2	3.5	完形		
941	92Aa	SB17-P4	SB08-P4	■E14b	B	□	3.3	0.7	0.2	1.9	完形		
942	93Hb	ST25	ST02	■E1bc	B	□	3.6	1.5	0.3	6.5	完形		
943	94Bb	SD99	SD01	■D7s	B	△	2.1	1.7	0.3	5.2	完形		
944	94Bb			■D7s	B	△	2.7	1.7	0.3	6.1	完形		
945	93Hb	ST25	ST02	■E5a	B	□	2.5	1.4	0.3	4.2	完形		
946	92H	SD02	SD43上層	■E6g	A a	—	5.3	3.1	0.8	49.9	完形		
947	92H	SD220	SD45	■E2c	A a	—	6.4	3.8	0.7	77.7	完形		
948	92B			■D4t	両鍤	—	4.2	1.9	0.4	14.8	完形		

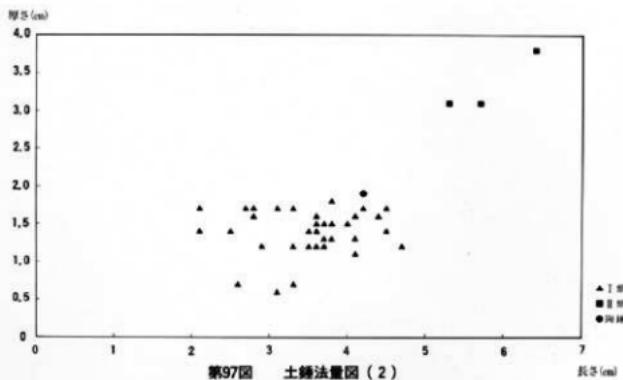
第95図 土錘実測図

測定区	測定番号	目番号	グリッド	分類1	分類2	分類3	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	残存	備考
95B		検I	E3g	—	A a	口	(2.6)	1.3	0.4	(3.4)	肉薄少欠損	
92F		検I	D17s	—	A a	口	(3.6)	1.2	0.3	(5.0)	片端少欠損	
92F		検I	D20s E1a	—	A a	口	4.5	(1.3)	0.3	(4.6)	1/2欠損	
92G a	SD15	SD29	E6b7b	—	B	口	4.1	1.1	0.3	(4.5)	片端少欠損	
93K	SD16	SD01	E17c18d	—	イ	(3.3)	1.2	0.3	(4.3)	片端少欠損		
94Ba		検I	—	B	口	3.8	1.3	0.4	(5.8)	一部欠		
92Da	SK160	SK21	VF19q	—	A a	—	4.5	(3.2)	1.2	(18.3)	1/2欠損	
92Da		検III	V D20r	—	—	—	(3.4)	(0.8)	0.4	(4.7)	破片	
92D		検II	VD1p	—	A a	口	4.2	1.7	0.2	(9.6)	片端少欠損	
94Aa		検I	ND2n	—	A b	口	(3.6)	1.4	0.4	(6.6)	片端少欠損	
93J		SD01	SD03	N D9p	A a	口	(3.7)	1.3	0.3	(6.4)	片端少欠損	
92Aa	S817	S808	VE14b	—	B	口	(3.1)	0.7	0.2	(1.5)	片端少欠損	
92Aa	S822	S803	VD14t	—	B	口	(2.9)	(0.8)	0.2	(1.6)	1/3欠損	
92Aa	S823	S801	VF15v G16a	—	A b	口	3.3	1.7	0.2	(7.7)	片端少欠損	
92Aa	S834	S802	VG14b	—	A a	口	(2.6)	0.8	0.2	(1.8)	片端少欠損	
92Aa	S834	S802	VG14b	—	—	—	(2.7)	(1.7)	0.6	(3.3)	破片	
92Aa	P398	F104	VE14b	—	B	口	(3.5)	0.7	0.2	(1.7)	片端少欠損	
92Aa	P398	F104	VE14b	—	B	口	(3.2)	0.7	0.2	(2.1)	片端少欠損	
92Aa	P398	F104	VE14b	—	B	口	(1.3)	0.8	0.2	(0.7)	破片	
92Aa		検II	VE14b	—	B	口	(3.3)	(0.7)	0.2	(2.0)	片端少欠損	
92Aa		検II	VE14a	—	—	—	(1.8)	(1.2)	0.2	(2.5)	1/2欠損	
92Aa		検II	VD17t	—	—	—	(1.2)	(0.9)	0.3	(0.6)	破片	
92Aa		検II	VD17t	—	B	口	(2.5)	0.8	0.2	(1.5)	片端少欠損	
92Aa		検II	VE14a	—	A b	口	(3.1)	1.4	0.2	(4.9)	片端少欠損	
92Aa		検II	VE14a	—	—	口	(2.6)	0.8	0.2	(1.2)	片端少欠損	
92Ab	SB24	SB109	VE7a	—	—	—	(3.2)	(2.1)	0.6	(5.5)	破片	
92Ab	SB25	SB111	VE7a	—	A a	—	5.6	(2.7)	0.5	(18.2)	1/2欠損	
92Ab		検II	VE11a	—	—	口	(3.5)	1.3	0.3	(5.4)	片端少欠損	
92Ab		検II	VE7a	—	A a	口	(2.9)	2.3	0.5	(6.8)	破片	
92Ab		検II	VE7a	—	—	—	(3.5)	(2.2)	0.5	(10.1)	破片	
92Ab		検II	VE7a	—	—	—	(2.2)	(2.1)	0.6	(5.9)	破片	
92C	SD01	SD03	VD16q	—	—	—	2.9	1.2	0.3	3.8	肉薄少欠損	
95Aa		検I	VD19r	—	A b	口	4.7	1.2	0.3	7.5	片端少欠損	
93Hb	ST24	ST01	VD2t	—	B	口	(1.9)	(1.2)	0.4	(1.7)	破片	
93Hb	ST24	ST01	VE4b	—	A b	口	(4.1)	1.4	0.3	(6.9)	片端少欠損	
93Ha		振り下	VD13s	—	A b	—	(3.1)	1.8	0.3	7.0	片端少欠損	
93Ha		振り下	—	A a	—	—	5.7	3.1	0.5	(22.8)	1/2欠損	
95Ab	SD01	SD01	VD13t	—	B	口	3.1	0.6	0.1	(1.0)	片端少欠損	
95Ab	SD207	SD04	VD14t	—	A b	口	(2.5)	1.0	0.2	(2.2)	片端少欠損	
95Ab	SX21	SX04	VE14b	—	A a	口	4.2	(1.5)	0.3	4.5	1/2欠損	
95Ab	SX21	SX04	VE14b	—	A a	口	(2.6)	(1.2)	0.2	1.1	破片	
95Ab	SX21	SX04	VE14b	—	A a	口	4.0	1.5	0.3	(8.5)	片端少欠損	
95Ab		検II	VE13c	—	A b	口	3.7	1.2	0.2	(4.8)	片端少欠損	
95Ab		検II	VE14a	—	A b	—	(1.9)	(1.6)	0.3	(1.8)	破片	
95Ab		検II	VE14a	—	A a	—	(1.9)	(1.6)	0.3	(2.1)	破片	
95Ab		検II	VE14a	—	A b	口	3.5	1.8	0.2	(6.7)	片端少欠損	
95Ab		検II	VE14a	—	—	—	(2.2)	(1.4)	0.2	(1.6)	破片	
95Ab		検II	VE14b	—	A b	—	(3.1)	(1.6)	0.3	(2.9)	1/2欠損	
95Ab		検II	VE14b	—	A a	口	3.5	1.2	0.2	5.3	肉薄少欠損	
95Ab		検II	VE14b	—	A b	—	(2.6)	(1.6)	0.2	(2.5)	破片	
95Ab		検II	VE14b	—	A b	—	(2.2)	(1.2)	0.3	(1.3)	破片	
95Ab		検II	VE14b	—	—	—	(2.6)	(1.4)	0.3	(2.3)	破片	
95Ab		検II	VE14b	—	—	—	(3.6)	(1.8)	0.3	(4.3)	破片	
95Ab		検II	VE14c	—	A a	口	(2.8)	(1.6)	0.4	(3.7)	破片	
95Ab		検II	VE14c	—	A b	口	3.7	1.3	0.2	(5.4)	片端少欠損	
95Ab		検II	VE14c	—	A b	口	3.5	1.2	0.2	(4.4)	片端少欠損	
95Ab		検II	VE14c	—	A b	口	3.5	1.4	0.2	(6.3)	片端少欠損	
95Ab		検II	VE14c	—	A b	口	4.1	1.6	0.4	(7.5)	片端少欠損	
95Ab		検II	VE14c	—	A b	—	(2.7)	(1.5)	0.2	(2.5)	破片	
95Ab		検II	VE14c	—	A b	—	3.5	1.4	0.3	(5.6)	片端少欠損	
95Ab		検II	VE14c	—	A b	口	3.3	1.2	0.3	(4.6)	片端少欠損	
95Ab		検II	VE14c	—	A b	口	(2.5)	1.2	0.3	(2.6)	片端少欠損	
95Ab		検II	VE14c	—	A a	口	(3.7)	(1.5)	0.3	(3.9)	1/2欠損	
95Ab		検II	VE14c	—	—	—	(3.2)	(2.8)	0.5	(12.2)	破片	
95Ab		検II	VE14c	—	A a	口	(3.4)	(1.8)	0.3	(4.4)	1/2欠損	
95Ab		検II	VE14c	—	A b	口	(3.8)	1.6	0.3	(6.1)	片端少欠損	
95Ab		検II	VE14c	—	A b	口	(2.6)	1.1	0.3	(2.9)	片端少欠損	
93G	SD01	SD01下層	VE18s	—	A b	口	(1.6)	0.8	0.2	(0.7)	破片	
93G	SD214	SD02上層	VE20s	—	A a	イ	(2.9)	1.1	0.2	(2.8)	片端少欠損	
93G	SD214	SD02上層	VD20t	—	B	—	2.6	0.7	0.2	(0.8)	片端少欠損	
93G	SD214	SD02上層	VE20a	—	B	—	(1.9)	0.6	0.1	(0.7)	1/2欠損	
93G	SD214	SD02上層	VE20c	—	A b	口	(2.4)	1.6	0.6	(4.8)	1/2欠損	
93G	SE210	SE02上層	VE20c	—	B	口	(2.5)	0.8	0.1	(1.6)	片端少欠損	
93G	SK290	SK78	V15b	—	A b	口	(3.8)	1.2	0.2	(5.1)	片端少欠損	
93G	SK14	V11c	—	A b	口	(1.7)	(0.8)	0.1	(1.2)	1/2欠損		
93G		検I	VE19b	—	A b	口	(3.5)	1.2	0.2	(5.9)	片端少欠損	

第15表 その他の土器一覧表(2)



第96図 土鍤法量図(1)



第97図 土鍤法量図(2)

6. 加工円盤 (第98図949～975、第99図)

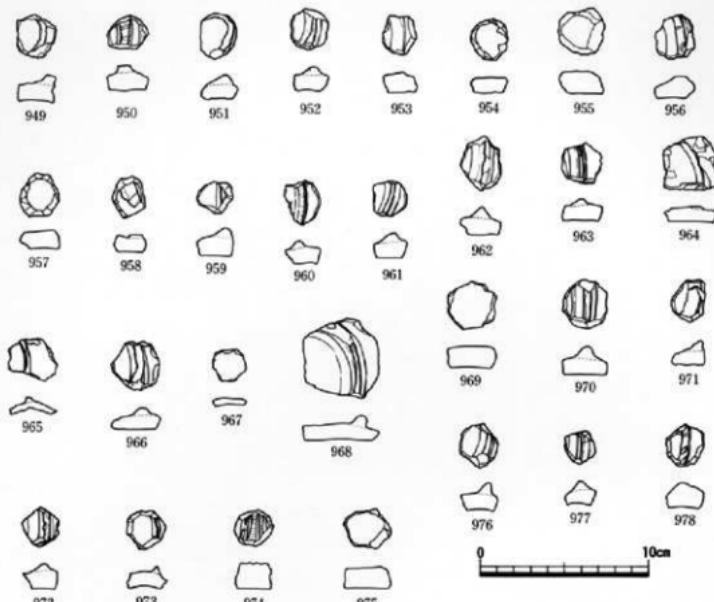
加工円盤は23調査区より341点出土し、A類、B類、C類の3種類に分類した。

分類A. 灰釉系陶器の底部を利用したもの。 241点出土。

分類B. 灰釉系陶器の底部以外を利用したもの。 41点出土。

分類C. その他、施釉陶器などを利用したもの。 59点出土。

出土した加工円盤の総点数は341点で、A類241点、B類41点、C類59点となる。調査区分では93G区60点、92Aa区57点、93Hb区42点、93Ha区27点、92Ab区24点、94Ba区21点と92H区20点、93I区17点、92Ca区13点、95Aa区11点出土している。



番号	実測形	整理番号	調査区	旧構造番号	旧番号	グリッド	分類	長径(cm)	短径(cm)	重さ(g)	時	備考
949	1	930-01	93I	SD126	SD01	VD11n	A	2.5	2.2	9.1		
950	2	920a-01	92Da	SK168	SK51	VD10p	A	2.5	2.0	6.7		
951	3	930-07	93I	SD158	SD05	VD40e50e9	A	2.7	2.1	7.3		
952	4	930-08	93I	SD158	SD05	VD40e50e9	A	2.4	2.2	8.0		
953	5	930-09	93I	SD158	SD05	VD40e50e9	A	2.4	2.1	6.7		
954	6	930-11	93I	ST22	ST02	VD39	C	2.4	2.1	6.5	須恵器	胸部
955	7	930-12	93I	ST22	ST02	VD39	C	2.6	2.6	10.1	土師質	胸部
956	8	930-13	93I	ST22	ST02	VD39	A	2.5	2.3	8.4		
957	9	930-14	93I	ST22	ST02	VD39	A	2.7	2.3	7.4		
958	10	92Aa-01	92Aa	SR34	SR02	VG14b15b	A	2.1	2.1	6.0		
959	11	92Aa-02	92Aa	SB34	SB02	VG14b15b	A	2.2	1.8	6.1		
960	12	92Aa-09	92Aa	SB18	SB12	VG12a13a	A	2.6	2.1	6.8		
961	13	92Aa-10	92Aa	SB18	SB12	VG12a13a	A	2.1	1.9	5.7		
962	14	92Aa-12	92Aa	SK252	SK09	VE12b13b	A	3.3	2.3	10.4		
963	15	92Aa-13	92Aa	SK252	SK09	VE12b13b	A	2.4	2.3	7.7		
964	16	92Aa-17	92Aa	SD187	SD01	VD13r VE13a	A	2.2	3.2	11.8		
965	17	92Aa-18	92Aa	SD187	SD01	VD13r VE13a	A	2.8	2.4	4.4		
966	18	92Aa-20	92Aa	SD03	VE13b	A	2.8	2.8	9.8			
967	19	92Ab-03	92Ab	SD186	SD09	VD10r VE10a	B	1.9	1.9	2.3		
968	20	93Hb-11	93Hb	ST24	ST01	VE1bc	C	4.9	4.8	25.7	灰釉陶器	底部
969	21	93Hb-17	93Hb	ST24	ST01	VE1a	B	2.9	2.7	14.2		
970	22	93Hb-21	93Hb	ST25	ST02	VD5t	A	2.9	2.6	13.6		
971	23	93Hb-22	93Hb	ST25	ST02	VE5a	A	2.5	1.8	5.9		
972	24	93Ha-09	93Hb	ST26	ST03	VE5a	A	2.3	2.1	6.0		
973	25	93Ha-10	93Hb	ST26	ST03	VE2a	A	2.3	2.3	6.0		
974	26	93G-15	93G	SD210	SD11	VE18d	C	2.2	2.1	8.9	須恵器	胸部
975	27	93G-18	93G	SK297	SK76	VE15b	A	2.8	2.4	9.6		
976	28	93G-24	93G	SK294	SK107		A	2.5	2.2	8.5		
977	29	93G-26	93G	SX23	SX01	VE18a19a	B	1.8	1.7	4.0		
978	30	92E-03	92E			VD14p	A	2.5	2.3	7.9		

第96図 加工円盤実測図

7. 石製品（第100図～103図、図版19）

打製石鎌（第100図1～20）

石鎌は未成品と思われるものも含めて39点確認できる。形態分類すると、凹基有茎鎌9点、平基で基部が舌状になるもの13点、茎部が舌状になるもの10点、凹基鎌が2点となる。石材は安山岩（下呂石）27点、チャート12点。包含層中からの出土であるが弥生時代の石鎌と思われる。

石錐（第100図21・22）

21の石材は安山岩（下呂石）で錐部に使用痕が観察できる。22は棒状の形態で石材はチャート。磨製石錐（第100図23）

無茎で五角形にちかい形態をしている。石材は頁岩。

粗製剥片石器（第101図24・25）

24は砂岩の剥片を自然面を残したままほとんど調整を加えず石器とするもの。25は明確に使用痕を確認できないが刃部らしき調整をもつ。

円石・裁石・磨石（第101図26～30）

26・27・28は円雫の平坦面・側面にアバタ状にくぼむ裁打痕がある。28は側面に明瞭な擦痕が確認できる。29・30は棒状の雫の先端部に裁打痕があるもの。

紡錘車（第101図31）

円盤状で中心部に穿孔される。石材は凝灰岩。

有孔円盤（第101図32）

石材は絹雲母片岩。92An区S K 364から出土した。

管玉（第101図33）

長さ2.1cm、幅0.7cm、孔径は0.3cmと0.1cm。石材は安山岩質凝灰岩。

砥石（第102図34～40）

砥石は出土した石製品の中で最も多く80点を数える。石材によって分類されるが39はシルト岩、40は頁岩製で仕上げ砥と思われる。34・35はS D 0 3（墳墓堂区画溝）から出土した。

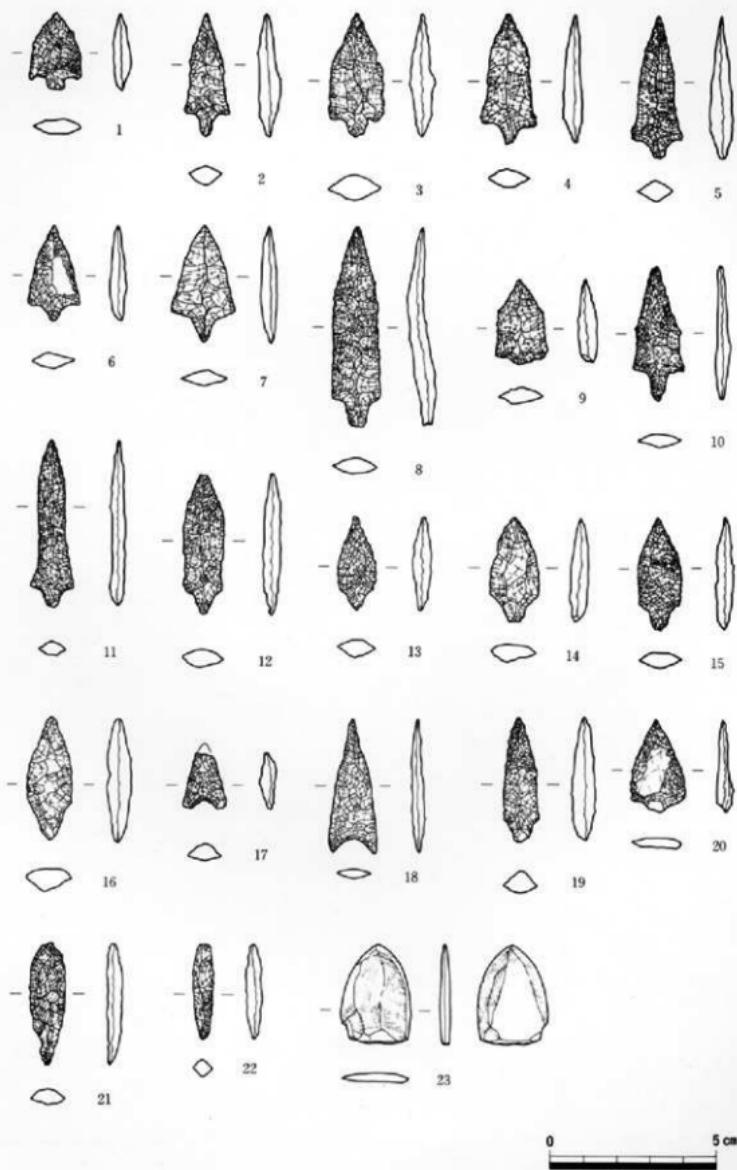
硯（第102図41・42）

41は含綿雲母片岩製で両面を硯面としている。

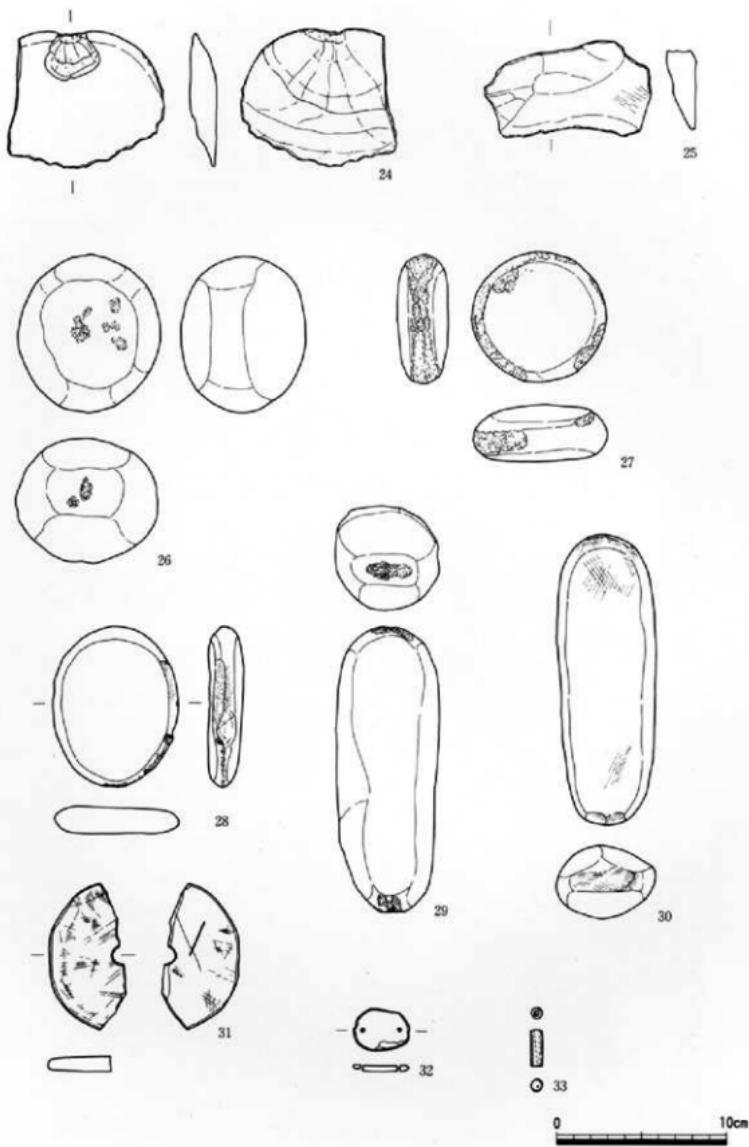
五輪塔（第103図43～46）

43は95B区S D 43から出土した水輪。44は火輪、45・46は水輪で 94Ab区S D 1 1 8 から出土し、この溝からは他に空風輪、地輪も出土している。石材はすべて花崗岩。

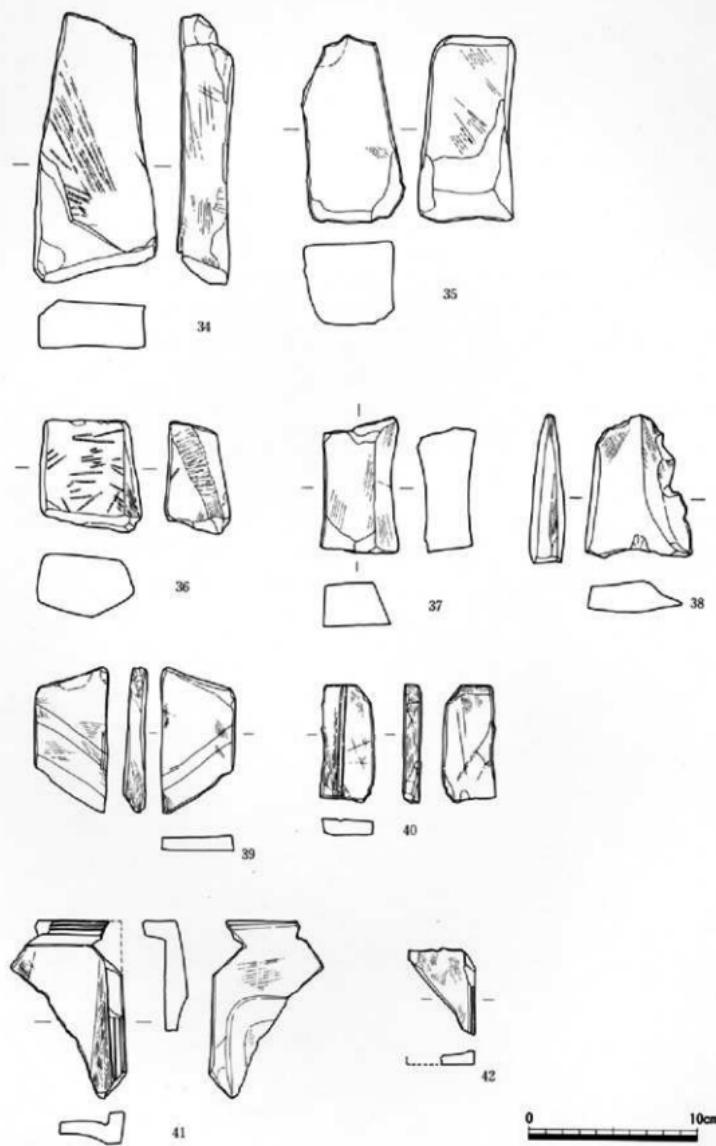
なお、石鎌の形態分類は『朝日遺跡IV』（財）愛知県埋蔵文化財センター1993を参考にし、石材の鑑定は堀本真美子・鬼頭剛が行った。



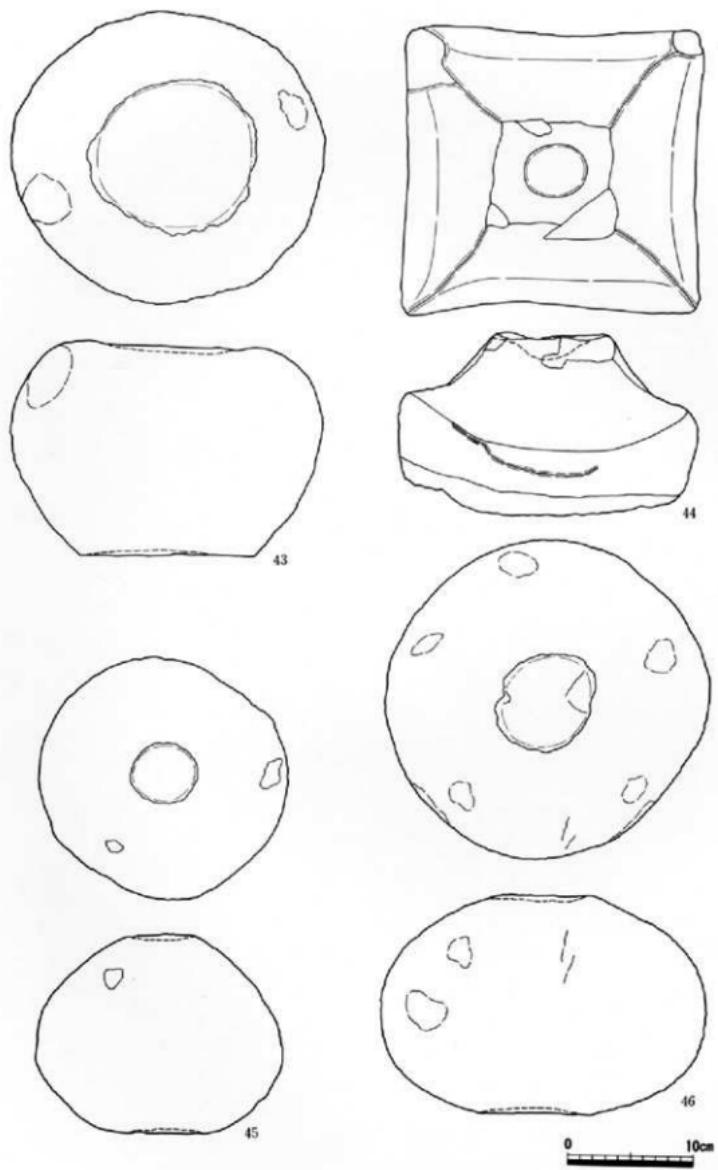
第100図 石製品実測図(1):石核



第101図 石製品実測図（2）：剥片石器、敲石、磨石、紡錘車、有孔円盤



第102図 石製品実測図（3）：砥石



第103図 石製品実測図(4):五輪塔

番号	種類	調査区	遺構番号	グリッド	旧遺構	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石 材
1	打製石鏃	93Ea		III D15p	検 I	2.3	1.6	0.4	1.7	チャート
2	打製石鏃	92F		II D17r	SD56	3.6	1.4	0.6	2.4	チャート
3	打製石鏃	93K	SD87	III D15t16t	SD23	3.6	1.7	0.7	3.5	チャート
4	打製石鏃	93Eb		III D7t	握り下 I	3.8	1.7	0.5	2.9	安山岩(下昌石)
5	打製石鏃	93Eb		III D7t	検 III	4.3	1.5	0.6	3.2	チャート
6	打製石鏃	93Eb		III D8p	検 III	2.9	1.6	0.4	1.6	チャート
7	打製石鏃	92F		II D15r	検 III	3.5	1.9	0.5	2.3	安山岩(下昌石)
8	打製石鏃	94Ba		IV D17o		5.9	1.3	0.5	4.5	安山岩(下昌石)
9	打製石鏃	93Eb		III D6r	検 III	(2.5)	1.5	0.5	(1.7)	安山岩(下昌石)
10	打製石鏃	93J			大トレンチ	4.0	1.6	0.4	1.7	安山岩(下昌石)
11	打製石鏃	93Hb		VI E20b	握り下 II	4.9	1.3	0.4	2.0	安山岩(下昌石)
12	打製石鏃	92Ga		III E12b	検 II	(4.2)	1.3	0.5	(2.6)	チャート
13	打製石鏃	92H	SD225	III E3f	SD42	2.8	1.2	0.5	1.3	安山岩(下昌石)
14	打製石鏃	95B		II E3f	検 I	3.1	1.5	0.5	2.2	安山岩(下昌石)
15	打製石鏃	93Eb		III D11s	握り下 I	3.3	1.2	0.5	2.1	チャート
16	打製石鏃	95B	SX01	II E11c	SX01-21	3.7	1.4	0.7	2.8	安山岩(下昌石)
17	打製石鏃	95B		II E8c	検 I	(1.6)	1.4	0.5	(0.8)	安山岩(下昌石)
18	打製石鏃	92Ga		III E2c	検 II	4.0	1.4	0.3	1.5	安山岩(下昌石)
19	打製石鏃	93Eb		III D10s	握り下 II	3.7	1.1	0.7	2.6	チャート
20	打製石鏃	92E	ST02	III D15p	SK75	2.7	1.6	0.3	1.7	チャート
21	石錐	93Hb		VI E5c	握り下 III	3.6	1.1	0.4	1.6	安山岩(下昌石)
22	石錐	93Eb			壁面	2.7	0.6	0.5	0.9	チャート
23	磨製石鏃	92Ga	SD16	II E20c	SD25	3.0	2.1	0.3	2.2	頁岩
24	粗製剝片石器	95Aa	SD192	III D1a	SD02	8.1	8.7	1.6	139.8	砂岩
25	粗製剝片石器	92Aa		VI D15t	SK40	9.7	5.1	1.7	81.0	雲母片岩
26	凹石	92H		III E3c4c	SD48	9.4	8.5	7.3	779.6	ヒン岩
27	すり石	95Aa	SD192	III D1a	SD02	8.0	7.7	3.3	295.2	砂岩
28	すり石	92H	SD02	III E8f	SD43-38	9.5	7.6	1.6	199.2	砂岩
29	たたき石	93G	SD214	VI E20b	SD02上層	17.0	6.0	6.1	901.2	飛来流紋岩
30	たたき石	93G	SD214		SD05	17.2	5.8	4.3	606.5	泥質片岩
31	筋鍤車	93G	SB07	VI E15b15c	SB02	(8.6)	(4.4)	0.9	47.5	凝灰岩
32	有孔円板	92Aa	SK364	VI G16b	SK114	3.3	2.5	0.4	5.7	鈍頭母片岩
33	管玉	93I	SD01	VI D7q	SD03	2.1	0.7	0.7	1.8	安山岩實質灰岩
34	砥石	92Gb	SD03		SD26	(15.8)	(5.4)	2.8	475.7	頁岩
35	砥石	92Gb	SD03	II E15d	SD26	(11.1)	(5.6)	4.8	484.3	流紋岩
36	砥石	95Aa	SD192		SD02	(6.2)	(6.0)	3.5	235.7	砂岩
37	砥石	93Hb	SD240		SD05	(7.5)	(4.4)	2.5	170.0	珪質頁岩
38	砥石	93Hb	SD240		SD05	(8.0)	(6.2)	1.7	97.1	凝灰岩質砂岩
39	砥石	93Hb	SD199	VI E12c	SD02	(8.6)	(4.3)	0.9	51.4	シルト岩
40	砥石	92H		III E4d	検 II	(6.7)	(3.1)	0.9	38.4	頁岩
41	硯	92H	SD02	III E7f	SD43	(10.5)	(6.6)	1.9	126.1	含糊雲母片岩
42	硯	93G	SE10	VI E20c	SE02	(5.0)	(4.0)	0.8	15.1	粘板岩
43	五輪塔水輪	95B	SD34	II E9d	SD03	24.5	23.1	16.9		花崗岩
44	五輪塔火輪	94Ab	SD118		SD02-1	22.8	22.2	14.1		花崗岩
45	五輪塔水輪	94Ab	SD118		SD02-4	19.7	19.1	15.8		花崗岩
46	五輪塔水輪	94Ab	SD118		SD02-9	25.6	25.4	17.2		花崗岩

第18表 石製品一覧表

8. 金属製品 (第104図1~14、図版18)

金属関係の出土総点数は230点、内訳は金属製品が22点、鉄率類が208点である。金属製品の出土が少なく、鉄率類の出土が多い。なお鉄率類の分析は第4章、第5節に掲載している。

多孔銅鏡 (1) 弥生時代後期から古墳時代前期にかけてのものでSD101より出土。94Ba区

旧SD01。石鏡とともに北道手遺跡との関連が考えられる。

角釘 (2, 3) 先端の曲がったものも出土。

煙管 (4~7) 江戸時代のもので雁頭部分と睡口部分が出土。

和鏡 (8) 薄手の草花文鏡で平安時代か。

古銭 (10~14) 銀貨は総計18点出土しており、皇朝十二銭の一つである「富壽神寶」が

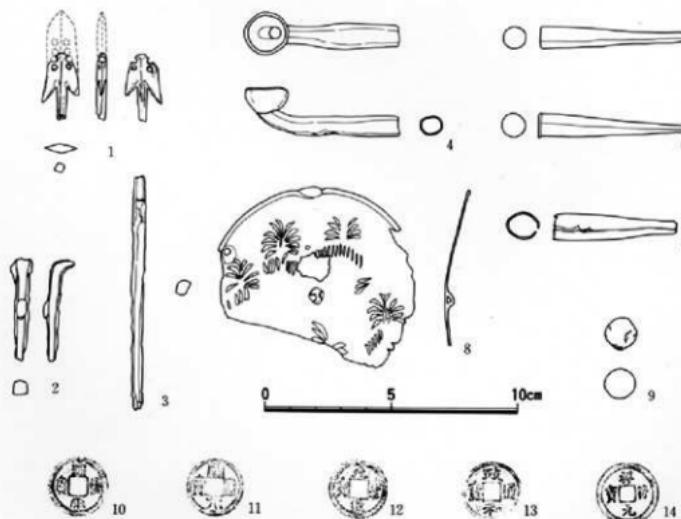
SK251、92Aa区旧SK03より出土している。他は全て渡来銭。

富壽神寶 (818年初鋤) 1点。皇宋通寶 (1039年初鋤) 2点。

開元通寶 (621年初鋤) 2点。元豐通寶 (1078年初鋤) 1点。

祥符元寶 (1008年初鋤) 1点。政和通寶 (1111年初鋤) 1点。

不明 9点



番号	種別	遺構番号	調査区	旧遺構番号	全長(cm)	番号	種別	遺構番号	調査区	旧遺構番号	全長(cm)
1	多孔銅鏡	SD101	94Ba	SD01	現2.6	6	煙管	掘り下I	93Hb	ⅧD4cb	5.7
2	角釘	検III	92Da	ⅨF1qr	4.0	7	煙管	検I	95Aa	ⅧD1r	4.8
3	角釘	SB15	92Aa	SB07	9.2	8	和鏡	検I	93J		8.0
4	煙管	検I	92H		6.1	9	鉛玉	SD226	92H	SD40	1.2
5	煙管	検I	95Aa	ⅧD3q	5.8						

第104図 金属製品実測図

留銘番号	調査区	遺構番号	出遺物番号	グリッド	種類	備考	処理番号	番号
10	93Hb	ST24	ST01	VIE20c	皇宋通寶			
11	94Ab	検I		開元通寶				
12	94Ba	検I		永泰通寶		94-3280C		
13	94Ba	検II		政和通寶		94-3281C		
14	94Ba	検I		祥元符寶		94-3279C		
93F		掘り下		IVD2s	皇宋通寶			1
93F		掘り下		IVE15a	開元通寶			2
93J	SD01	SD26		VD13q	不明		94-3800C	7
93J		検I			不明		94-3797C	8
94Aa		検I			不明			9
92Aa	SK251	SK03		VIG15b	高麗神寶	3点出土	92-670C	10
92Aa		検I		VI F12g	寛永通寶			11
93Hb	ST25	ST02		VE5b	不明			13
93G	SE11	SE03		VE1d	不明			14
93G	SX23	SX01		VE18.19a	不明	3枚接着している		15
93G	SD01	SD01		VD17s	不明		93-194C	16

第19表 錢貨一覧表

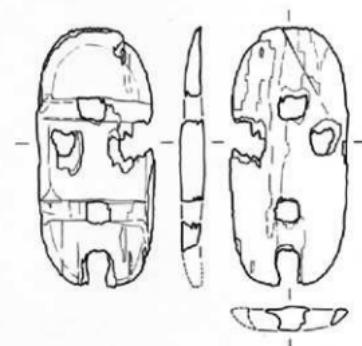
9. 木製品（第105図、図版18）

木製品は少なく下駄、漆塗り椀、箸などが出土しているが、図示できたのは連歎下駄のみである。

墳墓堂遺構の周溝の西溝で93K区旧SD03 II E13bより出土。

溝の底より一足の2点が近接し、いずれも上面を上とした正位状態で出土した。

その内の1点で全長20cm、幅9.2cmを測る。



10. 陶丸

図示しなかったが9点出土している。

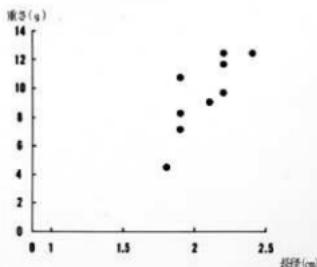
ほぼ球形で長径が1.8cmから2cmまでのもの4点と、長径が2.1cmから2.4cmのもの5点が出土している。

重さは一番軽いもので4.5gが1点、一番重いもので12.5gが2点ある。

第105図 下駄実測図 1:4

調査区	遺構番号	出遺物番号	グリッド	長径(cm)	短径(cm)	重さ(g)	番号
92F	検I	III D2g	1.9	1.9	7.2	1	
93K	SD03	III E17ab	2.1	1.9	9.1	2	
93K		III D15s	2.2	2.2	12.5	3	
92E	検I	IV D4n	2.4	2.4	12.5	4	
92E	検I	III D20n	1.9	1.9	8.3	5	
92Da		V F19s	2.2	1.9	11.7	6	
94As	SE01	VI D2p	2.2	1.9	9.7	7	
93G	検I		1.8	1.7	4.5	8	
93G		V E20c	1.9	1.9	10.8	9	

第20表 陶丸一覧表



第106図 陶丸法量図